

第 11 回

学生生活実態調査報告書



令和 6 年度
東京農工大学

まえがき

東京農工大学は令和6年に創基150周年を迎えました。基本理念である「使命志向型教育研究－美しい地球持続のための全学的努力」(MORE SENSE : Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth) を使命とし、農学・工学およびその融合分野の尖端的な研究を通じて横断的な広い視野を持ち世界の第一線で活躍できる人材の育成を行っています。

「学生生活実態調査」では、学生の学業、課外活動、生活全般にわたるデータを収集しており、本学の教育内容・教育環境の整備や改善、さらに、大学運営に生かすための基礎資料としています。平成6年度以来3年に1回実施しており、今回は11回目の調査となりました。

本調査での回収率は51.3%で、第10回調査の55.0%に比べてやや減少しました。本学学生の実態を十分に反映しているものと考えておりますが、次回の調査に向け、より多くの学生の皆様からの回答をいただけるよう周知方法を検討いたします。

今回の調査では、本学への満足度が94.0%、カリキュラムへの満足度が88.4%と、調査開始以降、最も高くなりました。ただし、教養科目については「時間割の工夫」や「豊富な選択肢」への希望が多く、今後のカリキュラム改訂で対応を検討する予定です。また、授業外学修時間が週6時間以上であった回答者が56.8%であり、高いレベルを維持しています。特に学部4年、修士、博士の学修時間が長く、研究に多くの時間を費やしていることが伺えます。また、今回初めてヤングケアラーの実態を調査したところ、約14%が何らかの家族のケアを負担しており、精神面・身体面で負担に感じているという実態が判明しました。本学では、様々な悩みを持つ学生の皆をサポートするため、保健管理センターが設置されており、カウンセラー等による、相談・支援体制を整備しています。その他の項目の詳細の分析は本文をご参照ください。

学生の皆様からは、学内の無線LANの増設、図書館の開館時間の延長や座席数増、学修スペースの充実などのご要望を多くいただきました。この他にも本調査結果に集約された貴重なご意見、ご希望を、可能な限り大学運営に活かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、調査の趣旨を理解し、積極的にアンケートに参加してくれた学生の皆様に感謝するとともに、調査の周知や回答数増加にご尽力いただいた教職員各位にもお礼申し上げます。また、アンケート項目の策定や集計結果の分析等に関わっていただいた、学生生活実態調査ワーキンググループの委員および学務課の事務職員の皆様のご尽力に心よりお礼申し上げます。

副学長(教育担当) 清水郁子

目 次

序 章 調査の概要	1
第Ⅰ章 基本的事項	
1～3. 調査対象人数、回収率	5
4. 生活形態	6
5～6. 留学生及びその経費区分	7
第Ⅱ章 経済的状況	
7. 収入	8
8. 収入源	10
9. 支出	11
10. 支出項目	13
11. 授業料の主たる支払い者	14
12～13. アルバイト	15
14～15. 経済的困難学生とその解決策	17
第Ⅲ章 住居	
16. 現在の住居・生活形態	19
17. 学生寮の満足度	20
18. 学生寮への入居希望	21
19. 学生寮への入居を希望しない理由	22
20. 国際交流会館への入居希望	23
21. 国際交流会館の満足度	24
22. 国際交流会館への入居を希望しない理由	24
第Ⅳ章 通学	
23. 主な通学手段・方法	25
24. 通学所要時間	26
第Ⅴ章 学業、学修環境	
25. 本学への満足度	27
26. カリキュラムへの満足度	28
27. カリキュラムや授業への希望	29
28. 一週間の平均授業外学修時間	30
29. 授業時間外学修を行うのに必要な施設・設備や対策	32
30. 授業における疑問についての対処方法	33
31. 講義室、実験室への満足度	34
32. 講義室、実験室への改善希望	35
33. 実験・実習における危険体験	36
34. 図書館の利用頻度	37

35. 図書館の主な用途	38
36. 図書館への満足度	40
37. 図書館への不満	41
38. 在学中の海外活動経験	42
39. 海外活動の内容	43
40. 海外での活動希望の有無	45
41. 希望する海外活動の内容	46
42. 海外活動を妨げる要因	47
第Ⅵ章 課外活動	
43. サークル加入の有無	48
44. 加入しているサークル団体の種類	49
45. 一週間の平均活動時間	50
46. 課外活動の不満の有無	51
47. 課外活動の不満の内容	52
48. 課外活動施設等の満足度	53
49. 課外活動施設等の不満点	54
第Ⅶ章 ボランティア活動	
50. ボランティア経験の有無	55
51. ボランティア活動の内容	56
52. ボランティア活動の頻度	57
53. ボランティア活動への支援希望の有無	58
54. ボランティア活動への支援希望内容	58
55. ボランティア参加希望の有無	60
56. ボランティア参加を希望しない理由	61
第Ⅷ章 学生生活	
57. 学生生活の悩み	62
58. 対人関係の悩みの相手	65
59. 家族を介護及び日常的に家事を行う頻度	68
60. 家族の介護等を行うことにより感じる負担	70
61. 大学生活で困ったことの有無	72
62. 相談相手	73
63. 教員との対話	75
64. 学生同士の交流	76
65. 学生相談室の認知度	77
66. 保健管理センター カウンセラーの認知度	78
67. 飲み会・コンパにおける経験	79
68. ハラスメント相談室の認知度	81
69. セクシュアル・ハラスメントを受けた経験	82
70. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手	83
71. セクハラ以外のハラスメントを受けた経験	85
72. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手	86
73. 喫煙の有無	88

74. キャンパス内マナーの満足度	89
75. キャンパス内マナーで不満に思う点	90
76. 生協食堂の利用状況	91
77. 140周年記念会館エリプス（小金井）の利用状況	91
78. 生協購買部（売店）の利用状況	91
79. 食堂・エリプス・喫茶室の満足度	94
80. 食堂・エリプス・喫茶室で不満に思う点	94
81. 生協購買部（売店）の満足度	94
82. 生協購買部（売店）で不満に思う点	94
83. キャンパスの施設・設備環境改善希望（講義室・実験室を除く）	97
84. 本年11月に行われる大学祭への参加	98
85. 小金井キャンパス大学祭（皐月祭）への参加の有無	99
86. 大学祭で改善を望むこと	100
87. 生活情報の入手先（外国人留学生）	101
第Ⅸ章 進路（就職・進学）	
88. 将来の希望進路	103
89. 進路に関する情報入手手段	104
90. 将来の希望職種	104
91. 希望する就職支援	105
92. インターンシップの経験	106
93. インターンシップ先	107
94. インターンシップ満足度	108
第Ⅹ章 要望・意見等	
109	
巻 末 資 料	
1. 委員会の構成メンバー	113
2. 調査票	114

東京農工大学教育組織概説図

学部	大学院	
農学部 (4 年) 生物生産学科 応用生物科学科 環境資源科学科 地域生態システム学科	農学府 (修士課程 2 年) 生物生産科学プログラム 生物制御科学プログラム 応用生命化学プログラム 環境資源物質科学プログラム 物質循環環境科学プログラム 自然環境保全学プログラム 食農情報工学プログラム 地球社会学プログラム 国際イノベーション農学プログラム	連合農学研究科 (博士課程 3 年) 生物生産科学専攻 応用生命科学専攻 環境資源共生科学専攻 農業環境工学専攻 農林共生社会科学専攻
農学部 (6 年) 共同獣医学科		農学府 (博士課程 4 年) 共同獣医学専攻
工学部 (4 年) 生命工学科 応用分子化学科 有機材料化学科 化学システム工学科 機械システム工学科 物理システム工学科 電気電子工学科 情報工学科	工学府	
	博士前期課程 (2 年) 生命工学専攻 応用化学専攻 機械システム工学専攻 物理システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報工学専攻 専門職 (2 年) 産業技術専攻	博士後期課程 (3 年) 生命工学専攻 応用化学専攻 機械システム工学専攻 電子情報工学専攻 (以下 2023 年度以降入学) 生命工学専攻 生体医用システム工学専攻 応用化学専攻 化学物理工学専攻 機械システム工学専攻 知能情報システム工学専攻 博士課程 (3 年) 共同サステナビリティ研究専攻
(以下 2019 年度以降入学)	(以下 2023 年度以降入学)	
生命工学科 生体医用システム工学科 応用化学科 化学物理工学科 機械システム工学科 知能情報システム工学科	生命工学専攻 生体医用システム工学専攻 応用化学専攻 化学物理工学専攻 機械システム工学専攻 知能情報システム工学専攻	
	生物システム応用化学府 (BASE)	
	博士前期課程 (2 年) 生物機能システム科学専攻	博士後期課程 (3 年) 生物機能システム科学専攻 共同先進健康科学専攻
	一貫制博士課程 (5 年) 食料エネルギーシステム科学専攻	

序章 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、東京農工大学の学生の生活実態を把握し、今後の学生のための厚生施策の充実、教育・研究環境の改善及びサービスの向上等に役立たせるための資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の実施及び組織

学生へのより良いサービス向上等に資するため教育・学生生活委員会において、第11学生生活実態調査を実施することが承認され、ワーキンググループが設置された。ワーキンググループでは、過去の実態調査の反省点を精査しつつ、調査内容の企画立案、調査票の作成、調査結果の分析を実施し、ここに報告書を作成した。

3. 調査の対象

令和6年10月1日現在で本学に在籍している全学生（連合農学研究科、共同獣医学専攻、共同先進健康科学専攻、共同サステナビリティ研究専攻で本学配置の学生を含む）を対象とした。

ただし、休学者、渡日前の留学生、研究生、科目等履修生及び海外留学中の学生は除いた。

4. 調査の時期

令和6年10月1日（火）～10月15日（金）

5. 調査の方法

Google フォームからの回答方式とした。

6. 調査項目の分析（ ）は担当教員名

I. 基本的事項（福原敏行） II. 経済的状況（福原敏行） III. 住居（兼橋真二） IV. 通学（兼橋真二）
V. 学業、学修環境（本郷智子、岩田陽子） VI. 課外活動（清水昭伸） VII. ボランティア活動（清水昭伸）
VIII. 学生生活（馬淵麻由子、江上奈美子） IX. 進路（吉田敏則） X. 要望・意見等（藤井恒人）

7. 発行年月日

令和7年3月31日（月）

調 査 の 要 旨

1 経済的状況 (P5～P18)

- ① 1ヶ月の平均収入は72.5千円であり、前回調査(61.9千円)と比較して1万円程度増加した。前回は2万円以下の割合が最も大きかったが、今回は4～6万円(18.5%)の割合が最も大きかった。経済的に困難な学生は全体の15.3%であり、前回調査(12.9%)よりも増加した。アルバイトに加えて奨学金や授業料免除などで対応している。
- ② 1ヶ月の平均支出は64.7千円であり、収入と同様、支出も前回調査(52.5千円)と比較して1万円程度増加していた。TA、RAなどの学内のアルバイトによる支援も充実しつつあるが、学内支援のさらなる充実が求められている。

2 住居環境および通学状況 (P19～P26)

- 1 単身生活者の割合は41.3%で、過去5回の調査を通して微減少している。住居形態は、自宅生(親戚宅等含む)56.3%、単身アパート等32.4%、学生寮等7.5%。単身生活者はアパート等に満足しており、学生寮への入寮を希望する者の割合は7.1%と前回調査から増加した。
- 2 留学生の27.3%、21.6%がそれぞれ学生寮、国際交流会館への入居を希望しており、留学生の住居環境の充実が必要。通学手段・所用時間に大きな変動はなく、全体の3分の2弱の学生が1時間以内で通学している。

3 学業、学修環境 (P27～P47)

- ① 本学への満足度とカリキュラムへの満足度について、「満足」または「やや満足」と回答した回答者の割合はそれぞれ94.0%、88.4%となり、平成12年度の調査開始以降最も高い満足度が示された。但し、教養科目について、特に「時間割の工夫」、「豊富な選択肢」への希望が強い。
- ② 授業外学修時間については、週6時間以上とする回答者は56.8%となった。学部4年、修士、博士に至っては週20時間以上が3～5割となっており、研究活動に伴う授業外学修時間の増加であることがうかがえる。授業外学修に必要な施設・設備としては、図書館、校舎内の学修スペース、無線LANへの要望が多く集まった。
- ③ 講義室・実験室の満足度は80.5%と高い満足度が示された。一方で、「空調」については学部生の70%が改善を希望している。また、机や椅子、実験器具についても50%前後の改善希望が出ている。
- ④ 図書館の利用頻度は前回に比べて増加し、コロナ前とほぼ同程度に戻った。「ほとんど利用しない」学生の割合が、前回調査の43.1%から24.7%と減少し、毎日利用する学生も、前回調査の1.7%から4.8%に増加した。また、「自習室として使用」の回答者の割合は前回の64.9%から75.5%に増え、全学年で増加した。図書館への満足度は88.1%と高い一方、座席数の増加、開館時間の延長や土日の開館への希望が多く寄せられた。
- ⑤ 海外活動経験がある学生の割合は前回調査の際、10年前と同等の水準まで減少したが、今回の調査においても依然減少傾向にあった。特に学部生において割合が低かった。これまでに海外活動の経験がなく、これから希望する者の割合は前回の調査に比べてやや増加した。属性別にみると、学部1,2年生の希望者の割合は40%～50%あるものの、学部3,4年生になると減少する傾向があった。海外留学を妨げる要因としては経済的理由や語学・海外生活への不安に加え、海外活動に対する関心の低さ、海外の社会情勢への不安、手続の煩雑さを挙げる記述があった。

4 課外活動、ボランティア活動 (P48～P60)

- ① 前々回までは課外活動に対しては年々積極的になっていったが、今回は前回と同水準の76.7%であり、ポストコロナにおいても、依然と低水準であった。約半数が体育系サークルに所属している点についてはほぼ変わ

- りが無い。活動時間は週 1 時間～5 時間未満が最も多いが、次いで週 5 時間～10 時間未満が大幅に増加し、コロナ前の状態に近づいていた。課外活動に対する不満は 7.3%と、これまででもっとも少なくなっていた。
- ② 課外活動施設等の満足度が前回より 6.9pt 減少した。ポストコロナの課外活動時間の増加に伴い、施設に関する不満も増えたと考えられる。特に、施設の老朽化、狭小かつ不足していること、汚れていること、などに不満が集中している。
- ③ ボランティアに関しては、参加割合が微増し、特徴的な点としては農学部と工学部で割合の差が拡大していた。大学側に対する支援希望としては、「情報やプログラムの紹介」および「交通費補助」がいずれも 60%を超え、大学に対してこれらを期待する声強いことが分かる。ボランティアに対する参加を希望しない理由の上位はこれまで同様、「時間がない」、「興味がある活動がない」という回答であった。

5 学生生活 (P61～P102)

- ① 学生の悩みの二大テーマは、学業・研究 53.4%と進路・就職 51.9%とこれまでの調査と同様の傾向。特に学部生、女子学生で進路・就職の悩みが多い。
- ② 経済状況の悩み、心身健康、精神健康の悩みが約 20%と増加傾向。特に女子学生で精神健康の悩みが増加している。
- ③ 女子学生は精神健康の悩みに加え、「飲酒でのケガの件数」、「喫煙率」がやや増加。
- ④ 対人関係の悩みの相手は「友人関係」が最も多い。家族との悩みは調査の度に増えている。
- ⑤ 今回よりヤングケアラーの実態を調査。約 1%が「ほぼ毎日」のケアをしている。「1 か月に数日」以上のケアと「過去にあった」者を含めると約 14%が家族のケアを負担している。特に女子学生において「学修・研究」に支障があり、身体面、精神面の負担を感じている。
- ⑥ 学生同士および教職員との交流はコロナ前の状態に戻りつつある。一方で、8%の学生が学生同士の交流がほとんどない。
- ⑦ 学部生において「悩みの相手」として、また「相談相手」として家族との回答が年々増えている。家族関係が密接になっている可能性がある。
- ⑧ セクハラは 3.0%が経験「ある」と回答。セクハラ以外のハラスメントは 4.5%。ハラスメントの相手としては「アルバイト先の人」が依然として多い。教職員からのセクハラは件数としては減っていない。ハラスメント相談室の認知度は 30.4%と低く、周知や防止の教育啓発活動は今後も重要。
- ⑨ キャンパス内マナーの満足度は、満足とやや満足の合計が約 91.2%と高かった。不満に思う点は、ゴミの捨て方・処理が最も多く、次いで駐輪場不足、自転車の停め方などが挙げられた。前回調査時よりも満足度は少し上がっているものの、教職員と学生が一体となった改善への取り組みが引き続き必要になる。
- ⑩ 生協食堂等の満足度については、食堂等での「満足」「やや満足」の割合の合計は 51.9%、売店では 69.4%であった。営業時間の延長、品揃えの充実、コストパフォーマンスなど、学生の声を参考にサービス内容の工夫や改善が必要である。
- ⑪ キャンパスの施設・設備環境改善希望では、全回答者の 39.3%が無線 LAN について改善を希望していた。大学全体でつながりやすくしてほしいとの要望が依然として多く、さらなるインターネット環境の整備が必要である。
- ⑫ 外国人留学生の生活情報の入手先は、「他の留学生」が最も多く (35.8%)、次いで「インターネット」であった (26.5%)。ポストコロナで留学生間の交流が活発になっている可能性が考えられる。

6 進路 (就職・進学) (P103～P108)

- ① 進路に関する情報の入手先としては、過半数の学生がインターネットや先輩・知人からと回答している。会社説明会と指導教員からの情報入力もそれに続く。情報入手法がインターネットに集中する傾向は継続して見

られる。将来の希望進路の全体的な傾向は、前回と大きな変化は見られないが、進学に対する意識が高くなっている傾向にある。

- ② 就職支援では、会社説明会の充実、インターンシップの充実、OB/OG の紹介、大学推薦の希望が多い。エントリーシートの添削や模擬面接についても前回同様に希望があることがわかった。全体として多様な取り組みが求められており、効果的な方策を継続する必要がある。
- ③ インターンシップの経験では、学部生が低く、大学院生が高い傾向が継続してみられる。大学院生がインターンシップを就職活動の一環としてとらえる傾向が強くなっている。学部生は、インターンシップの希望が多いものの、実際の参加率が低いため、より参加しやすいサポート体制を検討し、就職支援との連携を行う必要があると思われる。

第 I 章 基本的事項

1～3. 調査対象人数、回収率

対象学生 5,789 人に対して、2,970 人からの回答を得た。回収率は、全体で 51.3%であり、前回調査の 55.0%から減少したが、調査結果は東京農工大学の学生生活の実態を十分に反映しているものと思われる。性別では、男子生徒が 47.6%（1,783 件）、女子生徒が 55.6%（1,138 件）であった。

学部生の回収率は 53.6%（1,978 件）であり、大学院生の 47.3%（992 件）に比べて高かった。学部別では、農学部の回収率 64.8%（869 件）に比べて、工学部の回収率が 47.2%（1,109 件）と低く、全体の回収率が前回調査よりも下がった主な要因と考えられる。

Q 1～3. 調査対象人数と回収率

学部学科等	対象学生数（人）			回収数（人）			回収率（%）		
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
《学部計》	3,691	2,362	1,329	1,978	1,158	784	53.6	49.0	59.0
農学部	1,341	656	685	869	380	471	64.8	57.9	68.8
工学部	2,350	1,706	644	1,109	778	313	47.2	45.6	48.6
《大学院計》	2,098	1,382	716	992	625	354	47.3	45.2	49.4
（農学府計）	760	421	339	419	220	194	55.1	52.3	57.2
農学府修士課程	467	258	209	255	136	117	54.6	52.7	56.0
連合農学研究科博士課程 （本学配置学生）	220	130	90	124	72	51	56.4	55.4	56.7
大学院農学府 共同獣医学専攻	73	33	40	40	12	26	54.8	36.4	65.0
（工学府計）	1,074	786	288	444	327	111	41.3	41.6	38.5
工学府博士前期課程	768	558	210	314	231	78	40.9	41.4	37.1
工学府博士後期課程	216	162	54	94	69	24	43.5	42.6	44.4
工学府専門職学位課程	90	66	24	36	27	9	40.0	40.9	37.5
（BASE 計）	264	175	89	129	78	49	48.9	44.6	55.1
BASE 博士前期課程	137	95	42	60	39	19	43.8	41.1	45.2
BASE 博士後期課程	76	52	24	38	23	15	50.0	44.2	62.5
BASE 博士課程	17	12	5	7	5	2	41.2	41.7	40.0
BASE 一貫制博士課程	34	16	18	24	11	13	70.6	68.8	72.2
総計	5,789	3,744	2,045	2,970	1,783	1,138	51.3	47.6	55.6

回収率の推移（%）

調査 年度	第 1 回 H6	第 2 回 H9	第 3 回 H12	第 4 回 H15	第 5 回 H17	第 6 回 H21	第 7 回 H24	第 8 回 H27	第 9 回 H30	第 10 回 R3	第 11 回 R6
回 収 率 (%)	26.3	24.4	21.1	49.8	63.7	53.3	77.9	78.7	69.4	55.0	51.3

4. 生活形態

生活形態は、経済状況に大きく影響する。全体の 56.3%、大学院生でも 45.9%が家族・親族と同居しており、前回調査と同じ傾向となった。

Q 4. 生活形態

	1. 単身生活	2. 家族・親族と同居	3. 友人等と同居	4. 他人と同居 (ルームシェア・シェア ハウス等)
全体	41.3%	56.3%	1.6%	0.8%
男	43.1%	55.1%	1.2%	0.6%
女	38.6%	58.3%	2.0%	1.1%
その他	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%
回答しない	44.4%	53.3%	2.2%	0.0%
留学生	80.2%	11.2%	6.3%	2.2%
国内生	37.5%	60.8%	1.1%	0.6%
単身生活	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家族・親族と同居	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
友人と同居	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
他人と同居	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
学部生	36.9%	61.6%	1.0%	0.6%
大学院生	50.2%	45.9%	2.8%	1.1%
農学部	38.8%	59.7%	0.6%	0.9%
工学部	35.3%	63.0%	1.3%	0.4%
農学府修士課程	48.2%	49.8%	1.2%	0.8%
大学院農学府博士課程	62.5%	25.0%	5.0%	7.5%
工学府博士前期課程	43.3%	53.2%	3.5%	0.0%
工学府博士後期課程	60.6%	34.0%	3.2%	2.1%
工学府専門職学位課程	36.1%	61.1%	2.8%	0.0%
連合農学研究科博士課程	62.9%	32.3%	3.2%	1.6%
B A S E 博士前期課程	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%
B A S E 博士後期課程	55.3%	36.8%	5.3%	2.6%
B A S E 博士課程	14.3%	71.4%	0.0%	14.3%
B A S E 一貫制博士課程	50.0%	41.7%	8.3%	0.0%

5～6. 留学生及びその経費区分

回答者に占める留学生の割合は 9.0%であり、前回調査の 6.5%から増加している。私費留学生が 59.7%（160 名）、日本政府国費留学生が 35.8%（96 名）、母国派遣留学生が 4.5%（12 名）で、前回と比べ私費留学生の割合が減少し日本政府国費留学生の割合が増加した。

Q 6. 留学生の経費区分

	私費留学生	日本政府国費留学生	母国派遣留学生
全体	59.7%	35.8%	4.5%
男	66.0%	29.8%	4.3%
女	51.2%	43.9%	4.9%
その他	100.0%	0.0%	0.0%
回答しない	100.0%	0.0%	0.0%
単身生活	62.3%	34.9%	2.8%
家族・親族と同居	40.0%	50.0%	10.0%
友人と同居	70.6%	11.8%	17.6%
他人と同居	33.3%	66.7%	0.0%
学部生	57.8%	26.7%	15.6%
大学院生	60.1%	37.7%	2.2%
農学部	70.6%	17.6%	11.8%
工学部	50.0%	32.1%	17.9%
農学府修士課程	69.4%	30.6%	0.0%
大学院農学府博士課程	28.6%	57.1%	14.3%
工学府博士前期課程	64.7%	35.3%	0.0%
工学府博士後期課程	61.5%	38.5%	0.0%
工学府専門職学位課程	100.0%	0.0%	0.0%
連合農学研究科博士課程	57.8%	39.1%	3.1%
B A S E 博士前期課程	75.0%	25.0%	0.0%
B A S E 博士後期課程	62.5%	37.5%	0.0%
B A S E 博士課程	100.0%	0.0%	0.0%
B A S E 一貫制博士課程	54.5%	45.5%	0.0%

私費留学生の割合の推移（%）

調査	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
私費留学生の割合（%）				50.4	57.8		65.9	54.3	52.5	68.8

調査	第 11 回									
年度	R6									
私費留学生の割合（%）	59.7									

第Ⅱ章 経済的状況

7. 収入

1ヶ月の平均収入は72.5千円であり、前回調査(61.9千円)と比較して1万円程度増加した。前回は2万円以下の割合が最も大きかったが、今回は4～6万円(18.5%)の割合が最も大きくなった。学部学生と修士学生では家庭から及び学外でのアルバイトが主要な収入源となっている。修士(博士前期)課程学生では、30%～40%の学生がTAなど学内アルバイトで収入を得ている。一方、博士学生では、家庭から及び学外でのアルバイトが減少し、奨学金(特に返還義務のない奨学金45%～55%)やTAまたはRAからの収入の割合が多くなっている。

平均収入の推移【千円】

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
平均収入(千円)	97.1	88.3	152.8	84.8	153.8	99.8	83.5	61.8	63.9	61.9

調査	第11回									
年度	R6									
平均収入(千円)	72.5									

Q7. あなたの1か月の平均収入額は、およそいくらですか【人】（ ）割合（%）

	0～2 万円	2～4 万円	4～6 万円	6～8 万円	8～1 0万円	10～1 2万円	12～1 4万円	14～1 6万円	16～1 8万円	18～2 0万円	20万 円以上	合計
全体	500 (16.8)	443 (14.9)	550 (18.5)	476 (16.0)	298 (10.0)	158 (5.3)	131 (4.4)	113 (3.8)	83 (2.8)	87 (2.9)	131 (4.4)	2,970
男	310 (17.4)	256 (14.4)	308 (17.3)	301 (16.9)	178 (10.0)	101 (5.7)	80 (4.5)	59 (3.3)	43 (2.4)	51 (2.9)	96 (5.4)	1,783
女	174 (15.3)	178 (15.6)	230 (20.2)	171 (15.0)	118 (10.4)	57 (5.0)	51 (4.5)	52 (4.6)	37 (3.3)	36 (3.2)	34 (3.0)	1,138
その他	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4
回答しない	14 (31.1)	7 (15.6)	12 (26.7)	4 (8.9)	2 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.4)	3 (6.7)	0 (0.0)	1 (2.2)	45
留学生	35 (13.1)	7 (2.6)	13 (4.9)	11 (4.1)	21 (7.8)	27 (10.1)	37 (13.8)	57 (21.3)	18 (6.7)	27 (10.1)	15 (5.6)	268
国内生	465 (17.2)	436 (16.1)	537 (19.9)	465 (17.2)	277 (10.3)	131 (4.8)	94 (3.5)	56 (2.1)	65 (2.4)	60 (2.2)	116 (4.3)	2,702
単身生活	116 (9.5)	80 (6.5)	157 (12.8)	198 (16.1)	173 (14.1)	130 (10.6)	102 (8.3)	88 (7.2)	68 (5.5)	59 (4.8)	56 (4.6)	1,227
家族・親族と同居	382 (22.8)	356 (21.3)	381 (22.8)	273 (16.3)	116 (6.9)	24 (1.4)	20 (1.2)	18 (1.1)	10 (0.6)	23 (1.4)	70 (4.2)	1,673
友人と同居	2 (4.3)	3 (6.4)	11 (23.4)	3 (6.4)	7 (14.9)	2 (4.3)	6 (12.8)	4 (8.5)	3 (6.4)	2 (4.3)	4 (8.5)	47
他人と同居	0 (0.0)	4 (17.4)	1 (4.3)	2 (8.7)	2 (8.7)	2 (8.7)	3 (13.0)	3 (13.0)	2 (8.7)	3 (13.0)	1 (4.3)	23
学部生	362 (18.3)	344 (17.4)	416 (21.0)	376 (19.0)	205 (10.4)	94 (4.8)	76 (3.8)	42 (2.1)	31 (1.6)	20 (1.0)	12 (0.6)	1,978
大学院生	138 (13.9)	99 (10.0)	134 (13.5)	100 (10.1)	93 (9.4)	64 (6.5)	55 (5.5)	71 (7.2)	52 (5.2)	67 (6.8)	119 (12.0)	992
農学部	134 (15.4)	142 (16.3)	187 (21.5)	174 (20.0)	104 (12.0)	50 (5.8)	32 (3.7)	17 (2.0)	19 (2.2)	8 (0.9)	2 (0.2)	869
工学部	228 (20.6)	202 (18.2)	229 (20.6)	202 (18.2)	101 (9.1)	44 (4.0)	44 (4.0)	25 (2.3)	12 (1.1)	12 (1.1)	10 (0.9)	1,109
農学府修士課程	38 (14.9)	35 (13.7)	46 (18.0)	39 (15.3)	36 (14.1)	23 (9.0)	13 (5.1)	12 (4.7)	2 (0.8)	5 (2.0)	6 (2.4)	255
大学院農学府博士課程	2 (5.0)	3 (7.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	4 (10.0)	3 (7.5)	7 (17.5)	5 (12.5)	2 (5.0)	11 (27.5)	40
工学府博士前期課程	56 (17.8)	43 (13.7)	61 (19.4)	43 (13.7)	37 (11.8)	23 (7.3)	20 (6.4)	15 (4.8)	8 (2.5)	4 (1.3)	4 (1.3)	314
工学府博士後期課程	3 (3.2)	2 (2.1)	1 (1.1)	1 (1.1)	0 (0.0)	3 (3.2)	4 (4.3)	5 (5.3)	12 (12.8)	18 (19.1)	45 (47.9)	94
工学府専門職学位課程	6 (16.7)	4 (11.1)	4 (11.1)	4 (11.1)	5 (13.9)	4 (11.1)	1 (2.8)	1 (2.8)	3 (8.3)	1 (2.8)	3 (8.3)	36
連合農学研究科博士課程	10 (8.1)	1 (0.8)	4 (3.2)	1 (0.8)	6 (4.8)	3 (2.4)	10 (8.1)	16 (12.9)	15 (12.1)	22 (17.7)	36 (29.0)	124
B A S E 博士前期課程	13 (21.7)	9 (15.0)	14 (23.3)	9 (15.0)	6 (10.0)	2 (3.3)	3 (5.0)	3 (5.0)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	60
B A S E 博士後期課程	7 (18.4)	0 (0.0)	1 (2.6)	0 (0.0)	1 (2.6)	1 (2.6)	1 (2.6)	7 (18.4)	3 (7.9)	6 (15.8)	11 (28.9)	38
B A S E 博士課程	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (42.9)	4 (57.1)	0 (0.0)	7
B A S E 一貫制博士課程	3 (12.5)	2 (8.3)	2 (8.3)	2 (8.3)	1 (4.2)	1 (4.2)	0 (0.0)	5 (20.8)	1 (4.2)	4 (16.7)	3 (12.5)	24

（ ）割合（%）

8. 収入源

Q8. 収入源として該当するものを選んでください（複数選択可）【人】

	家庭（家計 支持者）か ら	奨学金（返 還義務な し）	奨学金（ロ ーン・貸 与）	学外でのア ルバイト	学内でのア ルバイト （TA・RA・ 研究補助 等）	その他	回答者数
全体	1,389 (46.8)	351 (11.8)	315 (10.6)	2,050 (69.0)	456 (15.4)	118 (4.0)	2,970
男	830 (46.6)	202 (11.3)	207 (11.6)	1,189 (66.7)	274 (15.4)	82 (4.6)	1,783
女	536 (47.1)	146 (12.8)	103 (9.1)	830 (72.9)	174 (15.3)	34 (3.0)	1,138
その他	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	4
回答しない	20 (44.4)	3 (6.7)	5 (11.1)	30 (66.7)	6 (13.3)	1 (2.2)	45
留学生	84 (31.3)	161 (60.1)	12 (4.5)	51 (19.0)	61 (22.8)	8 (3.0)	268
国内生	1,305 (48.3)	190 (7.0)	303 (11.2)	1,999 (74.0)	395 (14.6)	110 (4.1)	2,702
単身生活	745 (60.7)	224 (18.3)	190 (15.5)	769 (62.7)	215 (17.5)	39 (3.2)	1,227
家族・親族と 同居	618 (36.9)	105 (6.3)	119 (7.1)	1,238 (74.0)	228 (13.6)	73 (4.4)	1,673
友人と同居	19 (40.4)	13 (27.7)	5 (10.6)	28 (59.6)	13 (27.7)	4 (8.5)	47
他人と同居	7 (30.4)	9 (39.1)	1 (4.3)	15 (65.2)	0 (0.0)	2 (8.7)	23
学部生	1,035 (52.3)	135 (6.8)	185 (9.4)	1,567 (79.2)	94 (4.8)	16 (0.8)	1,978
大学院生	354 (35.7)	216 (21.8)	130 (13.1)	483 (48.7)	362 (36.5)	102 (10.3)	992
農学部	460 (52.9)	58 (6.7)	67 (7.7)	725 (83.4)	59 (6.8)	8 (0.9)	869
工学部	575 (51.8)	77 (6.9)	118 (10.6)	842 (75.9)	35 (3.2)	8 (0.7)	1,109
農学府修士課 程	114 (44.7)	26 (10.2)	37 (14.5)	163 (63.9)	81 (31.8)	4 (1.6)	255
大学院農学府 博士課程	4 (10.0)	21 (52.5)	3 (7.5)	7 (17.5)	13 (43.3)	6 (15.0)	40
工学府博士前 期課程	147 (46.8)	21 (6.7)	63 (20.1)	215 (68.5)	138 (43.9)	5 (1.6)	314
工学府博士後 期課程	12 (12.8)	43 (45.7)	6 (6.4)	8 (8.5)	35 (37.2)	35 (37.2)	94
工学府専門職 学位課程	15 (41.7)	2 (5.6)	7 (19.4)	23 (63.9)	15 (41.7)	4 (11.1)	36
連合農学研究 科博士課程	17 (13.7)	66 (53.2)	4 (3.2)	16 (12.9)	36 (29.0)	34 (27.4)	124
B A S E 博士 前期課程	28 (46.7)	4 (6.7)	9 (15.0)	42 (70.0)	23 (38.3)	1 (1.7)	60
B A S E 博士 後期課程	7 (18.4)	21 (55.3)	0 (0.0)	1 (2.6)	10 (26.3)	9 (23.7)	38
B A S E 博士 課程	2 (28.6)	4 (57.1)	1 (14.3)	0 (0.0)	1 (14.3)	2 (28.6)	7
B A S E 一貫 制博士課程	8 (33.3)	8 (33.3)	0 (0.0)	7 (29.2)	10 (41.7)	2 (8.3)	24

() 割合 (%)

9. 支出

平均支出は 64.7 千円であった。収入と同様、支出も前回調査（52.5 千円）と比較して 1 万円程度増加した。支出は 2～4 万円の割合が最も高かった。支出項目としては、食費が最も多く、研究や勉学の書籍に支出している割合が 50%以下であり、課外活動費も 50%以下であることから、経済的に大学の講義以外の活動を行うことが困難な学生が多くいることが示唆された。

平均支出の推移【千円】

調査	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
平均支出(千円)	92.3	83.5	122.9	73.5	94.8	78.3	76.4	53.8	54.9	52.5

調査	第 11 回									
年度	R6									
平均支出（千円）	64.7									

Q9. あなたの 1 か月の平均支出額は、およそいくらですか【人】

	0～2 万円	2～4 万円	4～6 万円	6～8 万円	8～1 0万円	1 0～ 1 2万円	1 2～ 1 4万 円	1 4～ 1 6万 円	1 6～ 1 8万 円	1 8～ 2 0万 円	2 0万 円以上	合計
全体	521 (17.5)	582 (19.6)	551 (18.6)	392 (13.2)	324 (10.9)	219 (7.4)	132 (4.4)	85 (2.9)	61 (2.1)	39 (1.3)	64 (2.2)	2,970
男	298 (16.7)	352 (19.7)	321 (18.0)	252 (14.1)	210 (11.8)	127 (7.1)	63 (3.5)	50 (2.8)	37 (2.1)	25 (1.4)	48 (2.7)	1,783
女	208 (18.3)	222 (19.5)	224 (19.7)	132 (11.6)	111 (9.8)	88 (7.7)	68 (6.0)	33 (2.9)	23 (2.0)	13 (1.1)	16 (1.4)	1,138
その他	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4
回答しない	13 (28.9)	7 (15.6)	6 (13.3)	8 (17.8)	2 (4.4)	4 (8.9)	1 (2.2)	2 (4.4)	1 (2.2)	1 (2.2)	0 (0.0)	45
留学生	4 (1.5)	2 (0.7)	10 (3.7)	13 (4.9)	52 (19.4)	70 (26.1)	41 (15.3)	37 (13.8)	19 (7.1)	9 (3.4)	11 (4.1)	268
国内生	517 (19.1)	580 (21.5)	541 (20.0)	379 (14.0)	272 (10.1)	149 (5.5)	91 (3.4)	48 (1.8)	42 (1.6)	30 (1.1)	53 (2.0)	2,702
単身生活	20 (1.6)	100 (8.1)	195 (15.9)	221 (18.0)	235 (19.2)	178 (14.5)	110 (9.0)	74 (6.0)	48 (3.9)	28 (2.3)	18 (1.5)	1,227
家族・親族と同居	500 (29.9)	474 (28.3)	349 (20.9)	163 (9.7)	76 (4.5)	27 (1.6)	13 (0.8)	5 (0.3)	11 (0.7)	9 (0.5)	46 (2.7)	1,673
友人と同居	0 (0.0)	5 (10.6)	6 (12.8)	3 (6.4)	11 (23.4)	9 (19.1)	7 (14.9)	2 (4.3)	2 (4.3)	2 (4.3)	0 (0.0)	47
他人と同居	1 (4.3)	3 (13.0)	1 (4.3)	5 (21.7)	2 (8.7)	5 (21.7)	2 (8.7)	4 (17.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	23
学部生	435 (22.0)	472 (23.9)	407 (20.6)	256 (12.9)	200 (10.1)	100 (5.1)	54 (2.7)	21 (1.1)	12 (0.6)	8 (0.4)	13 (0.7)	1,978
大学院生	86 (8.7)	110 (11.1)	144 (14.5)	136 (13.7)	124 (12.5)	119 (12.0)	78 (7.9)	64 (6.5)	49 (4.9)	31 (3.1)	51 (5.1)	992
農学部	162 (18.6)	203 (23.4)	190 (21.9)	132 (15.2)	87 (10.0)	47 (5.4)	25 (2.9)	11 (1.3)	4 (0.5)	2 (0.2)	6 (0.7)	869
工学部	273 (24.6)	269 (24.3)	217 (19.6)	124 (11.2)	113 (10.2)	53 (4.8)	29 (2.6)	10 (0.9)	8 (0.7)	6 (0.5)	7 (0.6)	1,109
農学府修士課程	24 (9.4)	34 (13.3)	51 (20.0)	52 (20.4)	36 (14.1)	24 (9.4)	13 (5.1)	6 (2.4)	4 (1.6)	7 (2.7)	4 (1.6)	255
大学院農学府博士課程	0 (0.0)	1 (2.5)	3 (7.5)	2 (5.0)	4 (10.0)	6 (15.0)	8 (20.0)	7 (17.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	6 (15.0)	40
工学府博士前期課程	44 (14.0)	48 (15.3)	67 (21.3)	59 (18.8)	36 (11.5)	31 (9.9)	11 (3.5)	9 (2.9)	6 (1.9)	2 (0.6)	1 (0.3)	314
工学府博士後期課程	2 (2.1)	3 (3.2)	1 (1.1)	3 (3.2)	6 (6.4)	14 (14.9)	16 (17.0)	13 (13.8)	13 (13.8)	5 (5.3)	18 (19.1)	94

工学府専門職 学位課程	3 (8.3)	10 (27.8)	3 (8.3)	4 (11.1)	4 (11.1)	4 (11.1)	3 (8.3)	1 (2.8)	1 (2.8)	2 (5.6)	1 (2.8)	36
連合農学研究 科博士課程	1 (0.8)	0 (0.0)	7 (5.6)	5 (4.0)	18 (14.5)	19 (15.3)	20 (16.1)	18 (14.5)	14 (11.3)	6 (4.8)	16 (12.9)	124
B A S E 博士 前期課程	8 (13.3)	12 (20.0)	9 (15.0)	10 (16.7)	7 (11.7)	8 (13.3)	2 (3.3)	2 (3.3)	2 (3.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	60
B A S E 博士 後期課程	1 (2.6)	0 (0.0)	1 (2.6)	0 (0.0)	8 (21.1)	5 (13.2)	2 (5.3)	6 (15.8)	5 (13.2)	6 (15.8)	4 (10.5)	38
B A S E 博士 課程	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)	2 (28.6)	0 (0.0)	2 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7
B A S E 一貫 制博士課程	3 (12.5)	1 (4.2)	2 (8.3)	1 (4.2)	3 (12.5)	6 (25.0)	3 (12.5)	0 (0.0)	2 (8.3)	2 (8.3)	1 (4.2)	24

() 割合 (%)

10. 支出項目

Q10. 支出項目として該当するものを選んで下さい（複数選択可）【人】

	住居費 (駐車場 代を含 む)	食費（自 宅通学者 は外食 費）	光熱水費 (通信費 を含ま ない)	通信費 (携帯電 話、電話 代、ネッ ト回線料 など)	研究・勉 学費・書 籍費（新 聞購読料 を含む）	課外活動 費（サー クル活動 にかかる 費用な ど)	交通費・ 通学費 (定期券 代、駐車 代、ガソ リン代)	その他	回答者 数
全体	938 (31.6)	2,550 (85.9)	1,046 (35.2)	1,046 (35.2)	1,378 (46.4)	1,456 (49.0)	1,969 (66.3)	452 (15.2)	2,970
男	601 (33.7)	1,548 (86.8)	652 (36.6)	677 (38.0)	805 (45.1)	831 (46.6)	1,159 (65.0)	213 (11.9)	1,783
女	323 (28.4)	961 (84.4)	378 (33.2)	356 (31.3)	546 (48.0)	601 (52.8)	777 (68.3)	232 (20.4)	1,138
その他	2 (50.0)	3 (75.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	4
回答しない	12 (26.7)	38 (84.4)	14 (31.1)	11 (24.4)	25 (55.6)	23 (51.1)	30 (66.7)	6 (13.3)	45
留学生	261 (97.4)	266 (99.3)	235 (87.7)	236 (88.1)	154 (57.5)	146 (54.5)	222 (82.8)	19 (7.1)	268
国内生	677 (25.1)	2,284 (84.5)	811 (30.0)	810 (30.0)	1,224 (45.3)	1,310 (48.5)	1,747 (64.7)	433 (16.0)	2,702
単身生活	770 (62.8)	1,207 (98.4)	890 (72.5)	667 (54.4)	679 (55.3)	615 (50.1)	832 (67.8)	119 (9.7)	1,227
家族・親族と 同居	113 (6.8)	1,275 (76.2)	101 (6.0)	332 (19.8)	654 (39.1)	813 (48.6)	1,080 (64.6)	332 (19.8)	1,673
友人と同居	41 (87.2)	46 (97.9)	42 (89.4)	35 (74.5)	34 (72.3)	19 (40.4)	39 (83.0)	0 (0.0)	47
他人と同居	14 (60.9)	22 (95.7)	13 (56.5)	12 (52.2)	11 (47.8)	9 (39.1)	18 (78.3)	1 (4.3)	23
学部生	428 (21.6)	1,639 (82.9)	531 (26.8)	496 (25.1)	834 (42.2)	1,118 (56.5)	1,275 (64.5)	320 (16.2)	1,978
大学院生	510 (51.4)	911 (91.8)	515 (51.9)	550 (55.4)	544 (54.8)	338 (34.1)	694 (70.0)	132 (13.3)	992
農学部	199 (22.9)	721 (83.0)	245 (28.2)	221 (25.4)	376 (43.3)	513 (59.0)	584 (67.2)	155 (17.8)	869
工学部	229 (20.6)	918 (82.8)	286 (25.8)	275 (24.8)	458 (41.3)	605 (54.6)	691 (62.3)	165 (14.9)	1,109
農学府修士課 程	106 (41.6)	226 (88.6)	114 (44.7)	116 (45.5)	150 (58.8)	88 (34.5)	173 (67.8)	35 (13.7)	255
大学院農学府 博士課程	35 (87.5)	38 (95.0)	31 (77.5)	33 (41.2)	29 (72.5)	13 (32.5)	36 (90.0)	3 (7.5)	40
工学府博士前 期課程	91 (29.0)	286 (91.1)	108 (34.4)	123 (39.2)	127 (40.4)	97 (30.9)	203 (64.6)	49 (15.6)	314
工学府博士後 期課程	83 (88.3)	91 (96.8)	74 (78.7)	74 (78.7)	64 (68.1)	26 (27.7)	67 (71.3)	8 (8.5)	94
工学府専門職 学位課程	13 (36.1)	32 (88.9)	16 (44.4)	17 (47.2)	21 (58.3)	10 (27.8)	25 (69.4)	1 (2.8)	36
連合農学研究 科博士課程	109 (87.9)	122 (98.4)	97 (78.2)	106 (85.5)	86 (69.4)	52 (41.9)	104 (83.9)	24 (19.4)	124
B A S E博士 前期課程	18 (30.0)	51 (85.0)	24 (40.0)	24 (40.0)	27 (45.0)	21 (35.0)	35 (58.3)	8 (13.3)	60
B A S E博士 後期課程	35 (92.1)	36 (94.7)	33 (86.8)	33 (86.8)	22 (57.9)	15 (39.5)	28 (73.7)	2 (5.3)	38
B A S E博士 課程	4 (57.1)	7 (100.0)	3 (42.9)	6 (85.7)	6 (85.7)	4 (57.1)	3 (42.9)	1 (14.3)	7
B A S E一貫 制博士課程	16 (66.7)	22 (91.7)	15 (62.5)	18 (75.0)	12 (50.0)	12 (50.0)	20 (83.3)	1 (4.2)	24

() 割合 (%)

11. 授業料の主たる支払い者

授業料を父母や家族が負担しているものが多く(全体で 78.8%)、学部学生では 89.9%に達している。博士または博士後期学生では、授業料免除・奨学金の適用の割合が 25～50%程度に増加し、本人が負担している割合も 30～50%程度と増加する。留学生では 57%程度が授業料免除・奨学金の適用に依存しており、前回調査(47%程度)から 10%程度増加した。

Q11. 授業料の主たる支払い者【人】

	父、または母	配偶者	本人	兄弟姉妹	祖父母	知人(親類を含む)	授業料免除、奨学金の適用	その他	合計
全体	2,341 (78.8)	5 (0.2)	242 (8.1)	1 (0.0)	37 (1.2)	0 (0.0)	326 (11.0)	18 (0.6)	2,970
男	1,408 (79.0)	0 (0.0)	162 (9.1)	0 (0.0)	18 (1.0)	0 (0.0)	183 (10.3)	12 (0.7)	1,783
女	896 (78.7)	5 (0.4)	75 (6.6)	1 (0.1)	17 (1.5)	0 (0.0)	139 (12.2)	5 (0.4)	1,138
その他	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4
回答しない	35 (77.8)	0 (0.0)	5 (11.1)	0 (0.0)	1 (2.2)	0 (0.0)	3 (6.7)	1 (2.2)	45
留学生	67 (25.0)	4 (1.5)	35 (13.1)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	153 (57.1)	8 (3.0)	268
国内生	2,274 (84.2)	1 (0.0)	207 (7.7)	0 (0.0)	37 (1.4)	0 (0.0)	173 (6.4)	10 (0.4)	2,702
単身生活	903 (73.6)	1 (0.1)	102 (8.3)	1 (0.1)	11 (0.9)	0 (0.0)	198 (16.1)	11 (0.9)	1,227
家族・親族と同居	1,403 (83.9)	4 (0.2)	128 (7.7)	0 (0.0)	26 (1.6)	0 (0.0)	105 (6.3)	7 (0.4)	1,673
友人と同居	23 (48.9)	0 (0.0)	9 (19.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	15 (31.9)	0 (0.0)	47
他人と同居	12 (52.2)	0 (0.0)	3 (13.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (34.8)	0 (0.0)	23
学部生	1,758 (88.9)	1 (0.1)	68 (3.4)	0 (0.0)	30 (1.5)	0 (0.0)	117 (5.9)	4 (0.2)	1,978
大学院生	583 (58.8)	4 (0.4)	174 (17.5)	1 (0.1)	7 (0.7)	0 (0.0)	209 (21.1)	14 (1.4)	992
農学部	790 (90.9)	0 (0.0)	24 (2.8)	0 (0.0)	14 (1.6)	0 (0.0)	41 (4.7)	0 (0.0)	869
工学部	968 (87.3)	1 (0.1)	44 (4.0)	0 (0.0)	16 (1.4)	0 (0.0)	76 (6.9)	4 (0.4)	1,109
農学府修士課程	189 (74.1)	0 (0.0)	26 (10.2)	0 (0.0)	2 (0.8)	0 (0.0)	37 (14.5)	1 (0.4)	255
大学院農学府博士課程	9 (22.5)	1 (2.5)	12 (30.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (42.5)	1 (2.5)	40
工学府博士前期課程	263 (83.8)	0 (0.0)	18 (5.7)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	31 (9.9)	1 (0.3)	314
工学府博士後期課程	17 (18.1)	0 (0.0)	48 (51.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (25.5)	5 (5.3)	94
工学府専門職学位課程	25 (69.4)	0 (0.0)	3 (8.3)	0 (0.0)	1 (2.8)	0 (0.0)	6 (16.7)	1 (2.8)	36
連合農学研究科博士課程	13 (10.5)	1 (0.8)	41 (33.1)	1 (0.8)	2 (1.6)	0 (0.0)	61 (49.2)	5 (4.0)	124
B A S E 博士前期課程	49 (81.7)	0 (0.0)	2 (3.3)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	8 (13.3)	0 (0.0)	60
B A S E 博士後期課程	3 (7.9)	1 (2.6)	17 (44.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (44.7)	0 (0.0)	38
B A S E 博士課程	4 (57.1)	0 (0.0)	3 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7
B A S E 一貫制博士課程	11 (45.8)	1 (4.2)	4 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (33.3)	0 (0.0)	24

() 割合(%)

12～13. アルバイト

学外でアルバイトを行っている学生は全体の 68.9%で、前回調査の 64.0%から 5%程度増加した。男女比では女性の方が多い。留学生は 20.5%であり比較的少なく、前回調査よりも 8%程度減少した。これは、大学院生が多いことと、国費留学生が含まれているためである。また、単身生活の学生の方が同居学生よりも 10%程度少ないことも特徴的である。学部生(78.2%)と大学院生(50.3%)では、学部の方が高い。大学院では、TA/RA などの学内でのアルバイトが多くなることを反映していると考えられる。農学部と工学部を比較すると農学部の方が多い。

アルバイトの時間は週 15 時間以内がほとんどであるが、20 時間以上行っている学生も 6.3%いる。

Q12. 現在、学外でアルバイトをしていますか【人】

	している	していない	合計
全体	2,045 (68.9)	925 (31.1)	2,970
男	1,185 (66.5)	598 (33.5)	1,783
女	829 (72.8)	309 (27.2)	1,138
その他	1 (25.0)	3 (75.0)	4
回答しない	30 (66.7)	15 (33.3)	45
留学生	55 (20.5)	213 (79.5)	268
国内生	1,990 (73.6)	712 (26.4)	2,702
単身生活	770 (62.8)	457 (37.2)	1,227
家族・親族と同居	1,228 (73.4)	445 (26.6)	1,673
友人と同居	31 (66.0)	16 (34.0)	47
他人と同居	16 (69.6)	7 (30.4)	23
学部生	1,546 (78.2)	432 (21.8)	1,978
大学院生	499 (50.3)	493 (49.7)	992
農学部	710 (81.7)	159 (18.3)	869
工学部	836 (75.4)	273 (24.6)	1,109
農学府修士課程	163 (63.9)	92 (36.1)	255
大学院農学府博士課程	12 (30.0)	28 (70.0)	40
工学府博士前期課程	218 (69.4)	96 (30.6)	314
工学府博士後期課程	10 (10.6)	84 (89.4)	94
工学府専門職学位課程	22 (61.1)	14 (38.9)	36
連合農学研究科博士課程	22 (17.7)	102 (82.3)	124
B A S E 博士前期課程	41 (68.3)	19 (31.7)	60
B A S E 博士後期課程	2 (5.3)	36 (94.7)	38
B A S E 博士課程	0 (0.0)	7 (100.0)	7
B A S E 一貫制博士課程	9 (37.5)	15 (62.5)	24

() 割合 (%)

Q13. 12で「している」と答えた方のアルバイトの週あたりの時間【人】

	5時間未満	5～10時間未満	10～15時間未満	15～20時間未満	20時間以上	合計
全体	331 (16.2)	666 (32.6)	625 (30.6)	294 (14.4)	129 (6.3)	2,045
男	199 (16.8)	395 (33.3)	360 (30.4)	151 (12.7)	80 (6.8)	1,185
女	127 (15.3)	259 (31.2)	254 (30.6)	140 (16.9)	49 (5.9)	829
その他	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1
回答しない	4 (13.3)	12 (40.0)	11 (36.7)	3 (10.0)	0 (0.0)	30
留学生	7 (12.7)	10 (18.2)	17 (30.9)	13 (23.6)	8 (14.5)	55
国内生	324 (16.3)	656 (33.0)	608 (30.6)	281 (14.1)	121 (6.1)	1,990
単身生活	94 (12.2)	235 (30.5)	236 (30.6)	140 (18.2)	65 (8.4)	770
家族・親族と同居	232 (18.9)	419 (34.1)	370 (30.1)	147 (12.0)	60 (4.9)	1,228
友人と同居	4 (12.9)	6 (19.4)	13 (41.9)	6 (19.4)	2 (6.5)	31
他人と同居	1 (6.3)	6 (37.5)	6 (37.5)	1 (6.3)	2 (12.5)	16
学部生	231 (14.9)	504 (32.6)	486 (31.4)	233 (15.1)	92 (6.0)	1,546
大学院生	100 (20.0)	162 (32.5)	139 (27.9)	61 (12.2)	37 (7.4)	499
農学部	108 (15.2)	224 (31.5)	225 (31.7)	114 (16.1)	39 (5.5)	710
工学部	123 (14.7)	280 (33.5)	261 (31.2)	119 (14.2)	53 (6.3)	836
農学府修士課程	21 (12.9)	51 (31.3)	52 (31.9)	26 (16.0)	13 (8.0)	163
大学院農学府博士課程	4 (33.3)	1 (8.3)	1 (8.3)	0 (0.0)	6 (50.0)	12
工学府博士前期課程	50 (22.9)	76 (34.9)	58 (26.6)	24 (11.0)	10 (4.6)	218
工学府博士後期課程	1 (10.0)	3 (30.0)	3 (30.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	10
工学府専門職学位課程	6 (27.3)	8 (36.4)	4 (18.2)	4 (18.2)	0 (0.0)	22
連合農学研究科博士課程	7 (31.8)	3 (13.6)	5 (22.7)	4 (18.2)	3 (13.6)	22
B A S E 博士前期課程	8 (19.5)	17 (41.5)	12 (29.3)	2 (4.9)	2 (4.9)	41
B A S E 博士後期課程	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2
B A S E 博士課程	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0
B A S E 一貫制博士課程	3 (33.3)	2 (22.2)	3 (33.3)	0 (0.0)	1 (11.1)	9

() 割合(%)

14～15. 経済的困難学生とその解決策

経済的理由による学業継続困難な学生は全体の 15.3%であり、前回調査の 12.9%よりも増加した。学部学生では 10.7%であるが、大学院生では 24.5%と比率が上がっている。留学生では 40.3%が経済的困難を訴えている。

経済的困難の解決策としては、学外におけるアルバイト 53.6%、次いで奨学金 49.5%が多い。授業料免除の割合は 38.5%であり、特に博士学生と留学生では、授業料免除の割合が 55～75%程度と高い。また、大学院学生では、TA や RA などの学内でのアルバイトも 20～35%と多くなっている。これらの支援制度がある程度充実したことが反映していると考えられる。ただ、自由記載欄には、給付型奨学金の充実、授業料免除制度の充実、授業料の減額を望む意見が多数寄せられていた。

Q 1 4. 経済的理由による学業継続困難の有無【人】

	ある	ない	合計
全体	455 (15.3)	2,515 (84.7)	2,970
男	282 (15.8)	1,501 (84.2)	1,783
女	161 (14.1)	977 (85.9)	1,138
その他	2 (50.0)	2 (50.0)	4
回答しない	10 (22.2)	35 (77.8)	45
留学生	108 (40.3)	160 (59.7)	268
国内生	347 (12.8)	2,355 (87.2)	2,702
単身生活	261 (21.3)	966 (78.7)	1,227
家族・親族と同居	170 (10.2)	1,503 (89.8)	1,673
友人と同居	17 (36.2)	30 (63.8)	47
他人と同居	7 (30.4)	16 (69.6)	23
学部生	212 (10.7)	1,766 (89.3)	1,978
大学院生	243 (24.5)	749 (75.5)	992
農学部	93 (10.7)	776 (89.3)	869
工学部	119 (10.7)	990 (89.3)	1,109
農学府修士課程	54 (21.2)	201 (78.8)	255
大学院農学府博士課程	13 (32.5)	27 (67.5)	40
工学府博士前期課程	45 (14.3)	269 (85.7)	314
工学府博士後期課程	35 (37.2)	59 (62.8)	94
工学府専門職学位課程	7 (19.4)	29 (80.6)	36
連合農学研究科博士課程	49 (39.5)	75 (60.5)	124
B A S E 博士前期課程	12 (20.0)	48 (80.0)	60
B A S E 博士後期課程	16 (42.1)	22 (57.9)	38
B A S E 博士課程	3 (42.9)	4 (57.1)	7
B A S E 一貫制博士課程	9 (37.5)	15 (62.5)	24

() 割合(%)

Q15. 14で「ある」と答えた方の経済的困難の解決策（複数回答可）【人】

	授業料 免除	入学料 免除	学内に おける アルバイト	学外に おける アルバイト	奨学金	家庭な どからの 援助	ローン	節約	その他	回答者 数
全体	175 (38.5)	73 (16.0)	78 (17.1)	244 (53.6)	225 (49.5)	171 (37.6)	30 (6.6)	166 (36.5)	18 (4.0)	455
男	103 (36.5)	42 (14.9)	45 (16.0)	150 (53.2)	136 (48.2)	118 (41.8)	20 (7.1)	94 (33.3)	13 (4.6)	282
女	70 (43.5)	30 (18.6)	31 (19.3)	86 (53.4)	84 (52.2)	51 (31.7)	10 (6.2)	69 (42.9)	3 (1.9)	161
その他	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2
回答しない	1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	7 (70.0)	4 (40.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	3 (30.0)	1 (10.0)	10
留学生	72 (66.7)	24 (22.2)	26 (24.1)	36 (33.3)	58 (53.7)	39 (36.1)	13 (12.0)	46 (42.6)	3 (2.8)	108
国内生	103 (29.7)	49 (14.1)	52 (15.0)	208 (59.9)	167 (48.1)	132 (38.0)	17 (4.9)	120 (34.6)	15 (4.3)	347
単身生活	109 (41.8)	48 (18.4)	52 (19.9)	144 (55.2)	134 (51.3)	101 (38.7)	24 (9.2)	100 (38.3)	9 (3.4)	261
家族・親族と 同居	49 (28.8)	22 (12.9)	22 (12.9)	87 (51.2)	77 (45.3)	66 (38.8)	4 (2.4)	57 (33.5)	8 (4.7)	170
友人と同居	14 (82.4)	3 (17.6)	4 (23.5)	11 (64.7)	11 (64.7)	4 (23.5)	2 (11.8)	8 (47.1)	0 (0.0)	17
他人と同居	3 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (28.6)	3 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	7
学部生	46 (21.7)	23 (10.8)	14 (6.6)	147 (69.3)	98 (46.2)	103 (48.6)	9 (4.2)	75 (35.4)	5 (2.4)	212
大学院生	129 (53.1)	50 (20.6)	64 (26.3)	97 (39.9)	127 (52.3)	68 (28.0)	21 (8.6)	91 (37.4)	13 (5.3)	243
農学部	17 (18.3)	9 (9.7)	12 (12.9)	66 (71.0)	40 (43.0)	38 (40.9)	3 (3.2)	35 (37.6)	2 (2.2)	93
工学部	29 (24.4)	14 (11.8)	2 (1.7)	81 (68.1)	58 (48.7)	65 (54.6)	6 (5.0)	40 (33.6)	3 (2.5)	119
農学府修士課 程	27 (50.0)	13 (24.1)	12 (22.2)	33 (61.1)	28 (51.9)	16 (29.6)	4 (7.4)	25 (46.3)	2 (3.7)	54
大学院農学府 博士課程	10 (76.9)	1 (7.6)	3 (23.0)	6 (46.1)	8 (61.5)	1 (7.6)	1 (7.6)	6 (46.1)	0 (0.0)	13
工学府博士前 期課程	18 (40.0)	14 (31.1)	17 (37.8)	30 (66.7)	24 (53.3)	19 (42.2)	1 (2.2)	15 (33.3)	1 (2.2)	45
工学府博士後 期課程	20 (57.1)	7 (20.0)	8 (22.9)	7 (20.0)	20 (57.1)	8 (22.9)	5 (14.3)	10 (28.6)	4 (11.4)	35
工学府専門職 学位課程	5 (71.4)	4 (57.1)	4 (57.1)	2 (28.6)	6 (85.7)	2 (28.6)	0 (0.0)	3 (42.9)	0 (0.0)	7
連合農学研究 科博士課程	28 (57.1)	7 (14.3)	11 (22.4)	8 (16.3)	26 (53.1)	9 (18.4)	8 (16.3)	17 (34.7)	4 (8.2)	49
B A S E博士 前期課程	5 (41.7)	1 (8.3)	2 (16.7)	7 (58.3)	3 (25.0)	5 (41.7)	1 (8.3)	3 (25.0)	0 (0.0)	12
B A S E博士 後期課程	12 (75.0)	3 (18.8)	4 (25.0)	1 (6.3)	9 (56.3)	6 (37.5)	1 (6.3)	7 (43.8)	1 (6.3)	16
B A S E博士 課程	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3
B A S E一貫 制博士課程	4 (44.4)	0 (0.0)	2 (22.2)	3 (33.3)	2 (22.2)	2 (22.2)	0 (0.0)	4 (44.4)	1 (11.1)	9

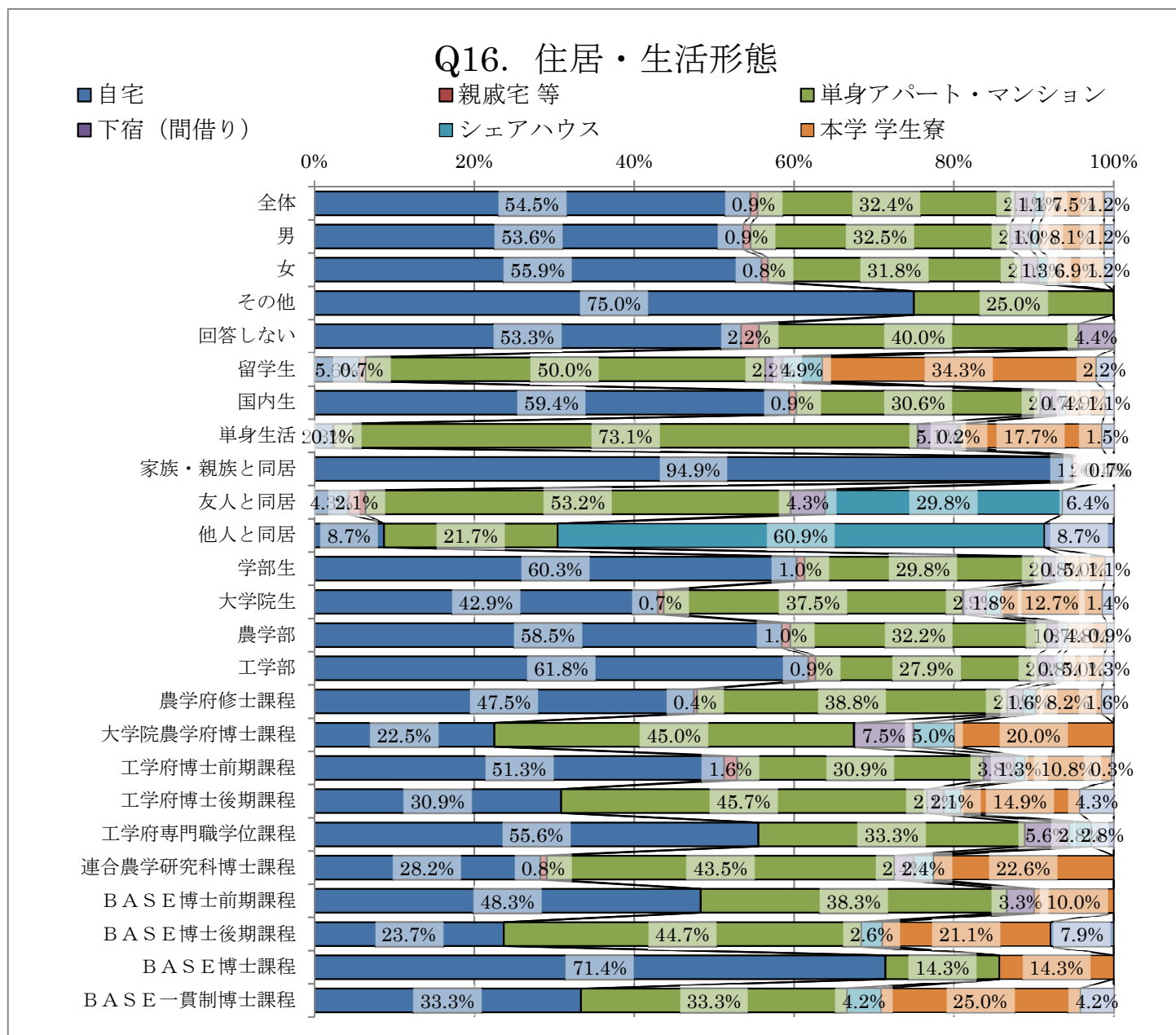
() 割合(%)

第三章 住居

16. 現在の住居・生活形態

回答者全体 2,970 名中 1,227 名 (41.3%) が単身で生活している。これまでの調査と比較して、男子学生の単身生活者は、47.2% (第 6 回) → 46.1% (第 7 回) → 44.3% (第 8 回) → 42.5% (第 9 回) → 41.6% (第 10 回) → 43.1% (第 11 回)、女子学生の単身生活者は、39.2% (第 6 回) → 35.4% (第 7 回) → 34.7% (第 8 回) → 32.7% (第 9 回) → 33.7% (第 10 回) → 38.6% (第 11 回) と変遷しており、男子は横ばい、女子は増加傾向が認められる。学年が上がるにつれて単身生活者の比率は増加 (学部生 36.9%、大学院生 50.2%) するが、学部生の数値は前回調査時より低く (それぞれ 34.8% と 46.2%)、減少傾向がうかがえる。経済状況が単身生活者の割合減少に影響していると推察される。回答者全体で 56.3% が自宅生 (親戚宅等含む)、32.4% が単身アパート・下宿、7.5% が寮・学生会館等に居住している (1.2% はその他)。

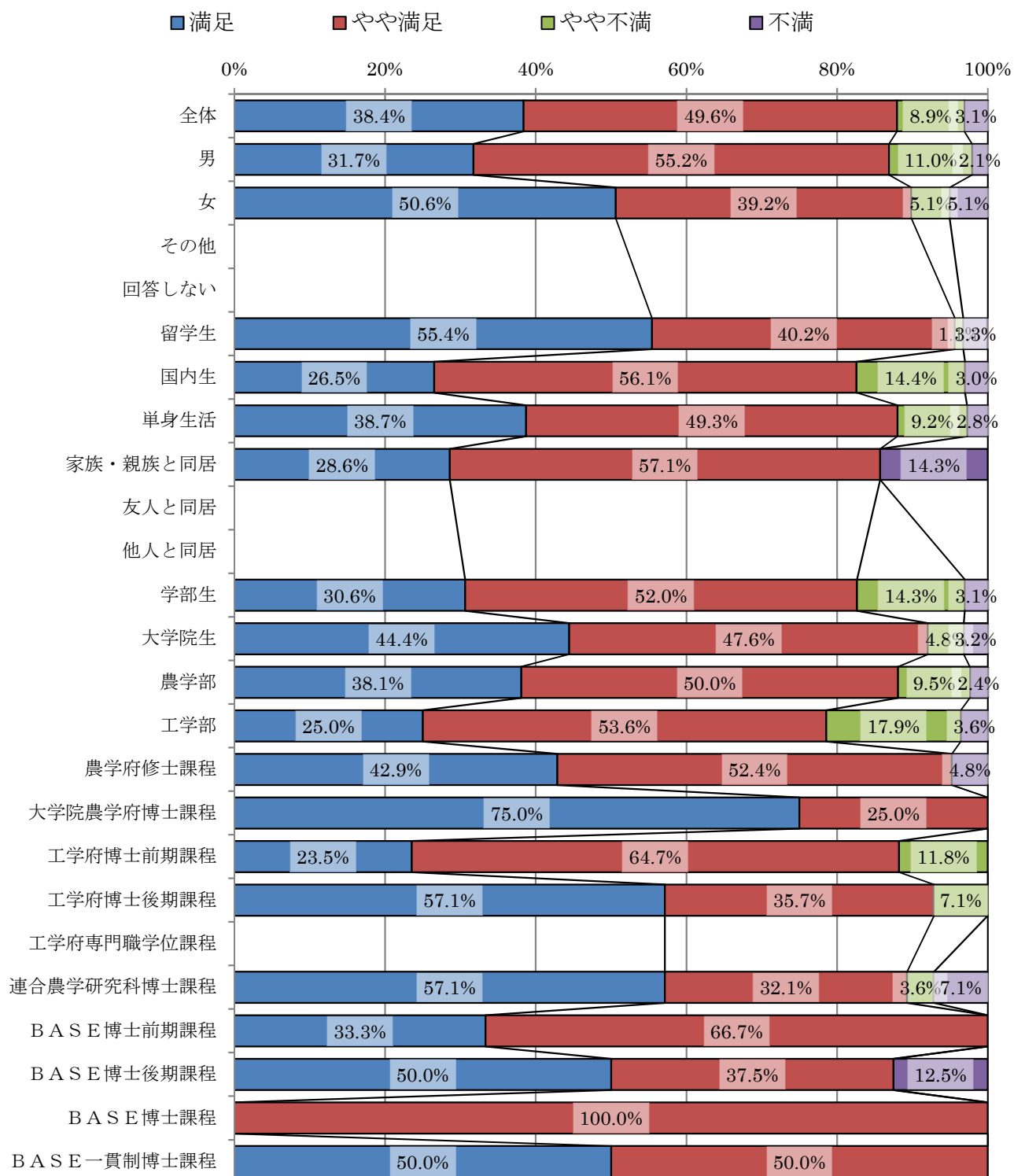
留学生の単身生活者の比率は 80.2% で、前回調査時 (75.9%) より増加した。留学生は、50.0% が単身アパート・下宿、34.3% が寮・学生会館等、4.9% がシェアハウスに居住しており、友人等との共同生活の割合が国内生と比べて高い傾向にある。



17. 学生寮の満足度

「満足」「やや満足」を合わせると全体で 87.9% となり、前回調査時（79.0%）と比べて高い結果となり、おおむね満足されていることがわかる。

Q17. 学生寮の満足度



18. 学生寮への入居希望

本学学生寮に入寮していない者のうち、入居希望者は194名（7.1%）と前回の6.0%から増加したが、前々回の9.9%からは減少した。この傾向から、アパートに満足している学生が増えてきていることが伺える。一方、留学生は入居が限られているものの、48名（27.3%）が入居を希望しており、国内生（5.7%）よりも需要が高いことがわかる。

Q18. <本学学生寮に入寮していない方>に伺います。入居を希望しますか【人】

	希望する	希望しない	合計
全体	194	2,552	2,746
男	102	1,536	1,638
女	87	972	1,059
その他	0	4	4
回答しない	5	40	45
留学生	48	128	176
国内生	146	2,424	2,570
単身生活	82	928	1,010
家族・親族と同居	109	1,557	1,666
友人と同居	2	45	47
他人と同居	1	22	23
学部生	117	1,763	1,880
大学院生	77	789	866
農学部	52	775	827
工学部	65	988	1,053
農学府修士課程	24	210	234
大学院農学府博士課程	7	25	32
工学府博士前期課程	8	272	280
工学府博士後期課程	5	75	80
工学府専門職学位課程	1	35	36
連合農学研究科博士課程	15	81	96
B A S E 博士前期課程	6	48	54
B A S E 博士後期課程	8	22	30
B A S E 博士課程	0	6	6
B A S E 一貫制博士課程	3	15	18

19. 学生寮への入居を希望しない理由

学生寮への入居を希望しない理由として、単身生活者の大多数が現状の住居に満足しているからと回答している。留学生についても現状の住居に満足している学生が多い。その一方で、留学生 16.4%、国内生 3.8%が集団生活を苦手とする理由であることがわかった。

Q19. <Q18で希望しないと答えた方>に伺います。その理由は何ですか【人】

	自宅だから	現状の住居（アパート等）に満足している	集団生活が苦手	その他	合計
全体	1,425	906	114	107	2,552
男	841	570	63	62	1,536
女	563	323	45	41	972
その他	1	1	2	0	4
回答しない	20	12	4	4	40
留学生	7	89	21	11	128
国内生	1,418	817	93	96	2,424
単身生活	13	772	86	57	928
家族・親族と同居	1,410	82	23	42	1,557
友人と同居	1	35	3	6	45
他人と同居	1	17	2	2	22
学部生	1,043	578	74	68	1,763
大学院生	382	328	40	39	789
農学部	444	268	36	27	775
工学部	599	310	38	41	988
農学府修士課程	106	84	12	8	210
大学院農学府博士課程	5	12	2	6	25
工学府博士前期課程	155	99	9	9	272
工学府博士後期課程	25	40	5	5	75
工学府専門職学位課程	18	12	2	3	35
連合農学研究科博士課程	29	37	8	7	81
B A S E 博士前期課程	25	22	1	0	48
B A S E 博士後期課程	8	13	0	1	22
B A S E 博士課程	5	1	0	0	6
B A S E 一貫制博士課程	6	8	1	0	15

20. 国際交流会館への入居希望＜外国人留学生対象＞

外国人留学生の約 21.6%（268 名中 58 名）が国際交流会館への入居を希望しており、一定の需要があることが分かる。

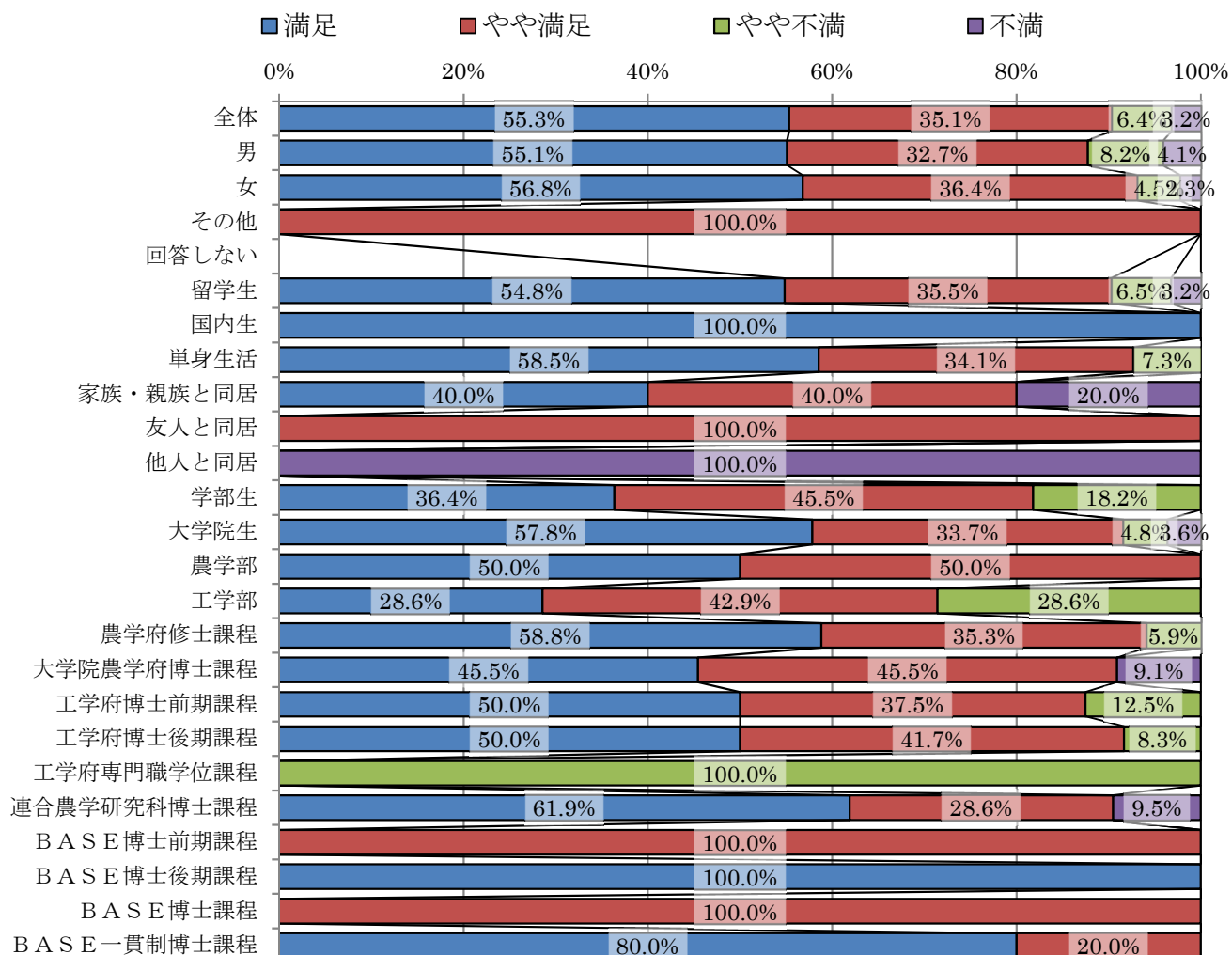
Q20. ＜外国人留学生の方＞に伺います。国際交流会館への入居を希望しますか【人】

	希望する	希望しない	既に入居している、または入居していた	外国人留学生ではない	合計
全体	75	857	94	1,944	2,970
男	40	557	49	1,137	1,783
女	34	286	44	774	1,138
その他	0	1	1	2	4
回答しない	1	13	0	31	45
留学生	58	117	93	0	268
国内生	17	740	1	1,944	2,702
単身生活	55	385	82	705	1,227
家族・親族と同居	17	440	10	1,206	1,673
友人と同居	2	24	1	20	47
他人と同居	1	8	1	13	23
学部生	18	539	11	1,410	1,978
大学院生	57	318	83	534	992
農学部	12	233	4	620	869
工学部	6	306	7	790	1,109
農学府修士課程	15	85	17	138	255
大学院農学府博士課程	3	14	11	12	40
工学府博士前期課程	6	81	8	219	314
工学府博士後期課程	4	34	12	44	94
工学府専門職学位課程	0	8	1	27	36
連合農学研究科博士課程	17	54	21	32	124
B A S E 博士前期課程	4	19	1	36	60
B A S E 博士後期課程	6	15	6	11	38
B A S E 博士課程	0	2	1	4	7
B A S E 一貫制博士課程	2	6	5	11	24

2 1. 国際交流会館の満足度

国際交流会館に入居している又は入居したことがある外国人留学生（93 名）を対象に調査した結果、「満足」「やや満足」を合わせて 90.3%となり、前回調査時（64.2%）と比べてかなり高い。

Q21. 国際交流会館の満足度



2 2. 国際交流会館への入居を希望しない理由

国際交流会館への入居を希望しない外国人留学生（117 名）が挙げた理由としては、回答が多い順に、「部屋が狭い」、「設備が充実していない」、「規則が厳しい」、「清潔でない・規則が厳しい（同率）」が挙げられた。

Q 2 2. 国際交流会館への入居をなぜ希望しないのでしょうか。複数回答可【人】

	入居費が高い	設備が充実していない	清潔でない	部屋が狭い	共有部分が少ない	規則が厳しい	その他	回答者数
全体	14	27	25	39	15	26	39	117

第 IV 章 通学

23. 主な通学手段・方法

学生の主な通学手段・方法は全体で、公共交通機関（52.7%）、自転車（29.3%）、徒歩（16.6%）の順に多く、その割合は前回調査時と大きな変化はない。一方、オートバイは、2.1%（第6回）→1.4%（第7回）→1.1%（第8回）→0.6%（第9回）→0.5%（第10回）→0.4%（第11回）と横ばいである。小金井キャンパス（工学部・工学府）では府中キャンパス（農学部・農学府）より徒歩の割合が高く、自転車の割合はその逆の傾向になっている。

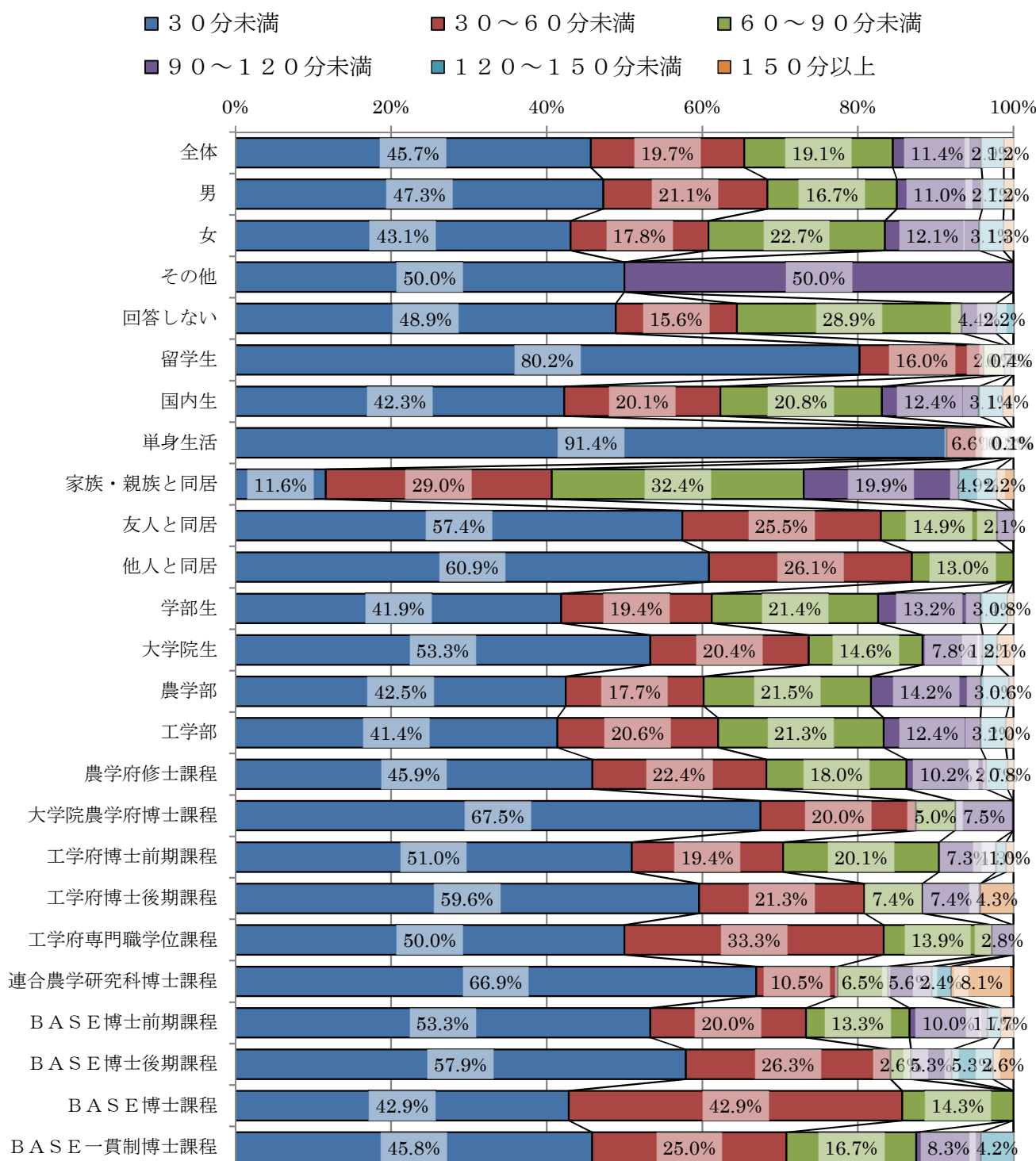
Q23. 主な通学手段・方法【%】

	徒歩	自転車	オートバイ	自動車	公共交通機関 （電車、バスなど。 自転車併用含む）	合計
全体	16.6	29.3	0.4	0.9	52.7	100.0
男	17.5	30.8	0.7	1.1	49.9	100.0
女	15.3	27.0	0.0	0.7	57.0	100.0
その他	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	100.0
回答しない	15.6	28.9	0.0	0.0	55.6	100.0
留学生	30.2	42.5	0.4	0.0	26.9	100.0
国内生	15.3	28.0	0.4	1.0	55.3	100.0
单身生活	37.2	50.9	0.3	0.5	11.0	100.0
家族・親族と同居	1.5	12.8	0.4	1.2	84.1	100.0
友人と同居	23.1	38.3	2.1	4.3	31.9	100.0
他人と同居	4.3	60.9	0.0	0.0	34.8	100.0
学部生	15.0	27.7	0.2	0.5	56.7	100.0
大学院生	19.9	32.6	0.9	1.9	44.8	100.0
農学部	11.4	33.5	0.1	0.1	54.9	100.0
工学部	17.9	23.2	0.2	0.7	58.1	100.0
農学府修士課程	13.3	34.5	0.8	0.4	51.0	100.0
大学院農学府博士課程	27.5	32.5	0.0	5.0	35.0	100.0
工学府博士前期課程	23.9	27.7	1.3	1.6	45.5	100.0
工学府博士後期課程	26.6	27.7	3.2	4.3	38.3	100.0
工学府専門職学位課程	16.7	36.1	0.0	2.8	44.4	100.0
連合農学研究科博士課程	12.9	46.8	0.0	4.8	35.5	100.0
B A S E 博士前期課程	21.7	38.3	0.0	0.0	40.0	100.0
B A S E 博士後期課程	26.3	21.1	0.0	0.0	52.6	100.0
B A S E 博士課程	14.3	28.6	0.0	0.0	57.1	100.0
B A S E 一貫制博士課程	25.0	20.8	0.0	0.0	54.2	100.0

24. 通学所要時間

通学の片道所要時間は「30分未満」が全体の47.5%（第7回）→46.7%（第8回）→44.7%（第9回）→43.7%（第10回）→45.7%（第11回）と横ばい傾向にあり、1時間未満で通学している学生の比率も65.9%→64.0%→63.9%→64.2%→65.4%となって、全体のほぼ3分の2の学生が1時間以内で通学している状況に変わりはない。学年が進むにつれて通学所要時間が短くなる傾向にあるが、これは自宅外生の比率が増えるためと考えられる（質問事項16）。自宅生比率が高い女子学生は、男子学生と比較して通学所要時間が長くなる傾向にある。片道2時間を超える学生の比率についてみると、女子学生が若干多いが差は小さい（女子4.3%、男子3.9%）。

Q24. 通学の片道の所要時間



第Ⅴ章 学業、学修環境

25. 本学への満足度

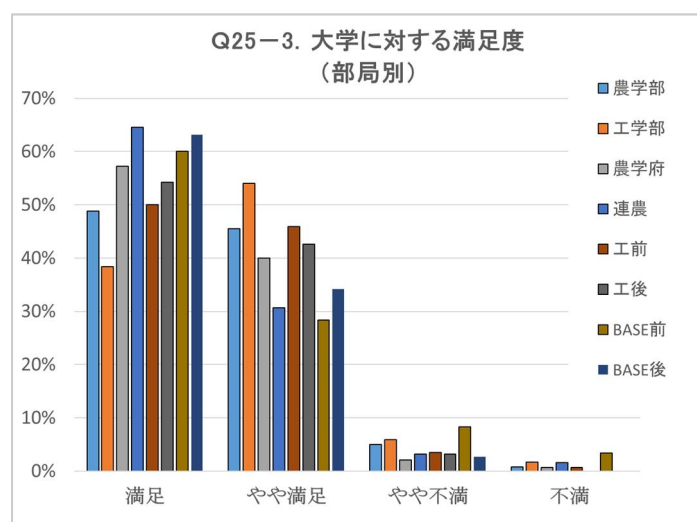
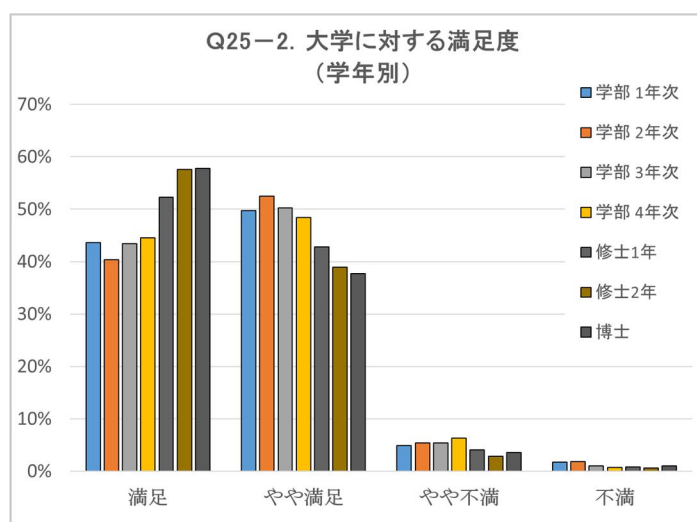
本学に対する満足度は、「満足」と「ほぼ満足」で94.0%であり、非常に高い満足度となっている。過去、12年前（第7回<H24> 89.7%）から9年前（第8回<H27> 85.0%）にかけて満足度がやや下がった時期があるが、前回（第10回<R3>92.9%）、大幅に改善し、その勢いのまま今回も高い満足度を得た。また、性別、学部別、留学生別等、種別で見てもいずれも高い満足度となっており、学生全体的に高い満足度となっている。

Q25-1. 大学に対する満足度の推移

調査	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3	R6
全体	78.6%	79.9%	79.1%	87.6%	89.7%	85.0%	85.0%	92.9%	94.0%
男	75.8%	77.9%	76.2%	86.2%	88.7%	83.3%	83.0%	91.7%	93.1%
女	82.3%	84.1%	87.5%	91.4%	91.8%	88.9%	88.8%	95.3%	95.8%
学部		76.7%	76.8%	85.7%	88.6%	84.2%	83.1%	91.8%	93.2%
大学院	81.7%	87.4%	85.2%	92.2%	92.4%	86.9%	89.3%	95.2%	95.7%
農学部	81.4%	83.6%	84.3%	88.6%	89.6%	90.8%	88.2%	94.0%	94.2%
工学部	68.4%	72.1%	73.9%	84.5%	88.0%	80.7%	80.0%	90.4%	92.4%
学業困難者				81.9%	85.6%				
留学生				92.8%	96.8%	94.1%	90.1%	94.5%	95.1%

※大学院生は、農学府・工学府・BASE・連農の合計。空欄は調査項目なし。

さらに「満足」と回答した学生に着目して学年別にみると、学部生は40%強であるのに対し、修士1年では50%、修士2年以上では60%弱の学生が「満足」と回答している。これは修士2年次と博士課程の研究指導の充実度を示していると考えられる。また、部局別にみると、連農、BASE前・後期が60%を超えており、非常に充実した研究活動ができていると感じる学生が多いと考えられる。



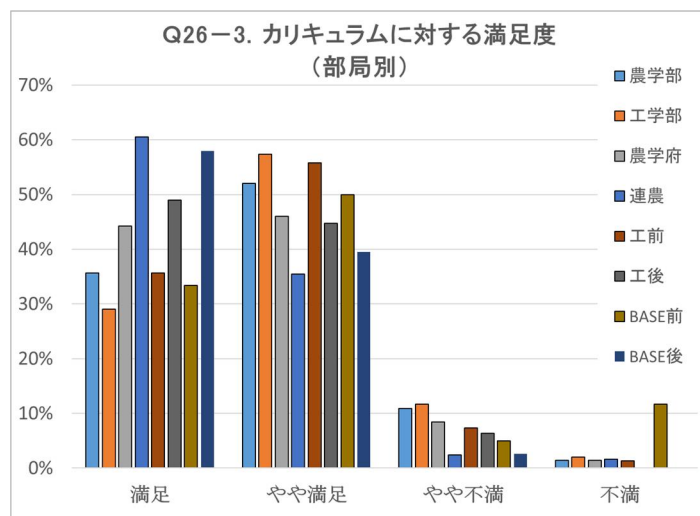
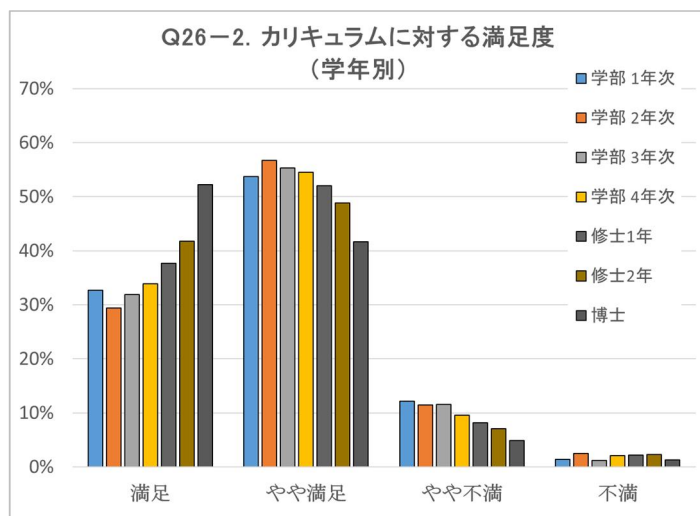
26. カリキュラムへの満足度

全体では「満足」および「やや満足」が 88.4%となった。前回から満足度が大幅に向上し、引き続き今回も高い満足度を得られている。男女別では女子学生が約 5 ポイント高く、学部別ではほとんど差がない。大学院になると、全学府ともに 90%を超えており、研究活動を進める上で充実したカリキュラムが整備されていると考えられる。特に連農は 96.0%と高い満足度を得ており、自身の研究活動とマッチしたカリキュラムが提供されていることが推測される。

Q26-1. カリキュラムに対する満足度

調査	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3	R6
全体	41.5%	52.8%	55.4%	79.0%	83.4%	68.6%	70.9%	87.7%	88.4%
男		50.5%	53.3%	78.3%	83.7%	67.4%	68.1%	86.1%	86.9%
女		57.7%	61.6%	81.3%	82.9%	71.5%	76.3%	90.6%	91.4%
学部		50.4%	53.6%	77.9%	77.0%	66.0%	69.0%	86.9%	87.0%
農学部	39.2%	52.4%	48.6%	71.6%	77.0%	68.0%	70.1%	89.1%	87.7%
工学部	41.2%	49.2%	55.5%	80.7%	84.9%	64.9%	68.4%	85.6%	86.4%
大学院	47.9%	58.6%	60.1%	82.0%	87.2%	75.0%	75.3%	89.2%	91.3%
農学府				79.6%	80.9%	72.7%	78.0%	88.2%	90.2%
工学府				82.5%	89.8%	76.3%	73.2%	89.4%	91.9%
連農				80.0%	89.8%	75.4%	83.3%	91.4%	96.0%
BASE				85.1%	84.6%	72.5%	76.8%	89.3%	90.0%
留学生				95.7%	90.9%	92.0%	82.1%	92.0%	94.8%

一方、大学への満足度の高さと比較し、カリキュラムについては学部学生の 10%前後が「やや不満」と回答している。博士課程で 50%強が「満足」と回答していることを踏まえると、研究の基盤を構築する時期、特に学部カリキュラムに関して、学生の特性や興味・関心を見極めて改善することが求められている。

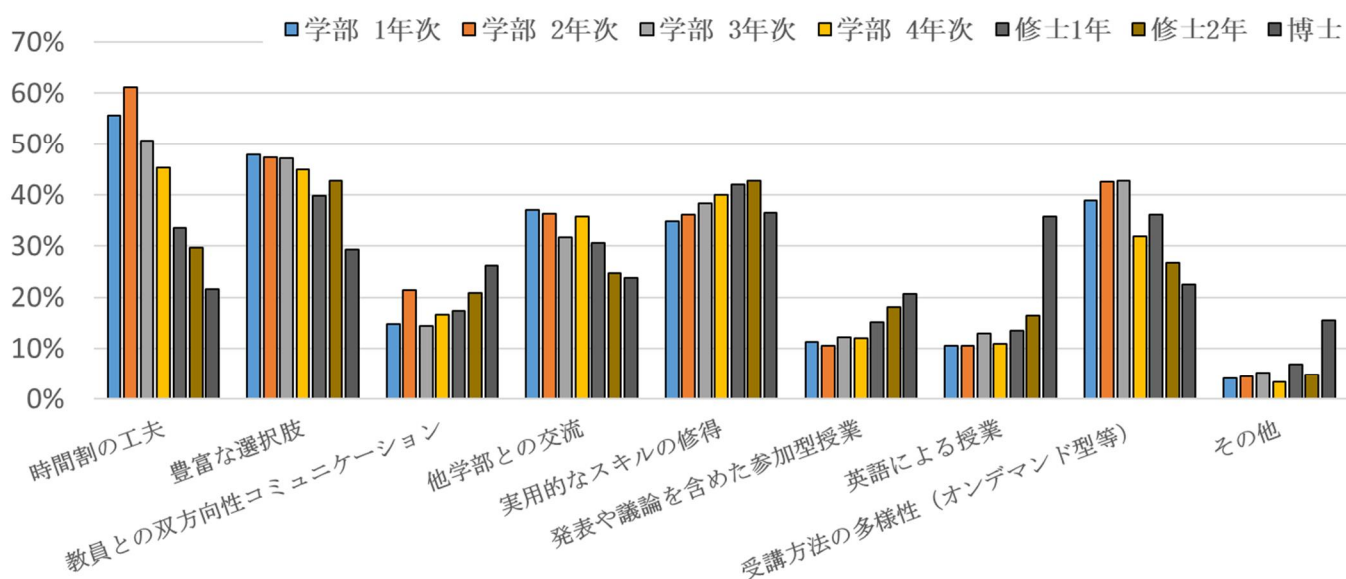


27. カリキュラムや授業への希望（複数回答可）

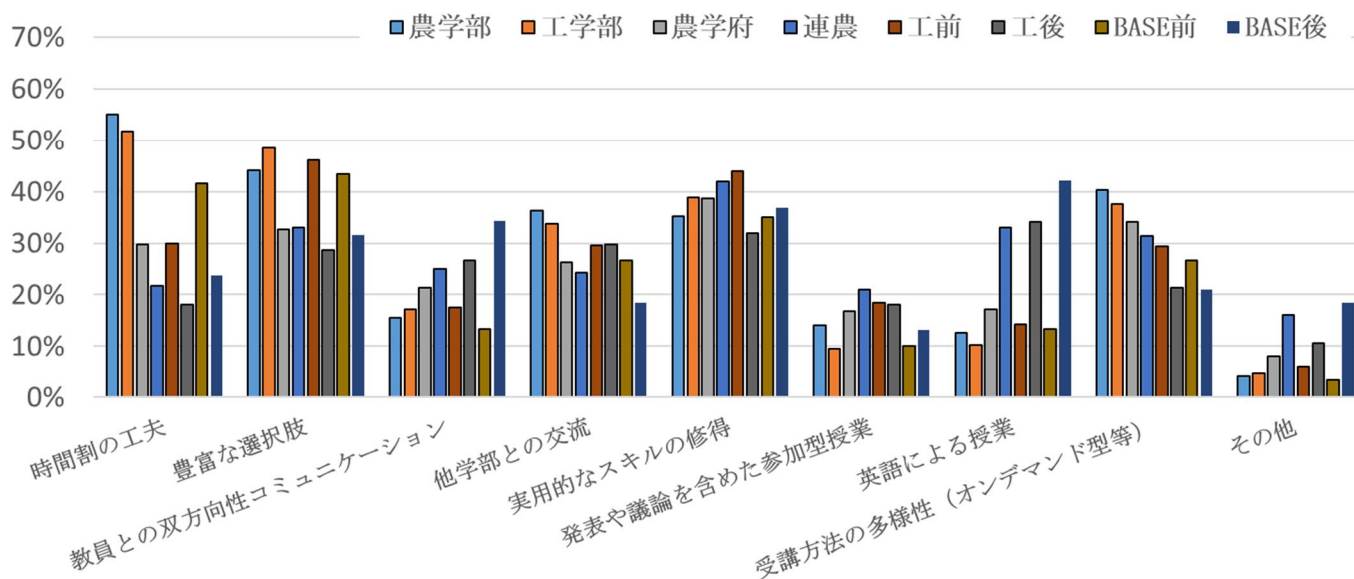
教養科目については、特に学部生から「時間割の工夫」に対する希望が強い。次いで「豊富な選択肢」「実用的なスキルの修得」「受講方法の多様性（オンデマンド型等）」が続いている。こうした状況を踏まえると、より柔軟な時間割や受講方法について検討する余地が残る。

一方、「教員との双方向性コミュニケーション」や「発表や議論を含めた参加型授業」、「英語による授業」への関心がそれほど高くない。アクティブラーニングの重要性が問われる今、学生に関心を持ってもらえる授業方法等の検討が必要である。なお、「英語による授業」については博士課程の学生からは突出して希望が多くなっている。研究者として国際学会等での活動の幅が広がっていることが推測される。こうした状況を踏まえると、大学院カリキュラムとして「英語による授業」の充実は必須であり、より一層の充実が求められる。

Q27-1. カリキュラムや授業への希望（学年別）



Q27-2. カリキュラムや授業への希望（部局別）



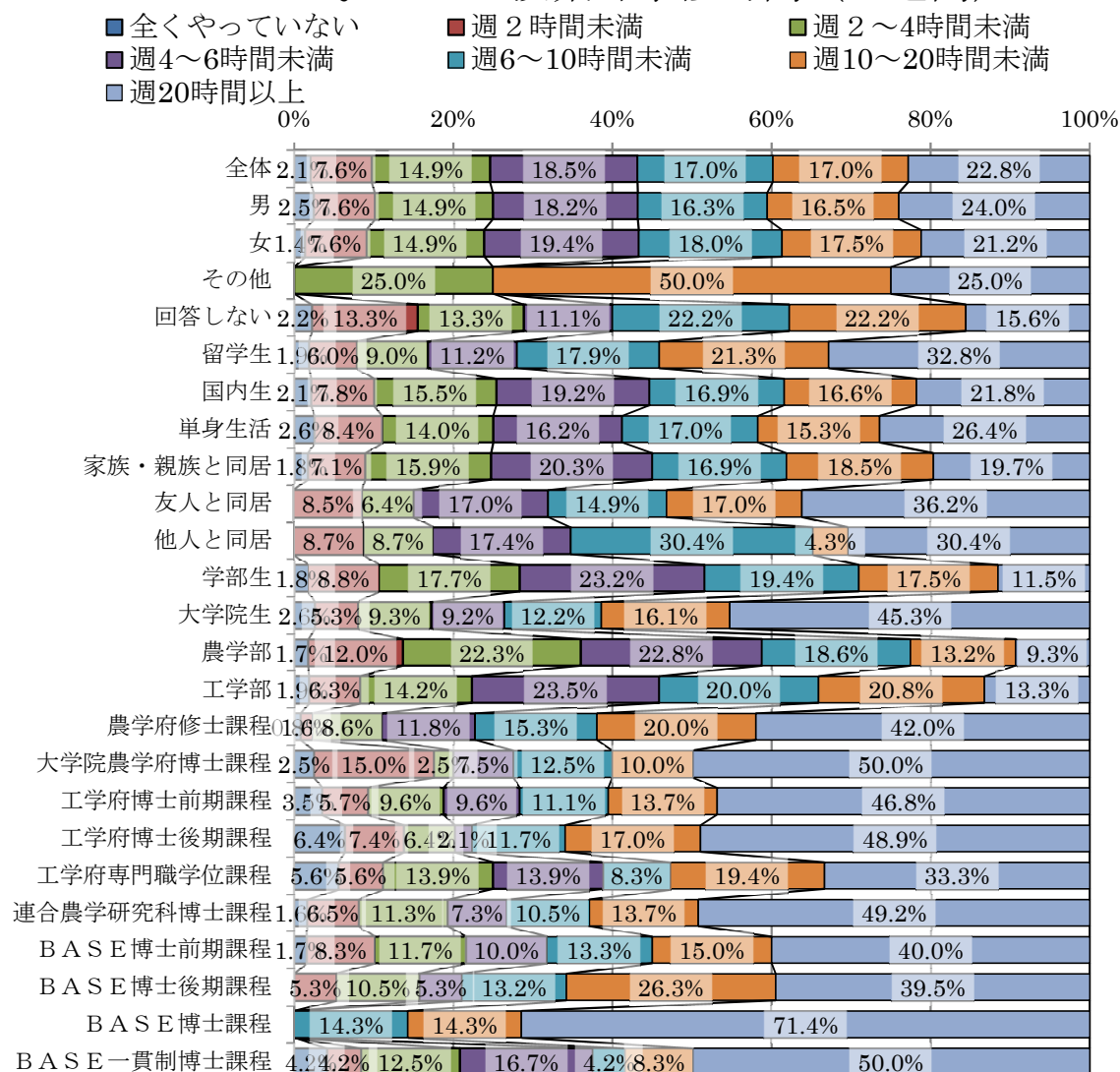
28. 一週間の平均授業外学修時間

「6-10 時間」「10-20 時間」「20 時間以上」を合わせると 56.8%となり、半数以上の学生が週 6 時間以上の学修時間を確保できていることが示された。特に週 20 時間以上の割合が 2 割以上と高い数値となっており、学生の勤勉さがうかがえる。男女による差は特に見られないが、国内生よりも留学生が、学部生よりも大学院生が、より長時間授業外学修に取り組む傾向がある。大学院では、課程ごとに授業外学修時間が大きく異なる傾向にあり、それぞれの分野の特性による学修スタイルの違いと考えられる。

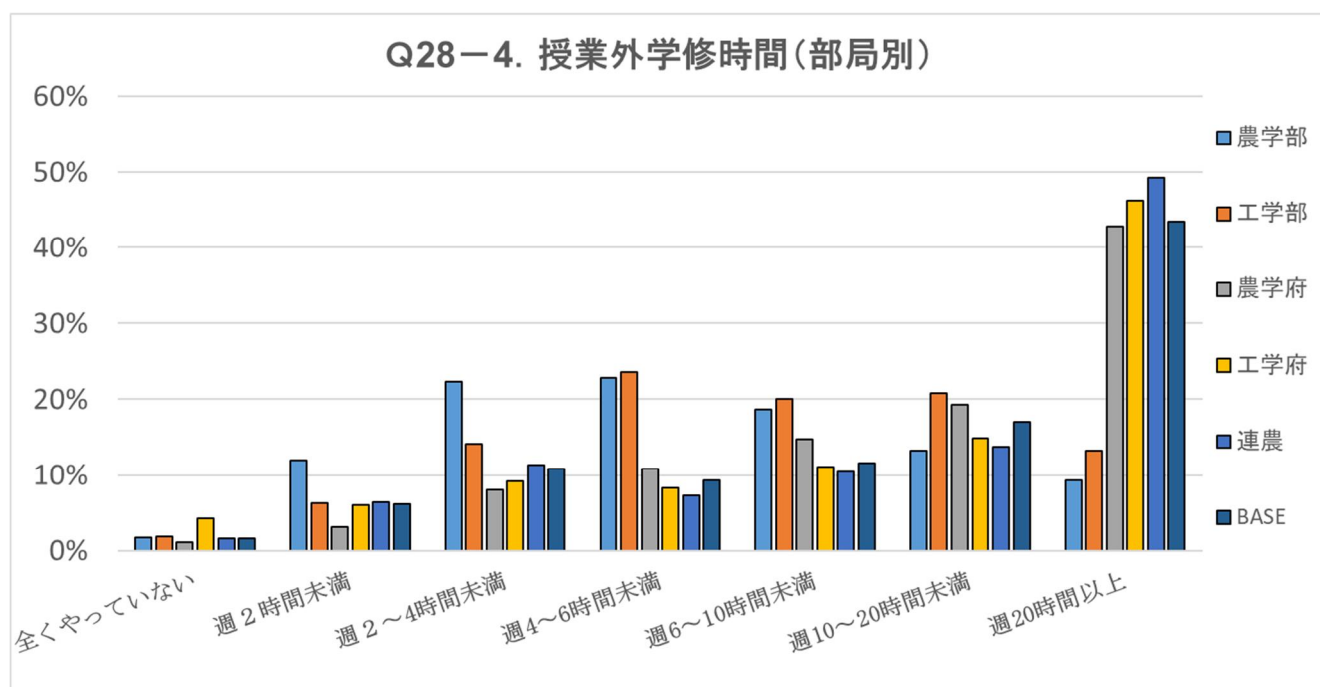
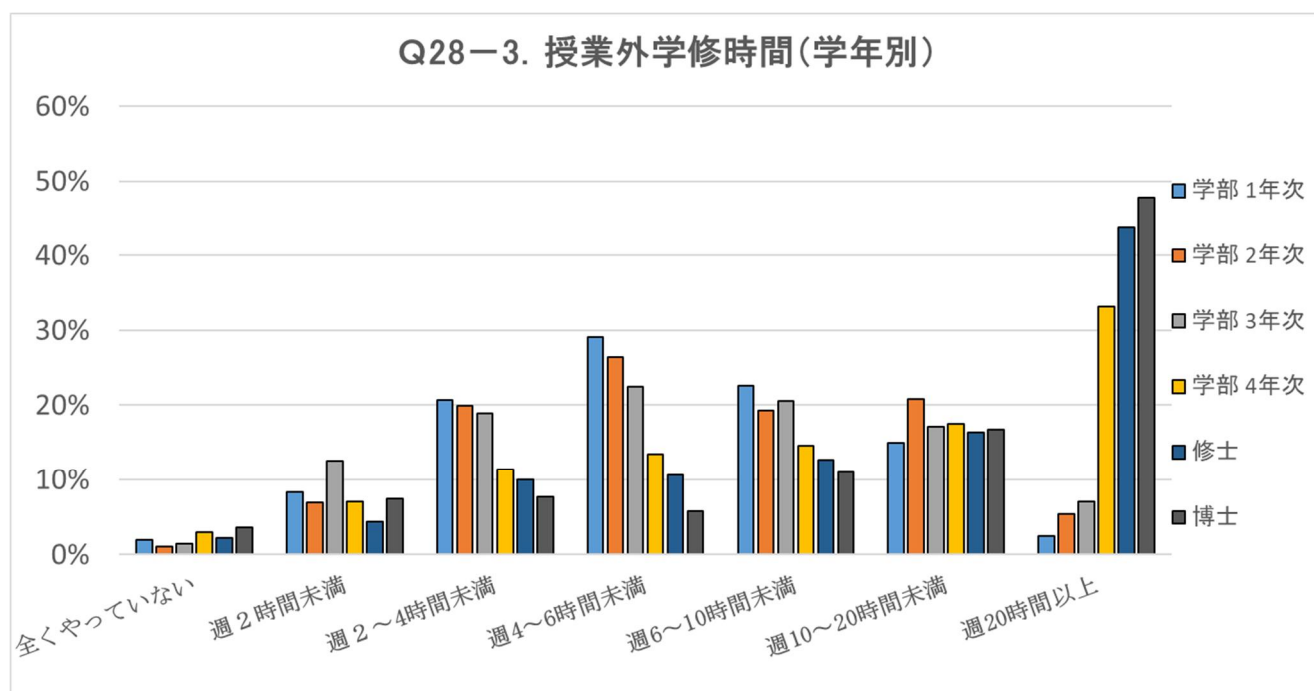
Q28-1. 授業外学修時間（一週間）

	0 時間	0-2 時間	2-6 時間	6-10 時間	10-20 時間	20 時間以上
第 5 回(H17)	8.2%	16.3%	32.0%	22.2%	11.5%	9.9%
第 6 回(H21)	8.6%	22.2%	34.3%	19.9%	8.7%	6.3%
第 7 回(H24)	6.1%	16.0%	31.2%	20.0%	13.4%	13.3%
第 8 回(H27)	4.8%	11.3%	32.5%	15.2%	13.0%	23.2%
第 9 回(H30)	5.3%	12.2%	32.8%	13.4%	12.7%	22.8%
第 10 回 (R3)	2.3%	6.9%	30.0%	17.9%	18.5%	24.4%
第 11 回 (R6)	2.1%	7.6%	33.4%	17.0%	17.0%	22.8%

Q28-2. 授業外学修時間（一週間）

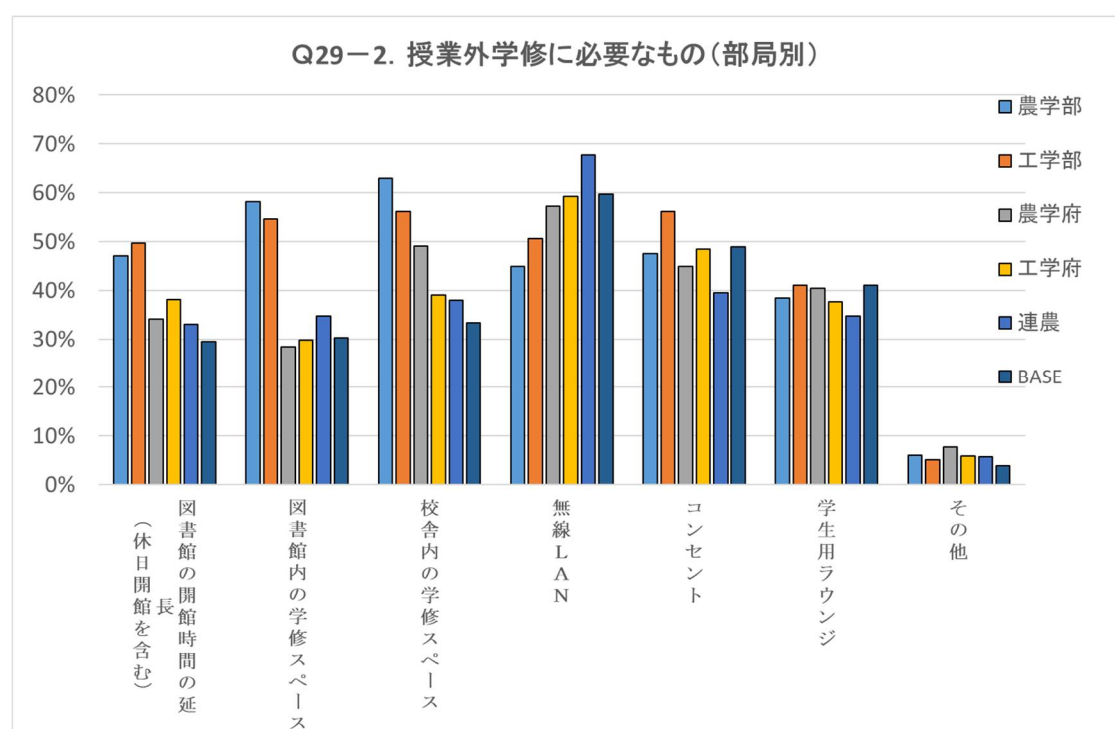
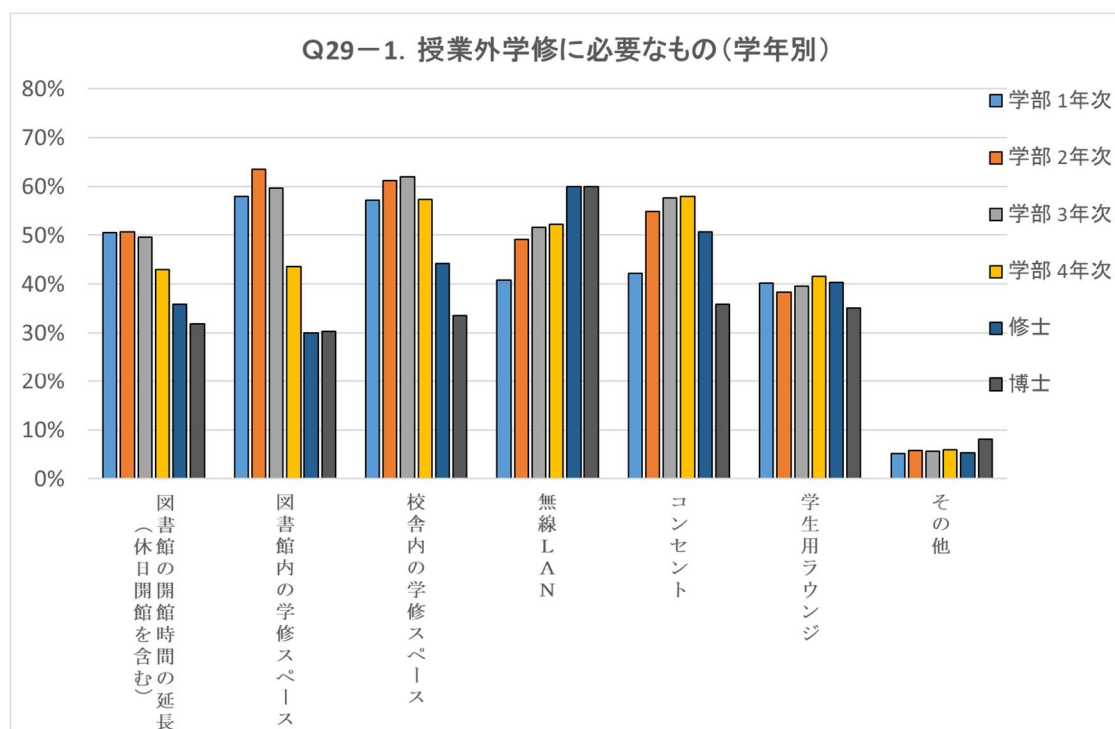


学部 4 年次、修士、博士では、授業外学修時間を 20 時間以上とする学生がそれぞれ 3 割強、4 割強、5 割弱となっているが、これは研究時間を含めていると考えられる。学部 1～2 年次において、週 4～6 時間未満が最も多く、次いで週 6～10 時間未満となっている。部局別に見ると、工学部生の方が、農学部生よりやや多めに授業外学修を行う傾向がある。大学院では、前述のように課程ごとに傾向の違いが見られたが、部局ごとに集計した場合は大きな差は見られない。



29. 授業時間外学修を行うのに必要な施設・設備や対策

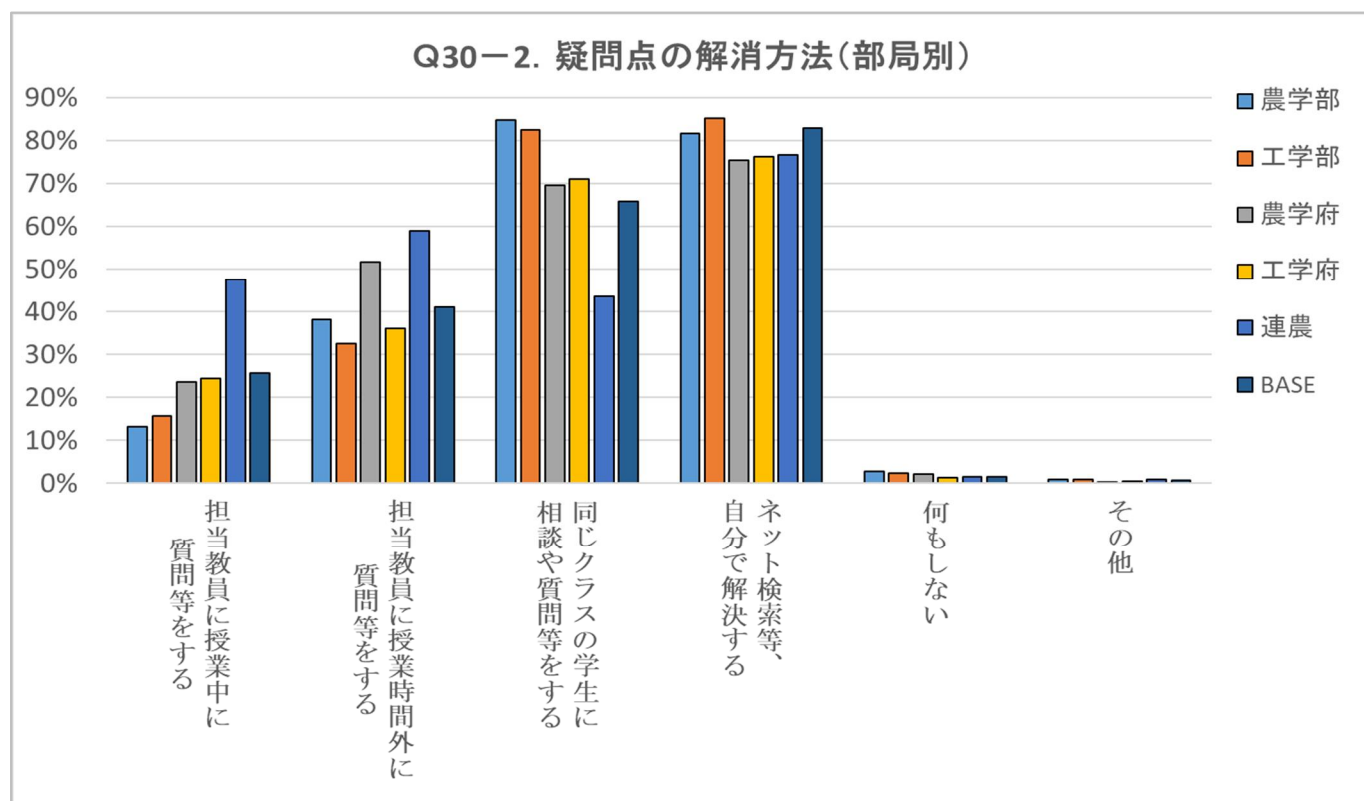
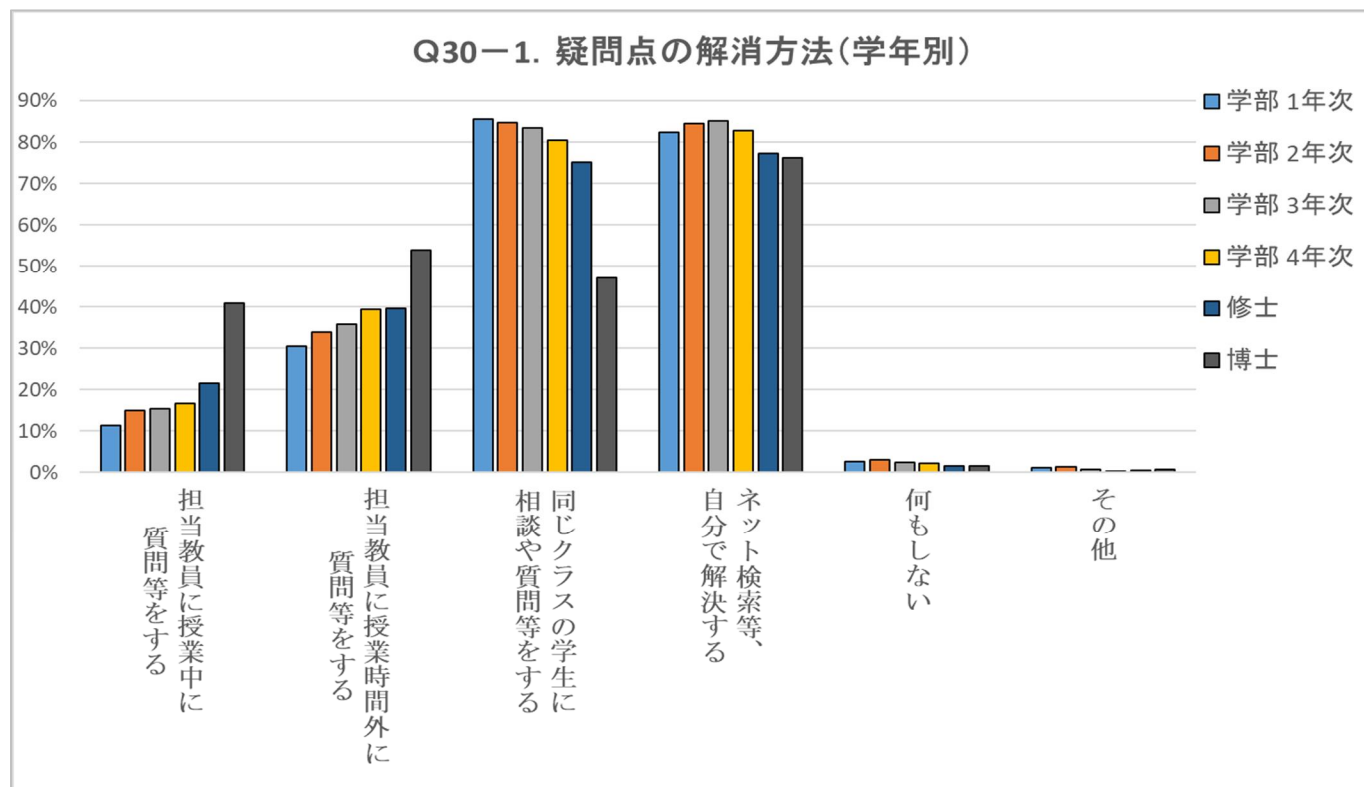
校舎内、図書館内の学修スペースについては、特に学部1年次～3年次からの需要が高い。研究室に学修スペースがあると思われる学部4年次や大学院の学生でも3～4割が必要と回答しており、授業外学修が可能となる環境整備が課題である。なお、部局別では、工学部よりも農学部の学生が、工学府よりも農学府の学生が、より多く学修スペースを希望しており、キャンパス間に差が認められる。両キャンパスでの改善が望まれるが、前項で「工学部の学生の方が、農学部の学生よりやや多めに授業外学修を行う傾向」が示唆されており、農学部生に授業外学修を促すためにも特に府中キャンパスにおいて授業外学修に取り組める環境を整備することが必要と考えられる。無線LANは、学年が進むほど需要が高まり、大学院生では60%が必要と回答しており、改善が急務である。



30. 授業における疑問についての対処方法

「クラスの学生に相談する」と「自分で解決する」学生がもっとも多い。授業内で教員に質問する学部生は10～20%程度、授業時間外に教員に質問する学部生は30～40%程度となっており、教員側はLMS等を活用し、質問ができる環境提供が課題となる。博士生は、「クラスの学生に相談する」学生の割合が少ない分、授業中または授業外担当教員に質問する学生が増える様子がみられる。

部局別で比較すると、授業内外で教員に質問する学生の割合が農学府、連農で高い。特に連農では、他部局と比較し、授業内外に担当教員に質問する学生が多く、学生と担当教員との距離の近さがうかがえる。

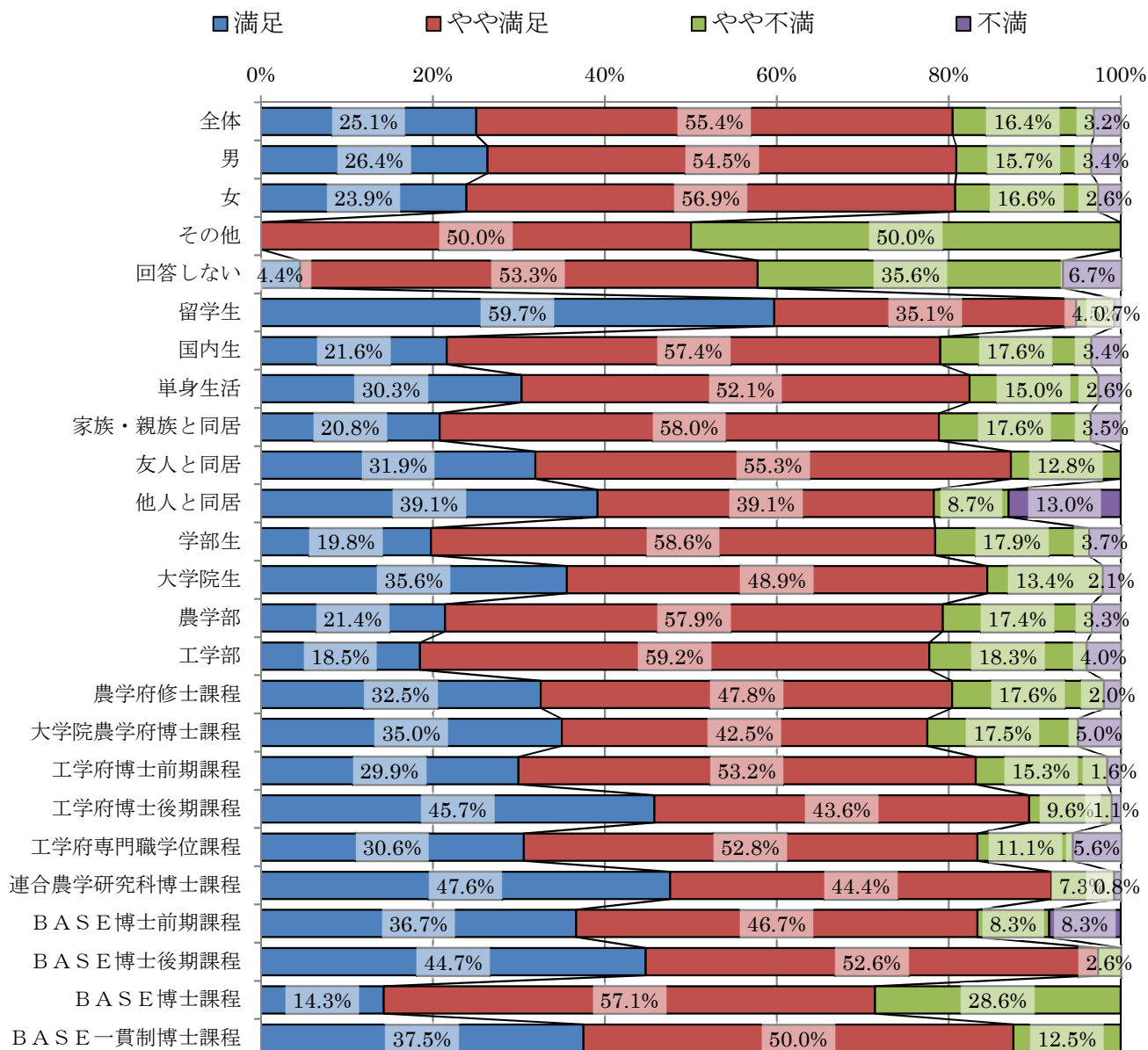


3 1. 講義室、実験室への満足度

全体では「満足」、「やや満足」と答えた学生が 80%を超えた。属性別でみると、留学生の満足度が 94.8%（「満足」＋「やや満足」）と極めて高い。一方で国内生の満足度は 79%（「満足」＋「やや満足」）となっており、その差が大きいことから、留学生と国内生とでは講義室や実験室に求める基準が大きく異なっていることがうかがえる。

また、工学部博士後期、連農、BASE 博士後期というように、博士生で満足度が高くなっている。

Q31-1. 設備への満足度(属性別)



Q 3 1－2. 設備への満足度の推移【％】

調査	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3	R6
良い	44.2										
満足している		38.9	41.4	63.7	69.6						
満足＋やや満足						80.6	75.7	70.1	68.2	85.2	80.4

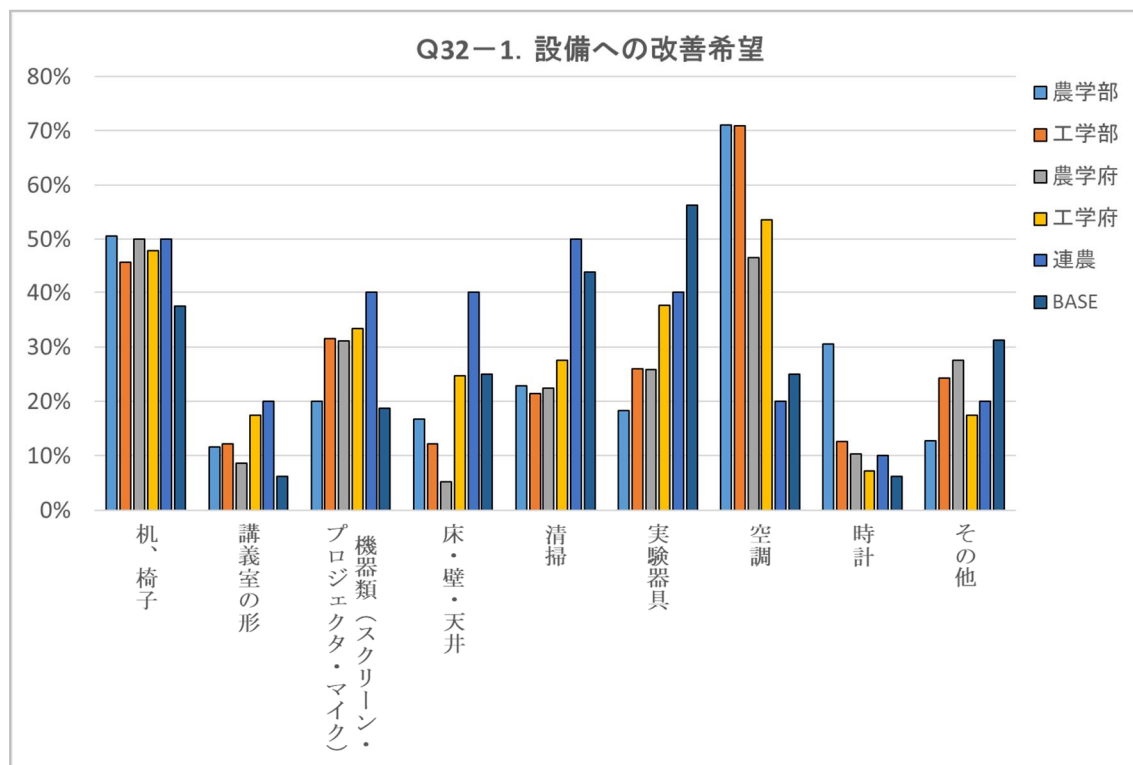
※選択肢は第 1 回は「良い」「良くない」「早急に改善を要する」の 3 択、第 2～5 回は「満足している」「満足していない」の 2 択、第 6～8 回は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の 4 択。

Q 3 1－3. 設備への満足度の推移（部局別）

満足＋やや満足(%)	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回
	H21	H24	H27	H30	R3	R6
農学部	70.9%	73.7%	73.3%	69.6%	86.3%	79.3%
工学部	82.6%	75.7%	67.2%	67.2%	83.9%	77.7%
農学府	73.8%	69.7%	69.0%	69.1%	84.8%	79.6%
工学府	87.7%	78.0%	72.8%	65.2%	86.3%	84.5%
BASE	90.3%	86.1%	75.0%	80.8%	89.9%	87.6%

3 2. 講義室、実験室への改善希望

学部生からの改善希望として「空調」が 70%と高くなっている。講義室の空調改善が急務である。また、机や椅子、実験器具についても 50%前後と比較的高くなっている。実験器具に関しては特に BASE で改善希望が高い。



33. 実験・実習における危険体験

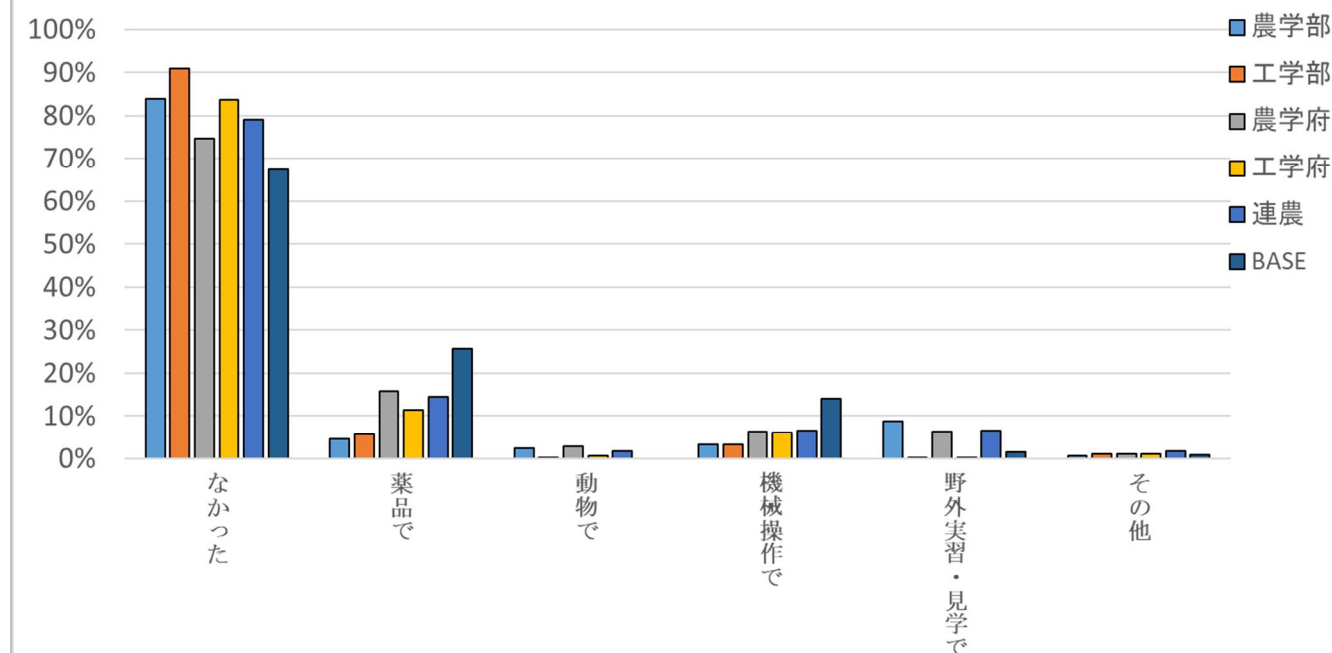
学部生および工学府については危機体験が「なかった」が80%を超えているものの、農学府で75%前後、連農が80%弱、BASEに至っては70%を切る状況となっており、特に大学院生で「危機体験」をした学生が増えていることが考えられる。危機体験の内容としては、「薬品」が最も多く、ついで「機械操作」となっている。

特に「薬品」と「機械」を取り扱う大学院生に対するさらなる安全指導が求められる。

Q33-1. 危険体験の有無の推移【%】

調査年度	第3回 H12	第4回 H15	第5回 H17	第6回 H21	第7回 H24	第8回 H27	第9回 H30	第10回 R3	第11回 R6
あった	20.9	11.6	12.5	9.0	7.3	19.6	19.3	17.3	18.8
なかった	79.1	88.4	87.5	91.0	92.7	80.4	80.7	85.1	84.6

Q33-2. 危険体験(部局別)



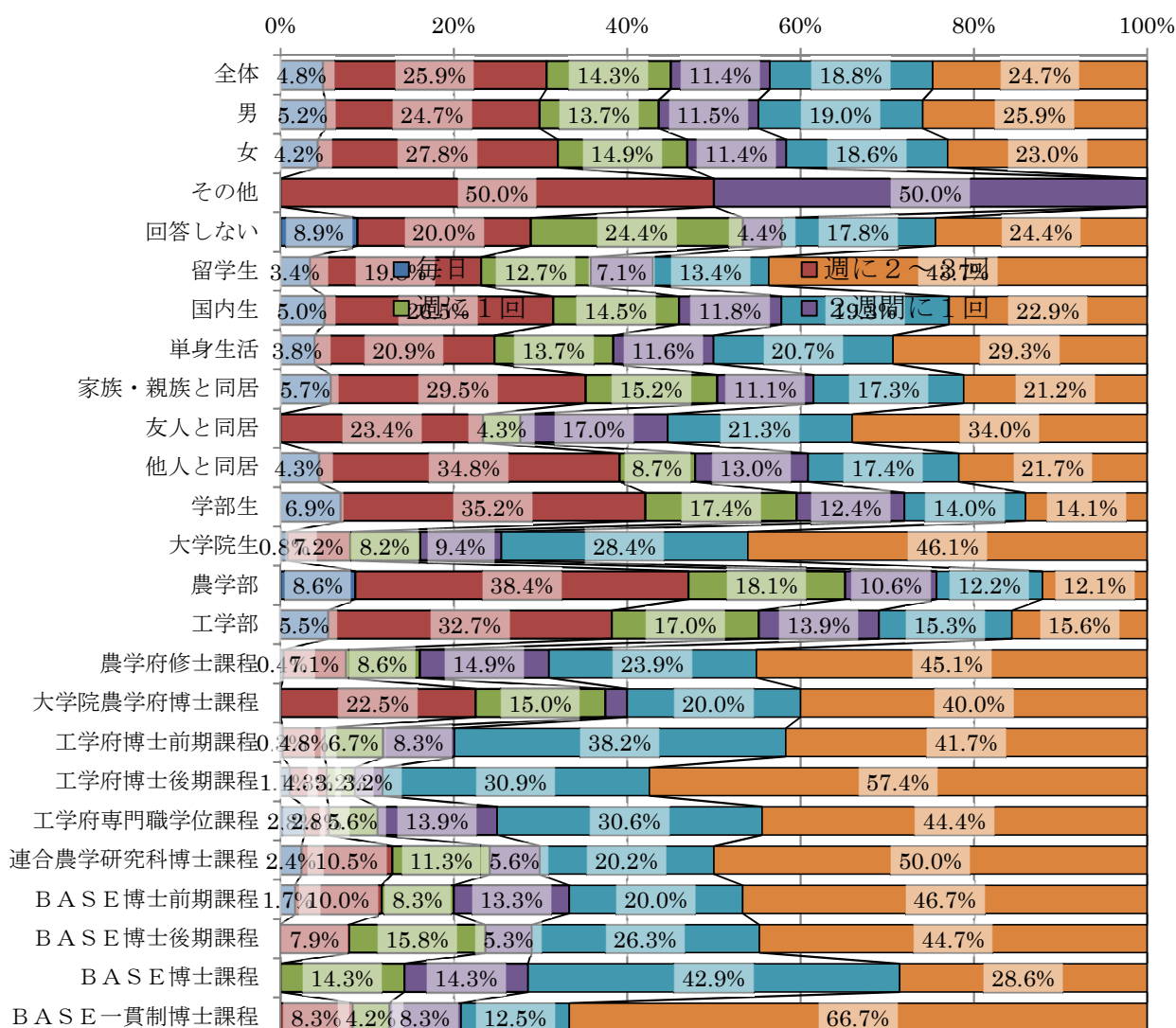
3 4 . 図書館の利用頻度

図書館の利用頻度は前回に比べて、増加し、コロナ前とほぼ同程度に戻った。「ほとんど利用しない」学生の割合が、前回調査の 43.1%から 24.7%と減少し、毎日利用する学生も、前回調査の 1.7%から 4.8%に増加した。属性別に比較すると、これまでと同様、学部生が大学院生よりも利用頻度が高い傾向がある。入構規制がなくなり、図書館の活用が従来に戻ったと考えられる。

Q 3 4 - 1 . 図書館の利用頻度の推移

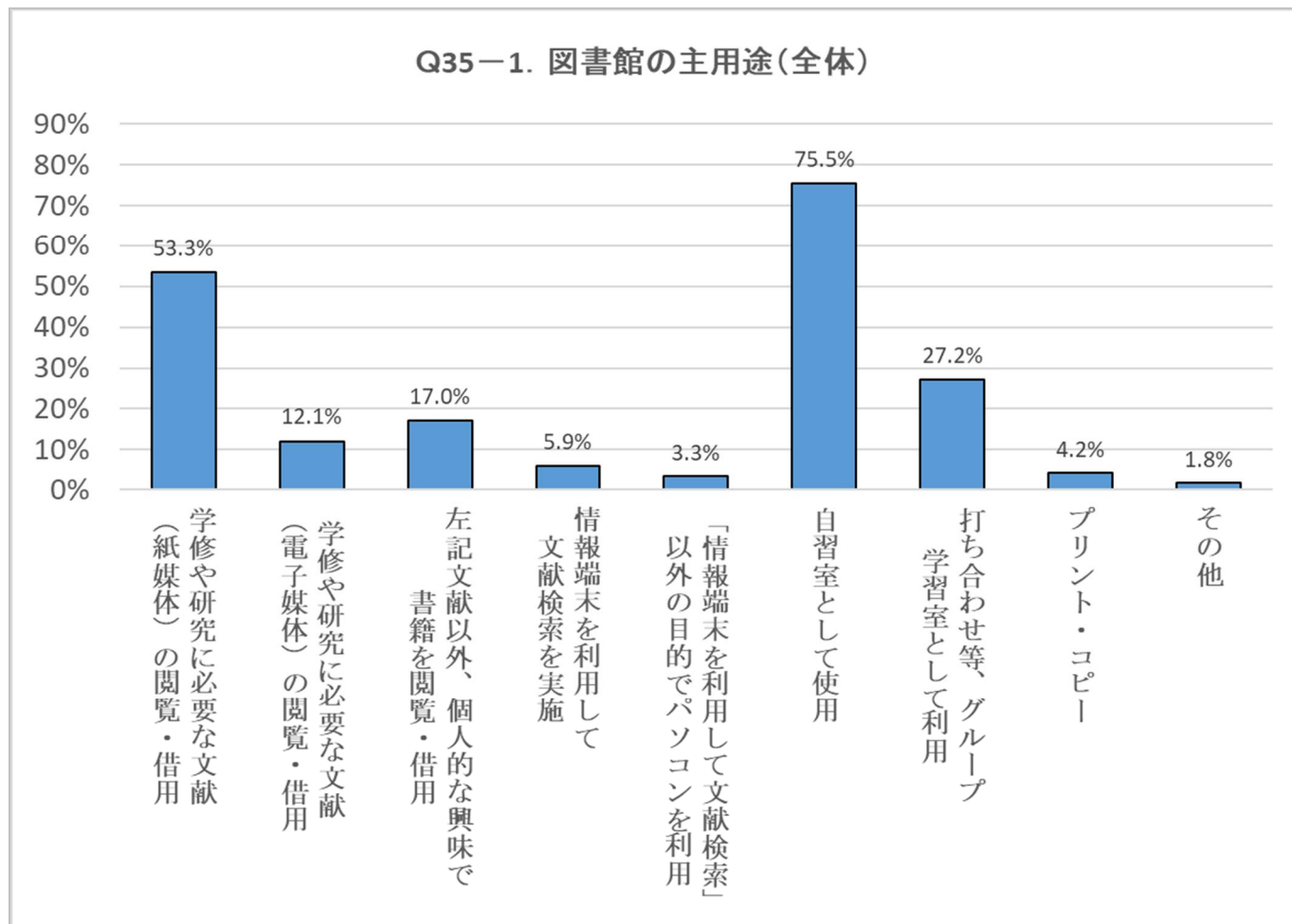
第 6 回 (H21)	よく利用する		ときどき利用する			全く利用しない
	34.5%		61.4%			4.1%
	毎日	週に 2～3 回	週に 1 回	2 週間に 1 回	月に 1 回	ほとんど利用しない
第 7 回 (H24)	6.5%	29.6%	17.7%	13.1%	19.1%	13.9%
第 8 回 (H27)	4.0%	22.8%	18.3%	13.2%	17.4%	24.1%
第 9 回 (H30)	5.5%	21.6%	15.2%	12.8%	17.5%	26.9%
第 10 回 (R3)	1.7%	13.0%	10.3%	10.8%	21.0%	43.1%
第 11 回 (R6)	4.8%	25.9%	14.3%	11.4%	18.8%	24.7%

Q34-2. 図書館の利用頻度(属性別)

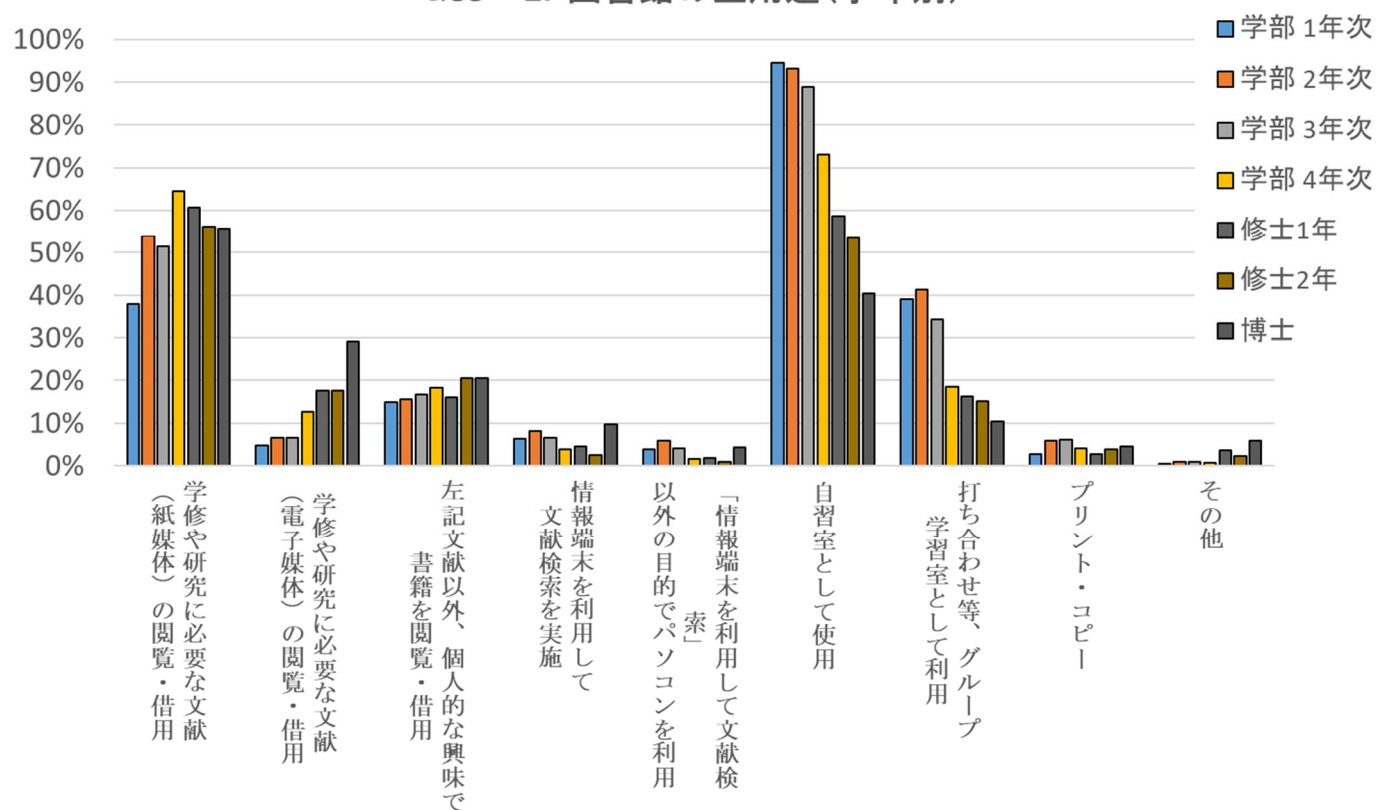


35. 図書館の主な用途

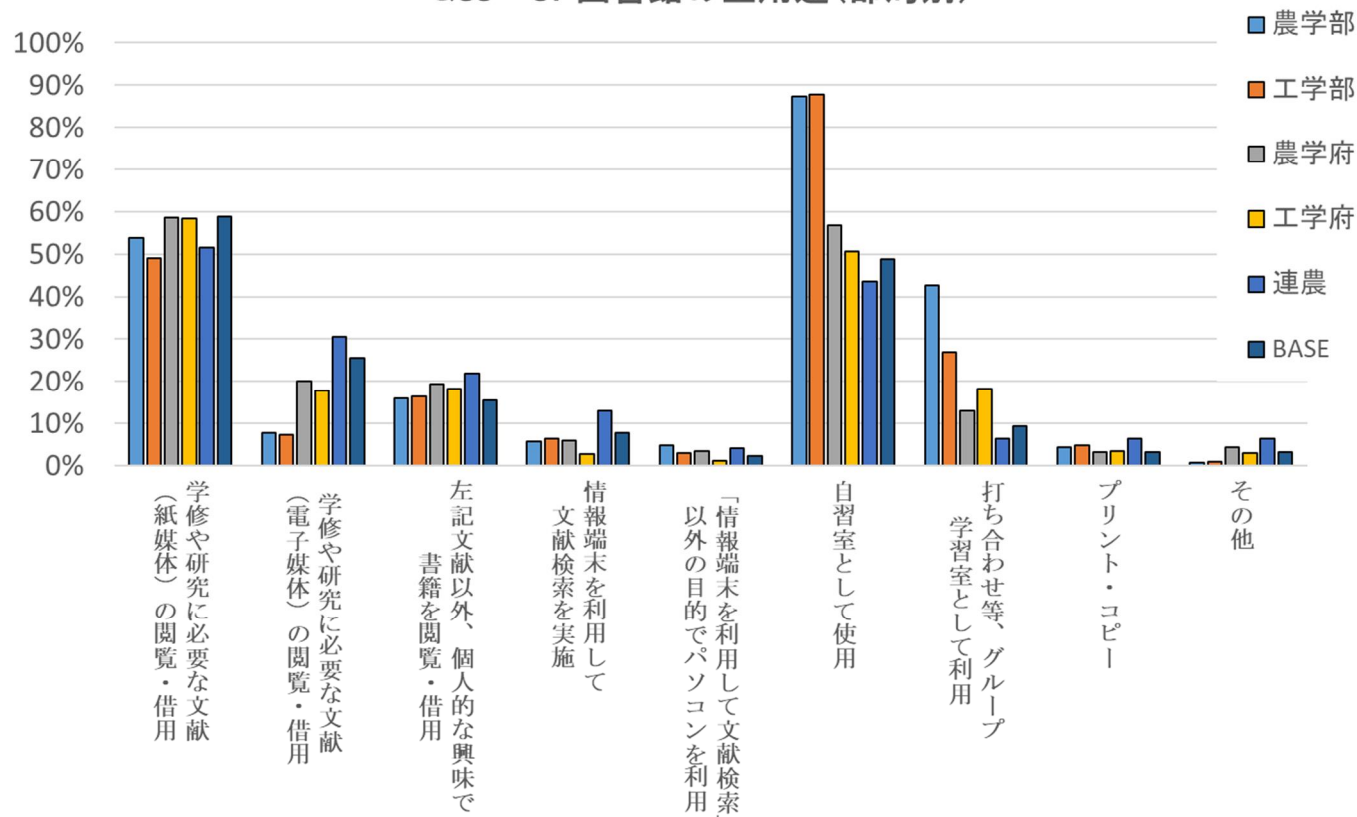
「学修や研究に必要な文献を閲覧・借用」の回答者の割合について、前回は 59.9%であったが今回は 53.3%と減少した。学年別のグラフを比較すると学部 1~3 年生で割合が低い。一方で、「自習室として使用」の回答者の割合は、前回 64.9%であったが今回 75.5%に増え、これは全学年で増加している。Q34 の調査結果と併せて考えると、文献の閲覧や借用の目的で図書館を利用する学生が減少しているものの、自習室として積極的に活用していることがうかがえる。



Q35-2. 図書館の主用途(学年別)



Q35-3. 図書館の主用途(部局別)



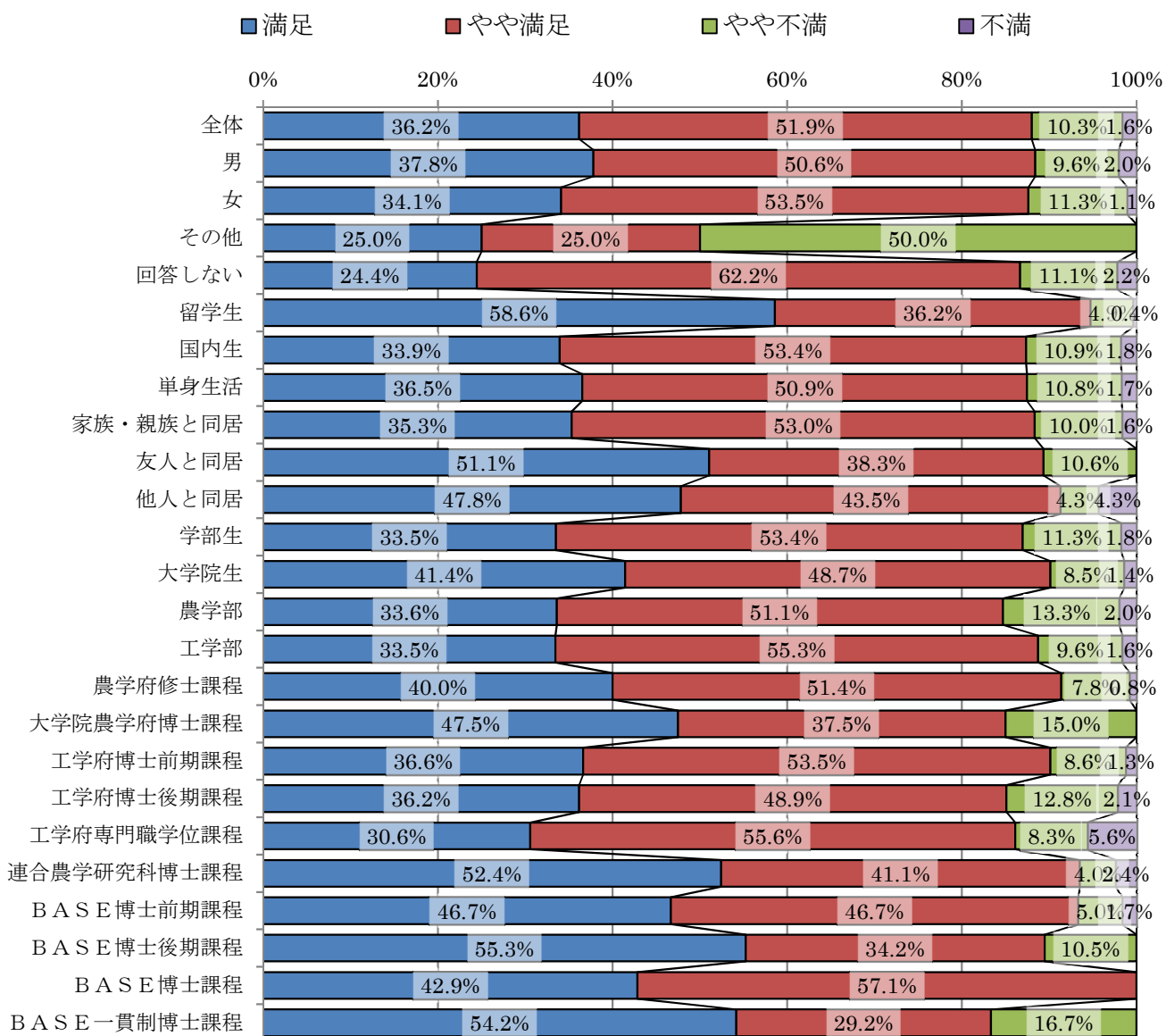
36. 図書館への満足度

「満足」と「やや満足」の回答者の割合は、今回 88.1%となり、前回とほぼ同程度の高い満足度となっている。属性別の満足度を確認しても特に大きな差異はなく全体的に高い満足度となっているが、府中キャンパス（農学部、農学府、連農）の方が、小金井キャンパス（工学部や工学府）よりも「やや不満」と「不満」とする回答者の割合がわずかに多い。

Q36-1. 図書館への満足度の推移【%】

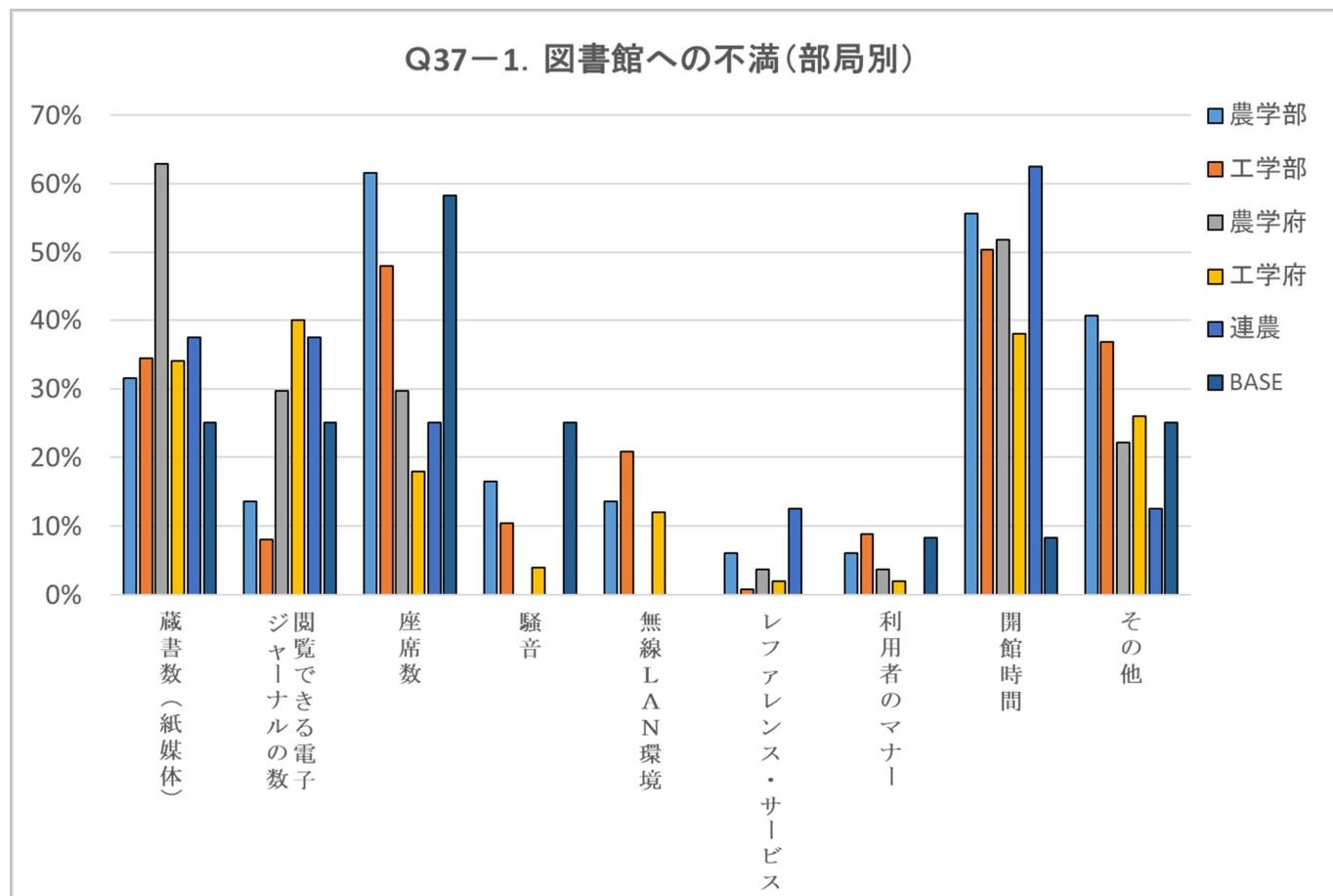
全体 (%)	満足	やや満足	やや不満	不満
第 6 回 (H21)	21.2	52.9	19.3	6.6
第 7 回 (H24)	24.3	47.5	20.3	7.8
第 8 回 (H27)	25.0	44.0	24.3	6.0
第 9 回 (H30)	27.3	45.6	21.2	5.0
第 10 回 (R3)	35.1	52.2	9.8	2.9
第 11 回 (R6)	36.2	51.9	10.3	1.6

Q36-2. 図書館への満足度（属性別）



37. 図書館への不満

不満の要因として、座席数、開館時間、蔵書数（紙媒体）、電子ジャーナルの数をあげる回答が多かった。座席数について農学部およびBASEの学生からの不満が顕著であった。自由記述を確認すると、開館時間の延長、土日の会館を希望する声が多く見られた。また、図書館内に給水スポット（ウォーターサーバー）を置いてほしいとの要望も複数あった。



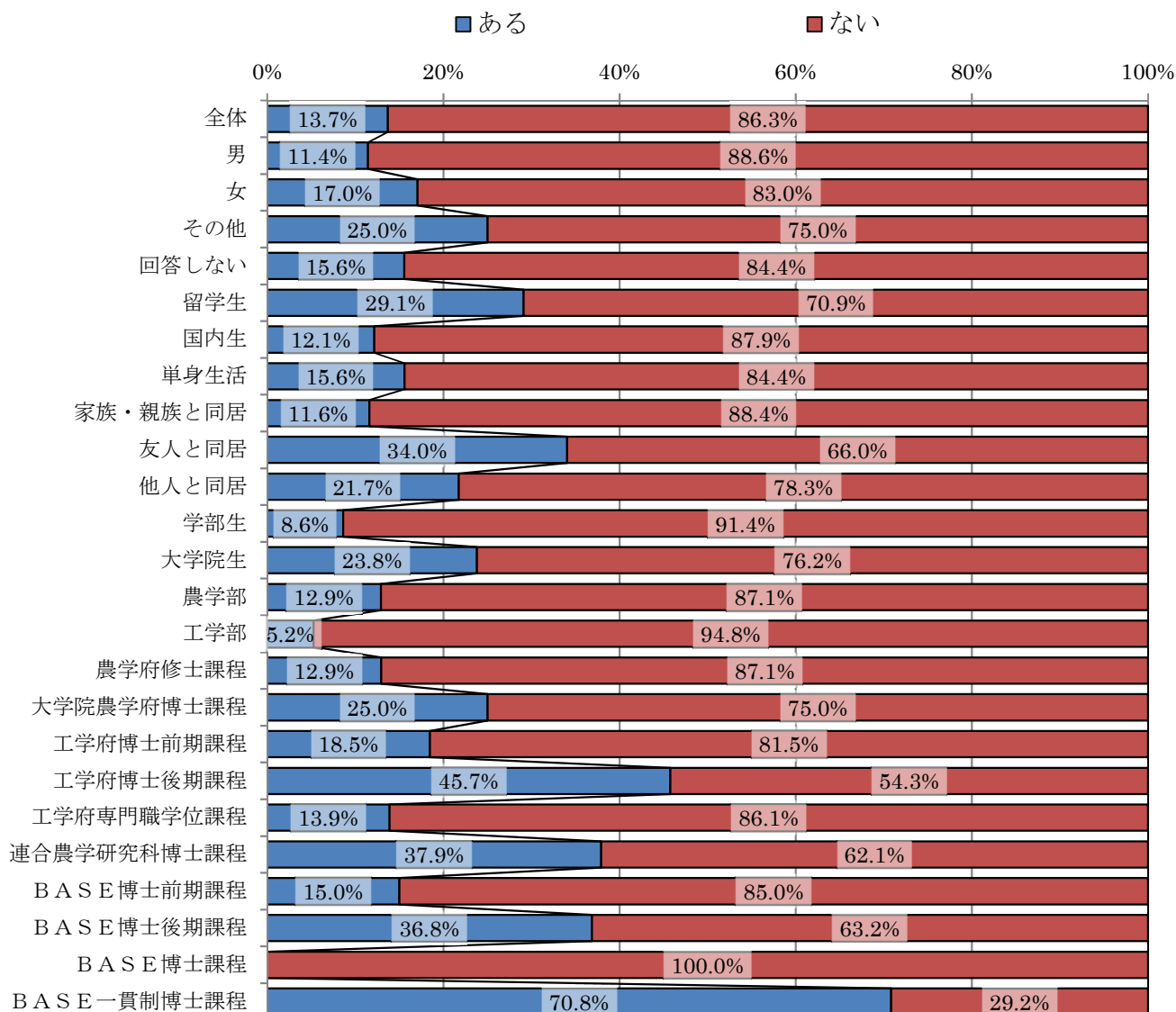
38. 在学中の海外活動経験

海外活動経験がある学生の割合は前回調査の際、10年前と同等の水準まで減少した。今回調査では、3%ほど戻ったものの依然減少傾向にある。特に学部生において著しく割合が低い。円安による渡航費の値上がりも影響していると考えられる。

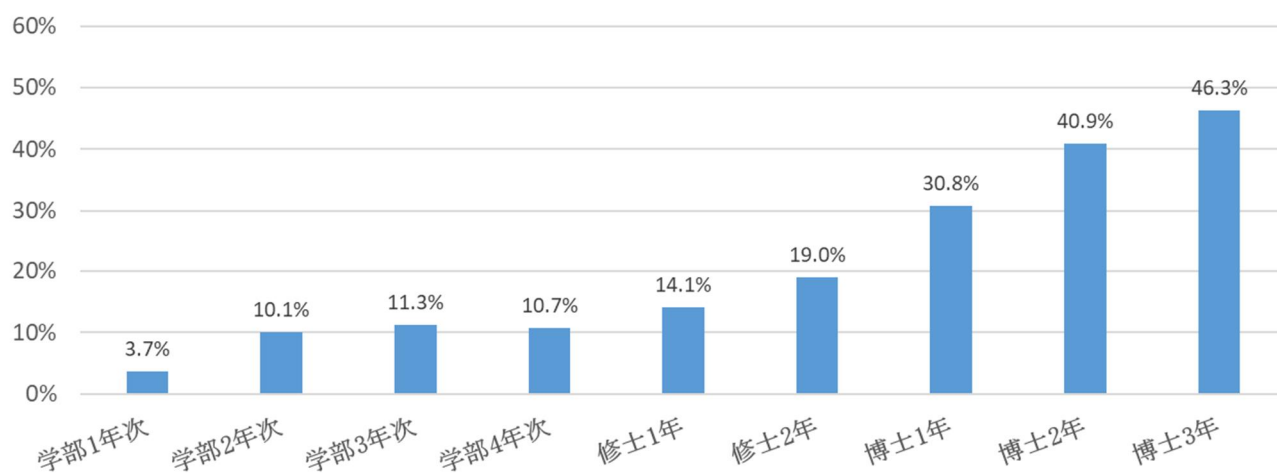
Q38-1. 海外経験の有無の推移【%】

全体 (%)	ある	ない
第6回 (H21)	8.2	91.8
第7回 (H24)	9.7	90.3
第8回 (H27)	15.0	82.3
第9回 (H30)	17.7	79.5
第10回 (R3)	10.6	89.4
第11回 (R6)	13.7	86.3

Q38-2. 海外経験の有無(属性別)



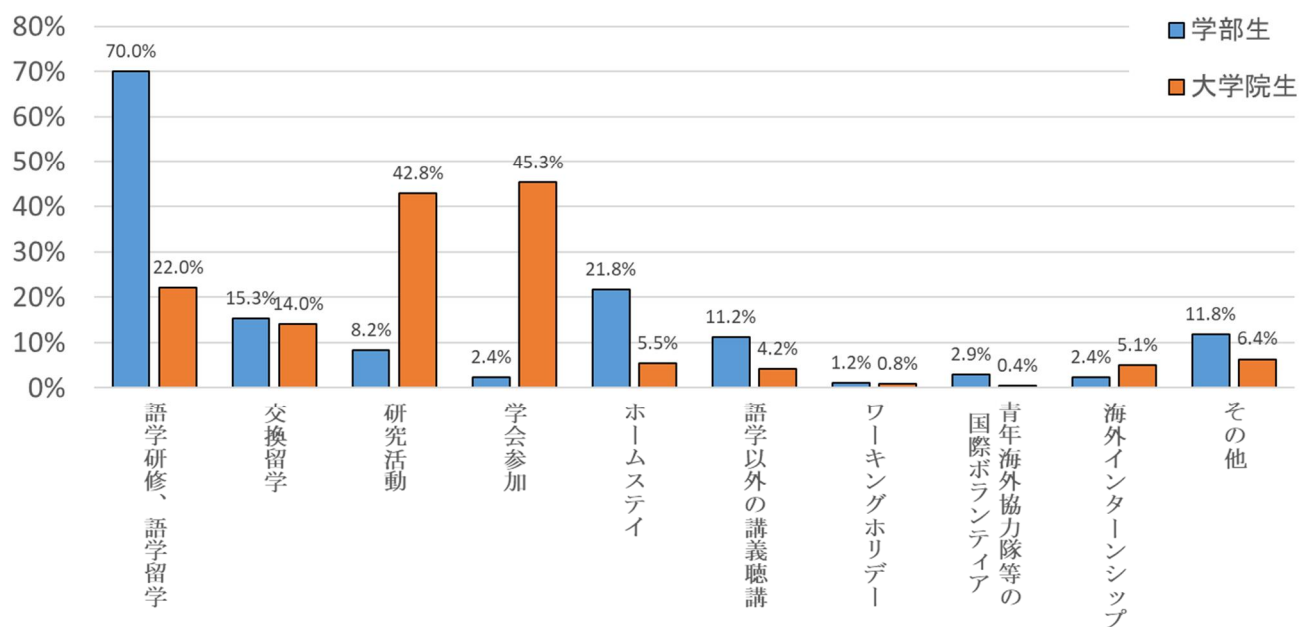
Q38－3. 海外経験の有無（経験あり：学年別）



39. 海外活動の内容

海外活動の内容は、前回とほぼ同様に学部学生が語学研修やホームステイであるのに対し、大学院生が研究活動・学会参加となっている。部局別にみると、学部では両学部の活動内容に大きな差はないが、大学院では、部局や課程によって海外活動の内容が異なる傾向が見られた。

Q39－1. 海外活動の内容（学部生／大学院生）



Q 3 9 - 2 . 海外活動の内容（属性別）

	語学研 修、語 学留学	交換留 学	研究活 動	学会参 加	ホーム ステイ	語学以 外の講 義聴講	ワーキ ングホ リデー	青年海 外協力 隊等の 国際ボ ランテ ィア	海外イ ンター ンシッ プ	その他
全体	42.1%	14.5%	28.3%	27.3%	12.3%	7.1%	1.0%	1.5%	3.9%	8.6%
男	31.9%	12.3%	30.9%	31.9%	10.8%	5.9%	1.0%	0.5%	2.5%	11.8%
女	52.6%	16.5%	26.3%	22.2%	14.4%	8.2%	1.0%	2.6%	5.2%	5.7%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答しない	57.1%	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%
留学生	9.0%	17.9%	43.6%	46.2%	9.0%	3.8%	2.6%	0.0%	9.0%	11.5%
国内生	50.0%	13.7%	24.7%	22.9%	13.1%	7.9%	0.6%	1.8%	2.7%	7.9%
単身生活	39.8%	17.8%	35.1%	27.7%	13.1%	5.2%	1.6%	2.1%	6.3%	6.8%
家族・親族と 同居	46.9%	12.9%	19.6%	23.2%	12.4%	9.3%	0.5%	1.0%	1.5%	10.8%
友人と同居	18.8%	0.0%	43.8%	62.5%	6.3%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	6.3%
他人と同居	20.0%	0.0%	60.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
学部生	70.0%	15.3%	8.2%	2.4%	21.8%	11.2%	1.2%	2.9%	2.4%	11.8%
大学院生	22.0%	14.0%	42.8%	45.3%	5.5%	4.2%	0.8%	0.4%	5.1%	6.4%
農学部	75.0%	17.9%	7.1%	0.0%	23.2%	16.1%	0.0%	3.6%	1.8%	12.5%
工学部	60.3%	10.3%	10.3%	6.9%	19.0%	1.7%	3.4%	1.7%	3.4%	10.3%
農学府修士課 程	33.3%	12.1%	39.4%	24.2%	12.1%	0.0%	0.0%	3.0%	3.0%	9.1%
大学院農学府 博士課程	0.0%	0.0%	60.0%	50.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%	20.0%
工学府博士前 期課程	29.3%	17.2%	31.0%	46.6%	5.2%	3.4%	0.0%	0.0%	3.4%	1.7%
工学府博士後 期課程	16.3%	14.0%	39.5%	69.8%	2.3%	4.7%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
工学府専門職 学位課程	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
連合農学研究 科博士課程	14.9%	17.0%	55.3%	46.8%	6.4%	4.3%	2.1%	0.0%	4.3%	10.6%
B A S E 博士 前期課程	44.4%	22.2%	11.1%	33.3%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
B A S E 博士 後期課程	14.3%	7.1%	71.4%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	7.1%
B A S E 博士 課程	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
B A S E 一貫 制博士課程	11.8%	11.8%	52.9%	29.4%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%

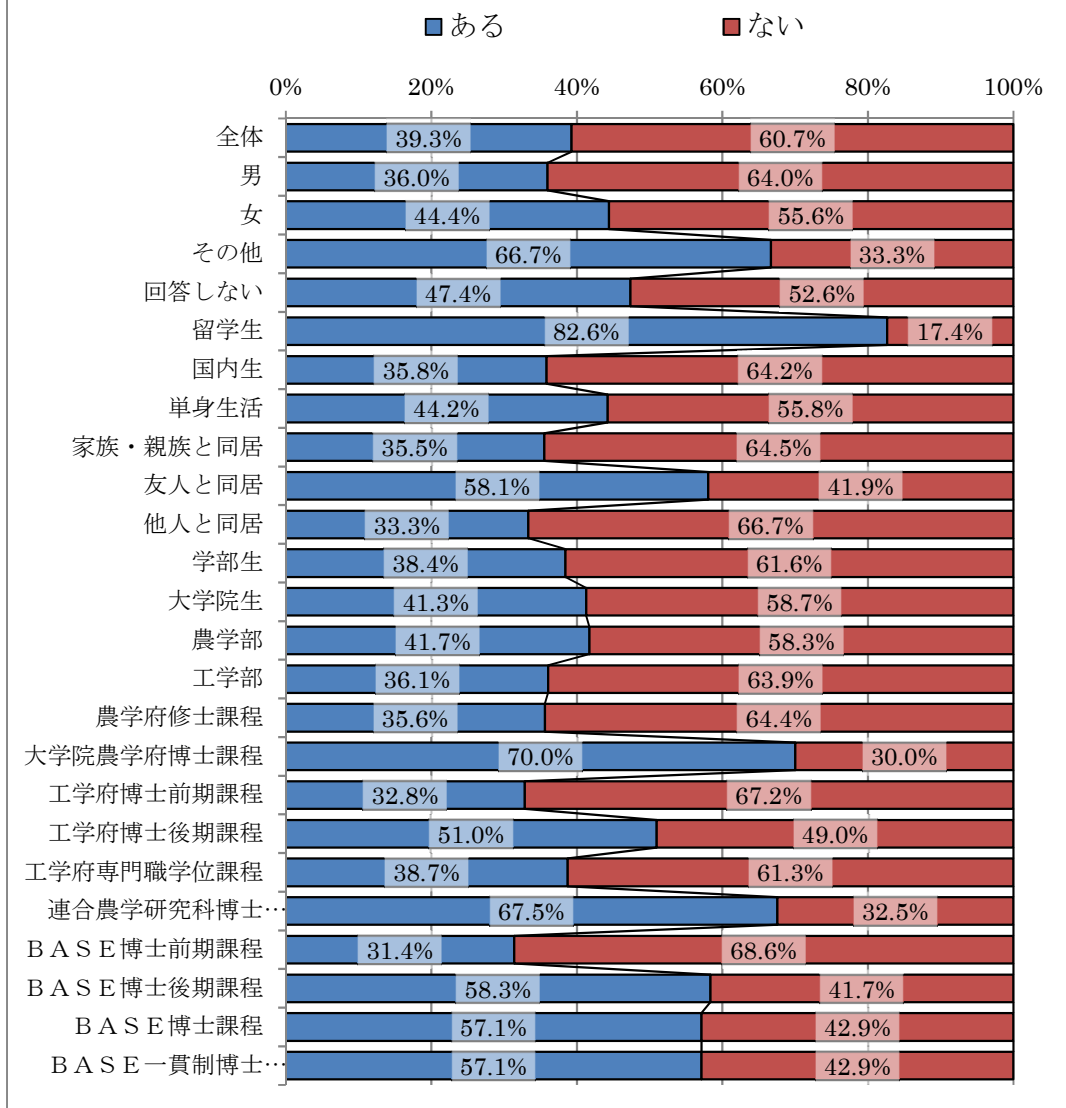
40. 海外での活動希望の有無

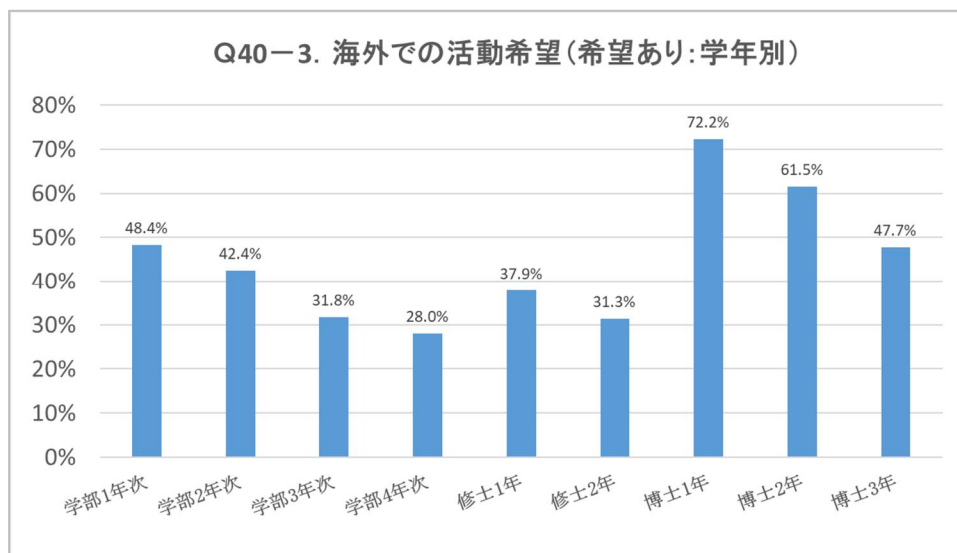
これまでに海外活動の経験がなく、これから希望する者の割合は前回の調査に比べてやや増加した。属性別にみると、学部1,2年生の希望者の割合は40%~50%あるものの、学部3,4年生になると減少する傾向がある。一方で、大学院生は博士課程1,2年生において6割を超えている。

Q40-1. 海外での活動希望の推移【%】

全体 (%)	ある	ない
第6回 (H21)	33.9	66.1
第7回 (H24)	42.7	57.3
第8回 (H27)	41.9	56.8
第9回 (H30)	42.8	55.6
第10回 (R3)	37.6	62.4
第11回 (R6)	39.3	60.7

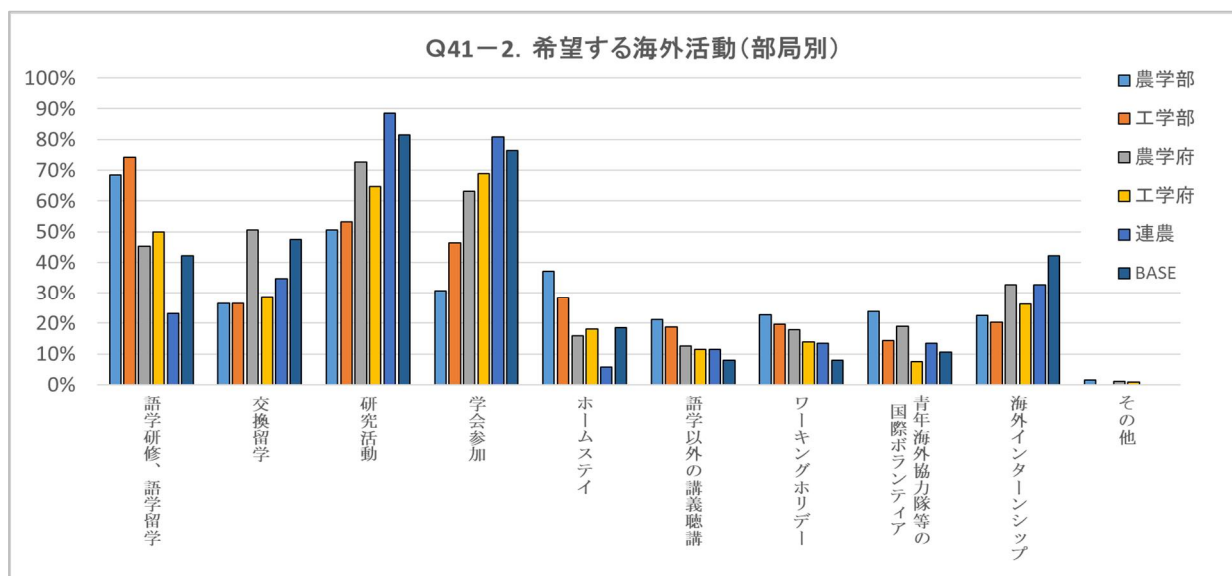
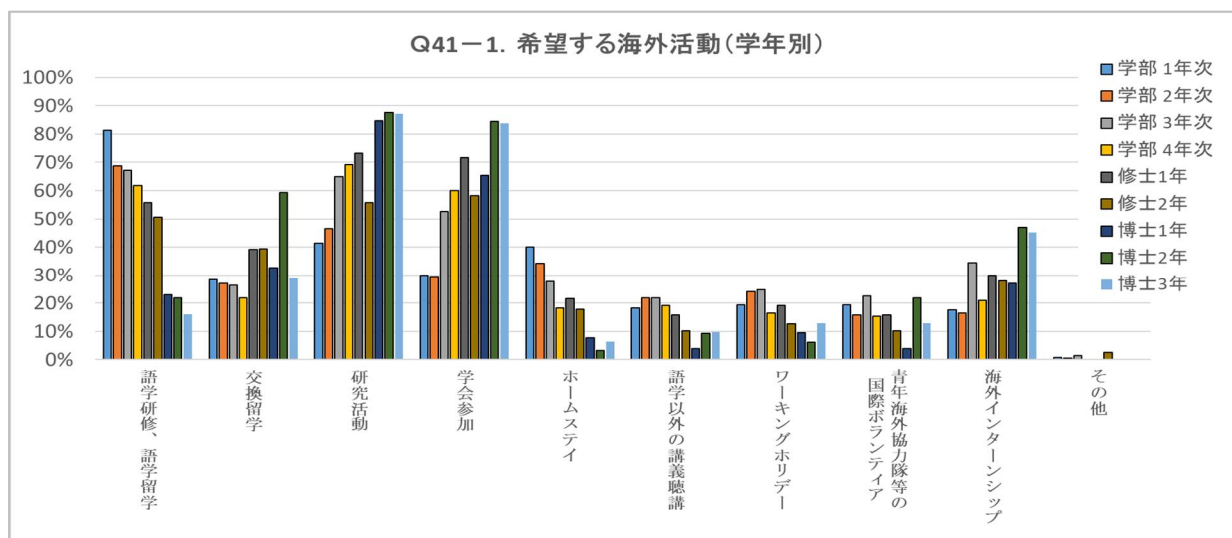
Q40-2. 海外での活動希望(属性別)





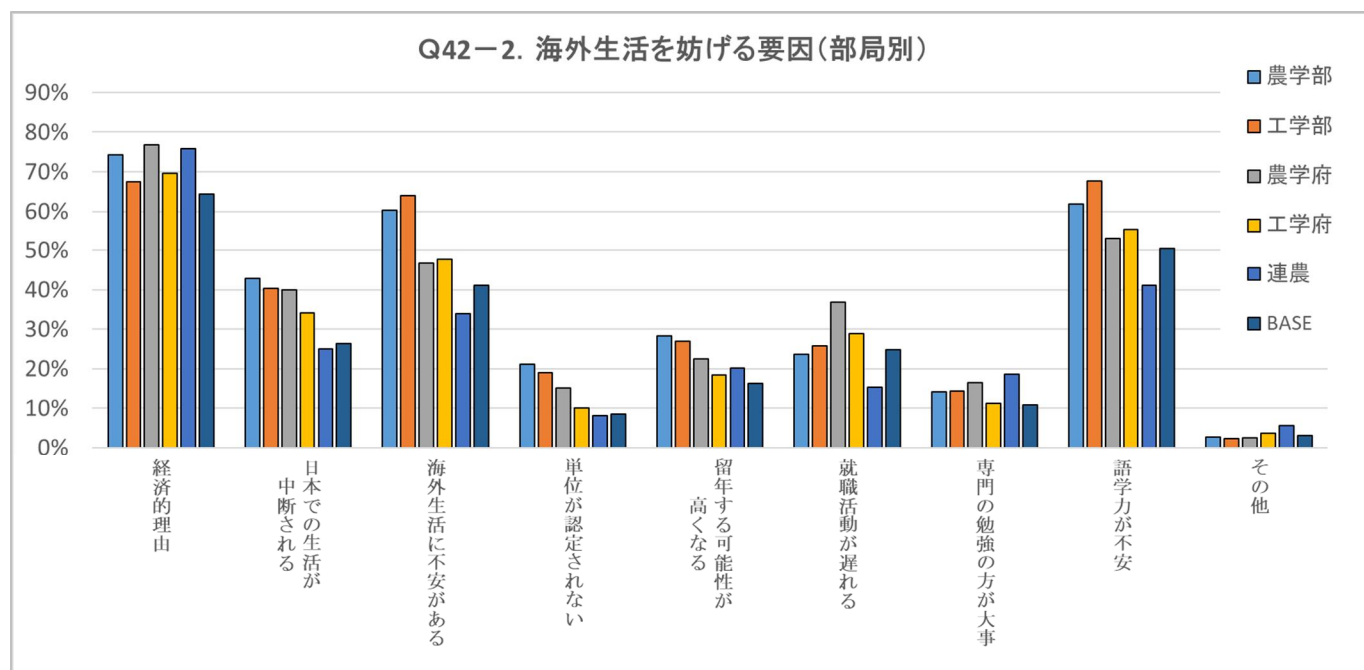
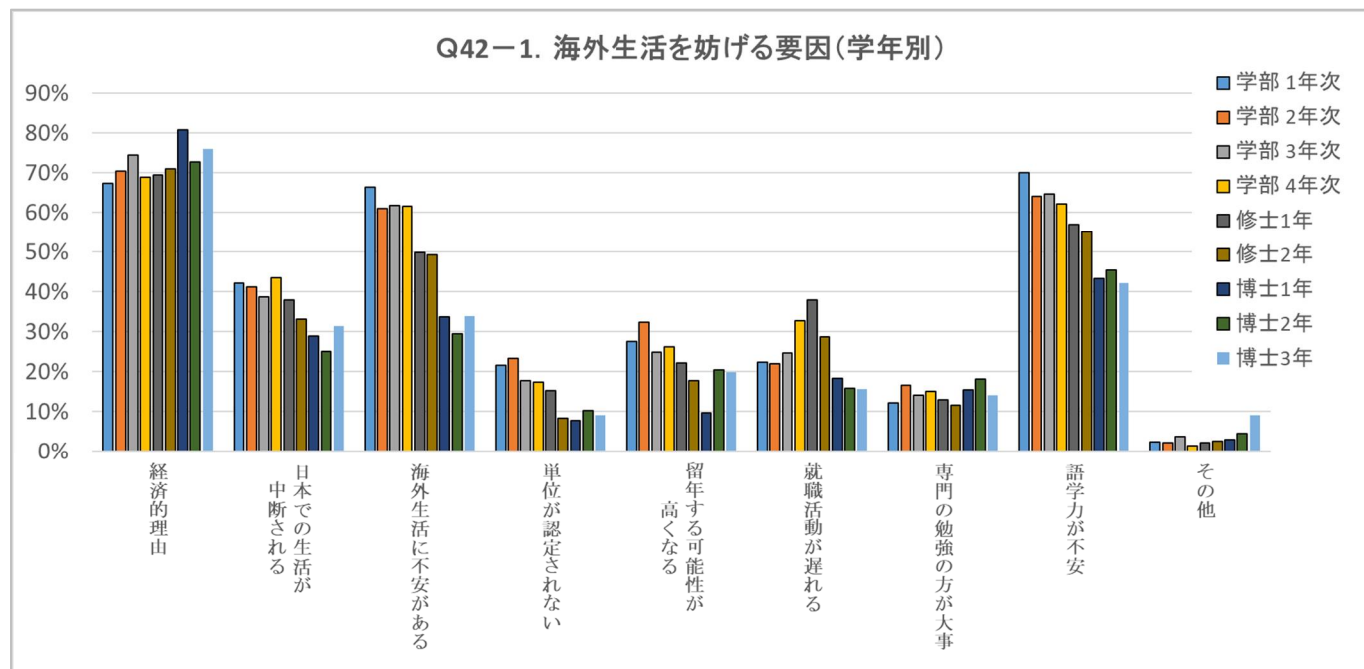
4 1. 希望する海外活動の内容

海外活動については、学部1、2年生は「語学研修」を、学部3、4年生は「語学研修」と「研究活動」を、大学院生は「研究活動」と「学会参加」を希望する学生が多い。部局別にみると、連農、BASEにおいて「研究活動」および「学会参加」の割合がいずれも7割を超えている。



4 2. 海外活動を妨げる要因

海外活動を妨げる要因として一番多い回答は「経済的理由」であり、海外活動に対しては経済的支援が依然必要であると考えられる。今回の調査では、学部生を中心に「海外生活に不安」と「語学力が不安」に回答する学生の割合が多かった。自由記述を確認すると、海外活動に対する関心の低さ、海外の社会情勢への不安、手続の煩雑さを挙げる記述もあった。

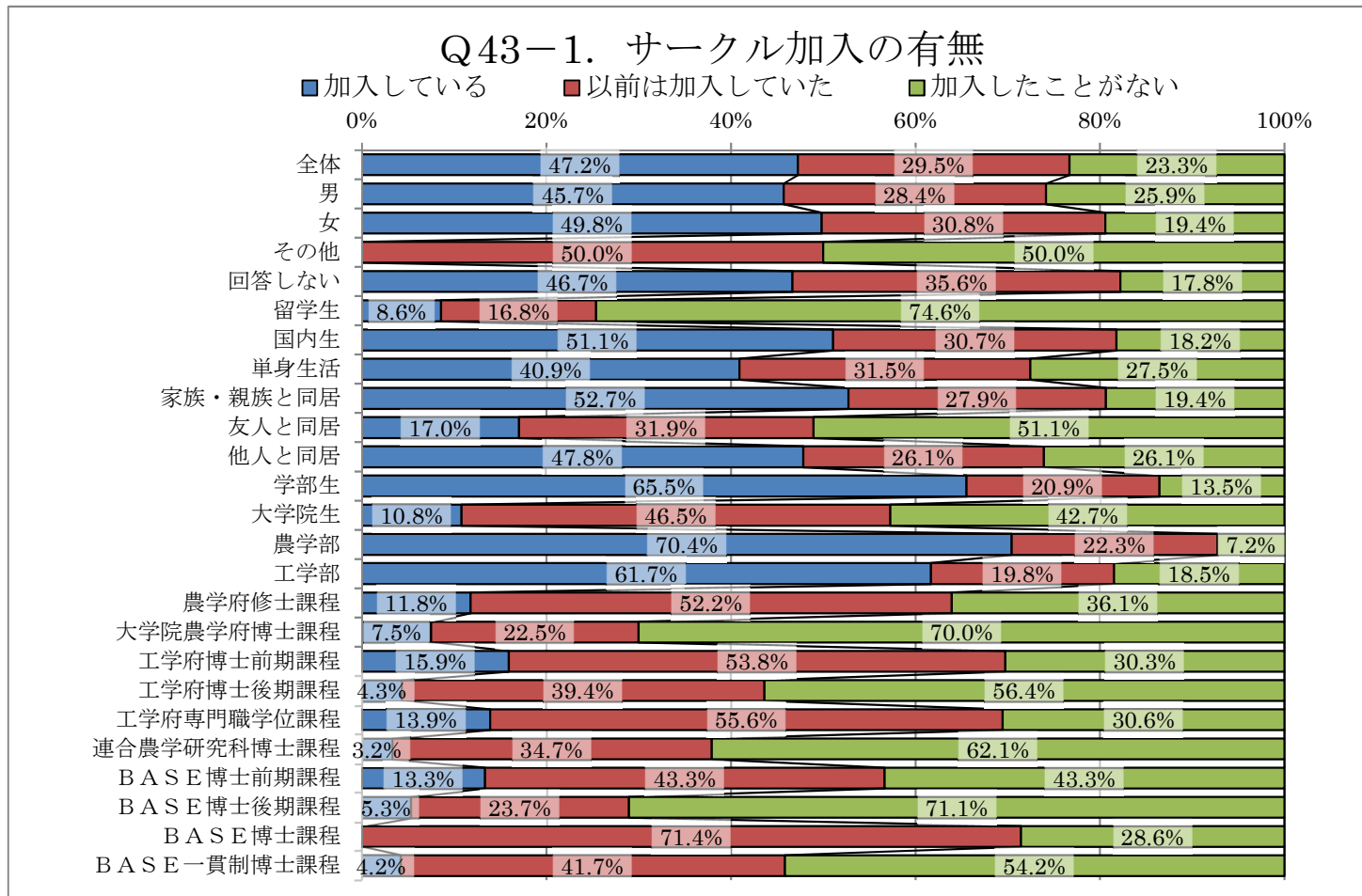


第Ⅵ章 課外活動

4.3. サークル加入の有無

サークルへの加入状況は、全体では、47.2%が「加入している」、29.5%が「以前加入していた」、23.3%が「加入したことがない」と答えている。学部別にみると、「加入している」と答えた割合は農学部が70.4%と工学部の61.7%より高く、逆に「加入したことがない」と答えた割合は工学部が18.5%で農学部の7.2%より高い。また男女別でみると、女子学生の方が「加入している」と答えた割合の49.8%が男子学生の45.7%より高く、課外活動への意欲がうかがえる。

これまでの調査を振り返ると、「加入している」と「以前加入していた」を合わせた数値が、第1回から第5回まではあまり変化が無く71～73%程度で、第6回には約80.0%、第7回には83.4%、第8回は84.9%、第9回では85.6%と年々増加していた。前回の第10回は新型コロナの感染拡大の影響で77.0%と8.6pt減少していたが、コロナが明けた今回の第11回の調査では、回復が期待された。しかし、予想に反して、前回とほぼ同水準の76.7%であった。その理由については別の調査が必要になるが、新型コロナの感染拡大により対面での対人関係が希薄になった期間が数年間続いたことにより、現在もその影響が続いている可能性がある。

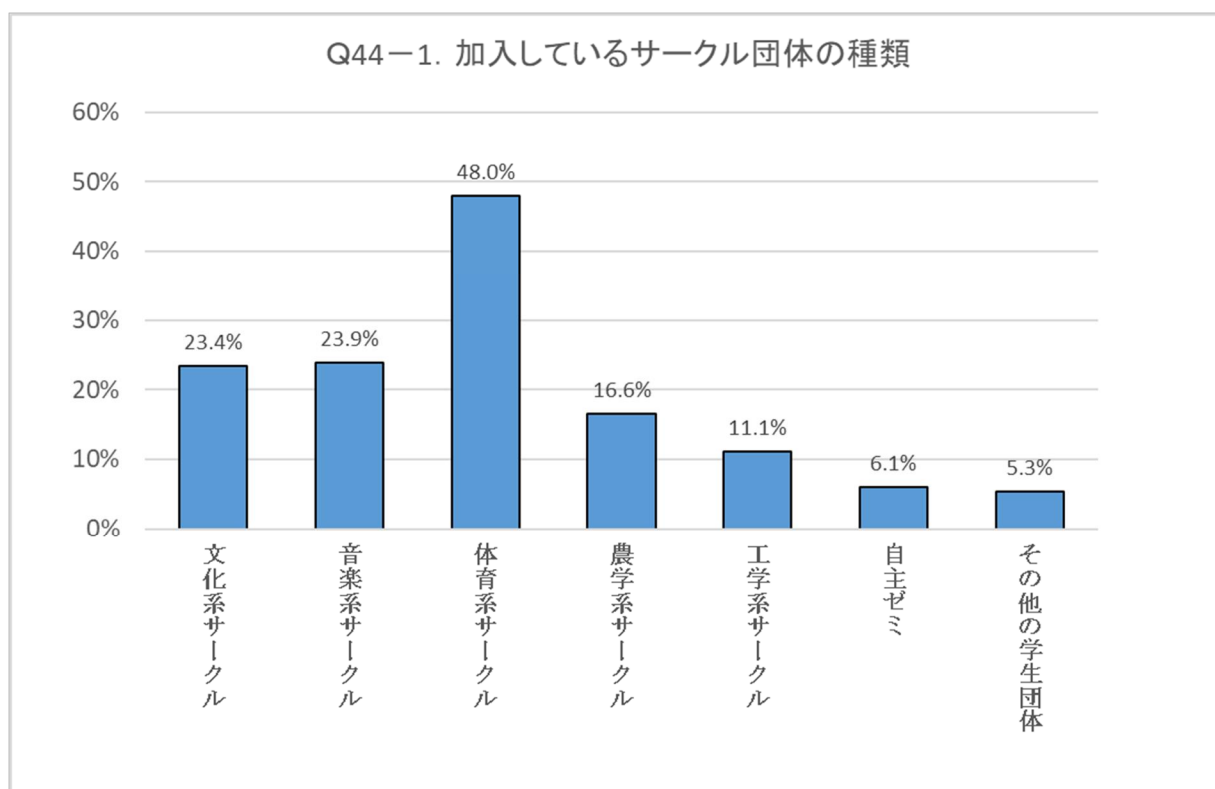


Q43-2. サークル加入の推移【%】

調査	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3	R6
加入している	49.0	50.4	48.3	43.1	44.7	51.0	55.9	52.8	49.6	42.3	47.2
加入していた	23.5	22.2	27.9	28.4	28.6	28.3	27.5	32.1	36.0	34.7	29.5
加入していない	27.4	27.4	23.8	28.5	26.7	20.7	16.6	14.8	13.9	23.0	23.3

4 4. 加入しているサークル団体の種類

加入しているサークル団体は、全体では、体育系サークル(48.0%)が約半数となり、以下、音楽系サークル(23.9%)、文科系サークル(23.4%)の順である。前回と比較して、体育系サークルが 2.5pt 減っている一方で、音楽系サークルは 2.1pt の増加、文科系サークルは 1.5pt 増えていた。また、前々回より、文科系、音楽系、体育系、農学系、工学系、自主ゼミ、その他の学生団体の区分で調査を実施しているが、農学系サークルと工学系サークルに加入している学生の割合がそれぞれ 16.6%と 11.1%であり、特に工学系サークルの数が大きく増えたのが特徴的である。



Q 4 4 - 2. 加入しているサークル団体の推移【%】

調査	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回
年度	H6	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3	R6
文科系サークル	18.8	22.5	24.3	20.0	23.6	25.1	24.9	19.7	20.4	21.9	23.4
音楽系サークル	13.4	14.0	14.3	15.1	17.5	19.1	19.0	24.8	23.7	21.8	23.9
体育系サークル	62.7	53.9	51.3	52.8	54.8	51.6	50.7	55.3	56.4	50.5	48.0
2 つ以上	5.1	9.6	10.1	12.1	---	---	---	---	---	---	---
その他	---	---	---	---	4.1	4.2	5.4	---	---	---	---
農学系	---	---	---	---	---	---	---	7.6	10.8	14.2	16.6
工学系	---	---	---	---	---	---	---	6.3	7.6	6.8	11.1
自主ゼミ	---	---	---	---	---	---	---	5.3	5.0	9.1	6.1
その他の学生団体	---	---	---	---	---	---	---	4.5	4.2	4.6	5.3

第 1 回～第 4 回は、文科系、音楽系、体育系、2 つ以上の区分で調査を実施。

第 5 回以降は、文科系、音楽系、体育系、その他の区分で調査を実施。

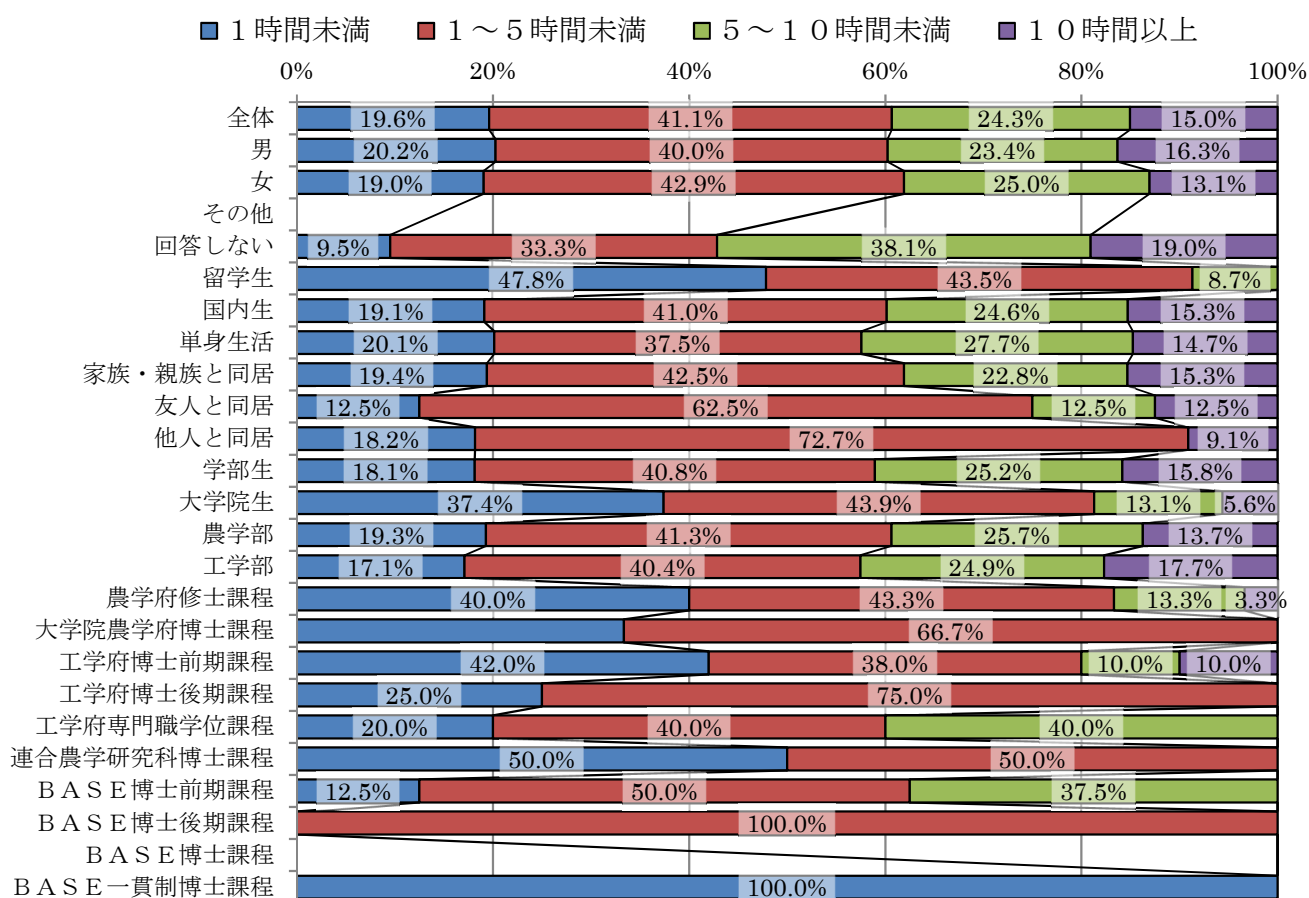
第 8 回より、文科系、音楽系、体育系、農学系、工学系、自主ゼミ、その他の学生団体の区分で調査を実施。

4 5. 一週間の平均活動時間

全体では、「1 時間～5 時間未満」(41.1%)が最も多く、ついで「5 時間～10 時間未満」(24.3%)であり、「1 時間未満」(19.6%)の者よりも「5 時間～10 時間未満」の者が多くなっているのが今回の特徴であり、傾向としては第 9 回より前の状態に近づいている。男子学生と女子学生を比較すると、男子学生、女子学生ともに「1 時間～5 時間未満」(男 40.0%、女 42.9%)が最も多く、「5 時間～10 時間未満」の割合も増加していることから、男女にかかわらず全体的に活動時間が短くなっていることがうかがえる。

なお、学部生では、「1 時間～5 時間未満」(40.8%)、「5 時間～10 時間未満」(25.2%)という順番になっているが、大学院生では、「1 時間～5 時間未満」(43.9%)、「1 時間未満」(37.4%)となっており、課外活動は学部生を中心に活動している傾向は見られる。

Q45-1. 一週間の平均活動時間



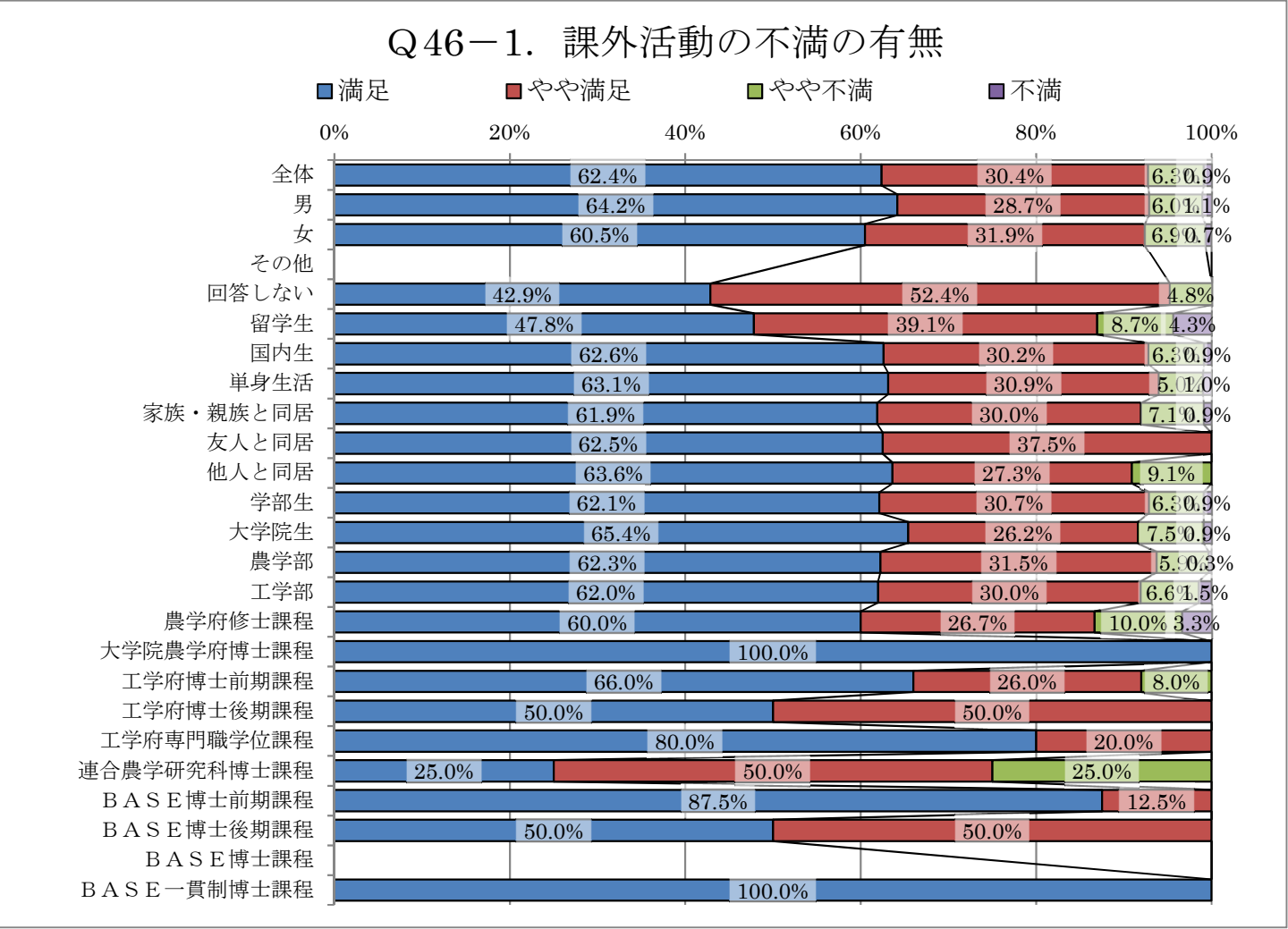
Q45-2. 一週間の平均活動時間の推移【%】

調査	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3	R6
1 時間未満	27.2	21.6	16.8	17.5	20.7	16.4	15.8	28.0	19.6
1 時間～5 時間未満	35.8	33.9	37.0	36.1	35.0	33.5	35.3	45.8	41.1
5 時間～10 時間未満	20.1	24.9	26.5	26.0	27.6	27.5	27.9	18.0	24.3
10 時間以上	16.9	19.7	19.7	20.4	18.5	22.5	21.0	8.2	15.0

第 1 回、第 2 回については、設問の形式が第 3 回目以降とは異なっていたため、データ比較を行えなかった。

4 6. 課外活動の不満の有無

課外活動に関してやや不満、あるいは、不満と回答したのは、全体で併せて 7.3%であり、調査の記録のある範囲ではもっとも少なくなっていた。良い傾向ではあるが、引き続き慎重な調査が必要である。



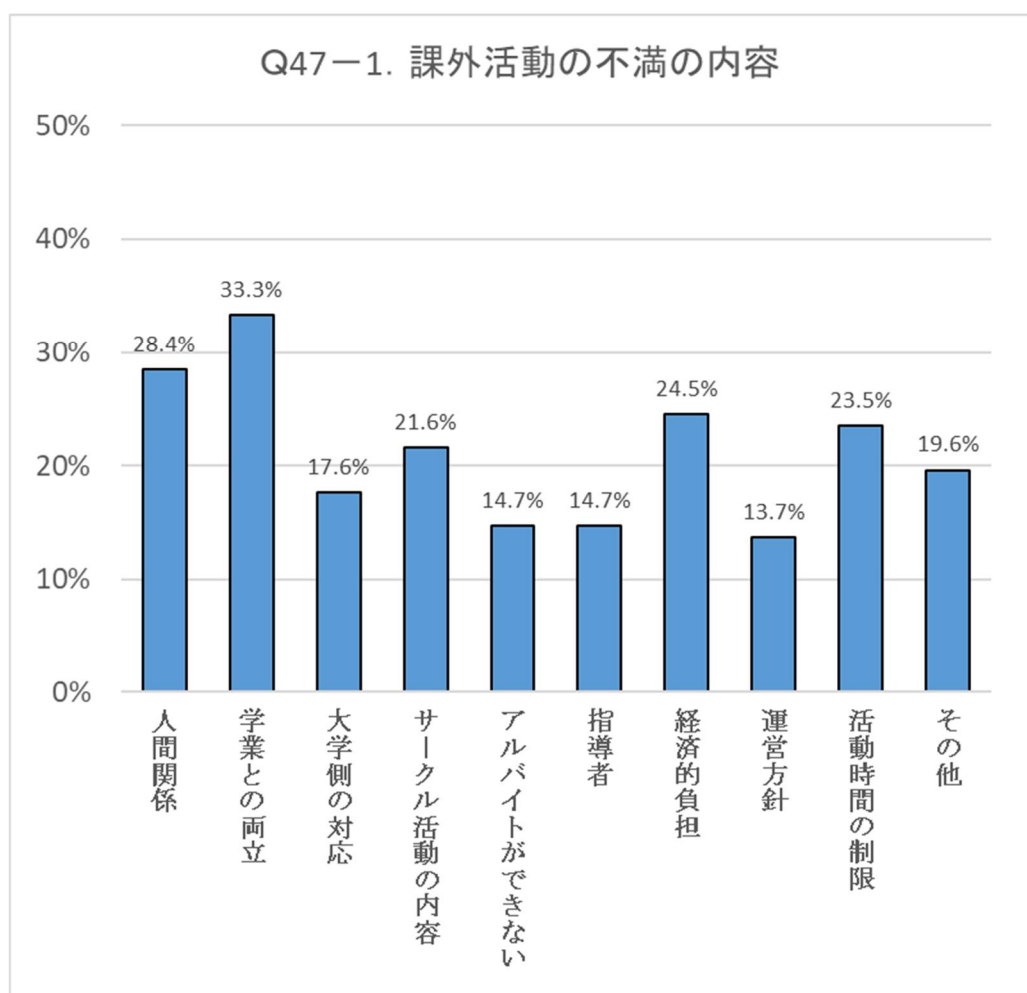
Q 4 6－2. 課外活動の不満の有無の推移【%】

調査	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回
年度	H6	H9	H12	H15	H17
満足している	87.3	53.3	54.0	---	---
満足していない	11.0	46.7	46.0	---	---

調査	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回
年度	H21	H24	H27	H30	R3	R6
不満がある	30.3	25.7	34.7	34.2	21.4	7.3
不満がない	69.7	74.3	65.0	65.0	78.6	92.7

4 7. 課外活動の不満の内容

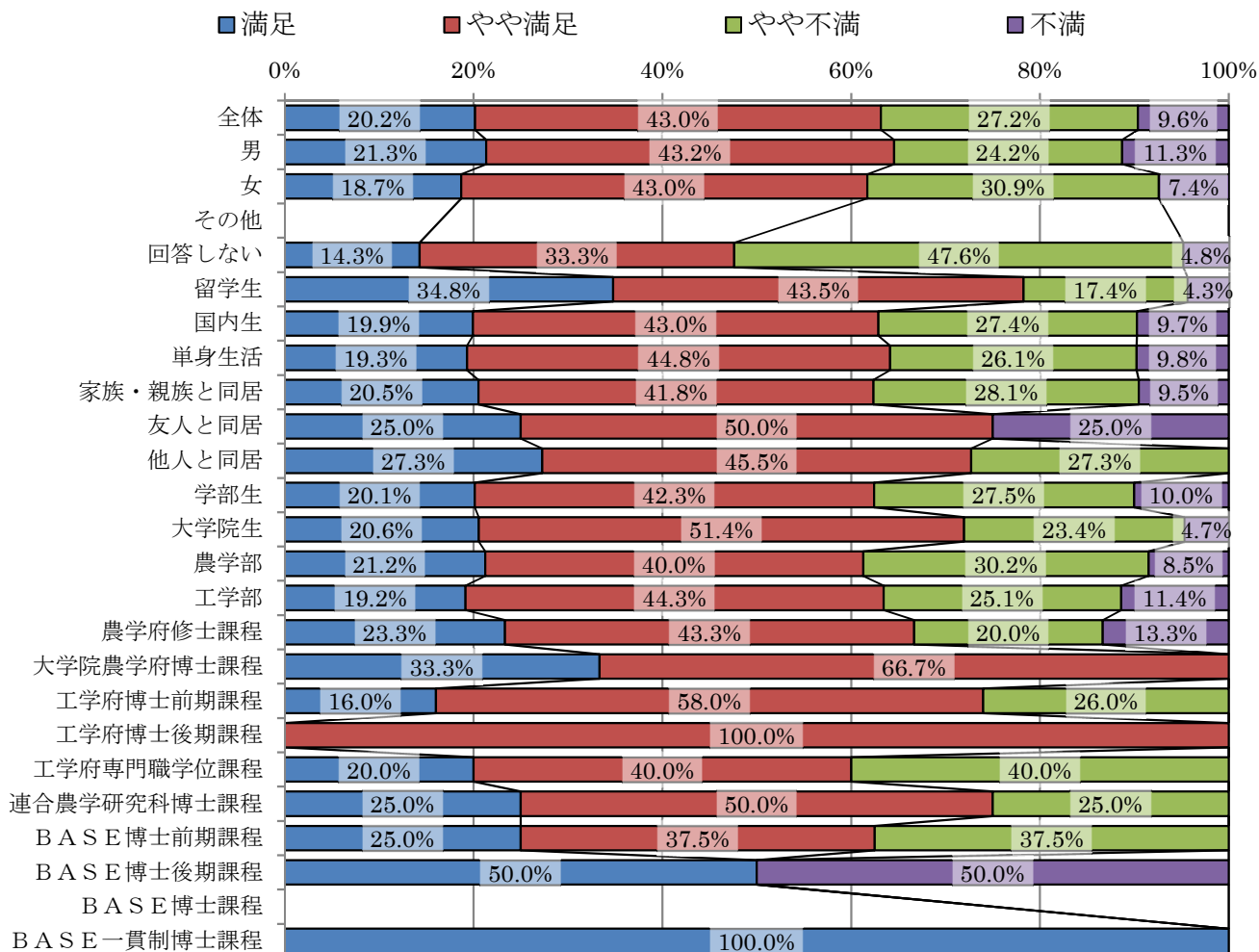
課外活動に関する不満の内容については、「学業との両立」に関するものが最も多く、33.3%を占めていた。ついで、「人間関係」(28.4%)、「経済的負担」(24.5%)と続いている。なお、「大学側の対応」は37.0%から17.6%に減少していることから、課外活動を取り巻く大学側の状況への不満は、ある程度は解消されていると考えられる。



4 8 . 課外活動施設等の満足度

課外活動施設等の満足度については、全体として、「満足」が 20.2%、「やや満足」が 43.0%であった。前回調査時は「満足」「やや満足」を併せて 70.1%であり、そこからは 6.9pt の低下が見られた。しかし、一昨年より前の 5 年間と比較するとほぼ同水準であった。

Q48-1. 課外活動施設等の満足度

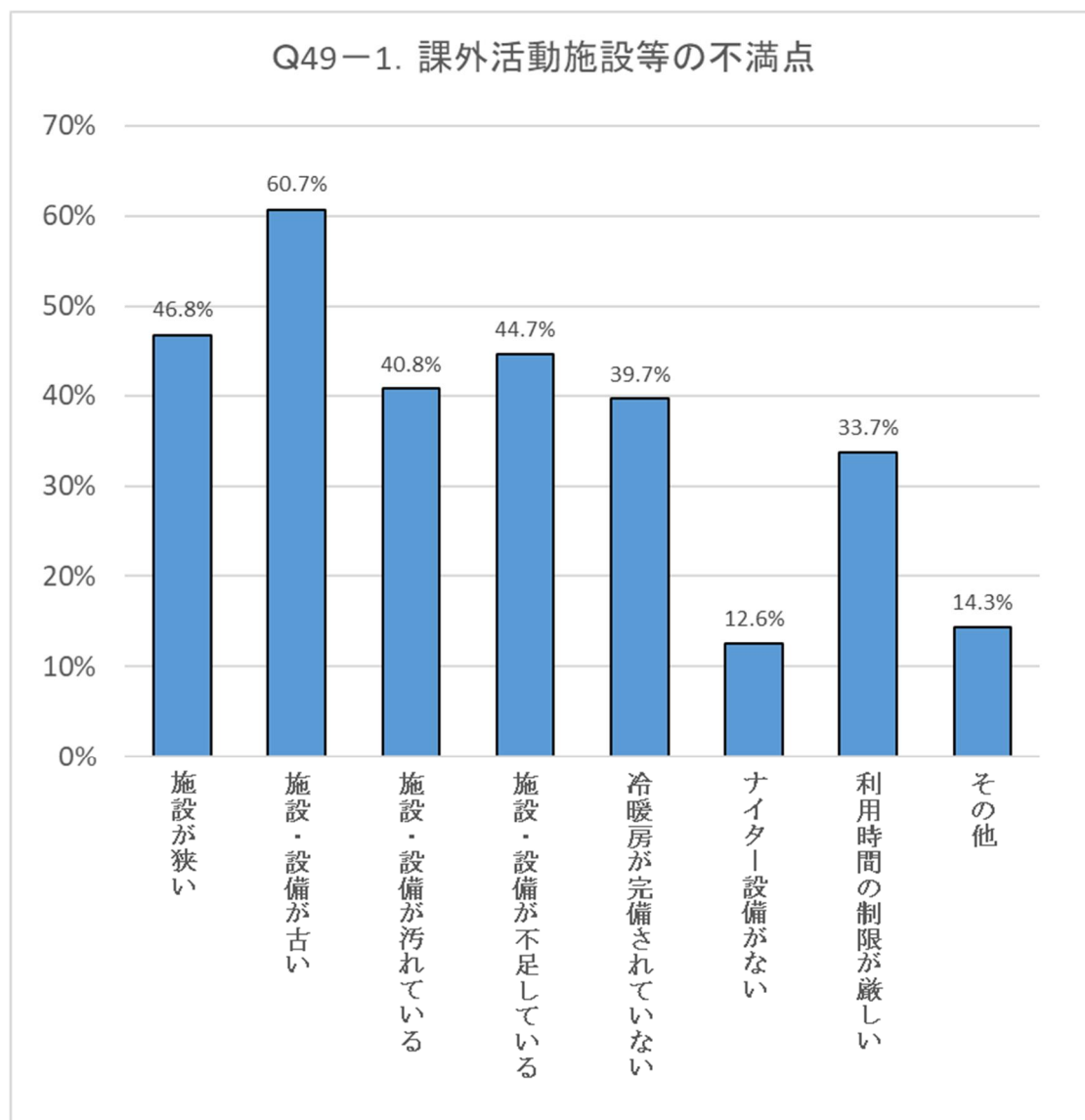


Q 4 8 - 2 . 課外活動施設等の満足度の推移【%】

調査	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回
年度	H21	H24	H27	H30	R3	R6
満足	21.7	23.8	18.7	18.0	21.4	20.2
やや満足	43.0	43.4	28.4	31.5	48.7	43.0
やや不満	21.8	18.0	31.9	32.8	22.4	27.2
不満	13.5	15.0	19.3	16.2	7.5	9.6

49. 課外活動施設等の不満点

前回に引き続き、課外活動施設等に関し、特にどのような点に不満があるかを調査した。その結果、「施設・設備が古い」(60.7%)、「施設が狭い」(46.8%)、「施設・設備が不足している」(44.7%)、「施設・設備が汚れている」(40.8%)となっており、施設の老朽化や使い勝手についての不満が大きくなっていることがうかがえる。なお、自由記述でも、老朽化したサークル棟や部室棟の建て替え等についての要望は非常に強く、大学側の対策が必要であると考えられる。

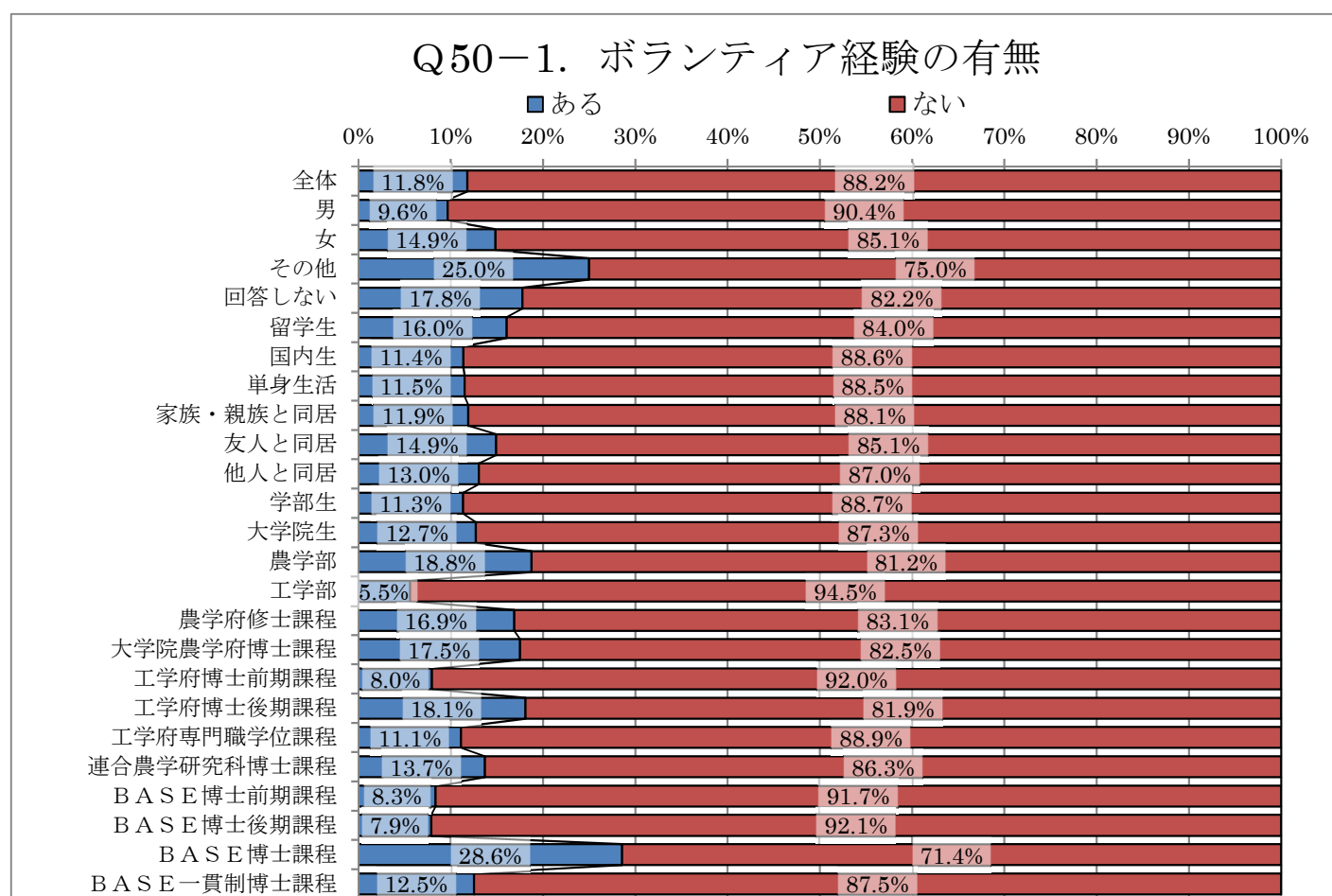


第Ⅶ章 ボランティア活動

50. ボランティア経験の有無

全体では、「ある」と回答したのは11.8%であり、残りの88.2%は入学後のボランティア活動の経験はない。最近5年間では2番目に高い割合であるが、依然として低い水準が続いている。男子学生と女子学生を比較すると、女子学生(14.9%)の方が、男子学生(9.6%)より割合が高い。さらに、大学院生(12.7%)の方が、学部生(11.3%)よりボランティア活動の経験をした割合が高い。両学部生を比較すると、農学部生(18.8%)の方が、工学部生(5.5%)よりも割合が高く、その差は前回より拡大している。

これまでの調査を振り返ると、H12年度まで「ある」と回答した割合は約28%であったが、平成15年度には16.0%まで低下し、以後13~14%で推移していたものの、前々回の調査で10%を下回った。その後は、前回は11.2%、今回は11.8%と緩やかな回復傾向にある。男女間、学部間、学部生対大学院生の傾向には変化がないが、農学部の学生が大きく増えているのが今回の調査の特徴である。

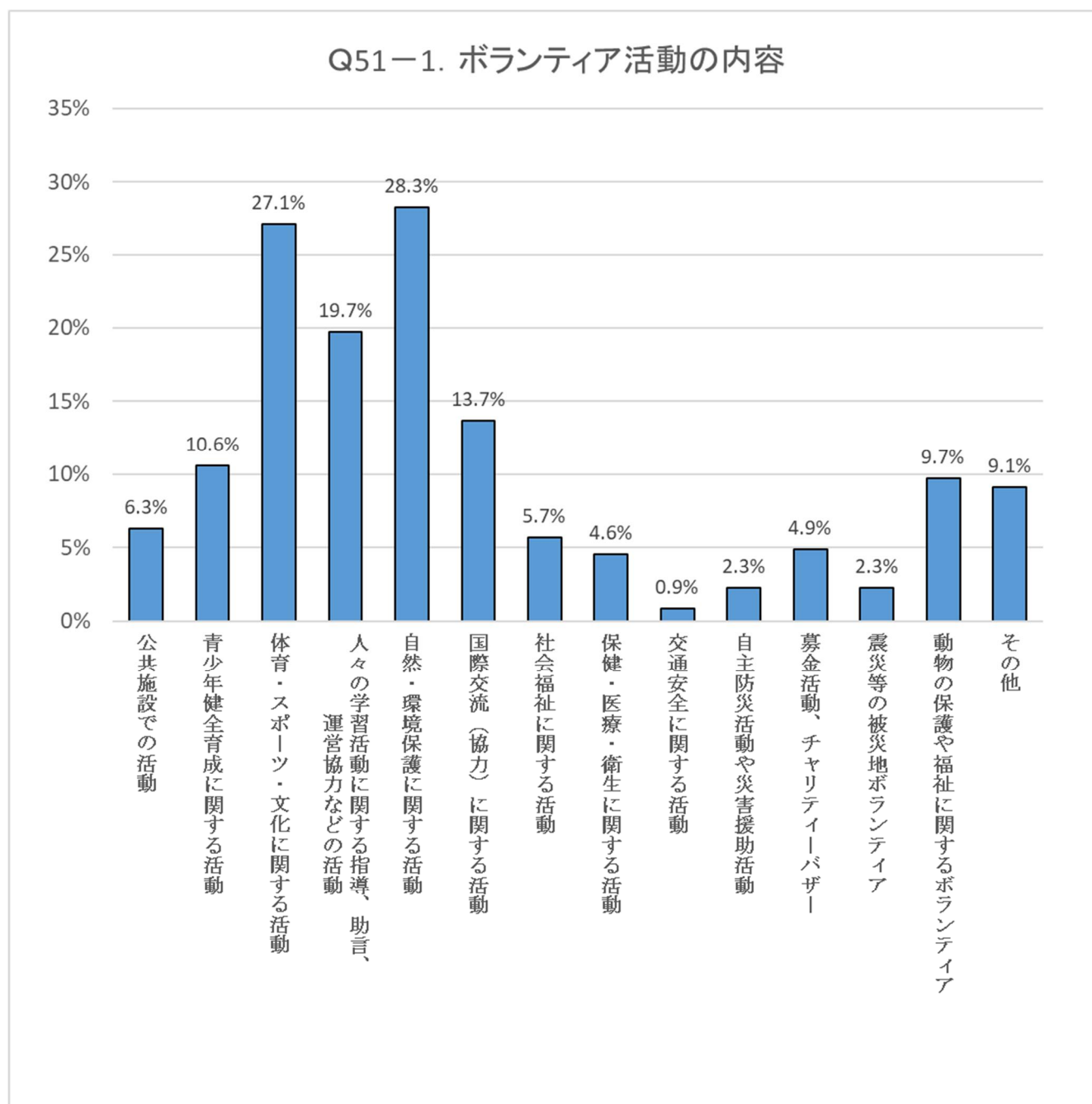


Q50-2. ボランティア経験の有無の推移【%】

調査	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回
年度	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3	R6
ある	27.6	27.9	16.0	13.6	13.4	13.9	10.5	9.3	11.2	11.8
ない	72.4	72.1	84.0	86.4	86.6	86.1	89.0	89.9	88.8	88.2

5 1. ボランティア活動の内容

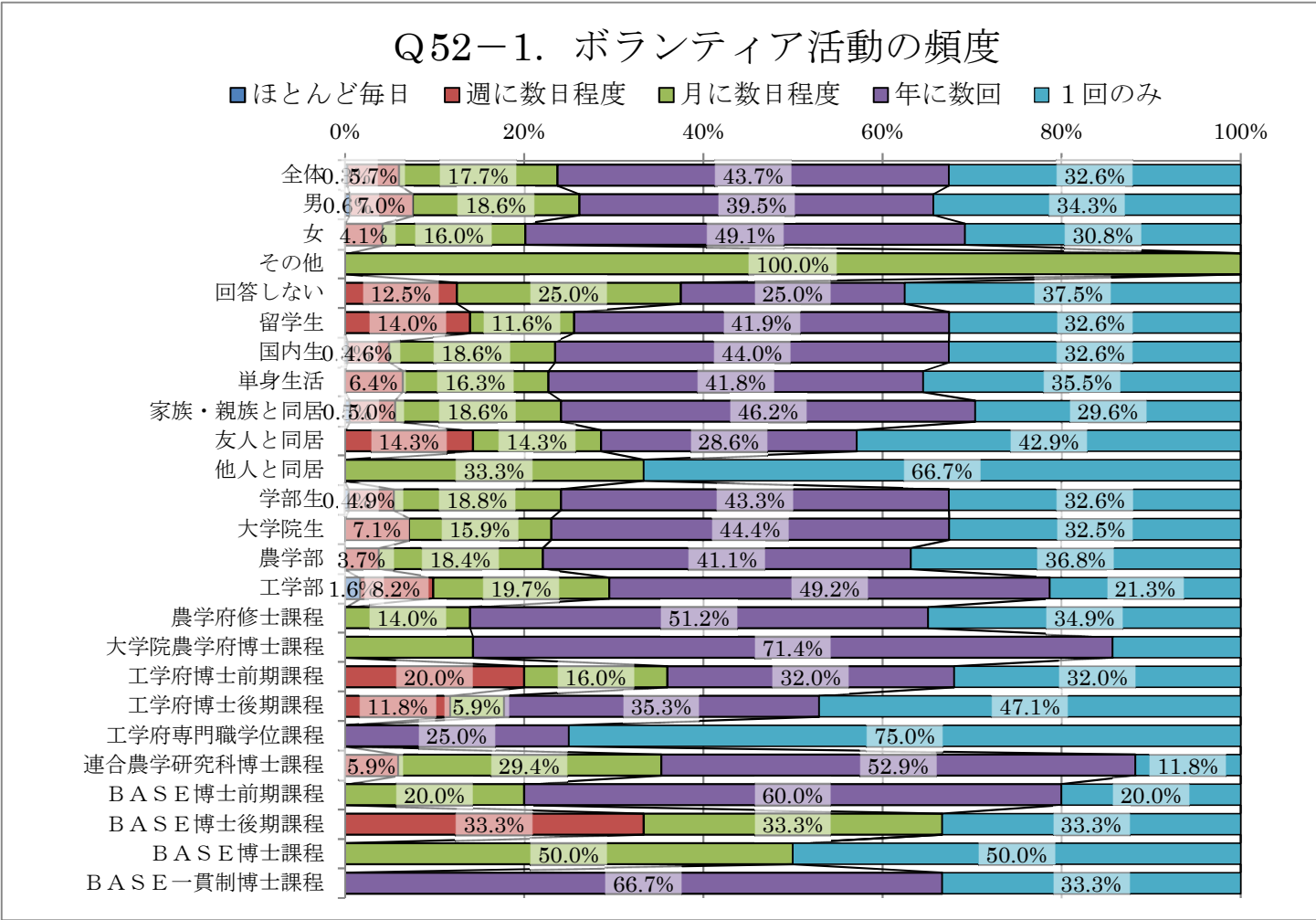
全体では、「自然・環境保護に関する活動（環境美化、自然解説、リサイクル活動等）」(28.3%)が最も多く、「体育・スポーツ・文化に関する活動」(27.1%)、「人々の学修活動に関する指導、助言、運営協力などの活動」(19.7%)と続き、前回の調査と同様の傾向である。



5 2. ボランティア活動の頻度

ボランティア活動の頻度については、「年に数回」が最も多く、全体では 43.7%を占めていた。全般的傾向として、男女の間には大きな差はなく、農学部と工学部の間では、工学部の方がやや頻度が多い傾向がみられた。

前回調査と比べると、「1 回のみ」が増加していることから、ボランティア活動に参加している学生の活動量は減少していることが伺える。



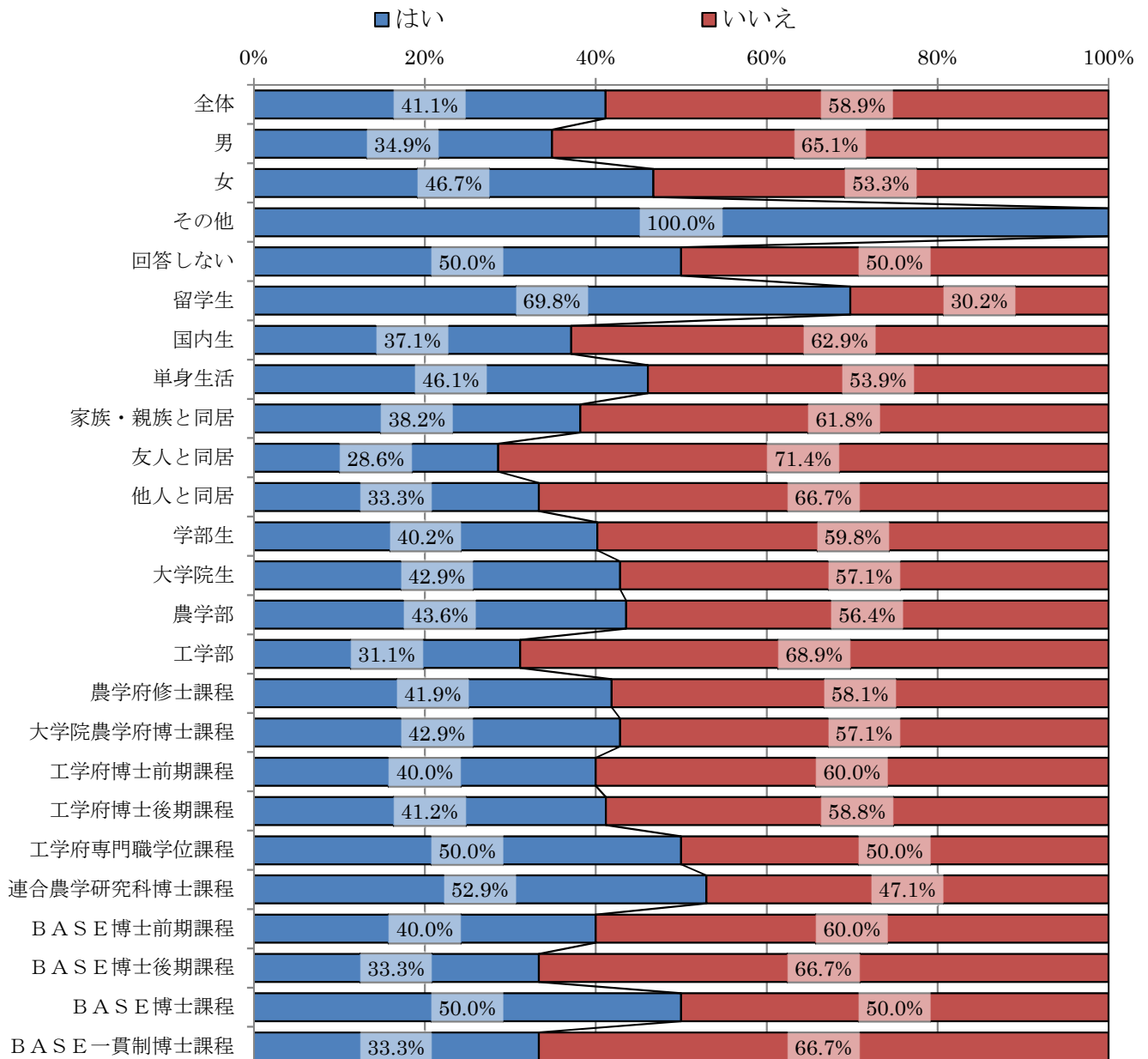
Q 5 2 - 2 . ボランティア活動の頻度の推移【%】

調査	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回
年度	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3	R6
ほとんど毎日	0.4	1.6	2.6	1.8	3.2	1.9	3.9	2.1	0.3
週に数日程度	5.0	6.1	8.9	5.9	4.0	4.2	6.6	5.3	5.7
月に数日程度	14.2	15.0	15.4	16.9	13.8	16.1	19.0	20.6	17.7
年に数回	48.1	65.2	61.6	69.2	68.2	48.5	46.6	44.4	43.7
その他	32.3	12.1	11.4	6.2	10.8	—	—	—	—
1 回のみ	—	—	—	—	—	28.7	22.3	27.6	32.6

53. ボランティア活動への支援希望の有無

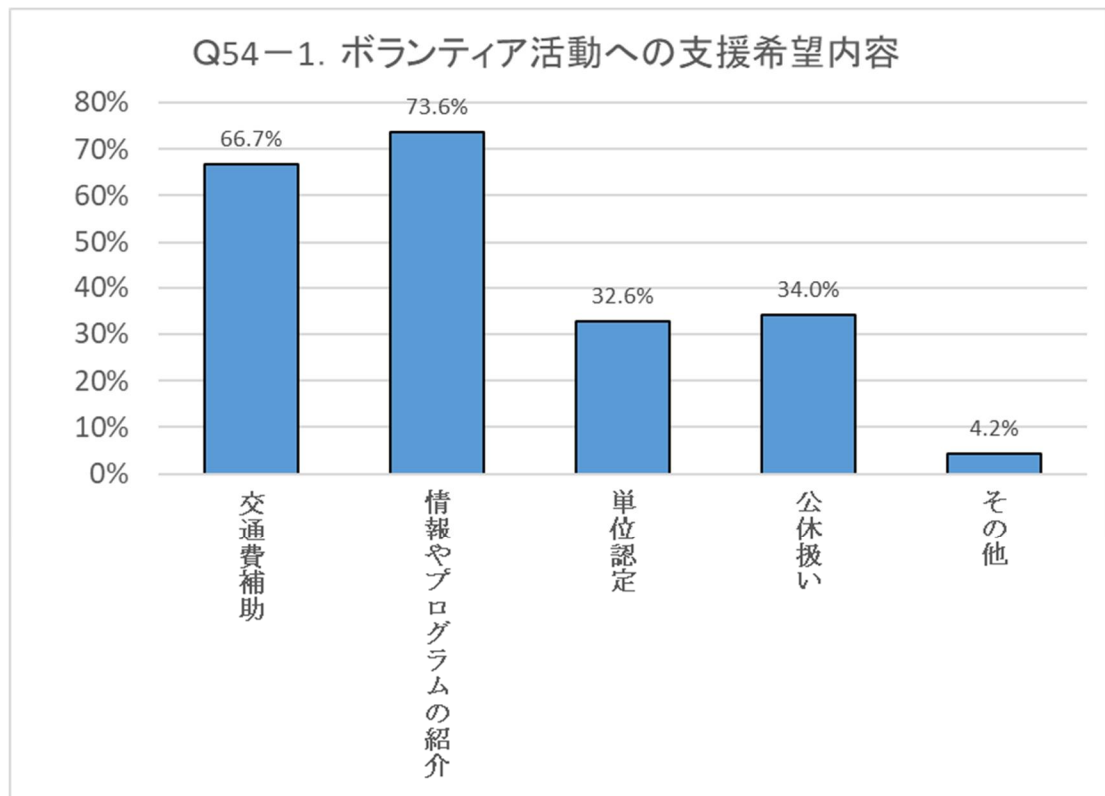
ボランティア活動への支援希望については、「いいえ」が多く、全体として58.9%を占めていた。しかし、約4割の学生が支援希望である「はい」を選択しており、依然として大学に支援を希望する声が一定数存在することが確認できる。

Q53-1. ボランティア活動への支援希望の有無



54. ボランティア活動への支援希望内容

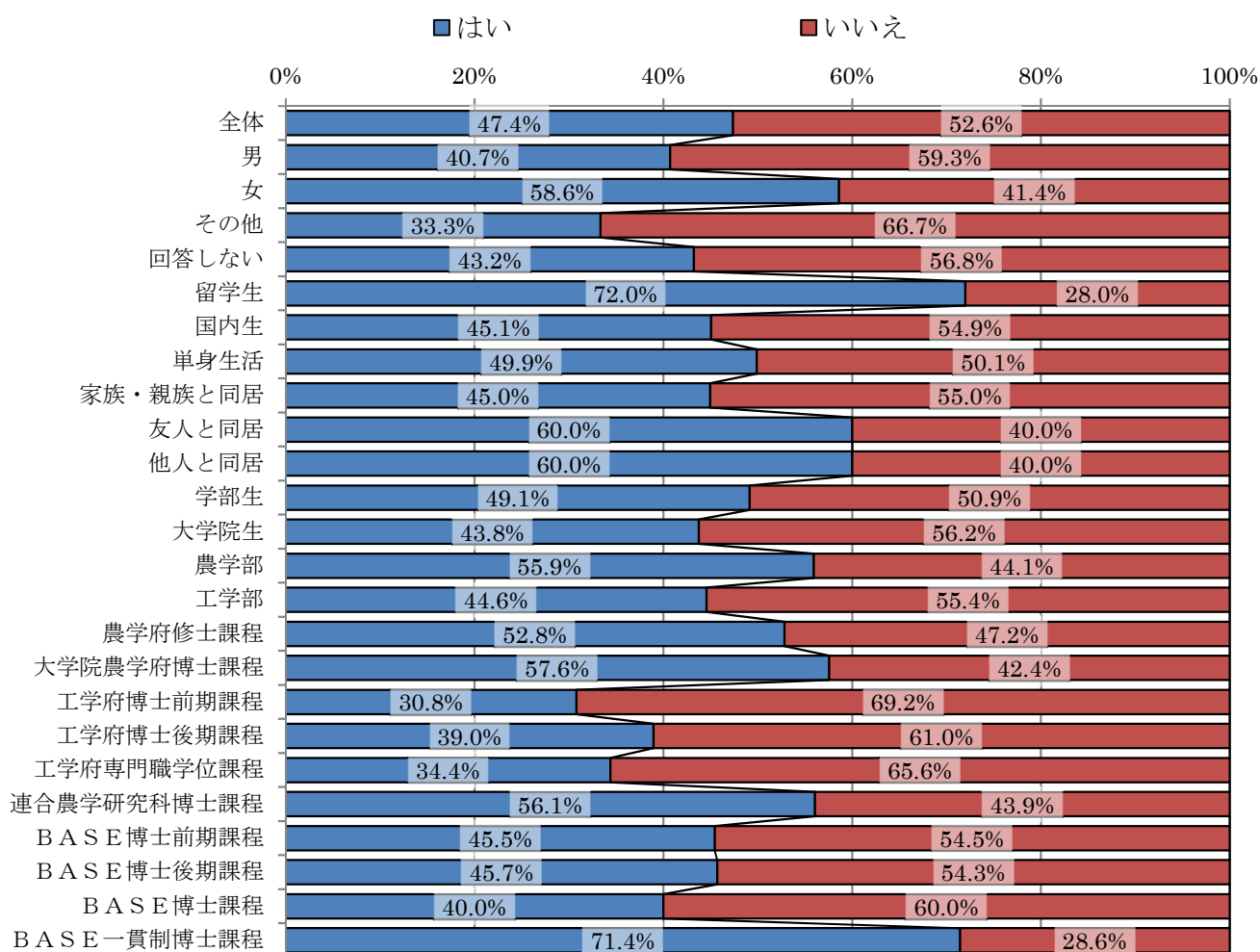
ボランティア活動に対し、具体的に大学にどのような支援を希望するかという問いについて、「情報やプログラムの紹介」(73.6%)、「交通費補助」(66.7%)、「公休扱い」(34.0%)、「単位認定」(32.6%)となった。「情報やプログラムの紹介」は前回の調査で30pt近く増加したが、今回も同様の傾向にあり、大学に対してボランティア活動の情報提供の役割を求める声が強いことが分かる。また、ボランティア活動を増やすためには、「情報やプログラムの紹介」に加えて、「交通費補助」、「公休扱い」、「単位認定」の観点からも検討することが必要であると考えられる。



55. ボランティア参加希望の有無

ボランティア参加希望の有無については、参加希望が全体で 47.4%であり、前回から 10pt 以上向上している。男子学生の参加希望が 40.7%であるのに対して女子学生は 58.6%であり、女子学生の方がボランティアへの参加に積極的であること、また、工学部の 44.6%に対して農学部は 55.9%であり、農学部の方が参加希望が多いことなどが分かる。

Q55-1. ボランティア参加希望の有無



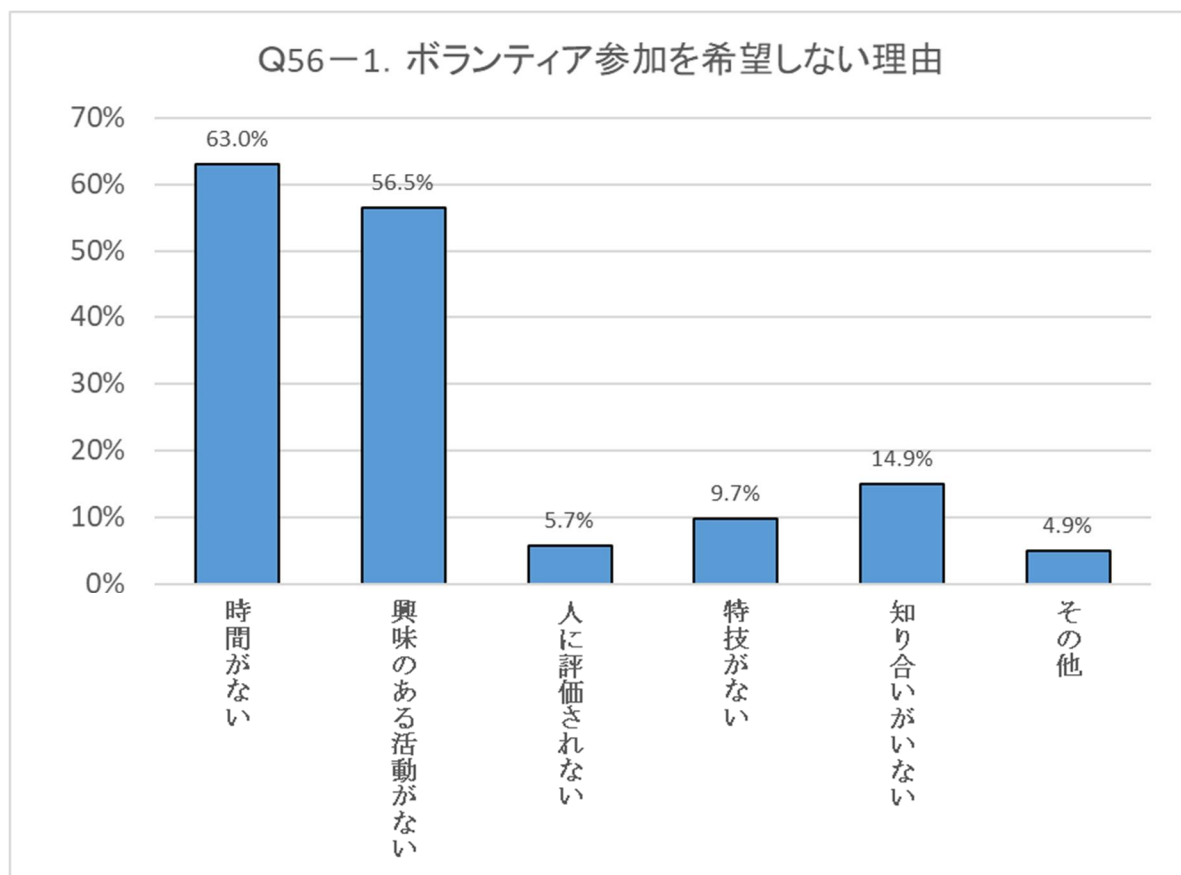
Q55-2. ボランティア参加希望の有無の推移【%】

調査	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
年度	H9	H12	H15	H17	H21	H24	H27	H30	R3
はい	60.8	64.7	---	---	26.9	35.0	41.0	37.1	47.4
いいえ	39.2	35.3	---	---	73.1	65.0	42.0	44.7	52.6

第4回、第5回は設問形式が異なるため、今回のまとめには入れなかった。

56. ボランティア参加を希望しない理由

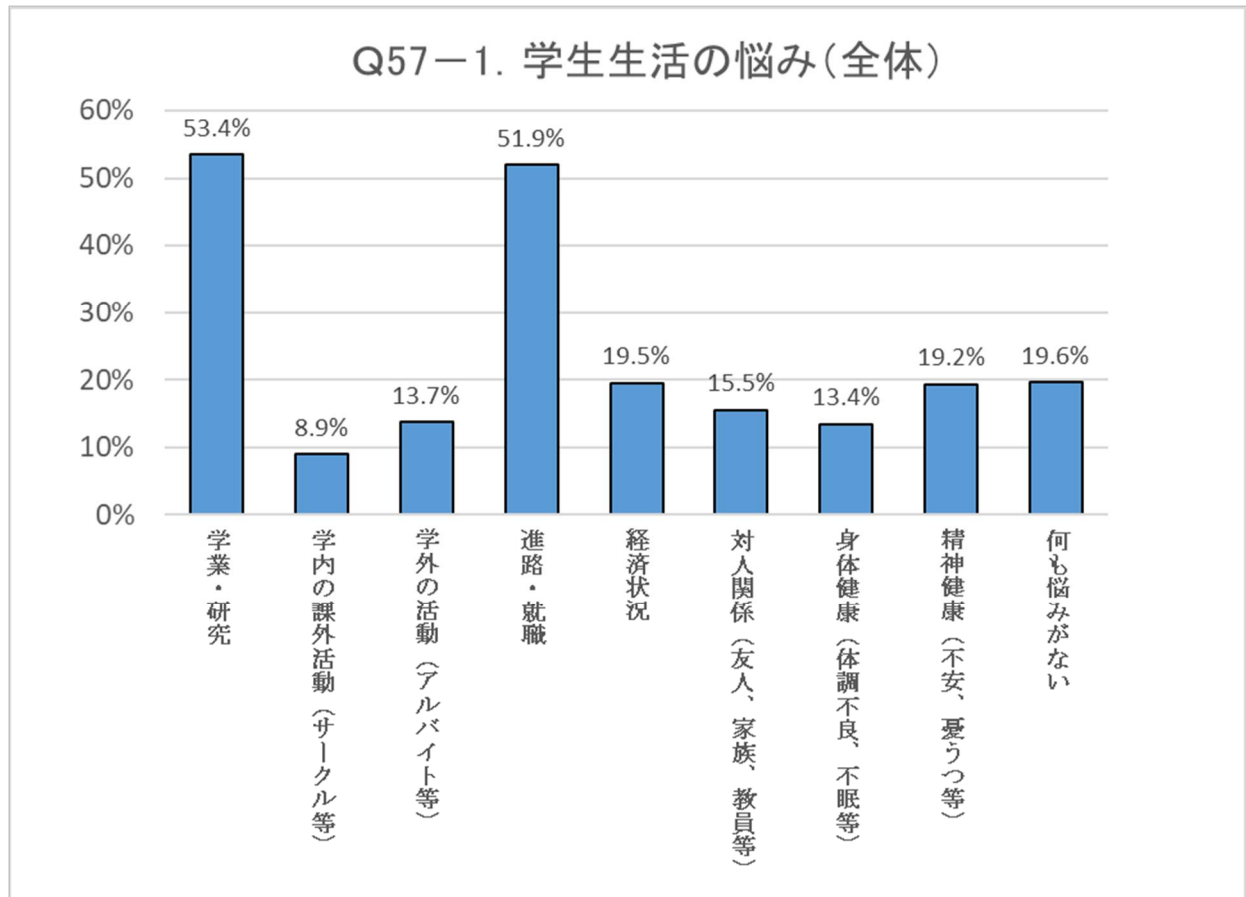
ボランティア活動に参加を希望しない理由としては、「時間がない」(63.0%)、「興味のある活動がない」(56.5%)が上位を占めており、この傾向は前回と同様である。「時間がない」という回答からは、大学やプライベートでの他の活動で時間がとられていることや、「興味がある活動がない」という回答については、情報不足の可能性もある。



第Ⅷ章 学生生活

57. 学生生活の悩み

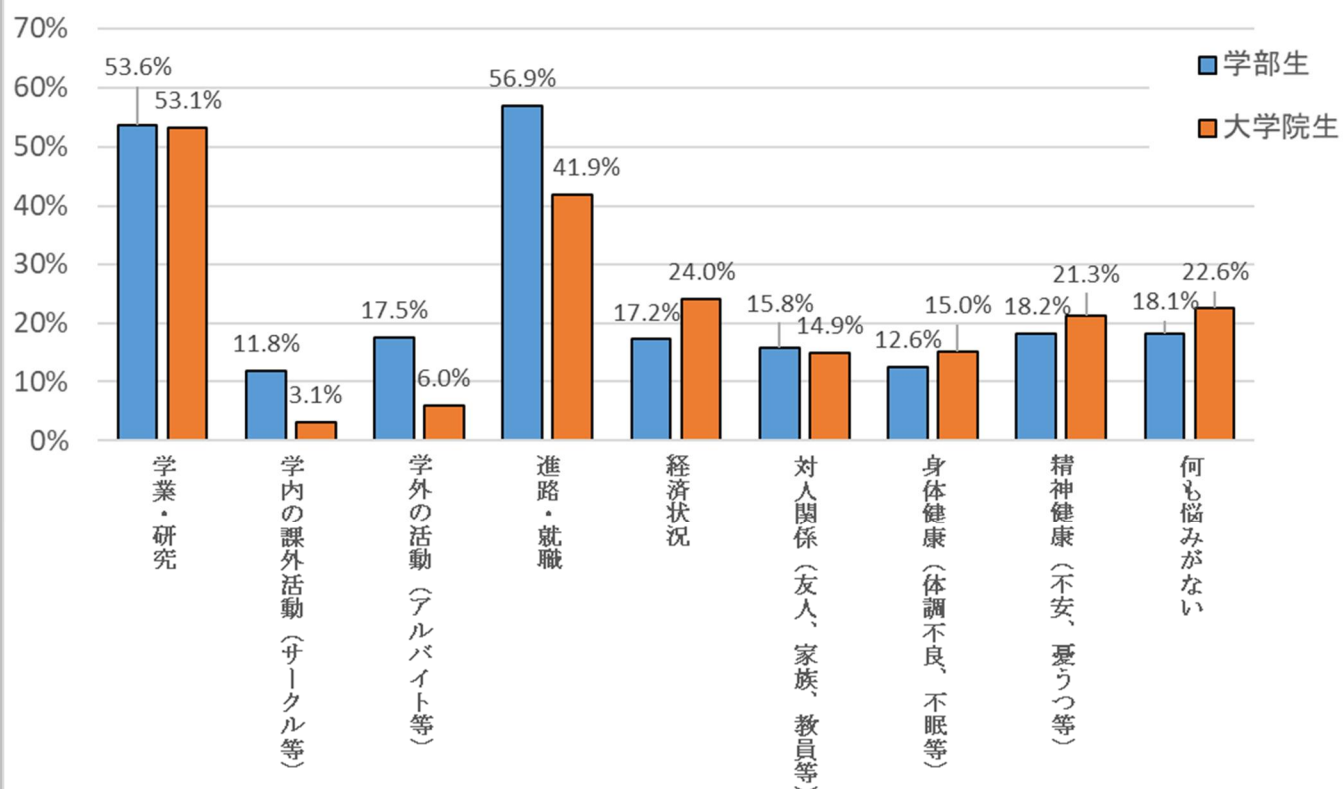
学生生活の悩みの二大テーマは、「学業・研究」と「進路・就職」であり、この傾向は第5回調査から継続している。「学業・研究」はこれまでと同様のパーセンテージで推移しているが、「進路・就職」の悩みは2018年の41.8%から前回（2021年）52.9%に増加し、今回も51.9%と高止まりしている。コロナ禍以降、学生の就職への不安は引き続き大きいことが推察される。学内外の活動や「対人関係」の悩みは前回と同程度だが、「身体健康」と「精神健康」の悩みは前回よりさらに増加している。「経済状況」についての悩みは前回の調査（15.6%）でやや減少したものの、再び増加に転じている。



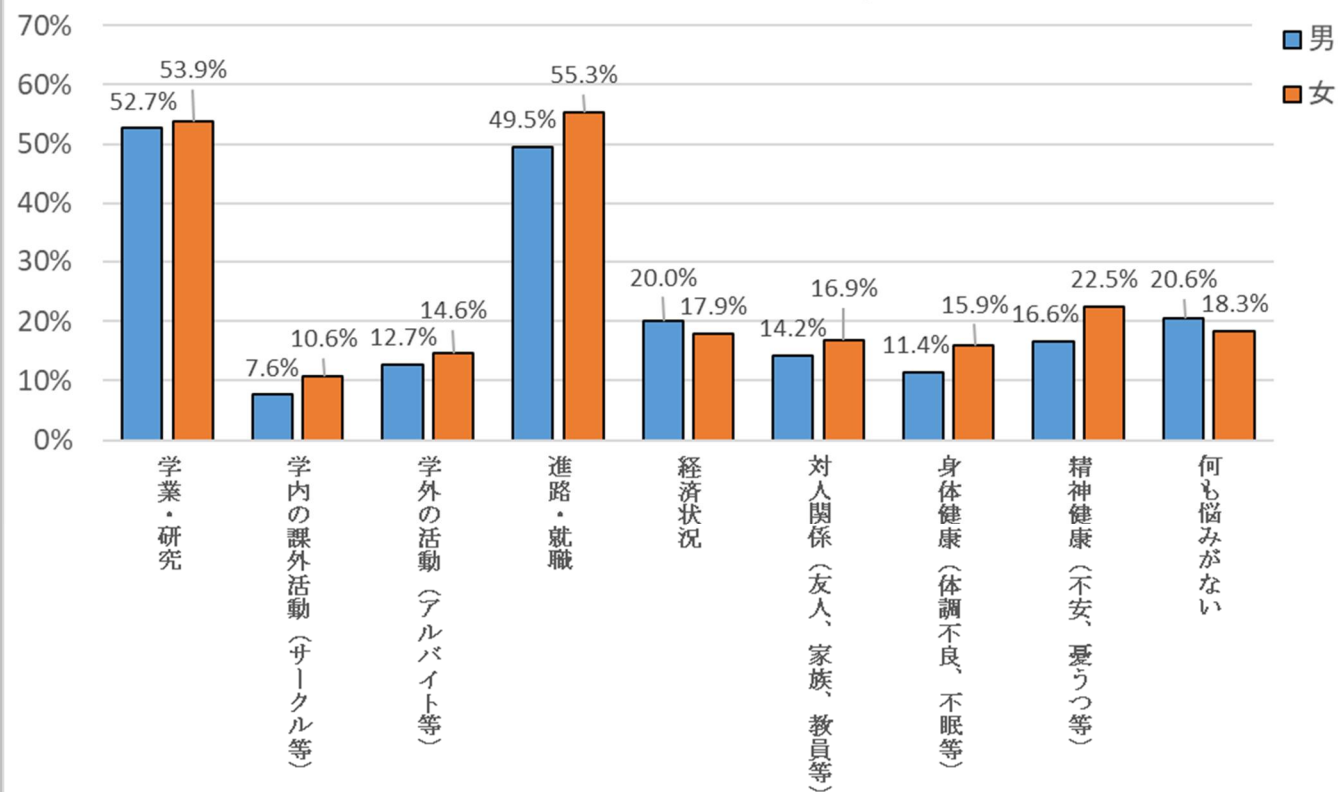
学部生と大学院生（修士）の比較では、悩みの二大テーマは変わらないが、学部生の「進路・就職」の悩みはやはりコロナ前（45.2%）より大幅に増加し、男子学生より女子学生で高い値を示している。学部生は学内外の活動が活発なためと思われるが、「学内外の活動」や「対人関係」での悩みが大学院生より多い傾向がある。「経済状況」の悩みは大学院生が学部生より多い傾向は変わらないが、今回調査では学部生、大学院生ともに「経済状況」の悩みが前回調査時より増加している（学部生 12.6%→17.2%、大学院生 21.8%→24.0%）。

学部生、大学院生ともに「身体健康」「精神健康」の悩みが増加している点も注目になる。特に女子学生の「精神健康」の悩みが前回 18.6%から今回 22.5%へと増加。「何も悩みがない」と回答した女子学生の割合も増えてはいる（前回 16.9%→18.3%）が、一部の女子学生はメンタルヘルスの悪化の傾向が推察される。その他として「通学時間が長い」との回答が複数あった。

Q57-2. 学生生活の悩み(学部生／大学院生)



Q57-3. 学生生活の悩み(男／女)



Q 5 7 - 4 . 学 生 生 活 の 悩 み

	学 業 ・ 研 究	学 内 の 課 外 活 動 (サ ー ク ル 等)	学 外 の 活 動 (ア ル バ イ ト 等)	進 路 ・ 就 職	経 済 状 況	対 人 関 係 (友 人 、 家 族 、 教 員 等)	身 体 健 康 (体 調 不 良 、 不 眠 等)	精 神 健 康 (不 安 、 憂 う つ 等)	何 も 悩 み が な い	そ の 他
全 体	53.4%	8.9%	13.7%	51.9%	19.5%	15.5%	13.4%	19.2%	19.6%	0.6%
男	52.7%	7.6%	12.7%	49.5%	20.0%	14.2%	11.4%	16.6%	20.6%	0.8%
女	53.9%	10.6%	14.6%	55.3%	17.9%	16.9%	15.9%	22.5%	18.3%	0.4%
そ の 他	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	75.0%	100.0%	0.0%	0.0%
回 答 し な い	68.9%	17.8%	28.9%	62.2%	33.3%	28.9%	22.2%	33.3%	15.6%	0.0%
留 学 生	70.1%	9.3%	14.6%	53.4%	47.0%	22.0%	27.6%	33.6%	8.2%	0.4%
国 内 生	51.8%	8.9%	13.6%	51.8%	16.7%	14.8%	12.0%	17.8%	20.7%	0.6%
単 身 生 活	56.3%	8.5%	13.9%	52.1%	24.6%	15.6%	15.6%	22.9%	19.0%	0.2%
家 族 ・ 親 族 と 同 居	51.3%	9.3%	13.8%	51.6%	15.1%	15.1%	11.5%	16.3%	20.1%	0.9%
友 人 と 同 居	51.1%	4.3%	4.3%	57.4%	34.0%	19.1%	21.3%	25.5%	21.3%	0.0%
他 人 と 同 居	56.5%	13.0%	8.7%	56.5%	34.8%	26.1%	13.0%	21.7%	13.0%	0.0%
学 部 生	53.6%	11.8%	17.5%	56.9%	17.2%	15.8%	12.6%	18.2%	18.1%	0.5%
大 学 院 生	53.1%	3.1%	6.0%	41.9%	24.0%	14.9%	15.0%	21.3%	22.6%	0.8%
農 学 部	51.3%	12.2%	17.1%	57.5%	17.6%	15.9%	13.0%	18.6%	17.3%	0.6%
工 学 部	55.4%	11.5%	17.8%	56.4%	16.9%	15.7%	12.3%	17.9%	18.8%	0.5%
農 学 府 修 士 課 程	53.3%	3.9%	9.0%	44.3%	21.6%	16.5%	14.1%	21.6%	23.5%	1.2%
大 学 院 農 学 府 博 士 課 程	66.7%	3.3%	10.0%	53.3%	46.7%	23.3%	46.7%	50.0%	10.0%	0.0%
工 学 府 博 士 前 期 課 程	43.3%	1.9%	4.5%	35.7%	15.3%	10.8%	8.6%	13.4%	30.3%	0.3%
工 学 府 博 士 後 期 課 程	56.4%	0.0%	3.2%	41.5%	29.8%	21.3%	20.2%	24.5%	19.1%	2.1%
工 学 府 専 門 職 学 位 課 程	41.7%	2.8%	0.0%	41.7%	19.4%	16.7%	13.9%	19.4%	33.3%	0.0%
連 合 農 学 研 究 科 博 士 課 程	63.7%	5.6%	6.5%	44.4%	38.7%	15.3%	18.5%	24.2%	16.1%	1.6%
B A S E 博 士 前 期 課 程	56.7%	1.7%	5.0%	43.3%	15.0%	10.0%	11.7%	23.3%	13.3%	0.0%
B A S E 博 士 後 期 課 程	78.9%	7.9%	7.9%	52.6%	36.8%	13.2%	28.9%	26.3%	5.3%	0.0%
B A S E 博 士 課 程	57.1%	14.3%	14.3%	57.1%	14.3%	14.3%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%
B A S E 一 貫 制 博 士 課 程	66.7%	4.2%	0.0%	54.2%	33.3%	25.0%	8.3%	33.3%	16.7%	0.0%

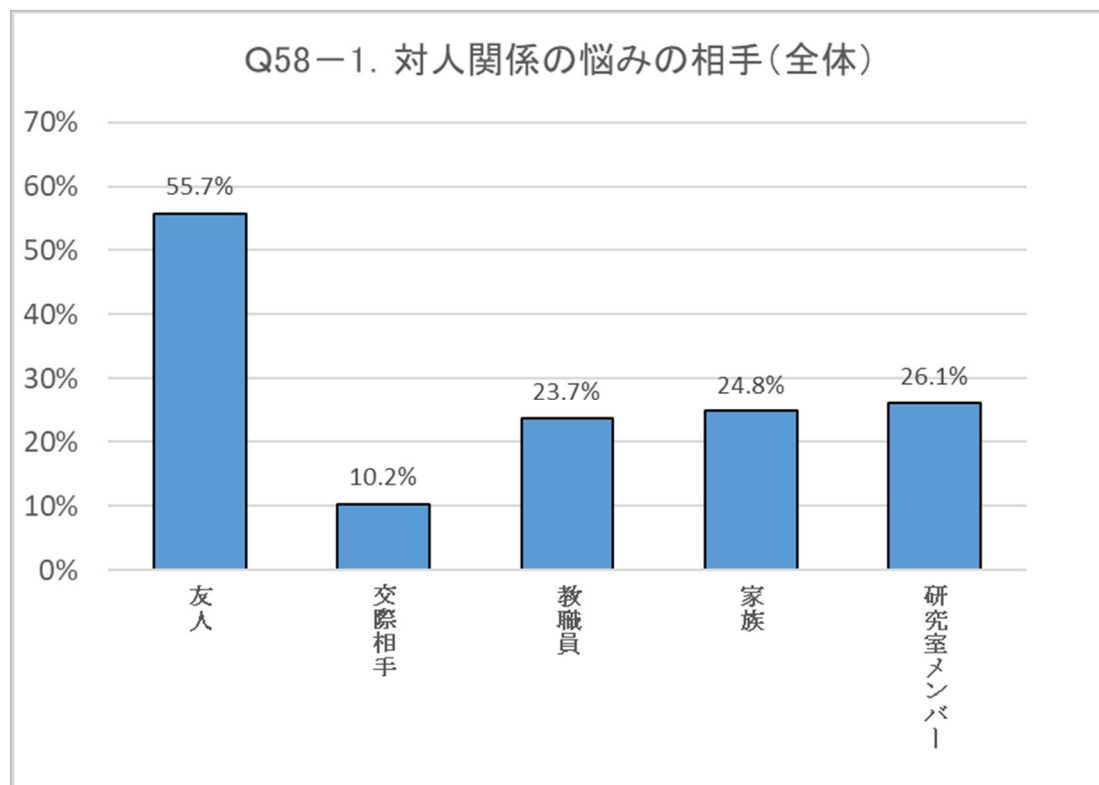
58. 対人関係の悩みの相手

学生生活の悩みで「対人関係」を選択した回答者に、悩みの相手を質問した。悩みの相手については、「友人」が一番多く 55.7%で、前回調査と同様の結果となっている。次いで、「研究室メンバー」、「家族」、「教職員」となっている。

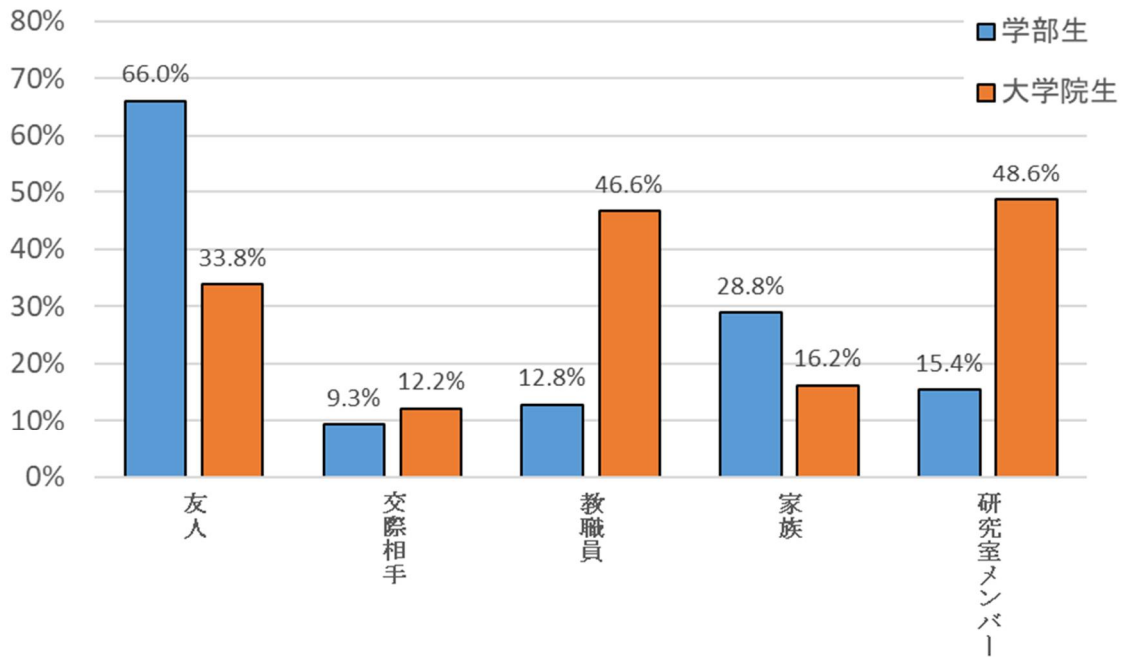
学部生と大学院生の比較では、学部生が「友人」や「家族」との悩みが多い一方で、大学院生は「教職員」や「研究室メンバー」が多くなっている。

これまでの調査では悩みの相手についての男女差はなかったが、今回調査では女子学生の「友人」との悩みがやや減少し、「研究室メンバー」との悩みが男子学生よりも増えている。

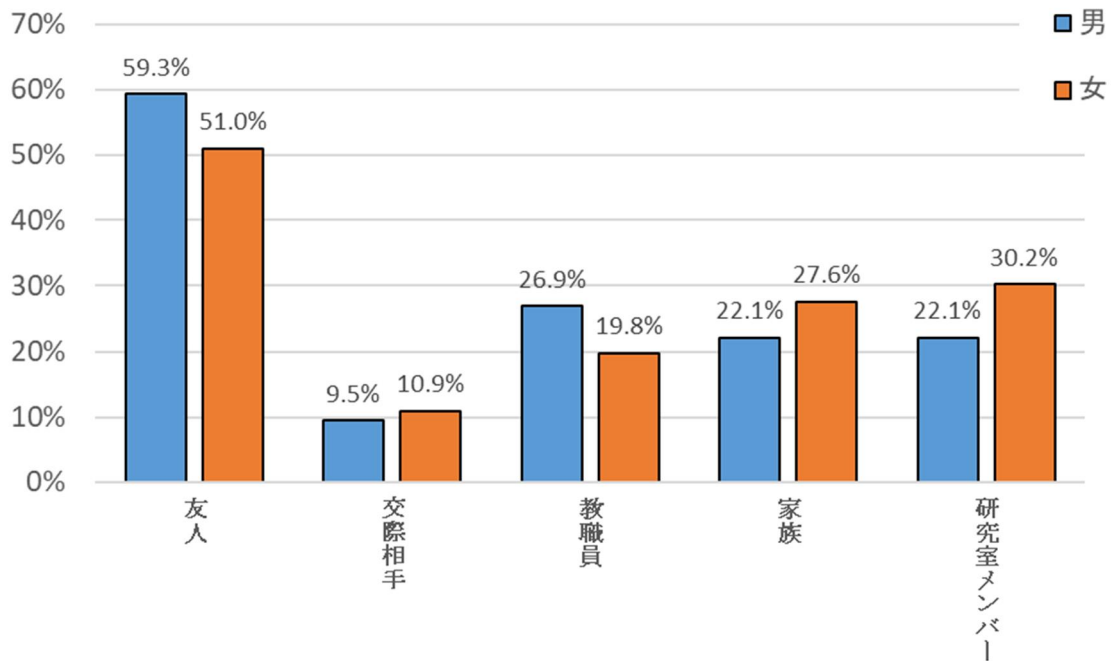
悩みの相手として「家族」が選択される割合は年々増加している。(前々回 17.9%、前回 22.1%、今回 24.8%)
特に学部生で「家族」との悩みを抱える学生が多い。



Q58-2. 対人関係の悩みの相手(学部生／大学院生)



Q58-3. 対人関係の悩みの相手(男／女)



Q 5 8 - 4 . 対人関係の悩みの相手【人】

	友人	交際相手	教職員	家族	研究室メンバー	無回答	回答者数
全体	256(55.7)	47(10.2)	109(23.7)	114(24.8)	120(26.1)	20(4.3)	460
男	150(59.3)	24(9.5)	68(26.9)	56(22.1)	56(22.1)	11(4.3)	253
女	98(51)	21(10.9)	38(19.8)	53(27.6)	58(30.2)	8(4.2)	192
その他	1(50)	1(50)	0(0)	1(50)	0(0)	0(0)	2
回答しない	7(53.8)	1(7.7)	3(23.1)	4(30.8)	6(46.2)	1(7.7)	13
留学生	40(67.8)	15(25.4)	22(37.3)	13(22)	27(45.8)	2(3.4)	59
国内生	216(53.9)	32(8)	87(21.7)	101(25.2)	93(23.2)	18(4.5)	401
単身生活	115(59.9)	26(13.5)	53(27.6)	30(15.6)	64(33.3)	12(6.2)	192
家族・親族と同居	134(53)	20(7.9)	49(19.4)	82(32.4)	55(21.7)	7(2.8)	253
友人と同居	4(44.4)	0(0)	5(55.6)	2(22.2)	0(0)	0(0)	9
他人と同居	3(50)	1(16.7)	2(33.3)	0(0)	1(16.7)	1(16.7)	6
学部生	206(66.0)	29(9.3)	40(12.8)	90(28.8)	48(15.4)	15(4.8)	312
大学院生	50(33.8)	18(12.2)	69(46.6)	24(16.2)	72(48.6)	5(3.4)	148
農学部	88(63.8)	14(10.1)	15(10.9)	41(29.7)	25(18.1)	4(2.9)	138
工学部	118(67.8)	15(8.6)	25(14.4)	49(28.2)	23(13.2)	11(6.3)	174
農学府	17 (33.3)	4 (7.8)	19 (37.3)	9 (17.6)	23 (45.1)	2 (3.9)	51
工学府	18(30)	7(11.7)	25(41.7)	8(13.3)	29(48.3)	3(5)	60
連合農学研究科	7(36.8)	5(26.3)	11(57.9)	5(26.3)	13(68.4)	0(0)	19
BASE	13 (44.8)	4 (13.8)	24 (82.8)	3 (10.3)	11 (37.9)	0 (0)	29

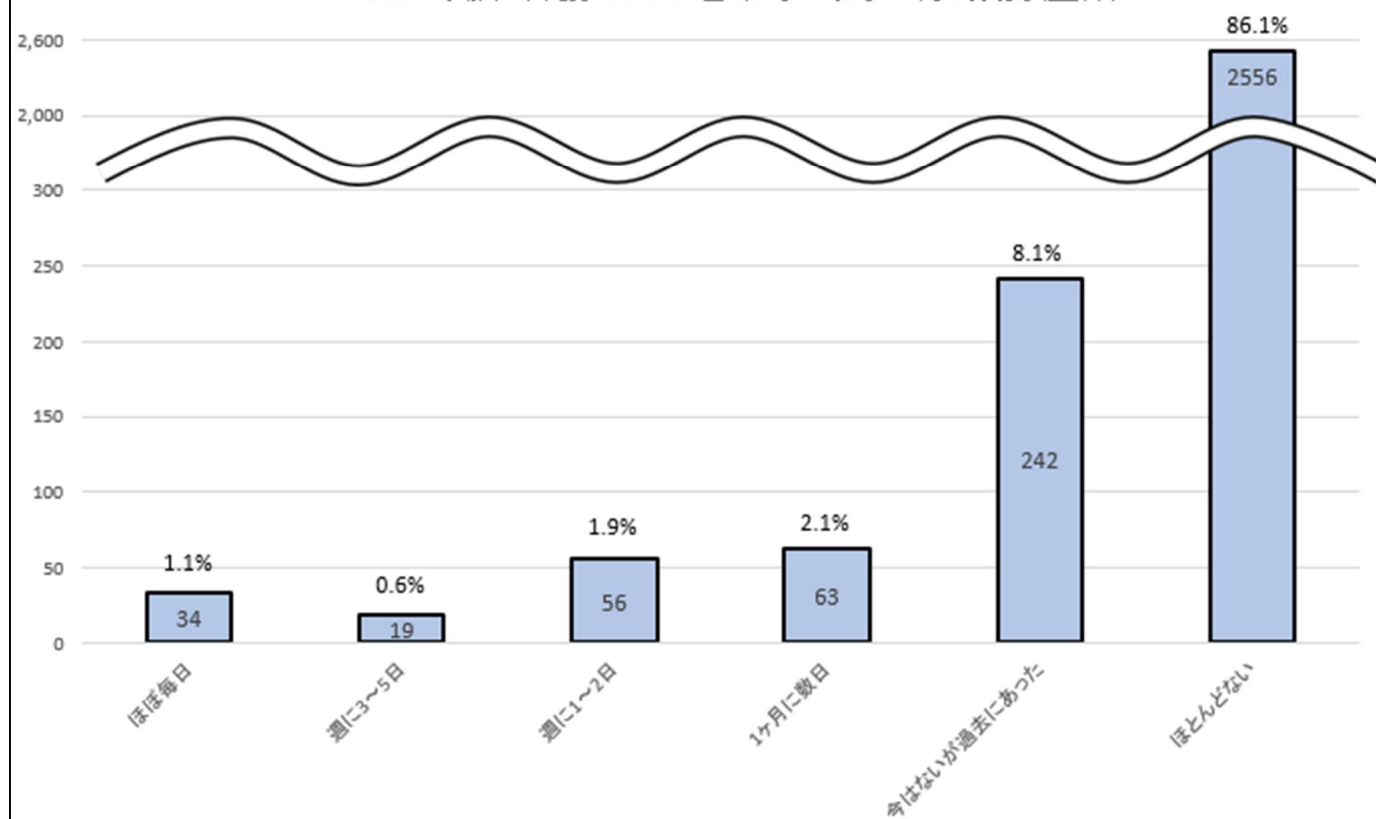
※ () 割合 (%)

59. 家族を介護及び日常的に家事を行う頻度

今回調査から追加された質問項目。病気や障害のある家族の介護・世話をしたり、病気の家族に代わって日常的に家事をすることがあるかを訊ねた。「ほぼ毎日」は1.1%、「週に3～5日」が0.6%、「週に1～2日」が1.9%、「1か月に数日」が2.1%となり、何らかの形で親の介護等を行っている学生は5.8%となった。また「今はないが、過去にあった」学生は8.1%となり、いわゆるヤングケアラーである（あった）学生は10人に1人ほどの割合となることが分かった。男子学生より女子学生、学部生より大学院生の割合が高くなっている。

	ほぼ毎日	週に3～5 日	週に1～2 日	1ヶ月に 数日	今はない が、過去 にあった	ほとんど ない
全体	1.1%	0.6%	1.9%	2.1%	8.1%	86.1%
男	1.0%	0.6%	1.7%	2.1%	7.7%	86.9%
女	1.4%	0.7%	2.2%	2.2%	8.6%	84.9%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
回答しない	0.0%	2.2%	2.2%	0.0%	13.3%	82.2%
留学生	3.7%	0.7%	3.4%	3.0%	36.6%	52.6%
国内生	0.9%	0.6%	1.7%	2.0%	5.3%	89.4%
単身生活	0.6%	0.1%	0.7%	1.4%	13.2%	84.1%
家族・親族と同居	1.6%	1.0%	2.7%	2.7%	4.4%	87.6%
友人と同居	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	10.6%	87.2%
他人と同居	0.0%	8.7%	4.3%	0.0%	8.7%	78.3%
学部生	0.6%	0.6%	1.4%	1.8%	5.6%	90.0%
大学院生	2.2%	0.8%	2.8%	2.8%	13.2%	78.1%
農学部	0.3%	0.7%	1.5%	2.2%	6.4%	88.8%
工学部	0.8%	0.5%	1.4%	1.4%	5.0%	91.0%
農学府修士課程	2.0%	0.4%	3.1%	3.9%	12.2%	78.4%
大学院農学府博士課程	5.0%	7.5%	5.0%	2.5%	25.0%	55.0%
工学府博士前期課程	1.0%	0.3%	1.6%	2.2%	8.0%	86.9%
工学府博士後期課程	3.2%	0.0%	3.2%	2.1%	13.8%	77.7%
工学府専門職学位課程	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	97.2%
連合農学研究科博士課程	4.0%	0.0%	4.0%	3.2%	22.6%	66.1%
B A S E	3.1%	2.3%	3.9%	2.3%	18.6%	69.8%

Q59 家族を介護 および日常的に家事を行う頻度(全体)



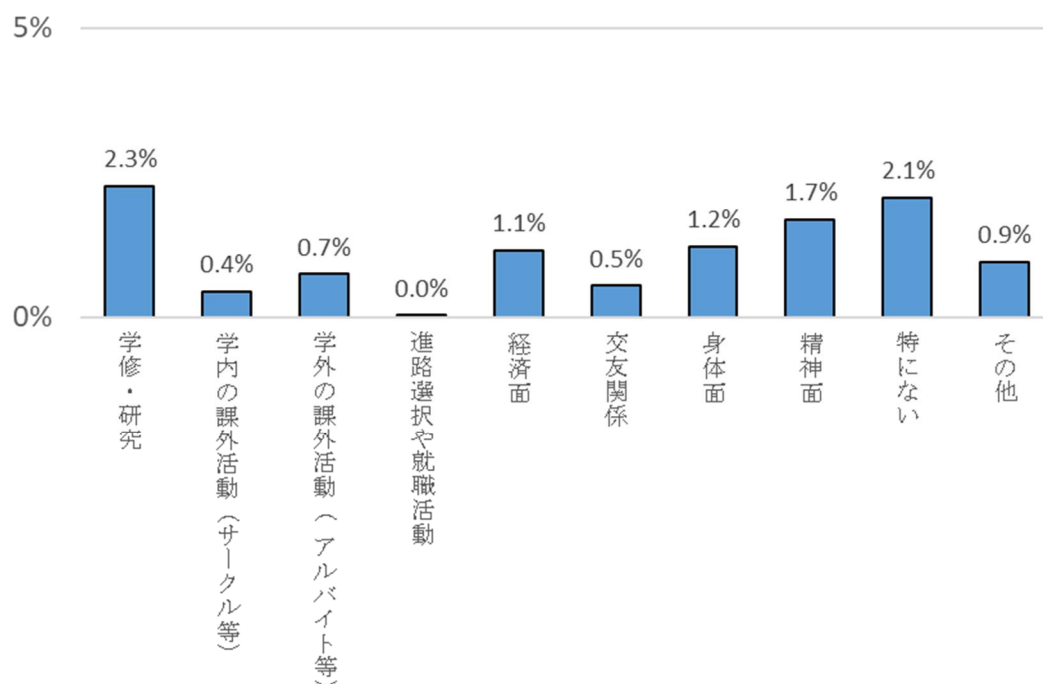
60. 家族の介護等を行うことにより感じる負担

家族の介護等を行っている（「ほぼ毎日」～「1ヶ月に数日」）と回答した人に、支障や負担を感じることを複数回答で訊ねた。「学修・研究（2.3%）」との回答が最も多く、次いで「特にない（2.1%）」、「精神面（1.7%）」、「身体面（1.2%）」「経済面（1.1%）」となった。男女差があり、特に女子学生に多くの負担がかかっていることが推察される。

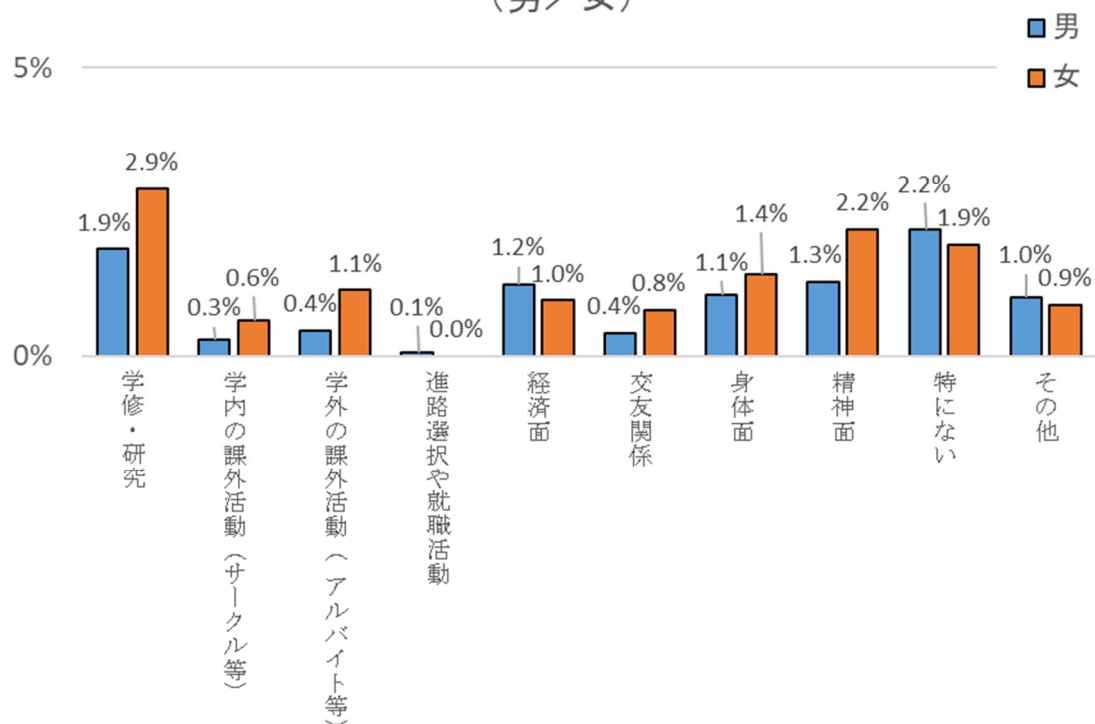
Q60-1. 家族の介護等を行うことにより感じる負担【%】

	学修・研究	学内の課外活動（サークル等）	学外の課外活動（アルバイト等）	進路選択や就職活動	経済面	交友関係	身体面	精神面	特にない	その他
全体	2.3	0.4	0.7	0.0	1.1	0.5	1.2	1.7	2.1	0.9
男	1.9	0.3	0.4	0.1	1.2	0.4	1.1	1.3	2.2	1.0
女	2.9	0.6	1.1	0.0	1.0	0.8	1.4	2.2	1.9	0.9
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答しない	2.2	2.2	2.2	0.0	2.2	0.0	2.2	4.4	0.0	0.0
留学生	4.5	1.1	1.5	0.4	4.9	1.1	1.9	3.0	1.9	2.2
国内生	2.0	0.4	0.7	0.0	0.8	0.5	1.1	1.6	2.1	0.8
単身生活	1.1	0.2	0.3	0.1	1.2	0.2	0.6	0.9	0.2	0.4
家族・親族と同居	3.0	0.6	1.1	0.0	1.1	0.8	1.7	2.3	3.4	1.4
友人と同居	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0
他人と同居	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0
学部生	1.7	0.5	0.8	0.0	0.6	0.5	1.0	1.2	1.6	0.6
大学院生	3.4	0.4	0.7	0.1	2.3	0.6	1.7	2.6	3.0	1.7
農学部	1.7	0.3	0.9	0.0	0.5	0.3	1.3	1.5	1.6	0.7
工学部	1.6	0.5	0.6	0.0	0.6	0.6	0.7	1.0	1.5	0.5
農学府修士課程	2.0	0.4	1.2	0.0	3.1	0.4	0.0	2.7	3.1	1.6
大学院農学府博士課程	15.0	0.0	0.0	0.0	10.0	2.5	7.5	10.0	5.0	7.5
工学府博士前期課程	1.3	0.3	0.3	0.3	1.0	0.3	0.3	0.3	3.2	1.0
工学府博士後期課程	5.3	0.0	1.1	0.0	2.1	0.0	3.2	4.3	2.1	2.1
工学府専門職学位課程	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0
連合農学研究科博士課程	6.5	0.8	0.8	0.0	2.4	1.6	3.2	3.2	3.2	2.4
BASE	5.0	0.8	0.8	0.0	2.3	0.8	4.7	3.1	3.1	1.6

Q60-2. 家族の介護等を行うことにより感じる負担
(全体)



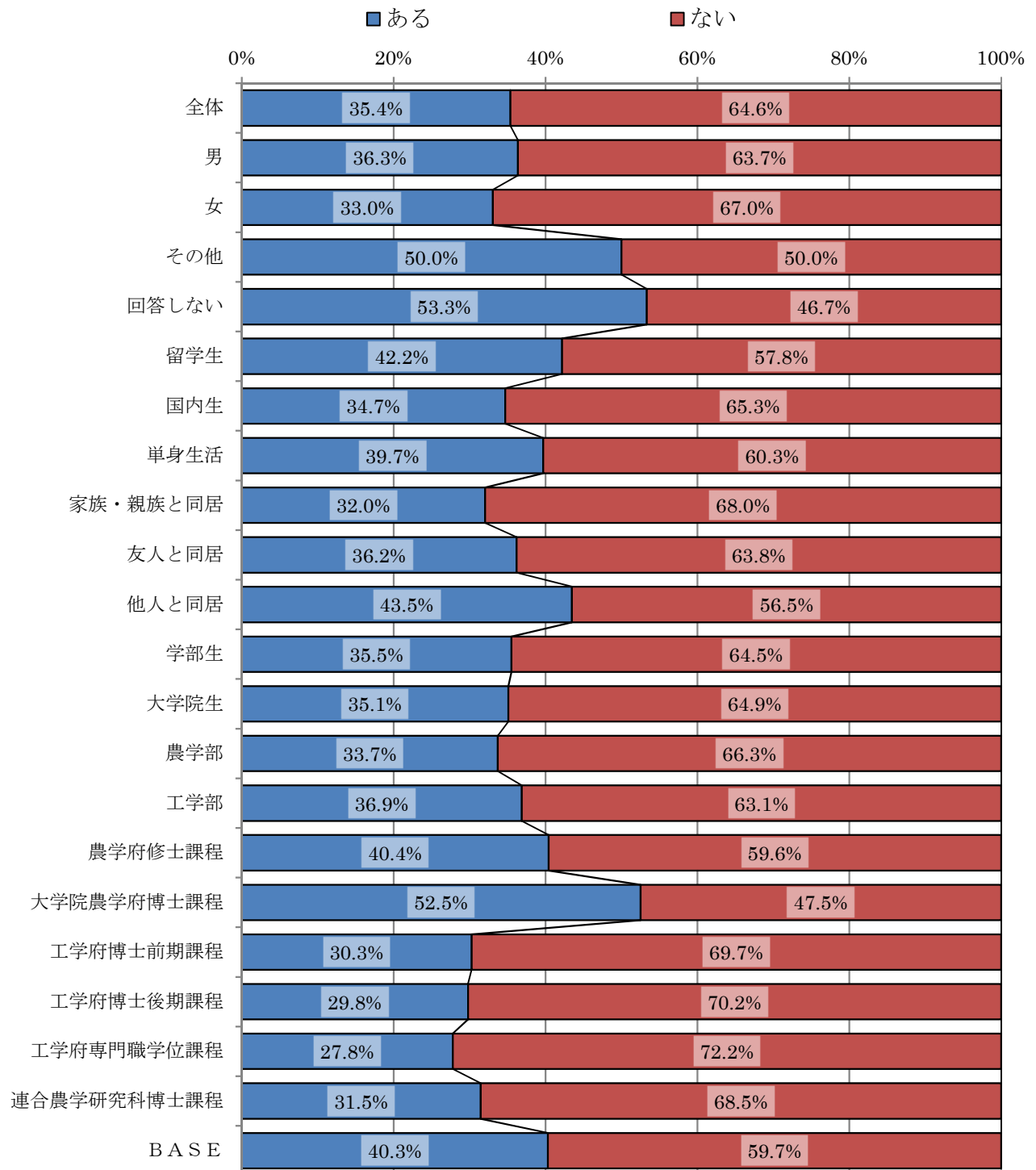
Q60-3. 家族の介護等を行うことにより感じる負担
(男/女)



6 1. 大学生活で困ったことの有無

全体では、困ったことが「ある」が35.4%と前回（38.9%）から減少。女子学生より男子学生、農学部より工学部の学生でやや「困ったことがある」割合が高い。また農学府修士、大学院農学府博士課程、BASEの学生で「困ったことがある」の割合は平均より高くなっている。

Q61-1. 大学生活で困ったことの有無



6 2. 相談相手

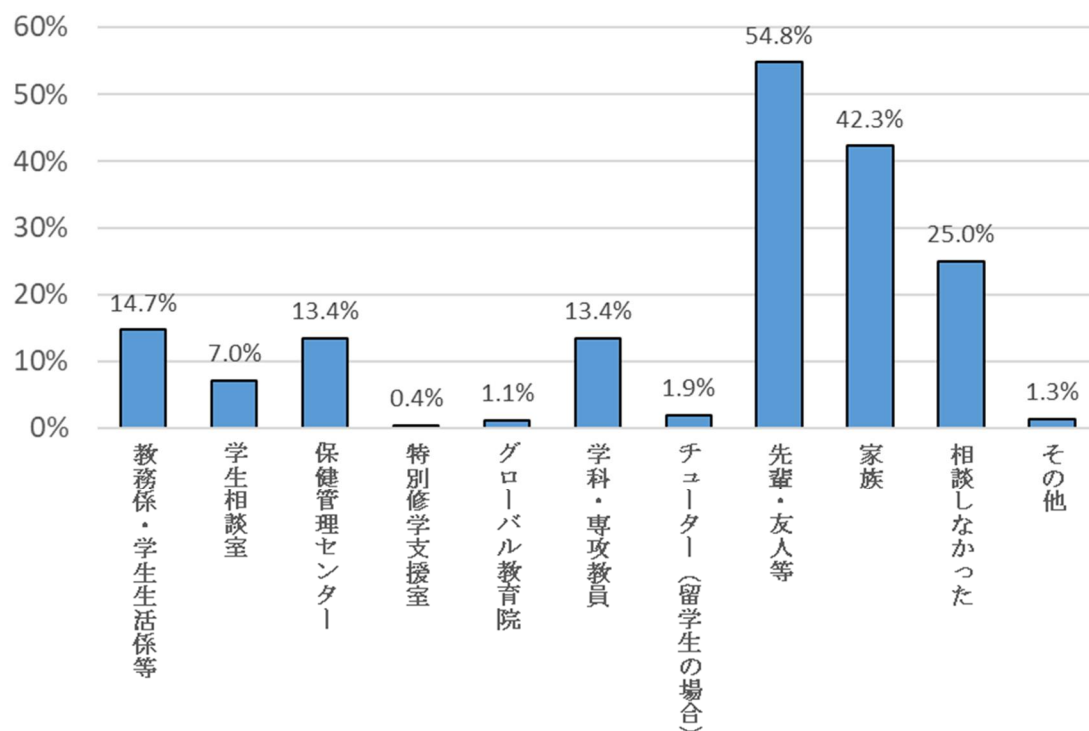
困ったことがあると回答した人に対して、困ったときの相談相手（場所）について複数回答可で回答を求めた。全体的傾向として前回同様「先輩・友人等」が最も高く（54.8%）となっている。次いで「家族」が42.3%（前回39.0%）と調査のたびに増えている。相談先が増えている一方で、誰にも「相談しなかった」と回答した割合が25.0%となり、前回（27.9%）よりは減少したものの、依然として高い値となっている。男女差があり、女子学生は家族や友人、学内の相談部署に比較的相談できているが、男子学生は「誰にも相談してない」割合が29.6%と高い。

「学生相談室」や「保健管理センター」など学内の相談窓口の利用は、前回より増加しており、相談しやすくなっていると思われる（前回それぞれ5.1%、9.5%）。家族は「悩みの相手（Q58）」になることも増えているが、相談相手にもなっており、特に学部生を中心に家族との関係が密接になっていることが推察される。その他の相談先として、学外の精神科クリニックとの回答も数件あった。

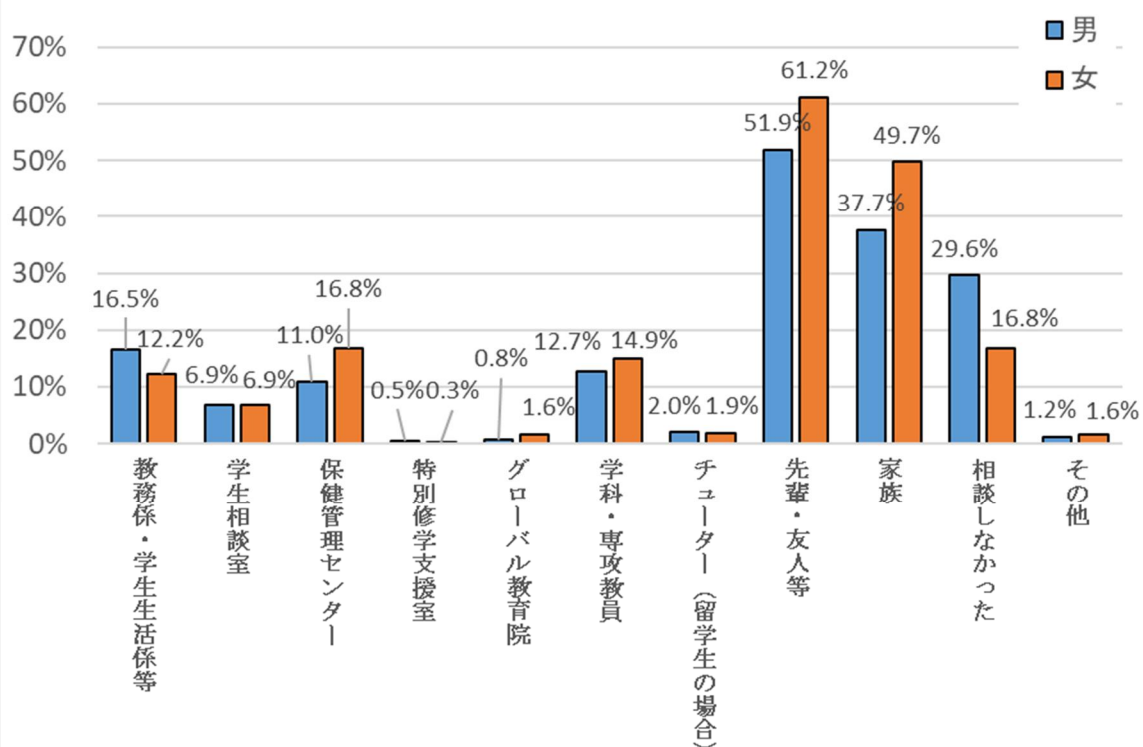
Q 6 2 - 1. 相談相手

	教務 係・学 生生活 係等	学生相 談室	保健管 理セン ター	特別修 学支援 室	グロー バル教 育院	学科・ 専攻教 員	チュー ター （留学 生の場合）	先輩・ 友人等	家族	相談し なかつ た	その他
全体	14.7%	7.0%	13.4%	0.4%	1.1%	13.4%	1.9%	54.8%	42.3%	25.0%	1.3%
男	16.5%	6.9%	11.0%	0.5%	0.8%	12.7%	2.0%	51.9%	37.7%	29.6%	1.2%
女	12.2%	6.9%	16.8%	0.3%	1.6%	14.9%	1.9%	61.2%	49.7%	16.8%	1.6%
その他	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%
回答しない	4.2%	12.5%	20.8%	0.0%	4.2%	8.3%	0.0%	33.3%	45.8%	29.2%	0.0%
留学生	18.6%	12.4%	10.6%	0.9%	5.3%	21.2%	16.8%	55.8%	43.4%	16.8%	2.7%
国内生	14.2%	6.4%	13.8%	0.3%	0.6%	12.5%	0.1%	54.6%	42.2%	25.9%	1.2%
单身生活	12.9%	6.0%	12.7%	0.6%	2.3%	14.8%	3.7%	56.7%	46.0%	22.6%	1.8%
家族・親族と同居	15.9%	7.6%	14.0%	0.2%	0.2%	12.1%	0.2%	53.2%	39.6%	27.4%	0.9%
友人と同居	17.6%	11.8%	17.6%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	47.1%	23.5%	17.6%	0.0%
他人と同居	30.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%	10.0%	60.0%	40.0%	20.0%	0.0%
学部生	14.5%	6.0%	11.7%	0.3%	1.0%	10.7%	0.9%	56.1%	44.6%	26.4%	0.9%
大学院生	14.9%	9.2%	17.0%	0.6%	1.4%	19.0%	4.0%	52.0%	37.6%	22.1%	2.3%
農学部	12.6%	5.1%	14.0%	0.0%	1.4%	13.3%	0.3%	58.4%	50.5%	23.2%	1.0%
工学部	15.9%	6.6%	10.0%	0.5%	0.7%	8.8%	1.2%	54.5%	40.3%	28.6%	0.7%
農学府修士課程	11.7%	6.8%	17.5%	0.0%	0.0%	18.4%	2.9%	60.2%	40.8%	21.4%	1.9%
工学府博士前期課程	13.7%	8.4%	15.8%	1.1%	1.1%	9.5%	1.1%	53.7%	36.8%	27.4%	0.0%
工学府専門職学位課程	30.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	60.0%	30.0%	0.0%	0.0%
連合農学研究科博士課程	17.9%	7.7%	7.7%	2.6%	7.7%	38.5%	7.7%	53.8%	46.2%	20.5%	5.1%
工学府博士後期課程	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	3.6%	28.6%	7.1%	21.4%	32.1%	28.6%	3.6%
大学院農学府博士課程	19.0%	19.0%	14.3%	0.0%	0.0%	19.0%	9.5%	42.9%	33.3%	14.3%	4.8%
B A S E	9.6%	11.5%	23.1%	0.0%	0.0%	19.2%	5.8%	50.0%	32.7%	19.2%	3.8%

Q62-2. 相談相手や場所(全体)



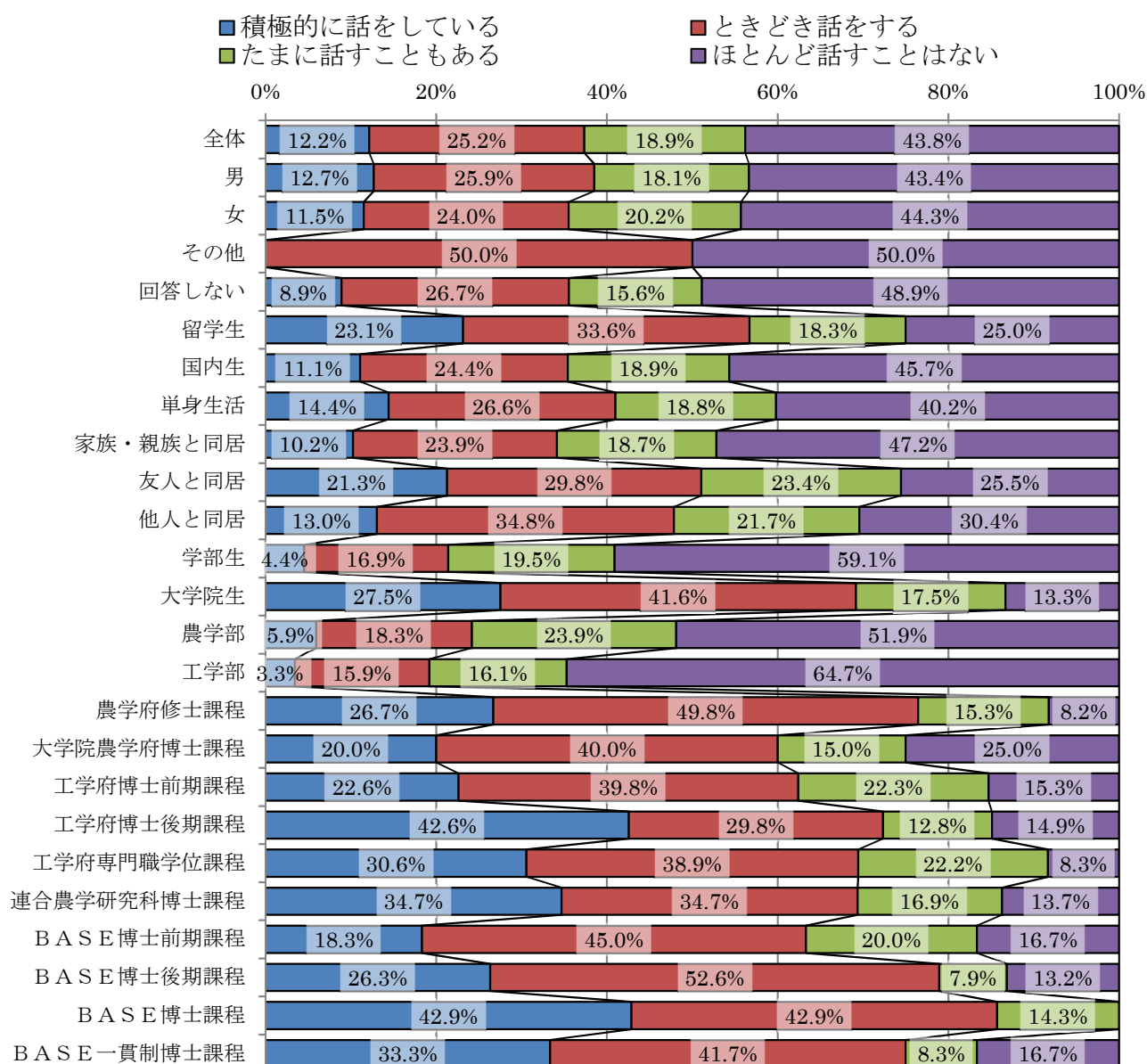
Q62-3. 相談相手や場所(男/女)



63. 教員との対話

全体では「積極的に話をしている」12.2%（前回 11.6%）「ときどき話をする」25.2%（前回 25.4%）とほぼ変わらず、「ほとんど話すことはない」も43.8%と前回（44.2%）と同じような割合となった。学部生で教員との対話がほとんどない学生は前回同様約6割もあり、工学部では64.7%と前回よりも増加している。工学府後期博士課程では前回調査より教員との交流は増加している。しかし依然として大学院修士・博士課程の1割以上の学生が教員との対話がほとんどないという結果になった。

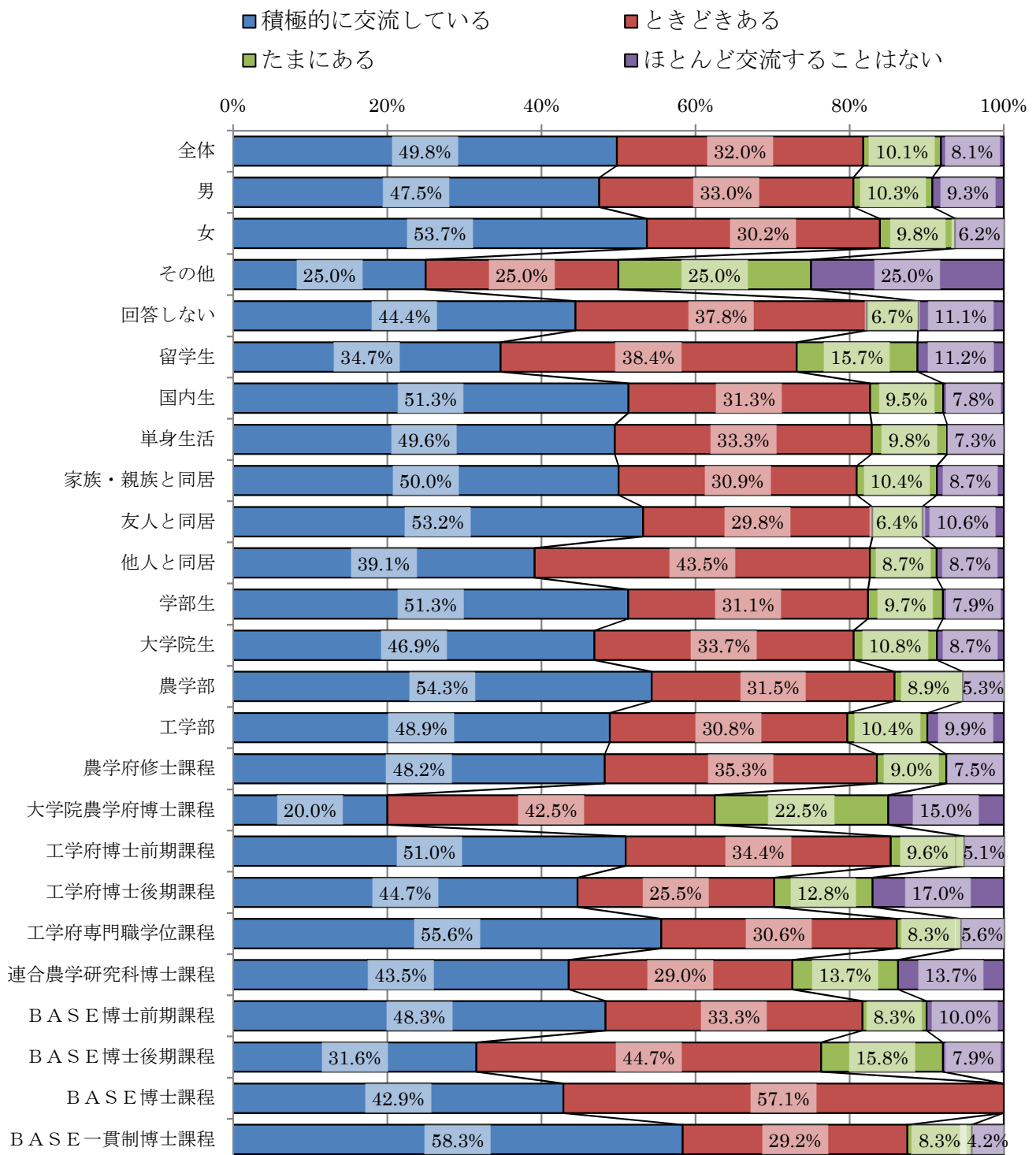
Q63-1. 教員との会話



6 4. 学生同士の交流

「積極的に交流している」と回答した割合は、前回調査で 41.0%と低くなっていたが、今回は 49.8%とコロナ前の水準（52.9%）にもどってきている。「積極的に交流」と「ときどきある」を合わせると約 82%となった一方で、「ほとんど交流することはない」は 8.1%（前回 10.7%）と依然として高い値といえる。特に男子学生でその傾向が強い。

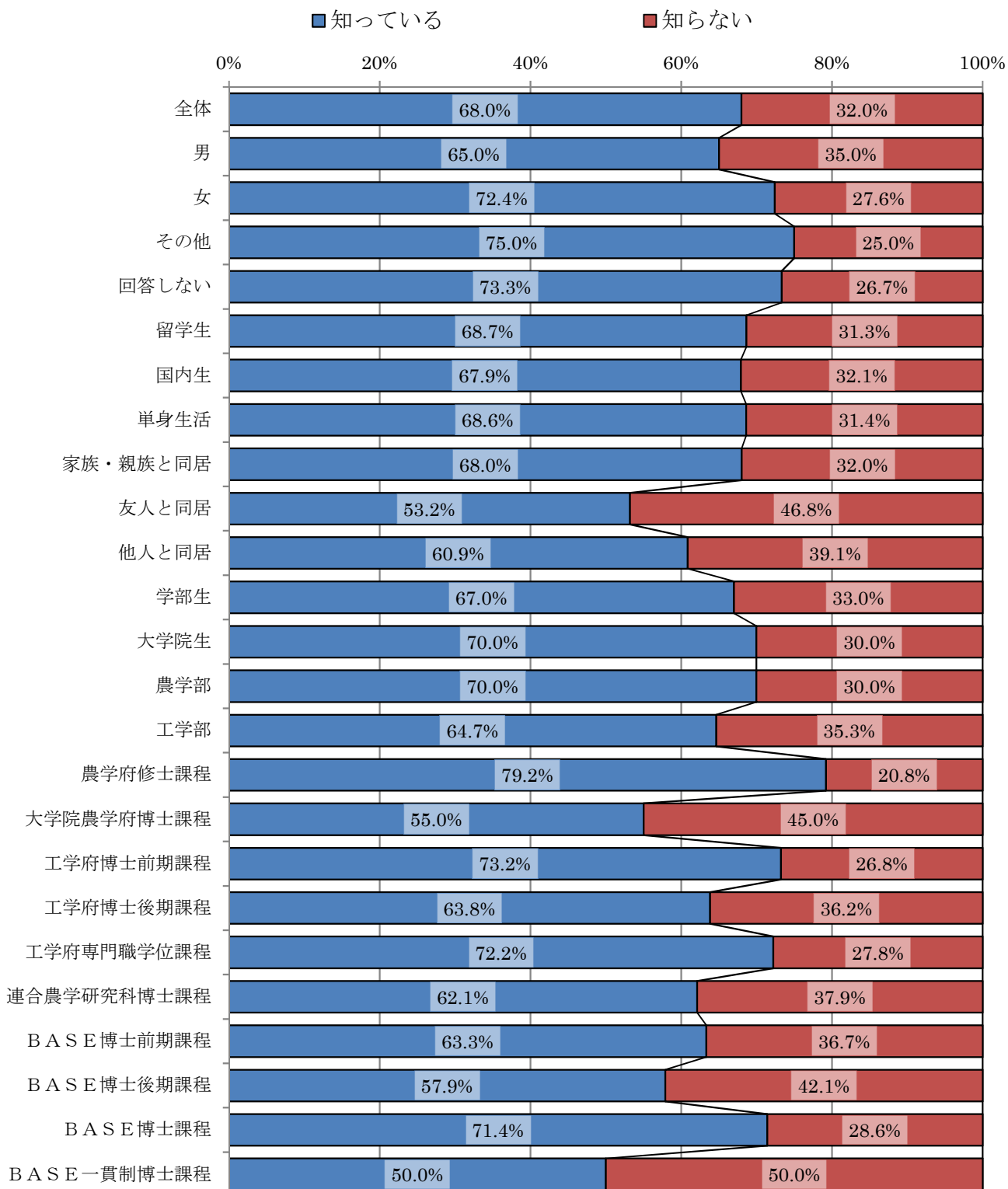
Q64-1. 学生同士の交流



65. 学生相談室の認知度

各キャンパスに学業・進路・就職などの相談に応じる学生相談室が開設されているのを知っているかの問いに、全体の68.0%が「知っている」と回答した。前回調査は70.0%で、同じような値となっている。工学部でやや認知度が低い。

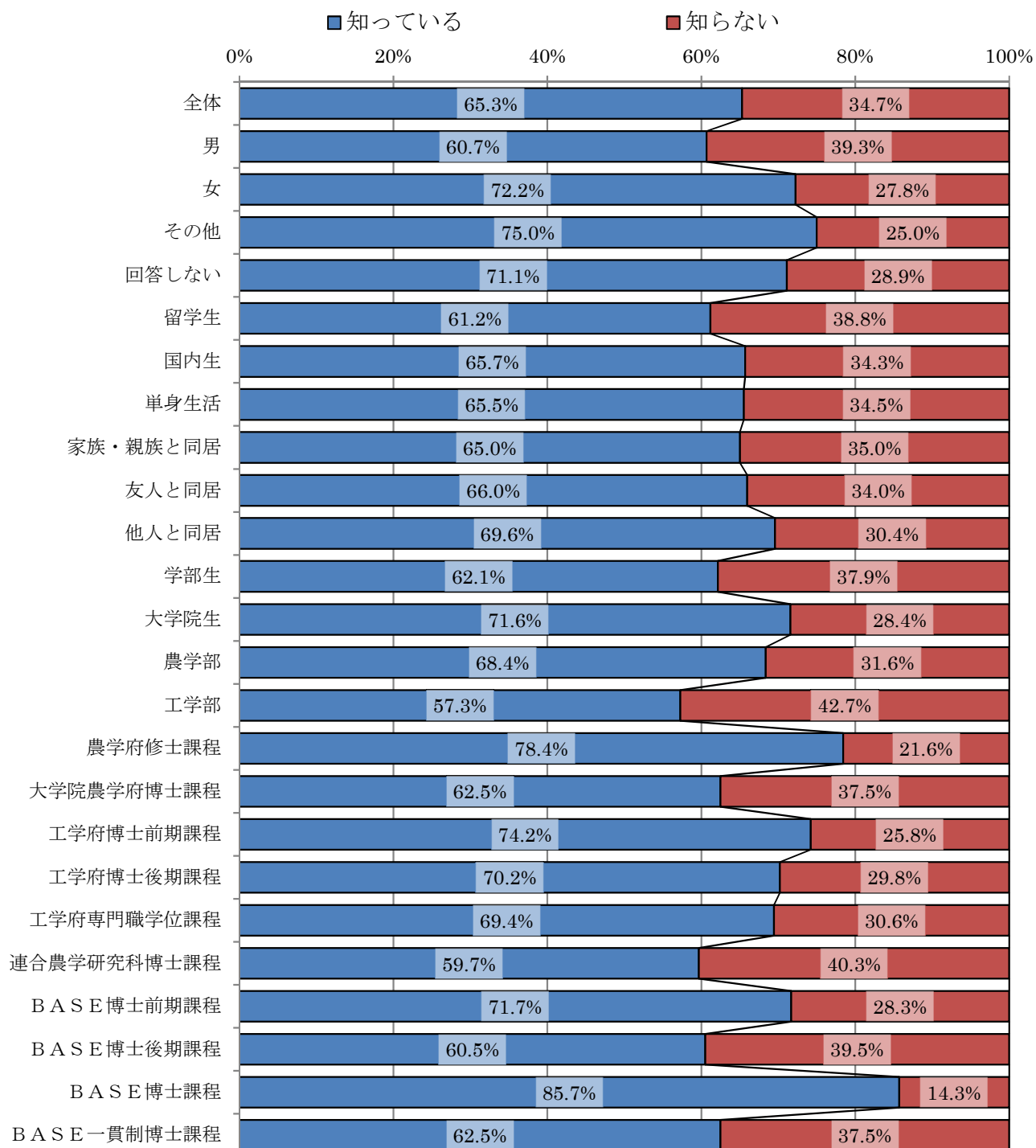
Q65-1. 学生相談室の認知



66. 保健管理センター カウンセラーの認知度

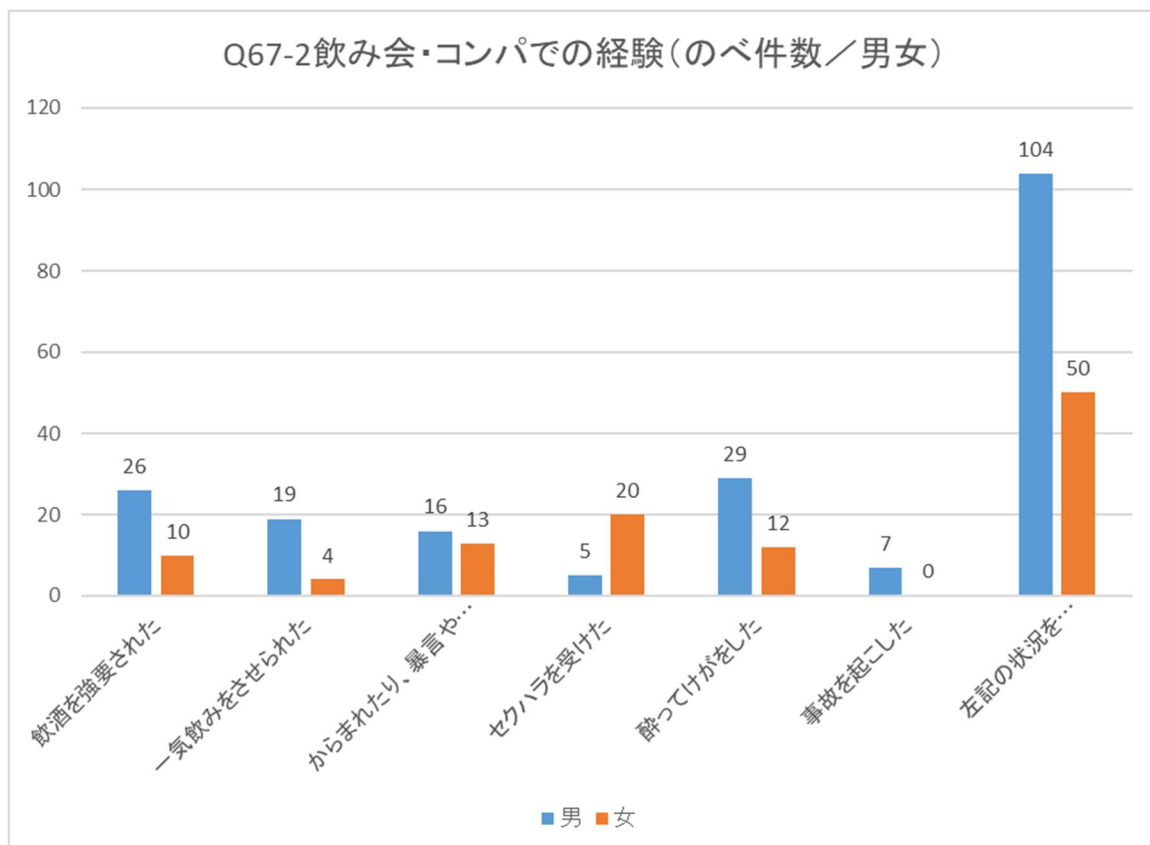
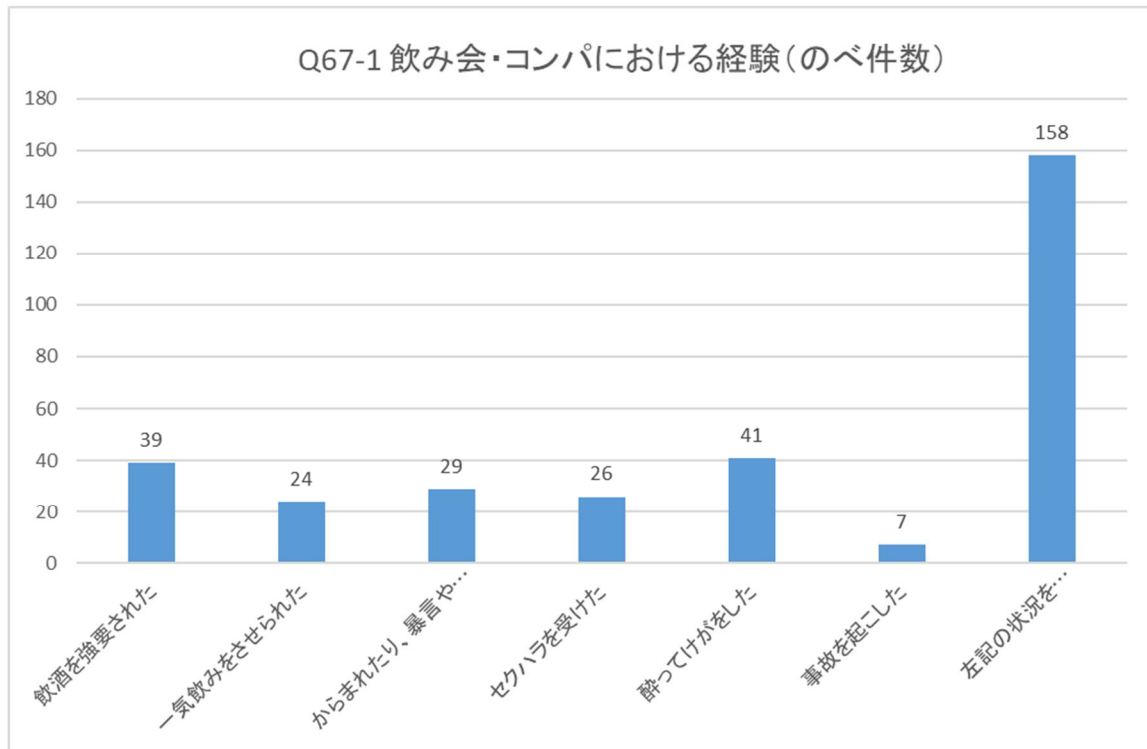
カウンセラーの認知度は全体で 65.3%となり前回（70.0%）よりやや減少。工学部生および留学生での認知度がやや低く、周知方法の工夫が求められる。

Q66-1. 保健管理センター カウンセラーの認知度



67. 飲み会・コンパにおける経験

飲み会やコンパでの不快・危険経験について複数回答可として以下の項目についての経験を訊ねた。有効回答のうち全体の92.1%（2735人）は「経験なし」と回答しており、前回（74.0%）より件数、割合ともに減少した。しかし依然として女子学生の「セクハラを受けた」件数は減少しておらず、女子学生の「酔ってケガをした」件数は前回調査よりも多い値となっている。引き続き飲み会等でのマナーやセクハラ防止については注意していく必要があるだろう。



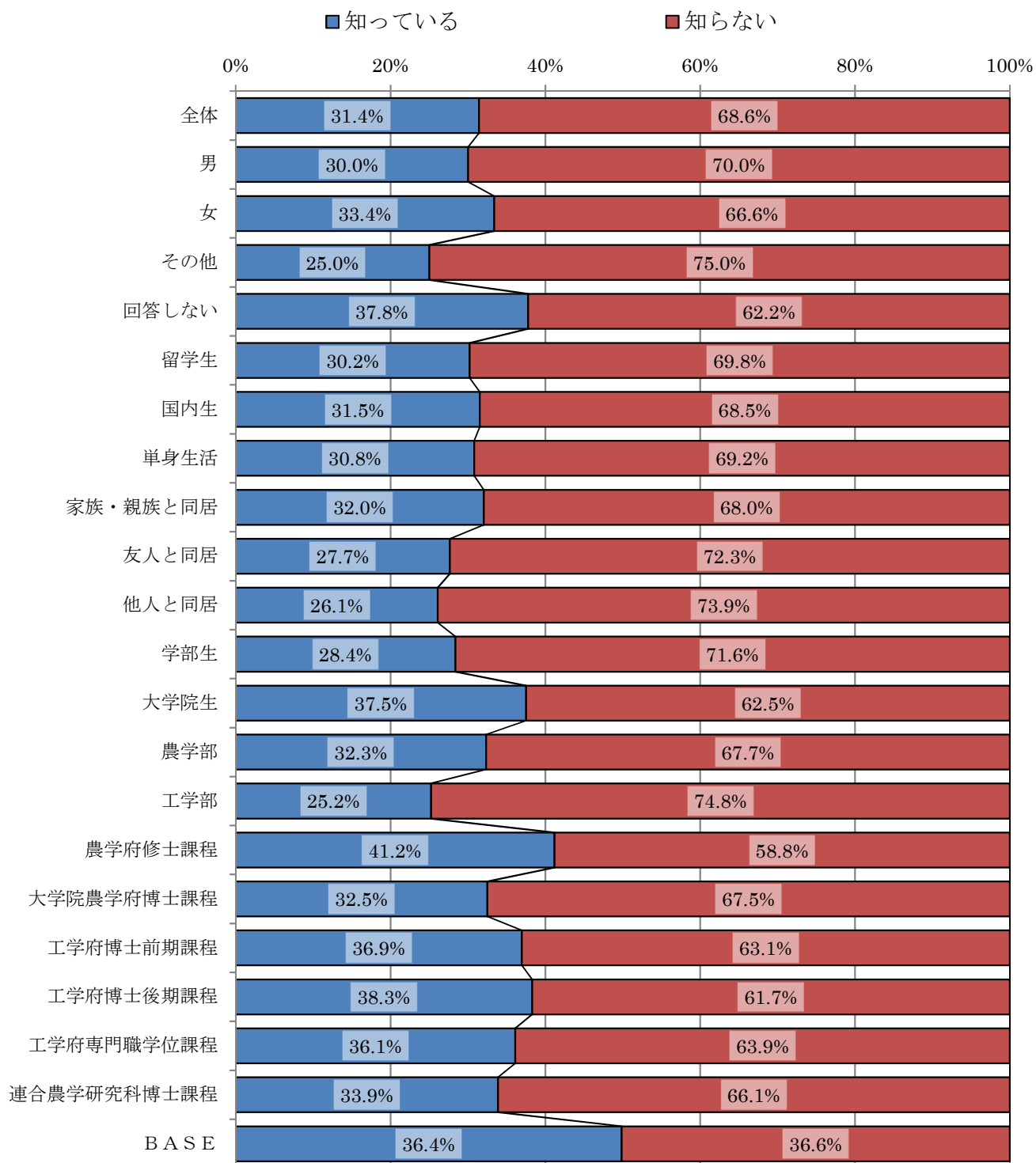
Q 6 7 - 3 . 飲 み 会 ・ コ ン パ に お け る 経 験

	飲酒を強 要された	一気飲み をさせら れた	からまれ たり、暴 言や暴力 を受けた	セクハラ を受けた	酔ってけ がをした	事故を起 こした	左記の状 況を目撃 したこと がある	経験なし
全体	1.3%	0.8%	1.0%	0.9%	1.4%	0.2%	5.3%	92.1%
男	1.5%	1.1%	0.9%	0.3%	1.6%	0.4%	5.8%	91.8%
女	0.9%	0.4%	1.1%	1.8%	1.1%	0.0%	4.4%	92.9%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%
回答しない	6.7%	2.2%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	6.7%	84.4%
留学生	1.1%	0.4%	0.0%	0.7%	0.4%	0.0%	4.1%	94.8%
国内生	1.3%	0.9%	1.1%	0.9%	1.5%	0.3%	5.4%	91.8%
単身生活	1.5%	0.6%	0.9%	0.6%	1.7%	0.3%	5.8%	91.8%
家族・親族と同居	1.0%	0.8%	1.0%	1.0%	1.1%	0.1%	4.8%	92.6%
友人と同居	4.3%	2.1%	4.3%	4.3%	2.1%	2.1%	12.8%	85.1%
他人と同居	13.0%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	87.0%
学部生	0.9%	0.5%	0.9%	0.7%	0.9%	0.2%	4.6%	93.6%
大学院生	2.1%	1.4%	1.2%	1.2%	2.3%	0.3%	6.9%	89.1%
農学部	0.9%	0.7%	1.3%	0.8%	1.0%	0.1%	5.1%	93.1%
工学部	0.9%	0.4%	0.5%	0.6%	0.8%	0.3%	4.1%	94.0%
農学府修士課程	3.1%	1.6%	2.0%	1.6%	3.1%	0.4%	7.8%	86.3%
工学府博士前期課程	1.6%	1.0%	0.6%	0.6%	2.2%	0.0%	6.7%	90.8%
工学府専門職学位課程	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	8.3%	86.1%
連合農学研究科博士課程	1.6%	1.6%	0.8%	2.4%	0.8%	0.8%	4.8%	91.9%
工学府博士後期課程	2.1%	1.1%	0.0%	3.2%	2.1%	1.1%	9.6%	88.3%
大学院農学府博士課程	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	95.0%
B A S E	3.1%	3.1%	3.1%	0.0%	2.3%	0.0%	5.4%	87.6%

68. ハラスメント相談室の認知度

ハラスメント相談室は平成 18 年度より各キャンパスに毎週 1 回開室されている。相談室の認知度は、全体で 31.4%（前回 35.7%）で、低い値が続いている。特に工学部学生のハラスメント相談室の認知度は前回より上昇したとはいえ、他の学科等に比べて低い。

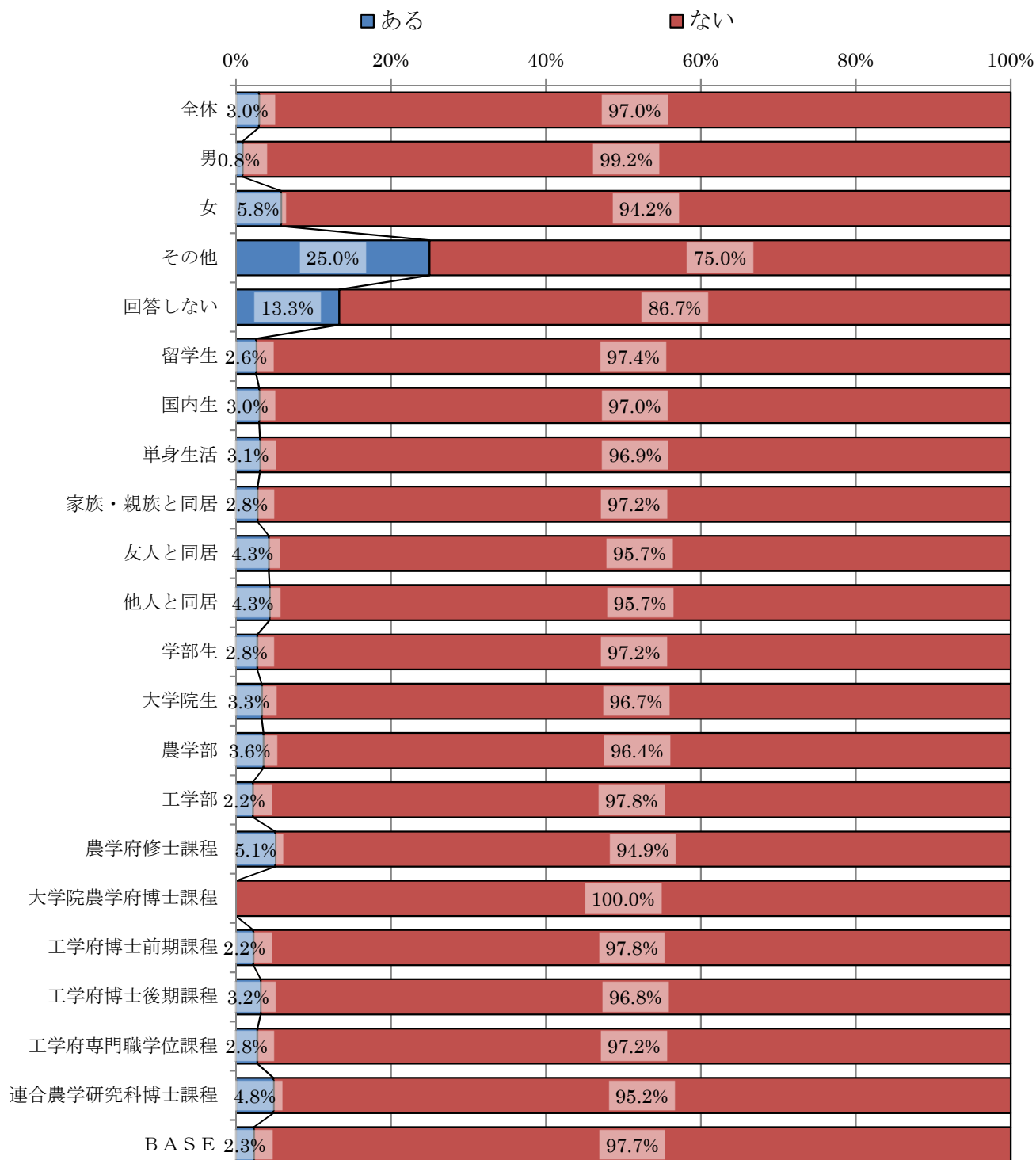
Q68－1. ハラスメント相談室の認知度



69. セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

全体で 3.0%の学生がセクハラ以外のハラスメントを受けた経験があると回答しており、前回（4.6%）から引き続き減少傾向。しかし、農学府修士課程および連合農学研究科博士課程で平均より高い傾向は変わらず。

Q69-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた経験



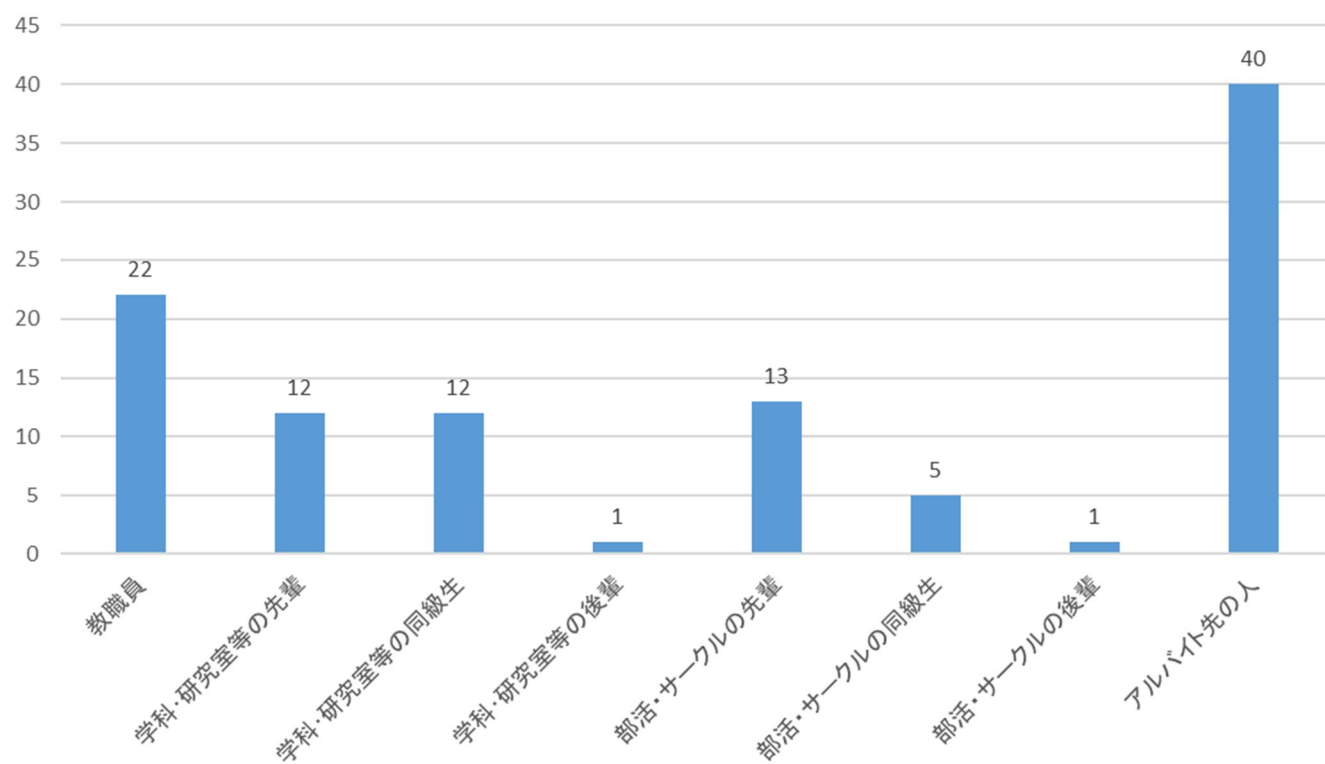
70. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手

セクシュアル・ハラスメントを受けたことが「ある」と回答した 88 件のうち、その「相手」をたずねた（複数回答）。回答者の 75.0%は女性で、「アルバイト先」が最も多く 31 件（全体で 40 件）となっている。ついで「教職員」が 22 件あり、前回より件数として増えている。「学科・研究室等の先輩」「学科・研究室等の同級生」「部活・サークル」内もやや多くなっている。

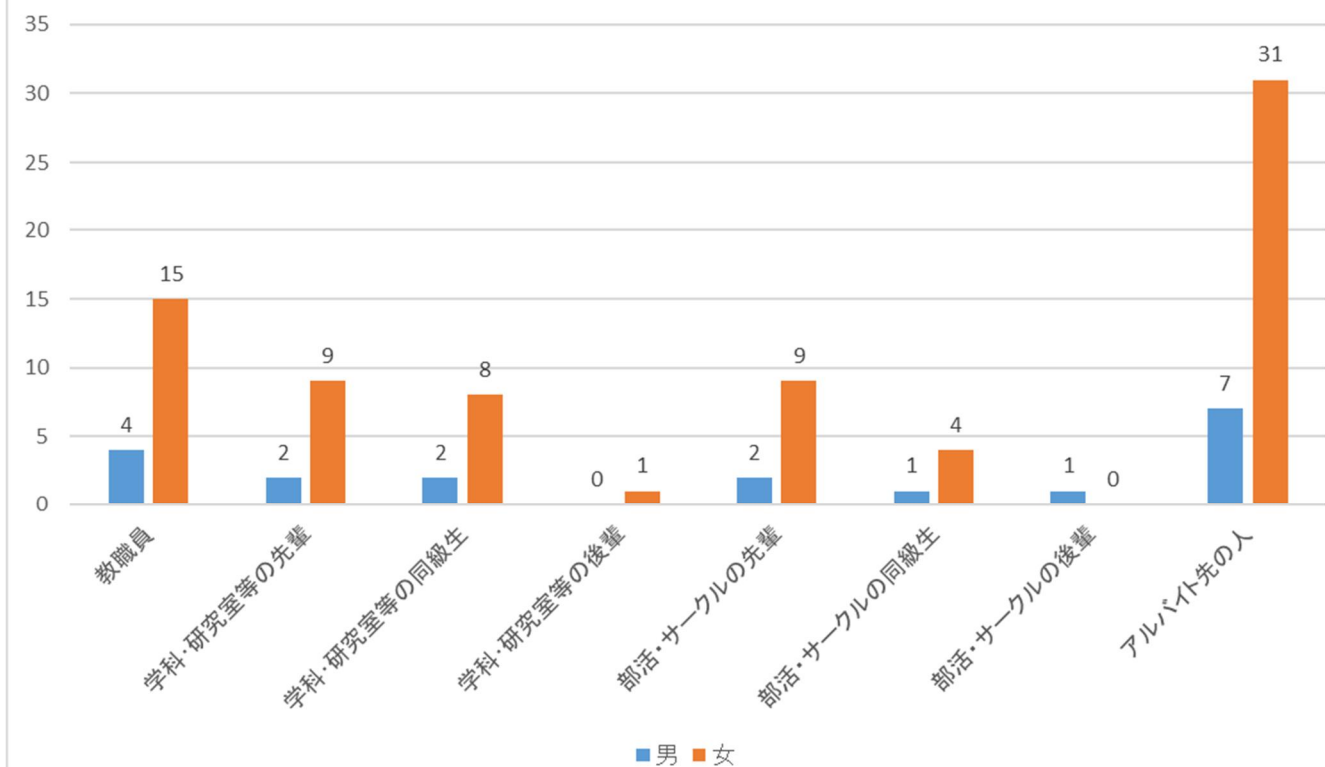
Q70-1. セクシュアル・ハラスメントを受けた相手（件数）

	教職員	学科・研究室等の先輩	学科・研究室等の同級生	学科・研究室等の後輩	部活・サークルの先輩	部活・サークルの同級生	部活・サークルの後輩	アルバイト先の人	回答者数
全体	22	12	12	1	13	5	1	40	88
男	4	2	2	0	2	1	1	7	15
女	15	9	8	1	9	4	0	31	66
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	1
回答しない	3	1	2	0	1	0	0	2	6
留学生	3	3	3	0	1	0	0	2	7
国内生	19	9	9	1	12	5	1	38	81
単身生活	8	5	5	1	6	0	0	21	38
家族・親族と同居	12	6	6	0	6	4	1	18	47
友人と同居	1	1	1	0	1	1	0	1	2
他人と同居	1	0	0	0	0	0	0	0	1
学部生	15	4	8	0	8	3	1	27	55
大学院生	7	8	4	1	5	2	0	13	33
農学部	9	3	4	0	6	2	0	13	31
工学部	6	1	4	0	2	1	1	14	24
農学府修士課程	3	1	1	0	2	1	0	7	13
工学府博士前期課程	0	2	1	0	2	1	0	4	7
工学府専門職学位課程	0	0	1	0	0	0	0	0	1
連合農学研究科博士課程	2	1	0	1	0	0	0	2	6
工学府博士後期課程	0	2	0	0	1	0	0	0	3
大学院農学府博士課程	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B A S E	2	2	1	0	0	0	0	0	3

Q70-2 セクシュアル・ハラスメントを受けた相手(のべ数／全体)



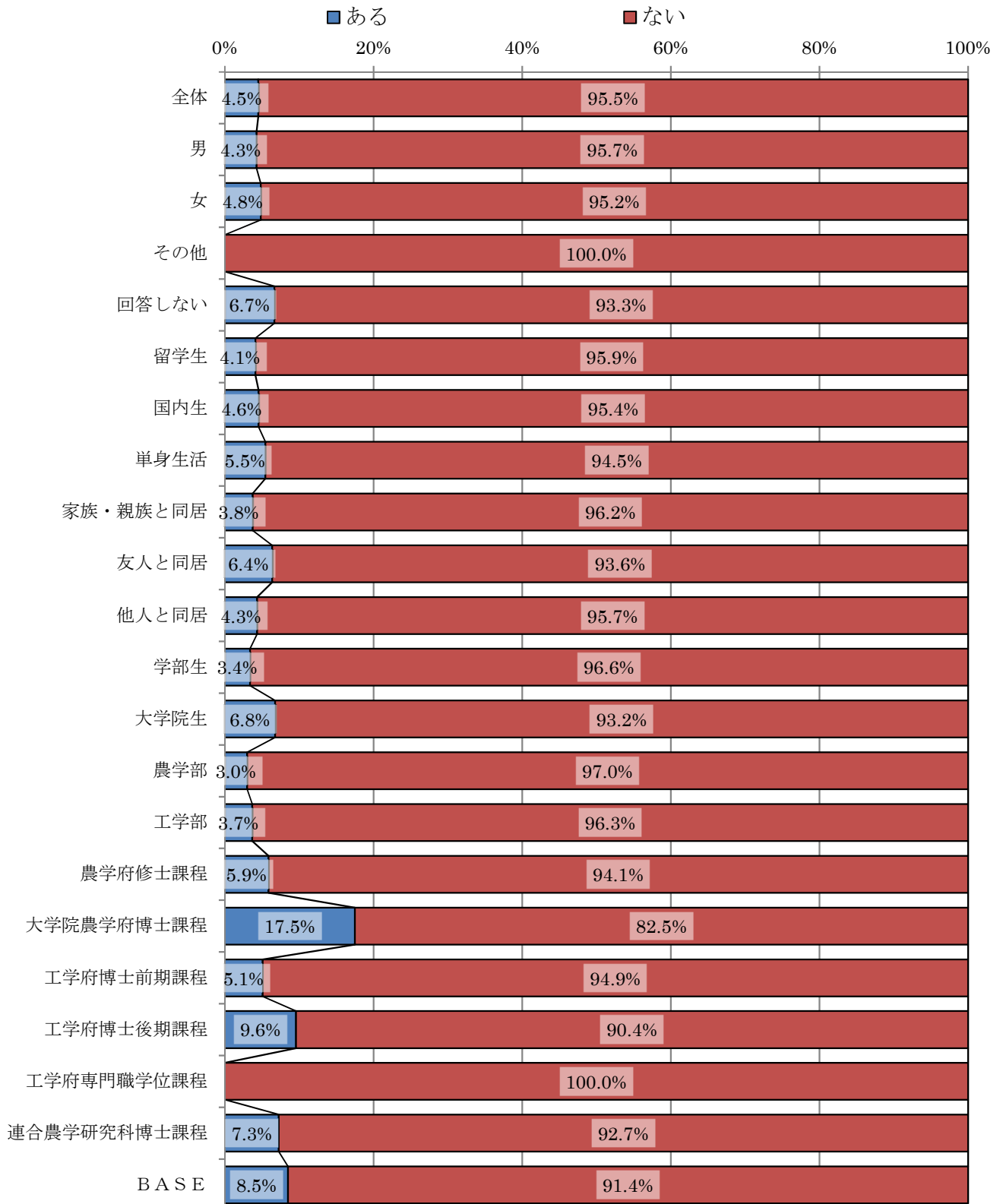
Q70-3 セクシュアルハラスメントを受けた相手(のべ数／男女)



71. セクハラ以外のハラスメントを受けた経験

全体で4.5%の学生がセクハラ以外のハラスメントを受けた経験があると回答しており、前回の4.6%と同様の結果となった。学部より大学院で多い傾向は前回と変わらず。農学部、農学府では前回よりやや減少した。一方で、大学院農学博士課程、連合農学研究科博士課程では実数は多くはないが割合としては前回より多い結果となった。

Q71-1. セクハラ以外のハラスメントを受けた経験

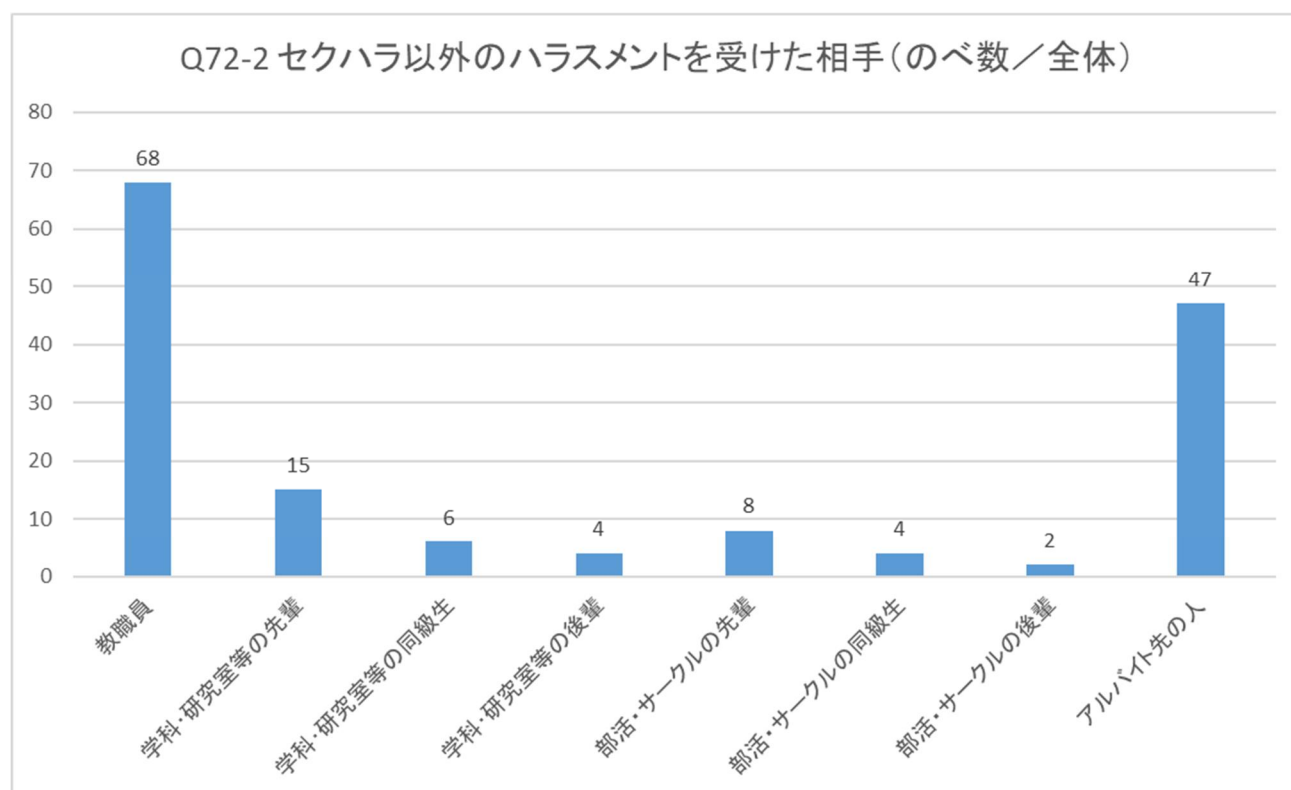


72. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手

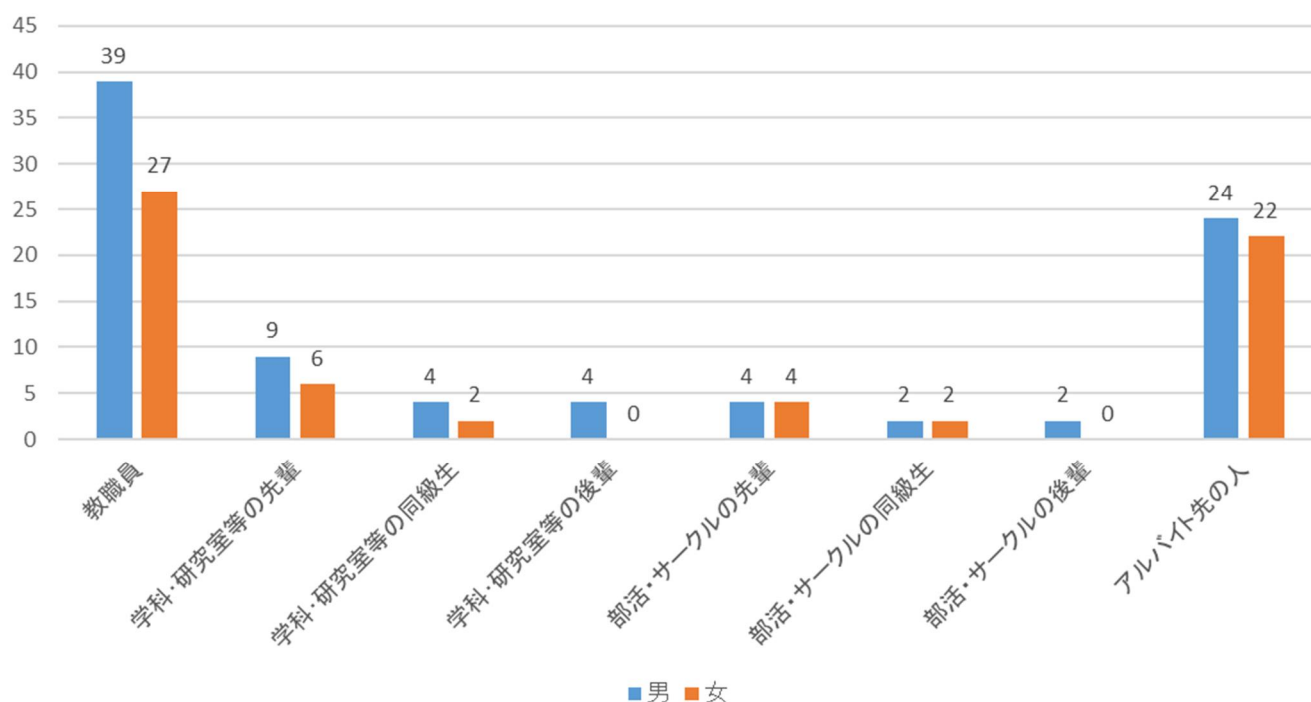
セクハラ以外のハラスメントを受けた相手については、「教職員」が 68 件（50.7%）で前回同様、約半数近くを占めている。「教職員」からのハラスメントは大学院生で割合が高く、指導教員との関係でハラスメントが生じている可能性がある。部活やサークル内の人からのハラスメントは件数としては少なくなっている。学部生を中心として「アルバイト先」でハラスメントを体験するものが少なくない。

Q72-1. セクハラ以外のハラスメントを受けた相手（件数）

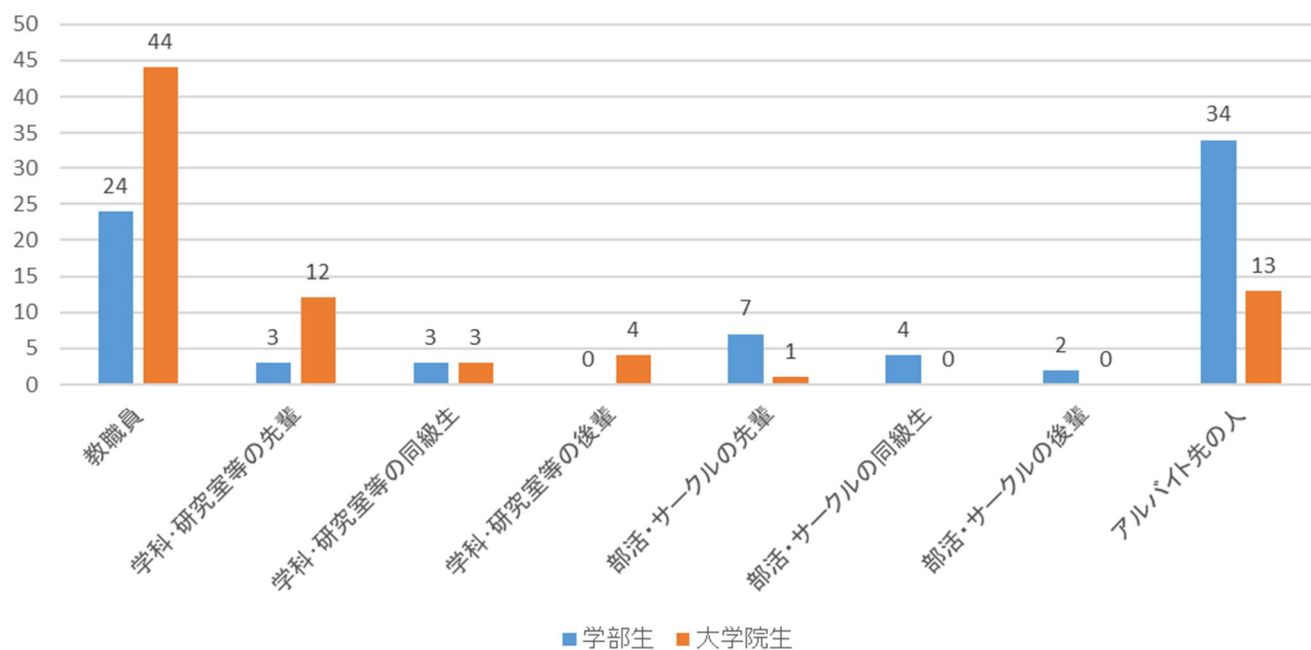
	教職員	学科・研究室等の先輩	学科・研究室等の同級生	学科・研究室等の後輩	部活・サークルの先輩	部活・サークルの同級生	部活・サークルの後輩	アルバイト先の人	回答者数
全体	68	15	6	4	8	4	2	47	134
男	39	9	4	4	4	2	2	24	76
女	27	6	2	0	4	2	0	22	55
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答しない	2	0	0	0	0	0	0	1	3
留学生	7	3	3	1	0	0	0	2	11
国内生	61	12	3	3	8	4	2	45	123
単身生活	33	9	4	3	5	2	1	25	67
家族・親族と同居	32	6	2	1	3	2	1	21	63
友人と同居	2	0	0	0	0	0	0	1	3
他人と同居	1	0	0	0	0	0	0	0	1
学部生	24	3	3	0	7	4	2	34	67
大学院生	44	12	3	4	1	0	0	13	67
農学部	7	3	1	0	4	2	1	11	26
工学部	17	0	2	0	3	2	1	23	41
農学部修士課程	9	1	1	0	0	0	0	5	15
工学府博士前期課程	10	4	0	0	1	0	0	4	16
工学府専門職学位課程	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連合農学研究科博士課程	7	1	1	0	0	0	0	1	9
工学府博士後期課程	4	1	0	1	0	0	0	3	9
大学院農学部博士課程	6	3	1	0	0	0	0	0	7
B A S E	8	2	0	3	0	0	0	0	11



Q72-3 セクハラ以外のハラスメントを受けた相手(のべ数／男女)



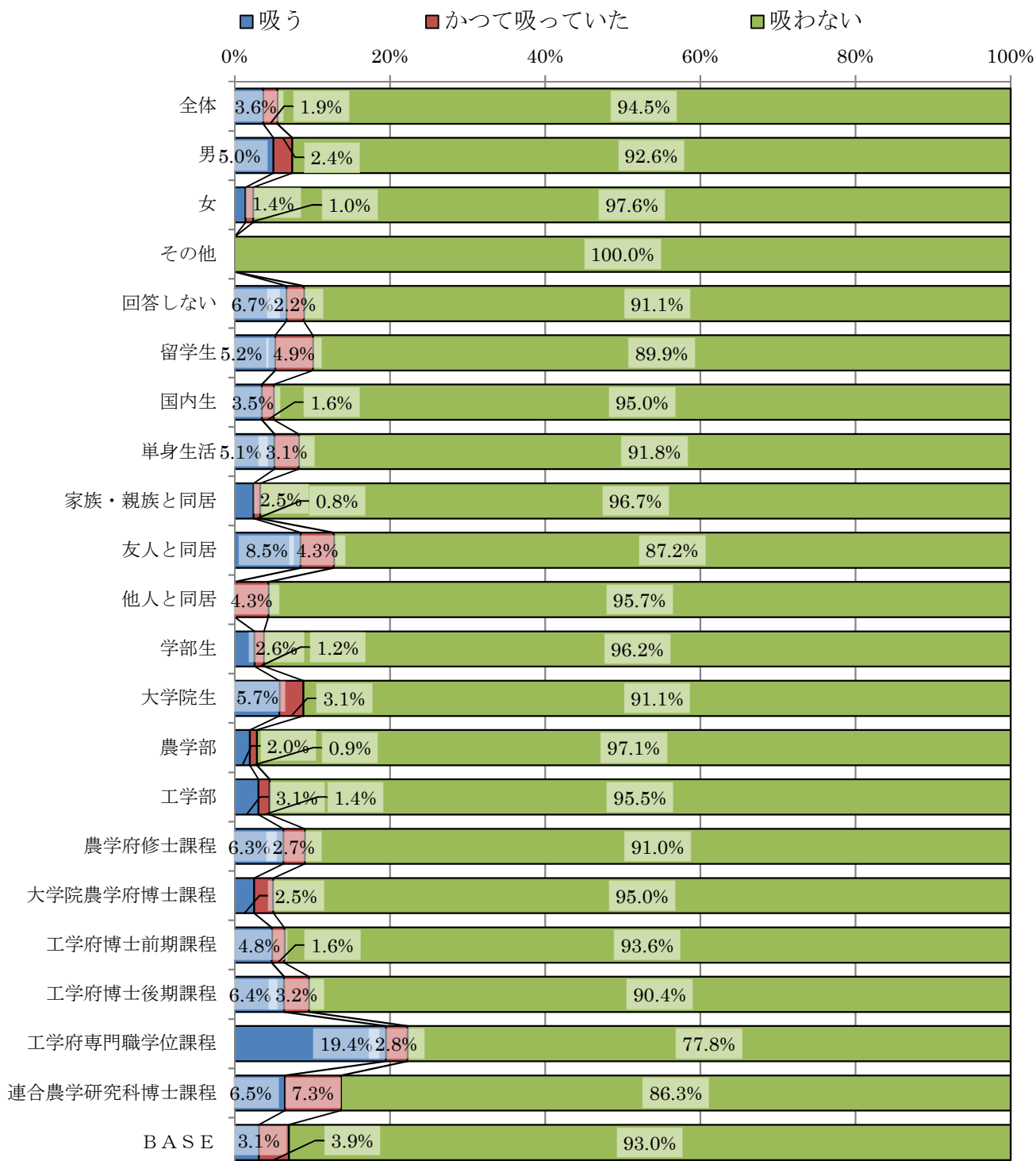
Q72-4 セクハラ以外のハラスメントを受けた相手
(のべ数／学部生・大学院生)



7 3. 喫煙の有無

「吸う」と回答した割合は3.6%。これまで年々減少してきたが、今回は前回とほぼ同じような値（前回3.5%）となり、下げ止まりの印象。喫煙率は男女差がみられ、今回も男子学生に喫煙者が多い。しかし前回女子は喫煙率0.5%だったが今回は1.4%と増加に転じており、女子学生の喫煙行動には変化があった。

Q73-1. 喫煙の有無



74. キャンパス内マナーの満足

「満足」が 49.6%（前回 46.2%）、「やや満足」41.6%（43.3%）、「やや不満」6.7%（8.3%）、「不満」2.1%（2.2%）となった。「満足」「やや満足」の合計は 91.2%で高い値であり、前回の 89.5%より増加した。男性よりも女性のほうが満足度は高い傾向にあった。農・工の学部差は、農学部が工学部に比してやや満足度が高かった。留学生で満足度が高い傾向が認められた。

Q74-1. キャンパス内マナーの満足度 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
全体	49.6%	41.6%	6.7%	2.1%
男	49.6%	40.6%	7.3%	2.4%
女	50.2%	42.7%	5.6%	1.5%
その他	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
回答しない	33.3%	53.3%	11.1%	2.2%
留学生	67.9%	28.4%	1.9%	1.9%
国内生	47.8%	42.9%	7.2%	2.1%
単身生活	49.0%	41.7%	6.9%	2.4%
家族・親族と同居	49.9%	41.8%	6.5%	1.9%
友人と同居	51.1%	34.0%	12.8%	2.1%
他人と同居	60.9%	39.1%	0.0%	0.0%
学部生	48.5%	43.2%	6.4%	1.9%
大学院生	51.8%	38.4%	7.5%	2.3%
農学部	52.5%	41.0%	4.9%	1.6%
工学部	45.4%	45.0%	7.5%	2.2%
農学府修士課程	52.2%	41.6%	4.3%	2.0%
工学府博士前期課程	49.7%	39.8%	7.6%	2.9%
工学府専門職学位課程	47.2%	36.1%	16.7%	0.0%
連合農学研究科博士課程	58.9%	33.9%	4.8%	2.4%
工学府博士後期課程	52.1%	35.1%	11.7%	1.1%
大学院農学府博士課程	57.5%	35.0%	2.5%	7.5%
B A S E	48.8%	37.2%	11.6%	2.3%

75. キャンパス内マナーで不満に思う点

「やや不満」「不満」と回答した不満内容の内訳（重複回答あり）は、「ゴミの捨て方、処理」76人、「駐輪場不足」75人、「自転車の止め方」74人が多く、続いて「タバコの吸い方や喫煙場所」67人、「大学内の汚れ」65人、「自転車や傘の盗難」39人、「自転車の危険運転」26人、「タバコの吸い殻の処理」17人であった。

Q75-1. キャンパス内マナーで不満に思う点（複数回答可）

	ゴミの 捨て 方、処 理	大学内 の汚れ	自転車 の止め 方	駐輪場 不足	自転車 の危険 運転	タバコ の吸い 方や喫 煙場所	タバコ の吸殻 の処理	自転車 や傘の 盗難	その他
全体	76	65	74	75	26	67	17	39	42
男	54	47	52	54	21	36	11	29	27
女	18	17	22	20	5	28	5	10	14
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答しない	4	1	0	1	0	3	1	0	1
留学生	3	1	2	2	0	3	2	1	3
国内生	73	64	72	73	26	64	15	38	39
単身生活	32	23	36	41	13	22	6	19	15
家族・親族と同居	42	41	37	33	13	42	10	17	26
友人と同居	2	1	1	1	0	3	1	3	1
他人と同居	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学部生	53	42	45	44	11	43	10	30	24
大学院生	23	23	29	31	15	24	7	9	18
農学部	17	15	15	18	7	18	5	11	8
工学部	36	27	30	26	4	25	5	19	16
農学府修士課程	6	4	1	3	5	4	0	3	1
工学府博士前期課程	8	8	9	10	3	9	1	2	8
工学府専門職学位課程	0	2	2	2	1	1	1	1	1
連合農学研究科博士課程	3	2	4	1	1	3	2	0	2
工学府博士後期課程	4	3	4	5	3	4	2	1	1
大学院農学府博士課程	0	0	0	1	0	2	1	0	2
B A S E	2	4	9	9	2	1	0	2	3

76. 生協食堂の利用状況

77. 140周年記念会館エリプス（小金井）の利用状況

78. 生協購買部（売店）の利用状況

生協食堂、エリプス、生協購買部（売店）の利用状況を以下にまとめる。

A. 生協食堂の利用度

生協食堂については、「よく利用する」43.2%（前回36.3%）、「ときどき利用する」36.2%（39.9%）、「全く利用しない」20.5%（23.7%）という結果となり、「よく利用する」が増加した。女性のほうが男性より利用している傾向がうかがえた。「よく利用する」割合は、学部生が53.8%で、大学院生22.1%より高かった。学部生では工学部より農学部の方が、やや利用度が高かった（「よく利用する」農学部54.7%と工学部53.2%）。

B. エリプスの利用度

平成23年完成のエリプスの利用度は、全体では「よく利用する」8.9%、「ときどき利用する」27.3%、「全く利用しない」63.8%であった。当然のことながら、小金井キャンパスの学生で利用率は高くなっている。「よく利用する」が占める割合がもっとも高いのはBASE博士後期課程の学生（21.1%）、次いで工学府博士前期課程となった（16.6%）。「よく利用する」割合は、学部生の方が9.0%で、大学院生8.7%より少し高かった。利用状況をみると、生協食堂の利用度より少ない。

C. 生協購買部（売店）の利用度

売店の利用度は、「よく利用する」29.0%（前回19.0%）、「ときどき利用する」58.2%（68.6%）、「全く利用しない」12.8%（12.4%）となった。「よく利用する」割合は府中キャンパスと小金井キャンパスではほぼ同じであるが、「ときどき利用する」では小金井キャンパスより府中キャンパスの方が、割合がやや高い。

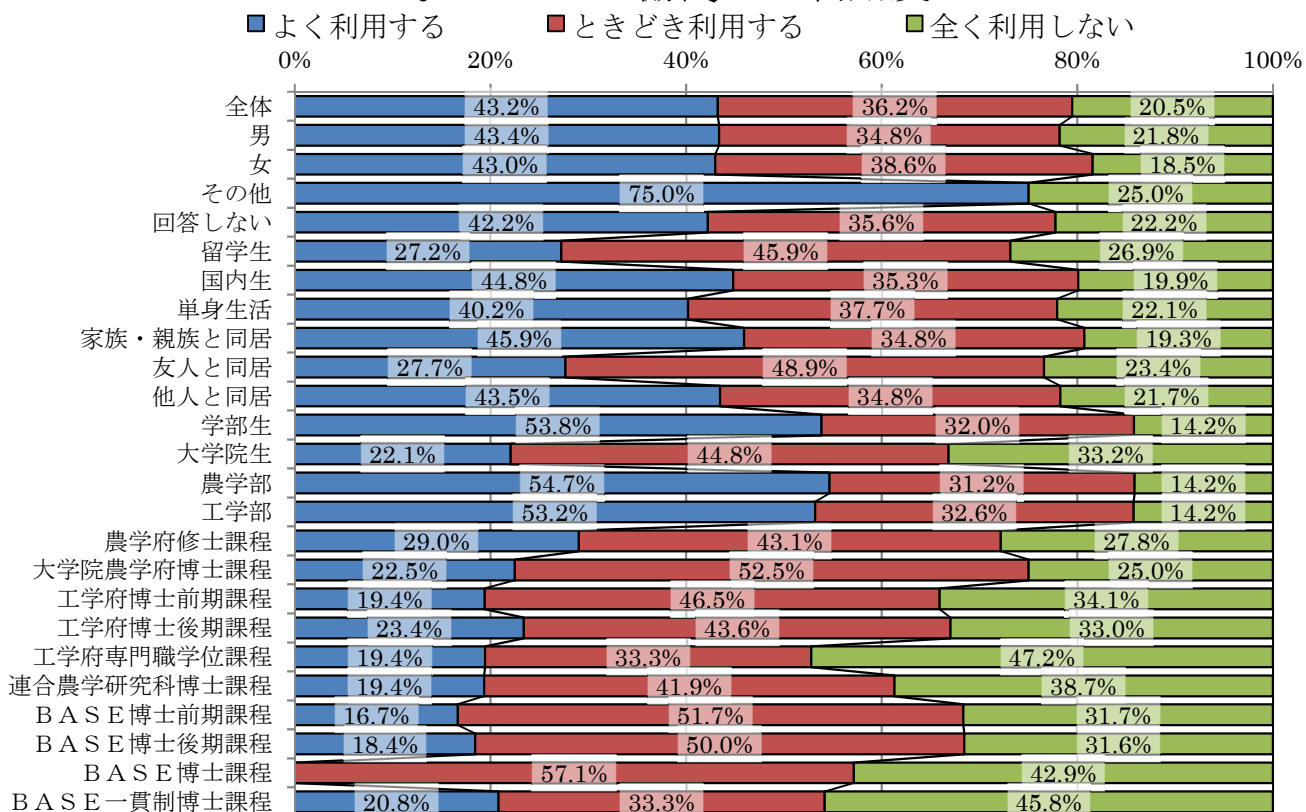
Q76. Q77, Q78-1. 生協食堂・エリプス、売店の利用状況【%】

区 分	よく利用する	ときどき利用する	全く利用しない
A. 生協食堂	43.2	36.2	20.5
府 中	45.2	35.2	19.6
小金井	41.7	37.0	21.3
B. エリプス	8.9	27.3	63.8
府 中	0.4	4.8	94.8
小金井	15.4	44.5	40.1
C. 売 店	29.0	58.2	12.8
府 中	29.0	60.6	10.3
小金井	28.9	56.4	14.7

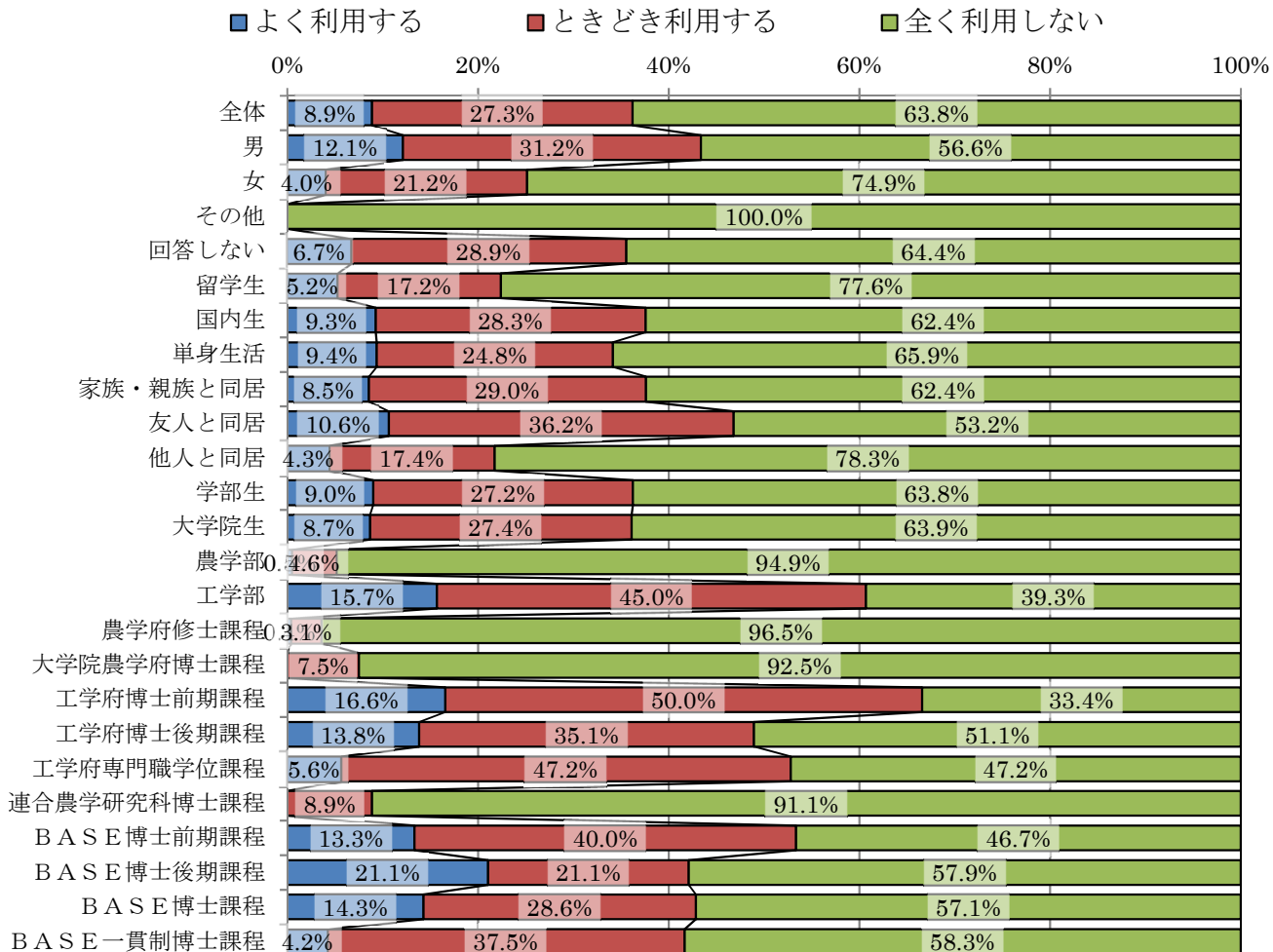
（注）府中地区は農学部、農学府、連合農学研究科の学生の合計である。

小金井地区は工学部、工学府、BASEの学生の合計である。

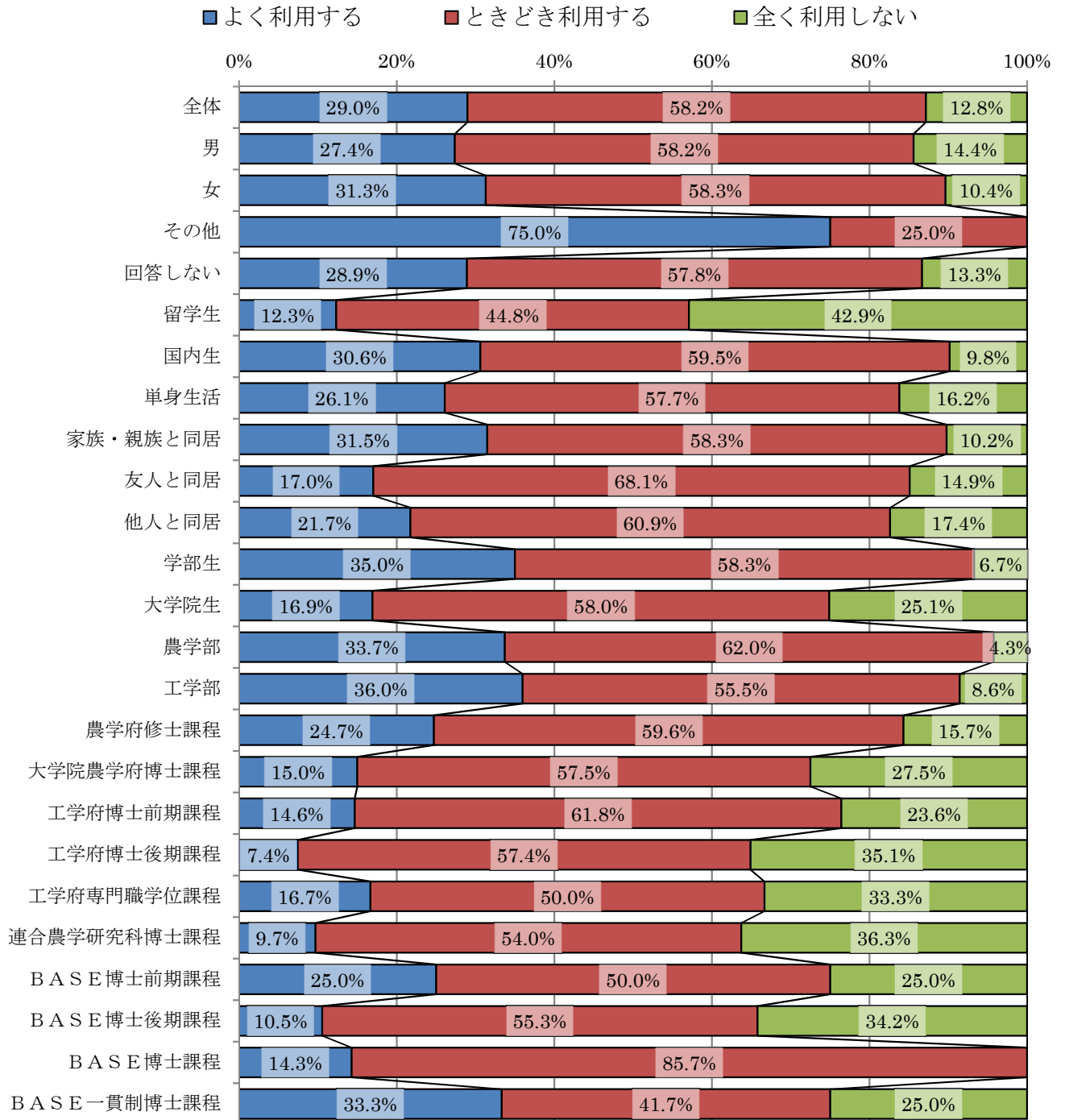
Q76-2. 生協食堂の利用度



Q77-2. 140周年記念会館エリプス(小金井)の利用度



Q78-2. 生協購買部(売店)の利用度



79. 食堂・エリプスの満足度

80. 食堂・エリプスで不満に思う点

81. 生協購買部（売店）の満足度

82. 生協購買部（売店）で不満に思う点

食堂とエリプス、売店の満足度を以下にまとめた。

食堂等の満足度は、「満足」14.5%（前回 19.4%）、「やや満足」37.4%（50.2%）、「やや不満」18.0%（22.1%）、「不満」5.9%（8.4%）、「全く利用しない」24.1%（前回項目なし）であった。前回調査より「満足」「やや満足」の合計が低くなった。キャンパス間の差として、小金井の方が府中より満足度が高かった。

「やや不満」「不満」と回答した学生について、不満の理由（重複回答あり）として最も多かったのは「コストパフォーマンス」489人、「座席数や混雑」で452人、「営業時間」429人、「メニュー内容や数」330人、「味」201人、「キャンパス間で施設の差が大きい」150人であった。一方、「清潔さ」は33人、「店員の接客態度」は7人であり割合は少なかった。「キャンパス間で施設の差が大きい」150人の内訳は、府中138人、小金井12人であった。

売店の満足度は、「満足」22.6%（前回 27.1%）、「やや満足」46.8%（54.6%）、「やや不満」15.1%（15.0%）「不満」2.7%（3.4%）であり、前回調査より「満足」「やや満足」どちらも減少した。キャンパス間の差として、小金井の方が府中より満足度がやや高い傾向がみられた。

「やや不満」「不満」と回答した学生の不満内容の内訳（重複回答あり）で、最も多かった項目は「営業時間」341人、次いで「コストパフォーマンス」324人、「品揃え」で309人、「混雑」143人、「広さ」84人、「キャンパス間で施設の差が大きい」65人であった。「店員の接客態度」11人、「清潔さ」11人で、これらの項目の割合は少なかった。

Q79, Q81-1. 食堂・エリプス、売店の満足度【%】

区 分	満 足	やや満足	やや不満	不 満	全く利用しない
1 食堂等	14.5	37.4	18.0	5.9	24.1
府 中	10.5	30.0	20.0	6.8	32.7
小金井	17.6	43.2	16.5	5.2	17.5
2 売 店	22.6	46.8	15.1	2.7	---
府 中	19.1	47.7	19.3	3.5	---
小金井	25.2	46.1	11.9	2.1	---

Q80-1. 食堂・エリプスで不満に思う点（複数回答可）

	コストパフォーマンス	座席数や混雑	営業時間	味	メニュー内容や数	清潔さ	店員の接客態度	キャンパス間での施設の差が大きい	その他
全体	489	452	429	201	330	33	7	150	47
男	321	273	251	139	196	15	5	71	30
女	162	169	169	57	125	16	2	70	14
その他	2	2	1	1	1	0	0	1	1
回答しない	4	8	8	4	8	2	0	8	2
留学生	8	9	17	19	23	0	0	3	6
国内生	481	443	412	182	307	33	7	147	41
単身生活	216	192	192	86	145	16	3	63	22
家族・親族と同居	260	256	227	106	173	16	3	83	24
友人と同居	8	3	7	7	8	1	1	2	1
他人と同居	5	1	3	2	4	0	0	2	0
学部生	343	369	302	135	240	27	6	117	25
大学院生	146	83	127	66	90	6	1	33	22
農学部	163	179	173	57	129	21	2	109	9
工学部	180	190	129	78	111	6	4	8	16
農学府修士課程	47	28	48	16	28	2	0	22	5
工学府博士前期課程	55	27	38	20	30	2	1	1	10
工学府専門職学位課程	5	6	6	1	3	0	0	1	2
連合農学研究科博士課程	11	5	10	7	8	0	0	4	2
工学府博士後期課程	13	5	9	8	9	2	0	1	1
大学院農学府博士課程	7	4	6	3	5	0	0	3	0
B A S E	8	8	10	11	7	0	0	1	2

Q 8 2 - 1 . 売店で不満に思う点（複数回答可）

	コスト パフォー マンス	混雑	営業時 間	広さ	品揃え	清潔さ	店員の 接客態 度	キャン パス間 での施 設の差 が大き い	その他
全体	324	143	341	84	309	11	11	65	29
男	213	81	190	48	173	8	11	32	17
女	107	60	143	35	130	3	0	31	12
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0
回答しない	4	2	7	1	6	0	0	2	0
留学生	6	0	6	3	9	0	0	0	1
国内生	318	143	335	81	300	11	11	65	28
単身生活	139	63	143	37	127	6	3	27	10
家族・親族と同居	176	76	186	45	172	3	6	34	19
友人と同居	3	1	6	1	6	1	1	1	0
他人と同居	6	3	6	1	4	1	1	3	0
学部生	243	126	238	71	219	11	10	51	25
大学院生	81	17	103	13	90	0	1	14	4
農学部	103	69	161	46	131	8	3	46	13
工学部	140	57	77	25	88	3	7	5	12
農学府修士課程	31	12	52	7	41	0	0	10	4
工学府博士前期課程	18	1	16	0	16	0	1	1	0
工学府専門職学位課程	5	0	2	0	4	0	0	0	0
連合農学研究科博士課程	5	0	13	3	9	0	0	1	0
工学府博士後期課程	5	2	6	0	5	0	0	0	0
大学院農学府博士課程	4	1	6	0	5	0	0	2	0
B A S E	13	1	8	2	10	0	0	0	0

83. キャンパスの施設・設備環境改善希望（講義室・実験室を除く）

複数回答で、もっとも選択されたのは「無線 LAN（Wifi 環境）」で、全回答者の 39.3%（前回 34.8%）が改善を希望している。次いで「自動販売機」36.6%（32.1%）、「リフレッシュ空間」30.4%（29.1%）、「トイレ」28.9%（25.8%）、「コンセント」28.7%（23.9%）、「キャンパス間移動」22.9%（18.7%）、「サークル用の設備（部室他）」19.7%（19.0%）、「ロッカー」17.0%（17.3%）であった。「体育施設」12.6%（10.6%）、「夜間照明」11.1%（10.8%）、「駐輪場」9.8%（12.6%）、「校舎の清掃状況」6.3%（6.2%）、「駐車場」3.2%（3.4%）となった。

Q83-1. キャンパスの施設・設備環境（講義室・実験室を除く）で改善を希望するところ

（複数回答可）【%】

	トイレ	駐車場	駐輪場	リフレッシュ空間	無線 LAN（Wifi 環境）	コンセント	自動販売機	ロッカー	サークル用の設備（部室他）	体育施設	校舎の清掃状況	キャンパス間移動	夜間照明	その他
全体	28.9	3.2	9.8	30.4	39.3	28.7	36.6	17.0	19.7	12.6	6.3	22.9	11.1	5.6
男	27.7	3.8	10.3	27.0	40.3	28.4	38.4	15.0	18.7	13.9	5.3	20.2	8.9	5.9
女	30.1	1.9	8.3	34.9	37.3	28.7	33.5	19.5	20.8	10.4	7.5	26.4	14.3	5.0
その他	50.0	0.0	50.0	75.0	75.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
回答しない	48.9	11.1	26.7	51.1	46.7	37.8	42.2	31.1	31.1	15.6	13.3	37.8	17.8	6.7
留学生	12.3	3.0	15.3	23.5	35.1	12.7	18.7	9.0	11.2	23.9	8.6	28.7	21.6	6.7
国内生	30.6	3.2	9.3	31.1	39.7	30.2	38.3	17.8	20.5	11.4	6.1	22.3	10.1	5.4
単身生活	26.5	2.4	12.7	28.1	38.2	26.1	36.6	12.0	16.5	13.4	6.3	21.5	11.6	5.0
家族・親族と同居	30.8	3.6	7.2	32.5	40.4	30.5	36.5	20.9	22.4	11.7	6.3	23.9	10.6	5.9
友人と同居	21.3	10.6	21.3	29.8	34.0	29.8	42.6	12.8	10.6	17.0	4.3	17.0	17.0	8.5
他人と同居	34.8	4.3	17.4	8.7	30.4	26.1	30.4	8.7	13.0	17.4	8.7	30.4	8.7	4.3
学部生	30.0	2.4	8.4	32.7	40.0	33.4	39.7	22.1	25.2	14.0	6.6	25.1	9.8	4.9
大学院生	26.8	4.7	12.5	26.0	38.0	19.3	30.2	6.8	8.6	9.7	5.7	18.3	13.7	7.0
農学部	33.5	2.6	8.2	35.9	35.2	27.3	32.0	17.8	30.0	15.3	7.2	24.4	12.7	5.8
工学部	27.2	2.3	8.7	30.1	43.7	38.1	45.8	25.4	21.5	13.0	6.0	25.7	7.6	4.1
農学府修士課程	26.3	3.9	7.8	32.5	36.9	20.4	27.1	3.9	7.8	6.7	4.3	14.5	20.0	8.2
工学府博士前期課程	27.4	2.9	12.4	25.8	41.7	22.0	38.5	9.6	8.6	8.0	6.7	16.2	8.3	5.4
工学府専門職学位課程	44.4	2.8	11.1	33.3	52.8	30.6	38.9	13.9	13.9	8.3	8.3	16.7	13.9	5.6
連合農学研究科博士課程	21.0	9.7	14.5	21.8	37.1	8.1	22.6	4.8	11.3	17.7	7.3	28.2	16.9	7.3
工学府博士後期課程	26.6	10.6	18.1	26.6	33.0	14.9	24.5	6.4	4.3	11.7	5.3	17.0	10.6	11.7
大学院農学府博士課程	32.5	7.5	20.0	17.5	37.5	15.0	37.5	12.5	12.5	10.0	7.5	22.5	20.0	2.5
B A S E	25.6	1.6	14.0	17.8	31.8	22.5	23.3	3.9	7.8	10.9	3.9	21.7	11.6	6.2

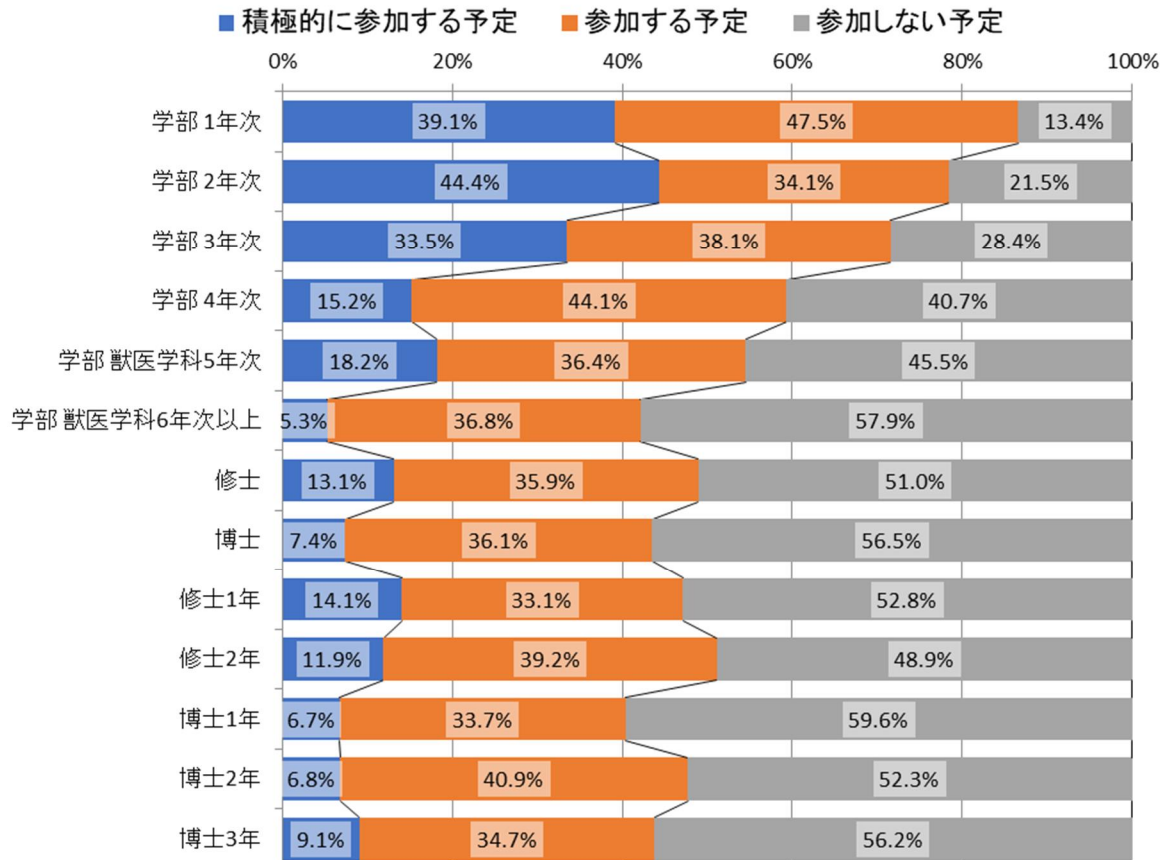
8 4. 本年 1 1 月に行われる大学祭への参加

府中キャンパス（R6.11.8～10）で開催される大学祭について、全体で「積極的に参加する予定」25.9%（前回10.9%）、「参加する予定」39.5%（33.2%）、「参加しない予定」34.6%（55.9%）であり、前回より参加予定者の割合が増加していた。「積極的に参加する予定」と「参加する予定」の合計は、全体の中で農学部は25.4%、工学部では24.1%、農学府では9.3%、工学府では5.4%であり、農学部の参加予定者がもっとも多かった。

Q 8 4－1. 大学祭への参加の予定【人】

	積極的に 参加する予定	参加する予定	参加しない予定	合計
全体	769	1,172	1,029	2,970
男	407	696	680	1,783
女	353	460	325	1,138
学部生	656	815	507	1,978
大学院生	113	357	522	992
農学部	387	367	115	869
工学部	269	448	392	1,109
農学府修士課程	63	126	66	255
工学府博士前期課程	16	86	212	314
工学府専門職学位課程	1	10	25	36
連合農学研究科博士課程	12	55	57	124
工学府博士後期課程	4	19	71	94
大学院農学府博士課程	6	17	17	40
B A S E	11	44	74	129

Q84－2. 大学祭への参加の予定(学年別)



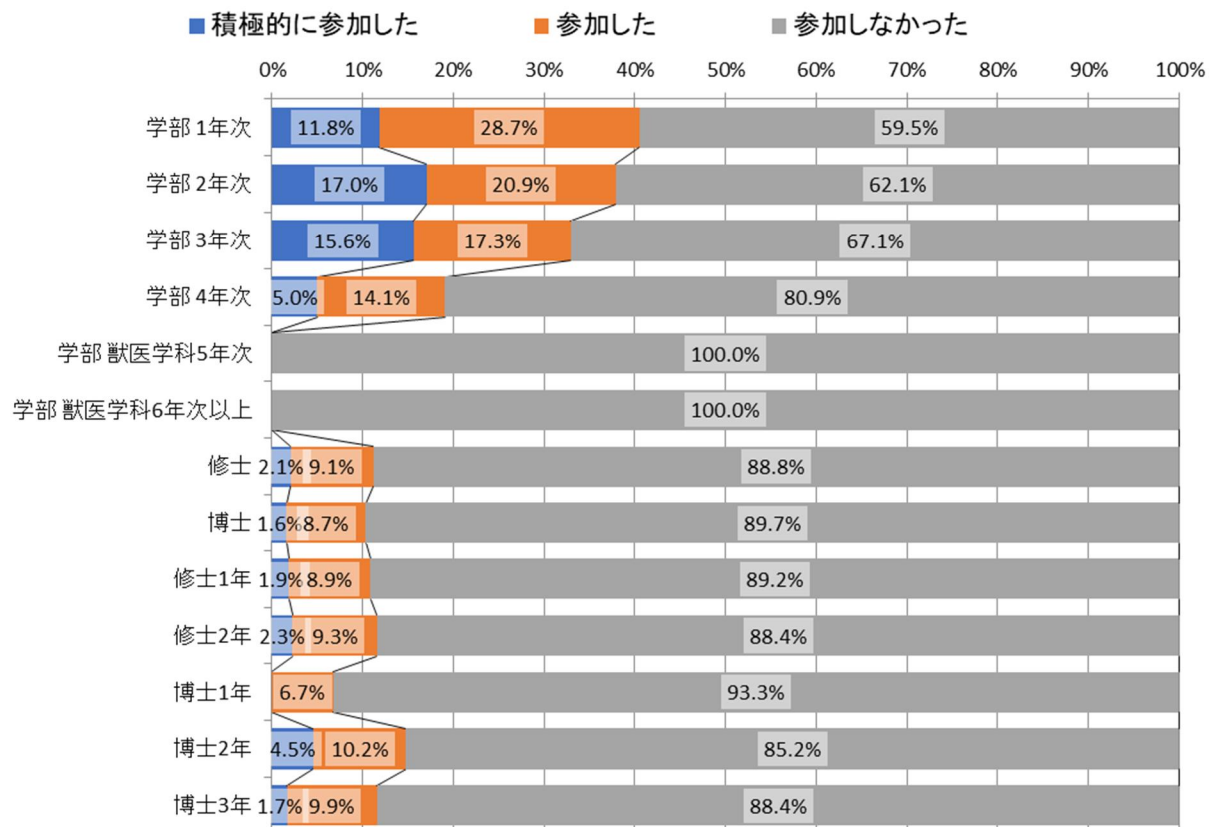
85. 小金井キャンパス大学祭（皐月祭）への参加の有無

小金井キャンパス（R6.5.19）で開催された大学祭について、全体で「積極的に参加した」8.8%、「参加した」16.6%、「参加しなかった」74.5%であった。「積極的に参加した」と「参加した」の合計は、農学部 6.1%、工学部 15.7%、農学府 0.003%、工学府 2.3%であり、工学部が最も高かった。今後継続的に開催されることで参加者の増加が期待される。

Q85-1. 大学祭（皐月祭）への参加の有無【人】

	積極的に参加した	参加した	参加しなかった	合計
全体	262	494	2,214	2,970
男	158	327	1,298	1,783
女	102	158	878	1,138
学部生	242	406	1,330	1,978
大学院生	20	88	884	992
農学部	60	123	686	869
工学部	182	283	644	1,109
農学府修士課程	1	10	244	255
工学府博士前期課程	7	40	267	314
工学府専門職学位課程	2	5	29	36
連合農学研究科博士課程	2	2	120	124
工学府博士後期課程	1	10	83	94
大学院農学府博士課程	0	0	40	40
B A S E	7	21	101	129

Q85-2. 小金井キャンパス大学祭（皐月祭）への参加の有無（学年別）



86. 大学祭で改善を望むこと

改善を望む項目としては、「前後の休講措置」が1,246人と最多で、続いて、「出店数を増やしてほしい」640人、「プログラム内容」が589人、「会場設備」429人となっていた。

Q86-1. 大学祭で改善を望むこと【人】

	開催時期を早くしてほしい	開催時期を遅くしてほしい	プログラム内容	出店数を増やしてほしい	出店数を減らしてほしい	会場設備	前後の休講措置	その他	回答者数
全体	100	83	589	640	25	429	1,246	665	2,970
男	64	59	403	397	20	267	712	378	1,783
女	31	22	174	236	3	149	516	273	1,138
単身生活	45	37	251	279	10	176	463	297	1,227
家族・親族と同居	51	44	324	334	13	243	757	358	1,673
友人と同居	4	2	8	20	2	9	15	8	47
他人と同居	0	0	6	7	0	1	11	2	23
学部生	69	60	364	432	19	304	980	364	1,978
大学院生	31	23	225	208	6	125	266	301	992
農学部	28	10	119	142	13	149	459	167	869
工学部	41	50	245	290	6	155	521	197	1,109
農学府修士課程	12	4	45	44	2	43	77	69	255
工学府博士前期課程	4	9	80	82	2	29	104	74	314
工学府専門職学位課程	1	2	13	12	0	4	9	5	36
連合農学研究科博士課程	6	2	18	20	1	13	23	62	124
工学府博士後期課程	4	2	26	16	1	15	17	34	94
大学院農学府博士課程	0	1	11	6	0	5	5	17	40
B A S E	4	3	32	28	0	16	31	40	129

87. 生活情報の入手先（外国人留学生）

268 人の外国人留学生から、複数回答で回答を得た。「他の留学生」からの情報が最も多く 96 人（回答対象人数の 35.8%）、次いで「インターネット」71 名（26.5%）、「担任教員や指導教員」67 人（25.0%）、「外国人留学生・研究者のためのガイドブック」57 人（21.3%）、「グローバル教育院の教職員」37 人（13.8%）、「チューター以外の日本人学生」34 人（12.7%）、「Google Classroom: International Bulletin」33 名（12.3%）、「チューター」29 人（10.8%）となっている。前回調査時は「インターネット」がもっとも多かったが、今回は「他の留学生」がもっとも多かったことから、留学生間の交流が活発になっている可能性がある。

Q87-1. 生活情報の入手先（外国人留学生）【人（ ）割合（%）】

	回答者数	外国人留学生・研究者のためのガイドブック	グローバル教育院の教職員	担任教員や指導教員	他の留学生	チューター	チューター以外の日本人学生	Google Classroom: International Bulletin	TUAT_Community グループメール	インターネット	情報が得られない	その他	無回答
全体	268	57 (21.3)	37 (13.8)	67 (25.0)	96 (35.8)	29 (10.8)	34 (12.7)	33 (12.3)	21 (7.8)	71 (26.5)	12 (4.5)	13 (4.9)	103 (38.4)
男	141	34 (24.1)	23 (16.3)	38 (27.0)	48 (34.0)	16 (11.3)	18 (12.8)	16 (11.3)	14 (9.9)	41 (29.1)	9 (6.4)	7 (5.0)	51 (36.2)
女	123	23 (18.7)	14 (11.4)	28 (22.8)	46 (37.4)	13 (10.6)	16 (13.0)	16 (13.0)	7 (5.7)	30 (24.4)	2 (1.6)	6 (4.9)	51 (41.5)
その他	1	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
回答しない	3	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)
留学生	268	57 (21.3)	37 (13.8)	67 (25.0)	96 (35.8)	29 (10.8)	34 (12.7)	33 (12.3)	21 (7.8)	71 (26.5)	12 (4.5)	13 (4.9)	103 (38.4)
国内生	0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
単身生活	215	47 (21.9)	27 (12.6)	54 (25.1)	73 (34.0)	23 (10.7)	27 (12.6)	26 (12.1)	14 (6.5)	52 (24.2)	9 (4.2)	10 (4.7)	87 (40.5)
家族・親族と同居	30	7 (23.3)	8 (26.7)	8 (26.7)	9 (30.0)	4 (13.3)	5 (16.7)	4 (13.3)	4 (13.3)	8 (26.7)	1 (3.3)	3 (10.0)	12 (40.0)
友人と同居	17	3 (17.6)	2 (11.8)	5 (29.4)	11 (64.7)	1 (5.9)	1 (5.9)	2 (11.8)	3 (17.6)	7 (41.2)	1 (5.9)	0 (0.0)	2 (11.8)
他人と同居	6	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (50.0)	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	4 (66.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	2 (33.3)
学部生	45	8 (17.8)	11 (24.4)	7 (15.6)	20 (44.4)	5 (11.1)	8 (17.8)	12 (26.7)	3 (6.7)	17 (37.8)	7 (15.6)	1 (2.2)	11 (24.4)
大学院生	223	49 (22.0)	26 (11.7)	60 (26.9)	76 (34.1)	24 (10.8)	26 (11.7)	21 (9.4)	18 (8.1)	54 (24.2)	5 (2.2)	12 (5.4)	92 (41.3)
農学部	17	2 (11.8)	3 (17.6)	3 (17.6)	5 (29.4)	0 (0.0)	2 (11.8)	4 (23.5)	1 (5.9)	6 (35.3)	1 (5.9)	1 (5.9)	5 (29.4)
工学部	28	6 (21.4)	8 (28.6)	4 (14.3)	15 (53.6)	5 (17.9)	6 (21.4)	8 (28.6)	2 (7.1)	11 (39.3)	6 (21.4)	0 (0.0)	6 (21.4)
農学府修士課程	49	10 (20.4)	4 (8.2)	12 (24.5)	24 (49.0)	4 (8.2)	7 (14.3)	3 (6.1)	3 (6.1)	16 (32.7)	1 (2.0)	0 (0.0)	15 (30.6)
工学府博士前期課程	17	3 (17.6)	2 (11.8)	4 (23.5)	4 (23.5)	2 (11.8)	4 (23.5)	2 (11.8)	1 (5.9)	3 (17.6)	0 (0.0)	3 (17.6)	7 (41.2)
工学府専門職学位課程	1	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	64	14	5	14	11	6	5	4	7	13	0	6	32

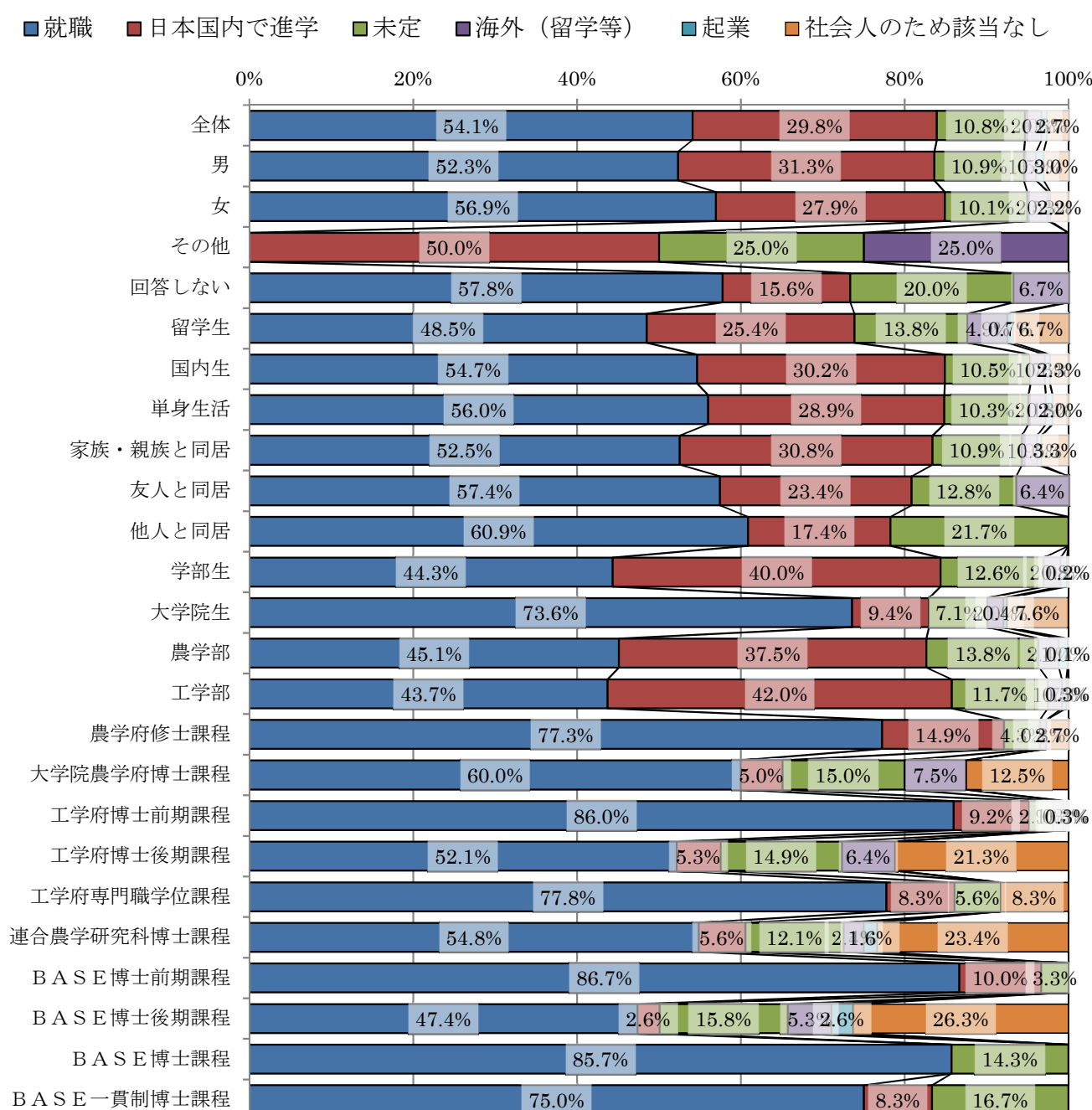
連合農学研究科 博士課程		(21.9)	(7.8)	(21.9)	(17.2)	(9.4)	(7.8)	(6.3)	(10.9)	(20.3)	(0.0)	(9.4)	(50.0)
工学府博士後期 課程	26	6	4	6	7	2	1	2	5	6	1	3	12
		(23.1)	(15.4)	(23.1)	(26.9)	(7.7)	(3.8)	(7.7)	(19.2)	(23.1)	(3.8)	(11.5)	(47.1)
大学院農学府博 士課程	21	4	3	4	7	2	1	5	0	4	1	0	10
		(19.0)	(14.3)	(19.0)	(33.3)	(9.5)	(4.8)	(23.8)	(0.0)	(19.0)	(4.8)	(0.0)	(47.6)
B A S E	45	11	7	20	22	8	8	4	2	11	2	0	16
		(24.4)	(15.6)	(44.4)	(48.9)	(17.8)	(17.8)	(8.9)	(4.4)	(24.4)	(4.4)	(0.0)	(35.6)

第 I X 章 進路（就職・進学）

88. 将来の希望進路

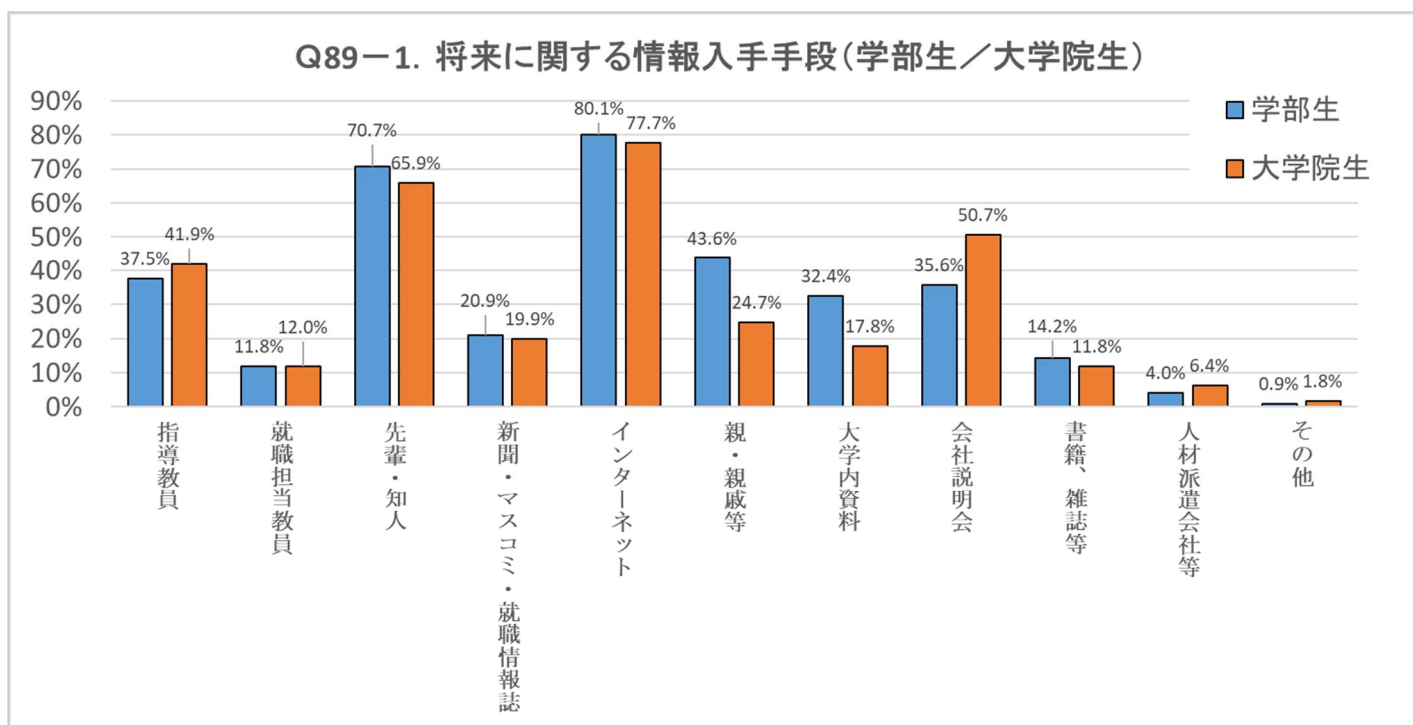
全体としては、就職希望が前回の 57%から今回の 54%とわずかに減少し、これに対し、日本国内での進学希望が前回の 27%から 30%に増加している。学部から修士課程への進学希望者の割合は、学部別では、工学部では前回の 43%、今回の 42%と差がないが、農学部では、前回の 31%から今回は 38%に増加している。これは、就職希望が、農学部では前回の 50%から今回、45%に減少していることにも反映されている。農学府修士課程学生の博士（後期）課程への進学希望者は、前回の 10%から今回は 15%となり、工学府博士前期（修士）から後期（博士）への進学希望は、前回の 5%から今回は 9%と、いずれも増加しており、コロナ禍を経て、進学に対する意識が高くなっている傾向にある。

Q88-1. 将来の希望



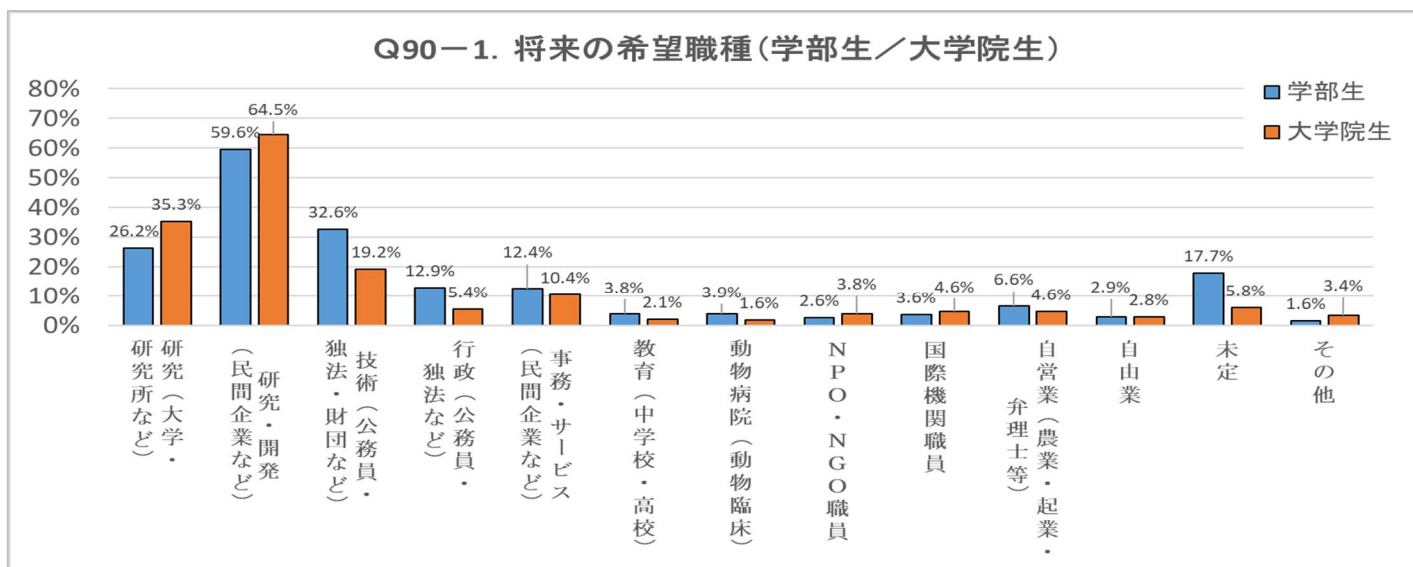
89. 進路に関する情報入手手段

学部、大学院いずれも多く多くの学生が進路に関する情報をインターネットならびに先輩・知人から入手している。会社説明会と指導教員からの情報入手もそれらに続く。入手手段としては、前回と同様にインターネットに集中する傾向が今後も続く予想される。アンケートには反映されていないが、学会発表がコロナ禍以降、対面で実施される機会が再び増え、学会会場で多くの研究者と意見交換する際に、進路に関する情報入手の機会も増えていると予想される。



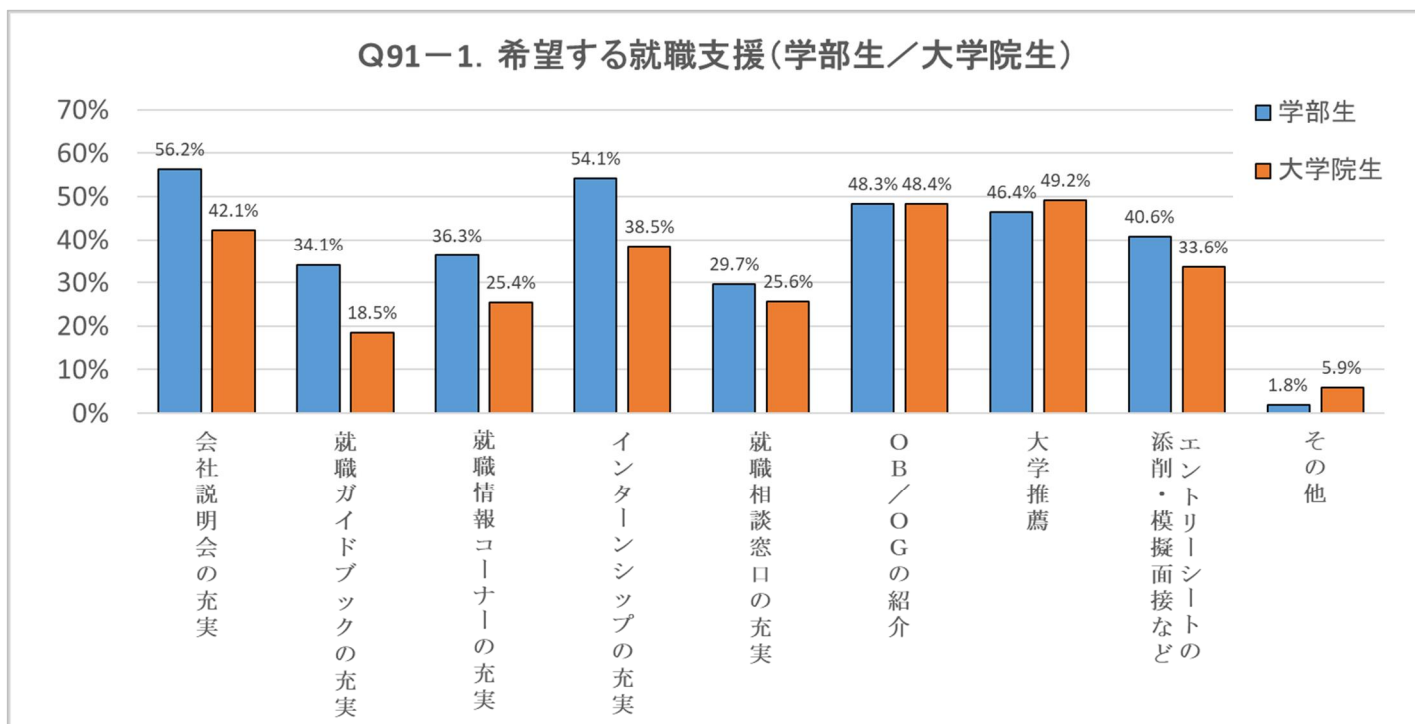
90. 将来の希望職種

全体的な傾向は、前回から大きな変化は見られない。各学部、学府とも、前回の調査と同様に研究・開発（民間企業など）が最も多く、研究（大学、研究所など）、技術（公務員、独法、財団など）がそれに続き、本学では、研究や技術職への希望が高いことが伺える。



9 1. 希望する就職支援

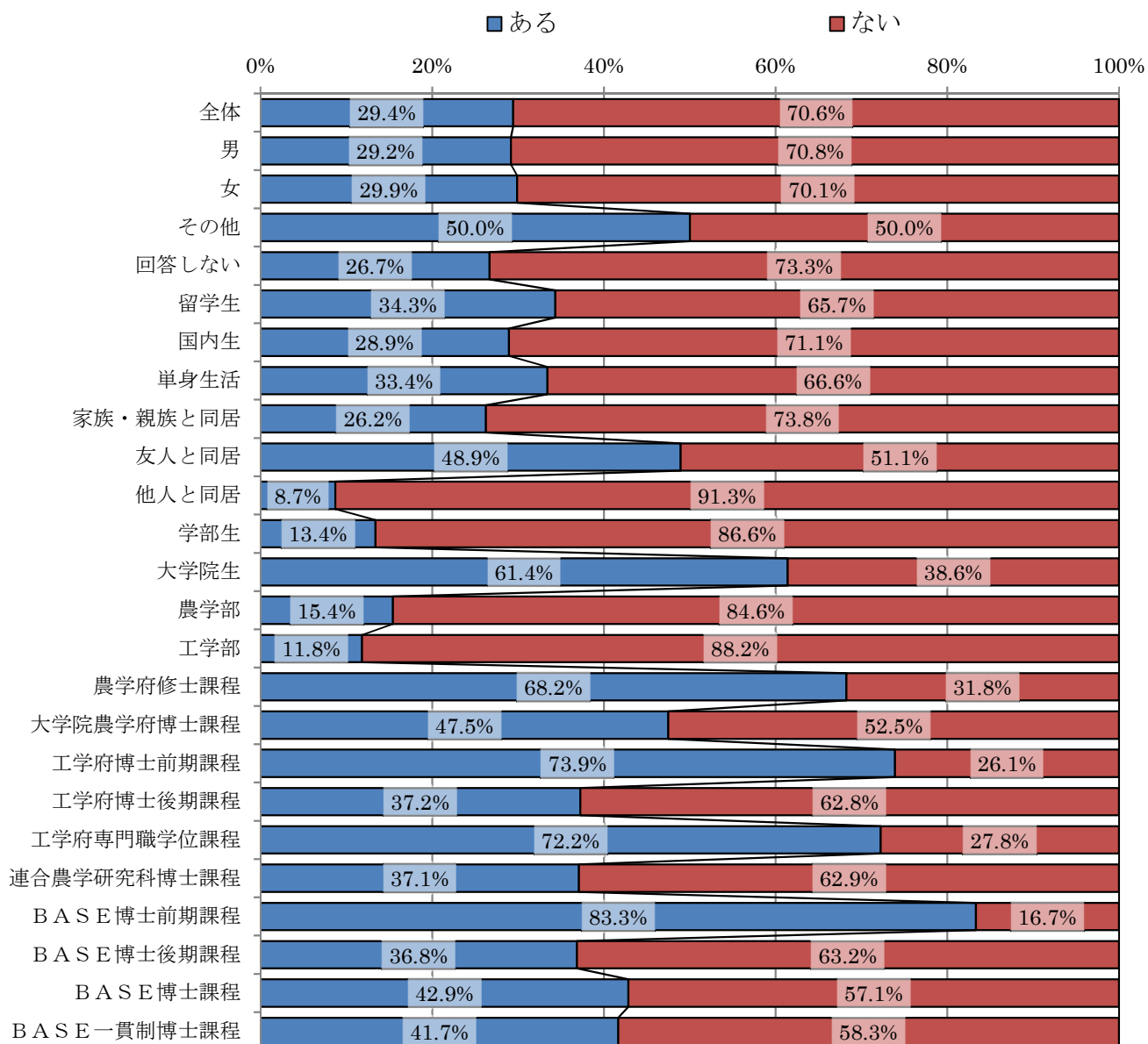
前回同様、会社説明会の充実、インターンシップの充実、OB/OG の紹介、大学推薦の希望が高い。特に、学部生では、会社説明会の充実とインターンシップの充実の希望が大学院生より高くなっている。インターンシップの充実については、大学院生では前回と同傾向だが、学部生では前回 31%から今回 34%と微増した。また、エントリーシートの添削や模擬面接についても前回同様に希望があることがわかった。全体として多様な取り組みが求められており、効果的な方策を継続する必要がある。



92. インターンシップの経験

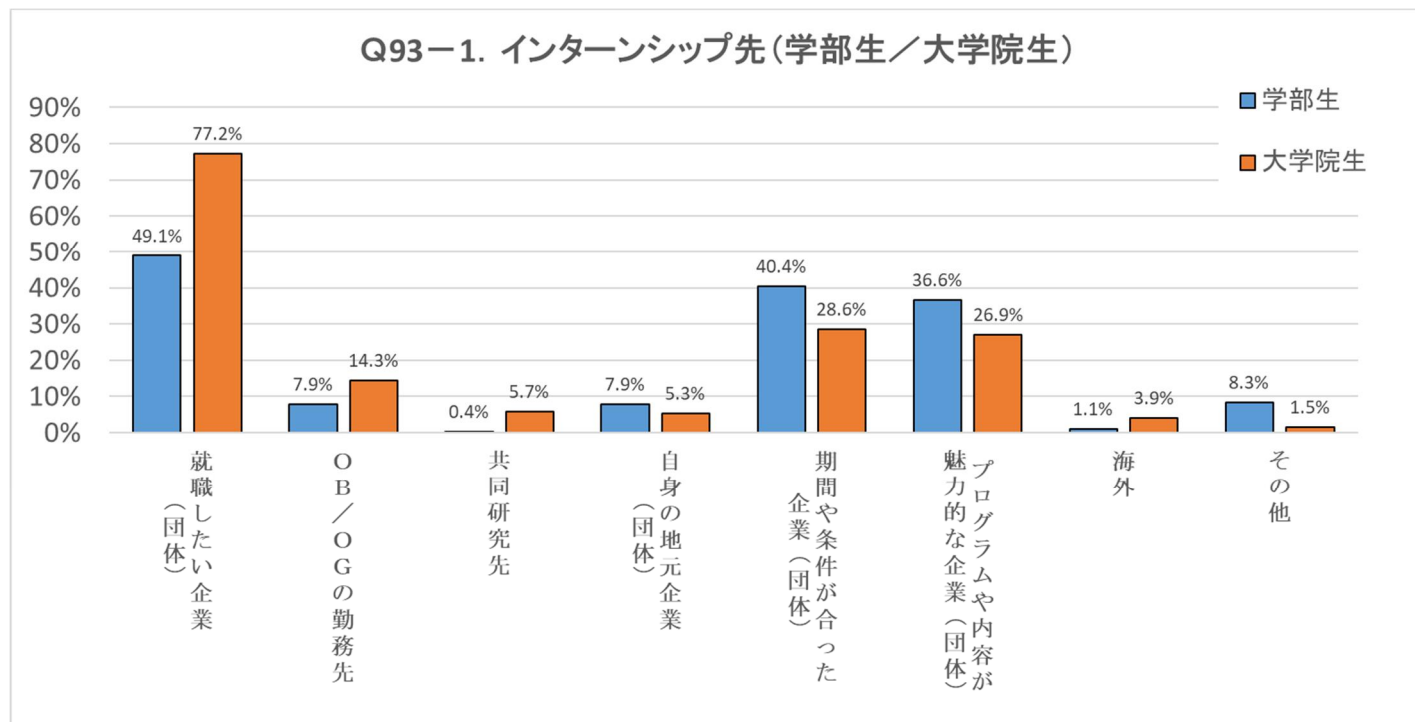
インターンシップの経験者は、全体では前回と同様の傾向が続いている。学部生は前回 15%から 13%とやや減ったが、大学院生は前回と同様に 61%であり、大学院生の半数以上がインターンを有効活用している。農学府修士課程では前回の 62%から今回 68%と増加し、工学府博士前期課程では前回と同様に 74%であり、工学系の修士課程の学生の多くがインターンシップを経験している。一方、農学府博士（後期）課程では、前回の 21%から今回は 48%と増加したが、工学府博士後期課程では、前回の 49%から今回は 37%と減少しており、博士後期課程の学生の利用率がやや低い傾向にあった。学部生は、91 項にあるようにインターンシップの希望が多いものの、実際の参加率が低いため、より参加しやすいサポート体制を検討し、就職支援との連携を行う必要があると思われる。

Q92-1. インターンシップの経験



93. インターンシップ先

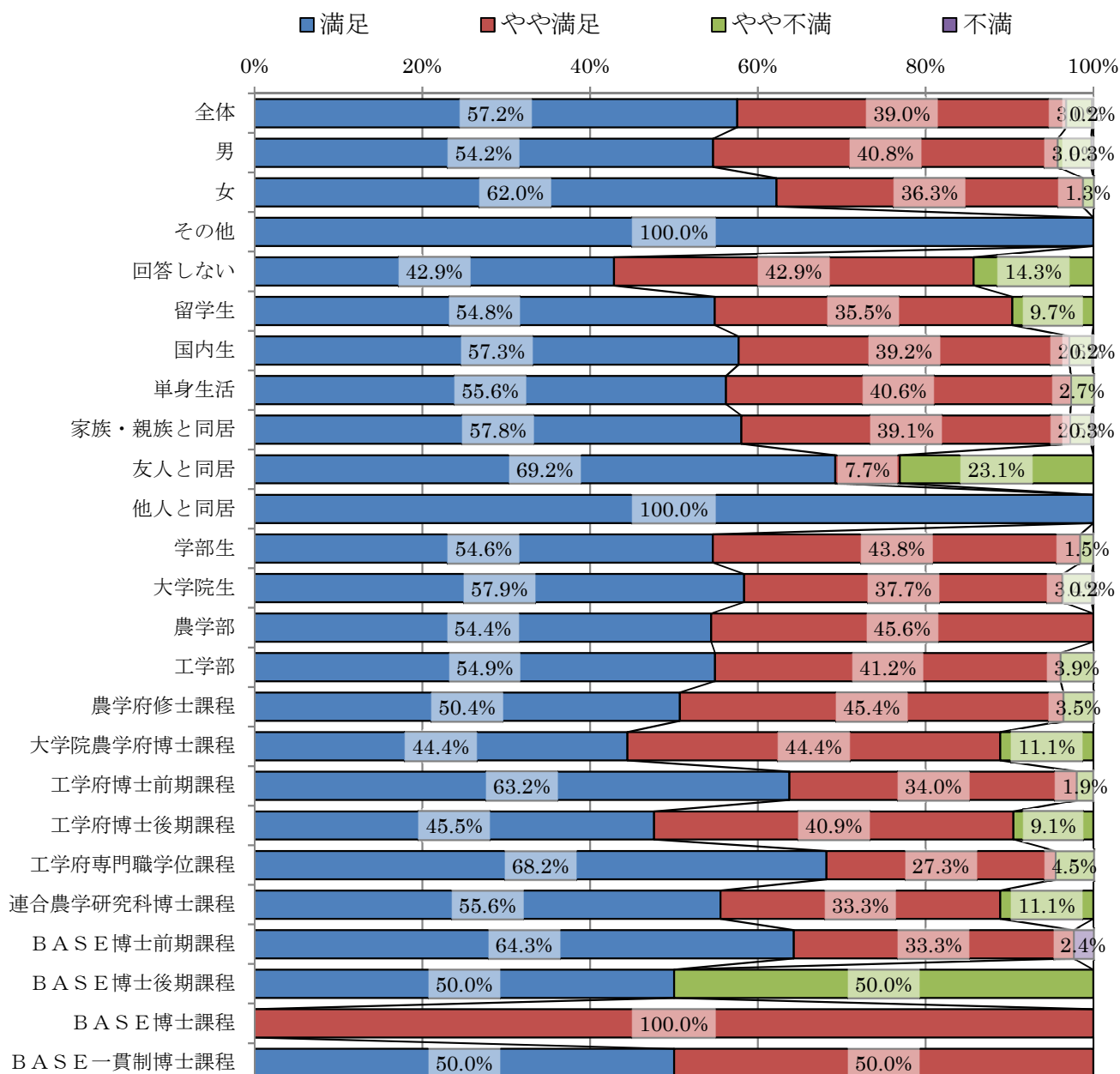
就職したい企業（団体）でのインターンシップの実施が、学部生では前回の47%から今回は49%、大学院生では前回の70%から今回は77%に増加しており、特に大学院生がインターンシップを就職活動の一環としてとらえる傾向が強くなっている。また、学部生、大学院生とも、期間や条件が合った企業（団体）、プログラムや内容が魅力的な企業（団体）をインターンシップ先として選択しており、インターンシップの時期と内容についても関心が高いことが伺える。



94. インターンシップ満足度

前回の調査結果と同様に、「満足」と「やや満足」の割合が9割以上となり、インターンシップ経験者の満足度は高い。内訳では、「満足」は前々回の55%から前回は46%に減少したが、今回は57%に回復した。「学部生、大学院生別では、学部生の「満足」の回答は前回48%から55%と増加し、大学院生の「満足」の回答は前回46%から58%に増加し、高度な研究や技術を経験する良い機会となっていると思われる。さらに、留学生については、「満足」との回答が前回の68%から55%に減少しており、留学生向けインターンシップの取り組みへの検討が必要であると考えられる。

Q94-1. インターンシップの満足度



第X章 要望・意見等

学生生活全般についての大学に対する要望・意見等の自由記述

回答用紙（マークシート）裏面の「自由記述」の記述内容を分類・整理し、キャンパスごとの件数とともに代表的な個別の要望・意見等を示した。なお、特に大学院生から多く得られた回答については括弧内に件数を示した。

区分		
要望・意見等の自由記述	回答数(括弧内はうち大学院学生)	
	府中	小金井

Ⅱ 経済的状況			
奨学金	38(18)	21(8)	・奨学金制度の拡充の希望(46) ・世帯収入等受給条件の緩和の希望(9) ・利用情報の発信の要望(4)
学費	31(5)	40(10)	・授業料値上げに反対、説明の希望(71)
授業料免除	11(6)	19(12)	・授業料免除制度の拡充、適用基準の緩和等(30)
アルバイト	9(5)	9(3)	・学内アルバイトの増加、時給の引き上げ(9) ・アルバイト時間の確保が困難(7)
博士課程の経済支援	3(2)	7(5)	・博士課程学生向けの支援増の希望(10)
その他	32(20)	33(17)	・学食の値下げ希望(11) ・多様な生活状況に対する経済サポートの希望(8) ・教科書代が高い(6) ・物価高騰による生活費の増加(6) ・キャンパス間移動、実習先への移動の旅費負担の負担(6) ・研究費、学会等の交通費の経理手続きの改善(3) ・学生寮費の値下げ希望(3)

Ⅲ 住居			
学生寮(環境、設備)	1(1)	28(13)	・洗濯機の増設、清掃管理の希望(11) ・給湯、キッチン設備の更新、改善(8)
学生寮(寮費)	13(5)	3(2)	・寮費、光熱費等の値下げ希望(15)
学生寮(入寮条件、申請)	10(5)	4(1)	・入寮条件の緩和(距離、世帯収入等)(14)
学生寮(女子寮)	4(3)	11(3)	・女子寮の(部屋数の)不足(13)
その他	10(5)	11(3)	・学生寮の親族、友人の宿泊許可(2) ・物件情報の提供の希望(学生寮の空き室情報を含む)6

Ⅳ 通学			
通学	24(5)	9(1)	・最寄り駅からの公共交通機関運用の希望(22) ・北府中駅からのバス路線希望(9)

自転車利用	11(1)	9(2)	・駐輪場の拡充、整理整頓(10) ・自転車利用その他(5) ・駐輪料金の値下げ、援助(5)
交通費	5(3)	4	・経済支援の希望(8)
門の解錠	4(1)	4	・門の運用の改善(休日の解錠等)
交通機関の遅延対応	1(1)	6(1)	・公共交通機関遅延時の公欠扱いの希望(7)
自動車通学	1(1)	4(2)	・自動車通学の希望(5)
授業開始時間	1	4	・1限目の開始時間の遅延希望(5)
その他	11(3)	11(3)	・府中～小金井間のシャトルバス等の希望(4) ・バス停の照明設備の設置(2)

V 学業、学修環境			
留学制度	17(3)	8(5)	・プログラムの拡充(留学先の増、制度の増設等)(13) ・経済的負担が重い、支援の希望(7)
空調設備の改善	12(1)	13(2)	・学生による教室の空調操作を希望(7)
カリキュラムの改善	15(3)	8(2)	
建物、設備の整備、修繕	5	9(3)	・図書館の環境整備(席数増、老朽化の対応等)希望(10)
フリースペースの設置	9(4)	8(1)	・自習室、オープンスペースがほしい
コンセントの設置	3	5(1)	・教室にコンセントがほしい
LMSの改善	5(2)	2(1)	・画面の見やすさ、操作性の向上の希望
wifi環境の改善	4(2)	9(4)	・wifi がつながりにくい、回線速度を改善してほしい
図書館の整備	4	15(5)	・開館時間の拡大(閉館時間の延長、休日の開館等)(9)
その他	3(2)	3(3)	

VI 課外活動			
施設、部室の拡充、整備	22(4)	45	・施設の増設、サークルへの使用開放(28) ・部室の拡充、増設の希望(20)
サークル棟、体育施設の改修	33(6)	18(2)	・音楽サークル棟のトイレ設置、施設整備(12)
サークル棟、体育施設の空調	21(1)	16(2)	・体育館、武道場、弓道場のエアコン設置
部室使用時間の延長	9(1)	14(1)	・夜間まで使用の延長許可、ナイター設備の希望(19)
活動予算	5(2)	13(2)	・予算の増額(活動費、交通費が負担)
グラウンドの整備	3	7(1)	・グラウンドの整備、雑草の草刈り
活動情報の広報	4(1)	5(1)	・課外活動の広報(6)
その他	15(4)	22(4)	・サークル数の増設(6) ・大学のサークル活動は、学生のガクチカを育てるだけでなく、大会やイベントに出ることで農工大の知名度を上げるのに必要である。

VII ボランティア活動			
情報発信	24(5)	22(7)	・ボランティア活動の紹介、掲示(46)
ボランティアの希望	5(3)	7(2)	・海外ボランティアをしたい(3)

			・献血活動などをしたい(3)
活動企画の立案	3(2)	4	・大学が主導して企画してほしい(6)
活動評価	3(1)	3(2)	・インセンティブがほしい(4)
その他	7(5)	8(3)	・社会人学生による参加も可能な活動内容の提案 ・保険があれば助かる

Ⅷ 学生生活			
福利厚生施設等	9(3)	8(2)	・フリースペースの開設、利用時間の延長(16)
wifi環境	3(1)	10(5)	・wifi 使用可能場所の拡大、接続状況の改善、回線速度の向上(13)
学食	8(3)	2	・提供食品の改善(6) ・混雑等の改善(2) ・価格が高い
生協営業時間	6(1)	2	・生協開店時間の改善(8)
ペットボトル	1(1)	6(1)	・ペットボトル自販機の設置希望(8)
トイレ環境整備	5(2)	1	・石鹸の改善(5)
空調操作	3	3	・空調設備の学生操作の許可(5) ・温度調整の改善(2)
ロッカー		5	・2 年次以降の使用希望(4)
事務職員	3	0	・事務職員の対応の改善(3)
教員指導	2(2)	1	・教員が多忙であることの影響(2)
SIRIUS	1	2	・SIRIUS 利用情報の改善
キャンパス間移動	1	2	・キャンパス間シャトルバスの希望(3)
トレーニングルーム	1	2(1)	・利用時間の延長(3)
図書館利用	1(1)	2(1)	・閲覧資料の増補(2)
自転車利用	1	2(1)	・自転車通行可能場所の拡大、ルールの周知(3)
その他	26(11)	28(10)	・給水器、スポットの増設(2) ・カウンセリング窓口の増設、当事者以外の相談対応 ・夜間の照明の設置(2)

Ⅸ 進路(就職・進学)			
就職相談、支援施策	25(13)	10(1)	・就職相談窓口の設置、改善(13) ・情報提供(6) ・博士課程学生への支援(4)
就職活動支援	7(1)	17(6)	・情報提供、提供方法、イベント開催などの希望(14)
OBOG訪問	4(3)	2(2)	・O B O G 訪問、連絡先情報提供等の支援(6)
インターンシップ参加への配慮	3(1)	3(3)	・欠席の公欠扱い、参加の促進(6)
経済援助	2(1)	1(1)	・博士課程進学の経済支援(3)
海外大学院進学支援	1	2	・海外大学院進学情報提供、方法の説明
その他	12(7)	6(1)	・就活と研究活動の両立(2) ・オンライン面接等就活支援のスペースの設置(2)

X 全体・その他			
教室設備、体育施設	7(1)	9	・トイレの清掃、アメニティの改善(3) ・グラウンドの照明、トレーニングルームの設置、テニスコートの改善
教職員対応	4(3)	8(4)	・教員の対応の改善希望
空調	4	6	・学生の操作希望(4) ・柔軟な温度調整、微調整(3)
学生生活実態調査	7(4)	3(2)	・回答時間が長い(6) ・意見の着実な反映の希望(3)
学食	5(2)	5(3)	・提供価格の値下げ(4) ・利用時間の延長(2)
フリースペース	5(1)	4(1)	・休憩室、仮眠室等リフレッシュスペースの希望(8)
講義の運営	2(1)	7(1)	・カリキュラムの平準化 ・履修登録をわかりやすく
wifi	3	5(1)	・wifi の整備(拡大、接続の改善、回線速度の向上)(8)
図書館	2((1)	4	・開館時間の延長(3) ・ジャーナル、蔵書の増補(2)
SIRIUS	3(1)	2(1)	・SIRIUS の操作性の改善(5)
生協	2	3(1)	・生協の営業時間の延長(5)
自然環境	3(2)	1	・蚊の発生の防止(2)
ペットボトル	0	4(2)	・ペットボトル飲料の許可(4)
カウンセリング	3	0	・相談しやすい環境、外部のスタッフによる相談対応
知名度の向上	0	3	・大学の知名度向上(3)
キャンパス間移動	0	3(1)	・キャンパス間移動シャトルバスの希望(2)
その他	24(13)	9(5)	・学費の値上げについて(2) ・大学間、学部間、学科間などの交流をもっと増やすような取り組みをしてほしい。

巻 末 資 料

1. 委員会の構成メンバー

学生生活実態調査ワーキンググループ 委員

主査	平野 雅文	工学府・工学部	教授	評議員
	福原 敏行	農学府・農学部	教授	令和6年度農学府・農学部学生生活委員長
	吉田 敏則	農学府・農学部	教授	令和6年度農学府・農学部学生生活副委員長
	清水 昭伸	工学府・工学部	教授	令和6年度工学府・工学部学生生活委員長
	兼橋 真二	工学府・工学部	准教授	令和6年度工学府・工学部学生生活副委員長
	藤井 恒人	グローバル教育院	教授	
	本郷 智子	グローバル教育院	教授	
	安村 友紀	グローバル教育院	教授	
	岩田 陽子	グローバル教育院	准教授	
	馬淵 麻由子	保健管理センター	准教授	
	江上 奈美子	保健管理センター	講師	

事務

教学支援部長	辻 直人
学務課長	上野 恵美

第 11 回 学生生活実態調査 The 11th Student Life Survey

2024 年度

調査票

Questionnaire

この調査は、本学の学生の生活実態を把握し、今後のキャンパス環境の改善に役立てることを目的に、全学生を対象として実施するものです。1994 年度に初回を実施し、今回で 11 回目になります。これまでの調査結果を基に、様々な改善が行われてきました。

趣旨をご理解の上、本年 10 月 1 日現在の状況について回答くださるようお願いいたします。

この調査により知り得た個人情報を他に提供することは一切ありません。調査については、分析結果・改善計画を公表する予定です。

各設問について、10月15日（火）までに回答して下さい。

This survey aims to understand students' current conditions and circumstances and use the information to improve student support and the campus environment. It was first introduced in 1994, and since then, eleven surveys have been conducted, resulting in changes and improvements in various areas of university services and resources. With your cooperation, we ask all students to participate and provide information regarding your situation as of October 1, 2024.

This is an anonymous survey conducted with strict confidentiality. Under no circumstances will your personal information be disclosed. The results will be made public on the university website, along with the plans for improvements. Please complete the form by selecting an appropriate option for each question and submitting it by Tuesday, October 15.

令和 6 年 10 月 1 日

東京農工大学 教育・学生生活委員会

入力上の注意 Directions

1. 令和 6 年 10 月 1 日現在で記入してください。
Please provide your information as of October 1, 2024.
2. 設問には、可能な範囲でできるだけ正確に回答をしてください。
なお、設問中の〈 〉 内の見出し表示はその設問の調査対象者を示します。
Choose the most appropriate answer to describe your situation accurately. Some questions are intended only for certain students, indicated by the description in 〈 〉 specifying who should answer.
3. 要望、意見等がある場合は各セクションの最後にある自由記述欄に入力して下さい。
There is space for specific requests or comments at the end of each section.
4. 複数回答が出来る設問を除いて、一問一答です。
Some questions may allow multiple answers, while others only require you to choose one option.

6.	5で(0)と答えた方に聞きます。 留学生の区分はなんですか。	: 01. 私費留学生 : 02. 日本政府公費留学生 : 03. 母国派遣留学生
----	-----------------------------------	---

II 経済的状況		質問事項		選択肢欄	
7.	あなたの1か月の平均収入額は、およそいくらですか。	： 01. 0～2万円 ： 02. 2～4万円 ： 03. 4～6万円	： 04. 6～8万円 ： 05. 8～10万円 ： 06. 10～12万円	： 07. 12～14万円 ： 08. 14～16万円 ： 09. 16～18万円	： 10. 18～20万円 ： 11. 20万円以上
8.	収入額として該当するものを選んでください(複数選択可)。	： 01. 家族(家族計支持者)から ： 02. 奨学金(返済義務なし) ： 03. 奨学金(ローン・貸付)	： 04. 学外でのアルバイト ： 05. 学内でのアルバイト(TA・RA・研究補助等) ： 06. その他	： 04. 学外でのアルバイト ： 05. 学内でのアルバイト(TA・RA・研究補助等) ： 06. その他	
9.	あなたの1か月の平均支出額は、およそいくらですか。	： 01. 0～2万円 ： 02. 2～4万円 ： 03. 4～6万円	： 04. 6～8万円 ： 05. 8～10万円 ： 06. 10～12万円	： 07. 12～14万円 ： 08. 14～16万円 ： 09. 16～18万円	： 10. 18～20万円 ： 11. 20万円以上
10.	支出項目として該当するものを選んで下さい(複数選択可)。	： 01. 住居費(駐車場代を含む。) ： 02. 食費(自宅通学時は外食費) ： 03. 光熱水費(通信費を含む。) ： 04. 通信費(携帯電話、電話代、ネット回線料など)	： 05. 研究・勉学費・書籍費(新聞購読料を含む。) ： 06. 課外活動費(サークル活動にかかる費用など) ： 07. 交通費・通学費(定期券代、自転車代、ガソリン代) ： 08. その他	： 05. 研究・勉学費・書籍費(新聞購読料を含む。) ： 06. 課外活動費(サークル活動にかかる費用など) ： 07. 交通費・通学費(定期券代、自転車代、ガソリン代) ： 08. その他	
11.	授業料の主たる支払いは、どなたですか。	： 01. 父兄または母 ： 02. 配偶者 ： 03. 本人	： 04. 兄弟姉妹 ： 05. 祖父母 ： 06. 知人(親類を含む)	： 07. 授業料免除、奨学金の適用 ： 08. その他	
12.	現在、学外でアルバイトをしていますか。	： 01. している	： 02. していない		
13.	12で「1. している」と答えた方に問います。アルバイトに専事している時間(通勤時間を含め1週間の総時間)は、どれですか。	： 01. 6時間未満 ： 02. 6時間～10時間未満	： 03. 10時間～15時間未満 ： 04. 15時間～20時間未満		： 05. 20時間以上
14.	経済的理由から学業の継続に困難を感じていますか。	： 01. ある	： 02. ない		
15.	14で「1. ある」と答えた方に問います。経済的困難をどのように解決していますか(複数回答可)。	： 01. 授業料免除 ： 02. 入学料免除 ： 03. 学内におけるアルバイト	： 04. 学外におけるアルバイト ： 05. 奨学金 ： 06. 家族などからの援助	： 07. ローン ： 08. 節約 ： 09. その他	

●経済的状況に関して重要事項等、何かありしる理由を入力して下さい。(自由記述)

Ⅲ 住 居		質 問 事 項		選 択 肢 欄	
16.	住居等について、現在の生活形態にいちばん近いのはどれですか。	： 01. 自宅 ： 02. 親戚宅等	： 03. 単身アパート・マンション ： 04. 下宿（間借り）	： 05. シェアハウス ： 06. 本学 学生寮	： 07. その他（ ）
17.	<本学生寮に入居している方>に伺いますが、学生寮にどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足	： 03. やや不満 ： 04. 不満		
18.	<本学生寮に入居していない方>に伺います。本学生寮への入居を希望しますか。	： 01. 希望する	： 02. 希望しない		
19.	18で2. 希望しないに答えた方に伺います。その理由は何ですか。	： 01. 自宅だから ： 02. 現状の住居（アパート等）に満足している		： 03. 集団生活が苦手 ： 04. その他（ ）	
20.	<本学入居学生の方>に伺います。本学の国際交流会館への入居を希望しますか。	： 01. 希望する	： 02. 希望しない ： 03. 既に入居している、または入居していた		
21.	<本学の国際交流会館に入居している又は入居したことがある留学生の方>に伺います。国際交流会館にどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足	： 03. やや不満 ： 04. 不満		
22.	20で2. 希望しないに答えた方に伺います。なぜ希望しないのでしょうか（複数回答可）。	： 01. 入居費が高い ： 02. 設備が充実していない	： 03. 清潔でない ： 04. 部屋が狭い	： 05. 共有部分が少ない ： 06. 規則が厳しい	： 07. その他（ ）

●「住居」に関して意見・要望等、何かありましたら自由に記入してください。（自由記述）

I 基本的事項		選 択 肢 欄	
1.	所属学科・専攻等	【農学部】 01. 生物生産学科 02. 応用生物科学科 03. 環境資源科学科 04. 地域生態システム学科 05. 共同獣医学科 【工学部】 06. 化学工学 07. 応用分子化学科 08. 有機材料化学科 09. 化学システム工学科 10. 機械システム工学科 11. 物理システム工学科 12. 電気電子工学科 13. 情報工学科 14. 19から20年度以降の入学者 15. 生命工学科 16. 応用化学工学科 17. 化学物理工学科 18. 機械システム工学科 19. 知能情報システム工学科	【農学部】 20. 生物生産科学プログラム 21. 生物制御科学プログラム 22. 応用生命化学プログラム 23. 環境資源物質科学プログラム 24. 物質環境科学プログラム 25. 自然環境保全プログラム 26. 食農情報工学プログラム 27. 地域社会プログラム 28. 国際イノベーション農学プログラム 【工学部】 29. 化学工学専攻 30. 応用化学専攻 31. 機械システム工学専攻 32. 物理システム工学専攻 33. 電気電子工学専攻 34. 情報工学専攻 35. 生命工学専攻 36. 生体医用システム工学専攻 37. 応用化学専攻 38. 化学物理工学専攻 39. 機械システム工学専攻 40. 知能情報システム工学専攻
2.	在籍年次 ※05と06は、共同獣医学科のみ該当します。	【農学部】 01. 学部 1年次 02. 学部 2年次 03. 学部 3年次 04. 学部 4年次以上 05. 学部 共同獣医学科5年次 06. 学部 共同獣医学科6年次以上	【農学部】 07. 大学院修士または博士前期課程 1年次 08. 大学院修士または博士前期課程 2年次以上 09. 大学院修士または博士後期課程 1年次 10. 大学院修士または博士後期課程 2年次 11. 大学院修士または博士後期課程 3年次以上
3.	性別	01. 男 02. 女	03. その他 04. 回答しない
4.	住居等について、現在の生活形態は、どれですか。	01. 単身生活 02. 家族・親族と同居	03. 友人等と同居 04. 他人と同居（ルームシェア・シェアハウス等）
5.	あなたは外国入国留学生ですか。	01. はい 02. いいえ	

Ⅳ 通 学

質 問 事 項	選 択 肢 欄
23. 主な通学手段・方法は、何ですか。	： 01. 徒歩 ： 02. 自転車 ： 03. オートバイ ： 04. 自動車 ： 05. 公共交通機関 (電車、バスなど、自転車併用含む。)
24. 通学の片道の所要時間は、どのくらいですか。	： 01. 30分未満 ： 02. 30～60分未満 ： 03. 60～90分未満 ： 04. 90～120分未満 ： 05. 120～150分未満 ： 06. 150分以上
●「通学」に関して意見・要望等、何かありましたら自由に入力してください。(自由記述)	

V 学 業・学 修 環 境

質 問 事 項	選 択 肢 欄
25. 本学に入塾してどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足 ： 03. やや不満 ： 04. 不満
26. カリキュラム(科目の種類・選択・選択／必修の指定・内容・学ぶ順番・時間割)にどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足 ： 03. やや不満 ： 04. 不満
27. カリキュラムや授業に対して更なる改善化を望むことを教えてください(複数回答可)。	： 01. 時間割の工夫 ： 02. 豊富な選択肢 ： 03. 教員との双方向性コミュニケーション ： 04. 他学部との交流 ： 05. 実用的なスキルの修得 ： 06. 発表や議論を促めた参加型授業 ： 07. 英語による授業 ： 08. 受講方法の多様性(オンデマンド型等) ： 09. その他()
28. 講義・実験・実習・予習/復習・レポート作成・宿題・試験勉強・追加実験・卒業研究などをすべて含めると、一週間(平日)で何時間の授業外学習を行っていますか。	： 01. 全くやっていない ： 02. 週2時間未満 ： 03. 週2時間から5時間未満 ： 04. 週4時間から8時間未満 ： 05. 週8時間から10時間未満 ： 06. 週10時間から20時間未満
29. 授業外での学習を行うのに必要な施設・設備や対策はなんでしょうか(複数回答可)。	： 01. 図書館の開館時間の延長(休日開館含む) ： 02. 図書館内の学習スペース ： 03. 校舎内の学習スペース ： 04. 無線LAN ： 05. コンセント ： 06. 学生用プリンジ ： 07. その他()
30. 授業がよく理解できなかったときや授業に関連して疑問を抱いたときには、どのように対応しましたか(複数回答可)。	： 01. 担当教員に授業中に質問等をする ： 02. 担当教員に授業時間外に質問等をする ： 03. 同じクラスの学生に相談や質問等をする ： 04. ネット検索等自分で解決する ： 05. 何もない ： 06. その他()
31. 講義室・実験室等の教育設備にどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足 ： 03. やや不満 ： 04. 不満
32. 31で「やや不満」または「不満」と回答した方は、講義室・実験室のどのようなところに改善を望みますか(複数回答可)。	： 01. 机、椅子 ： 02. 講義室の形 ： 03. 講義席(スクリーン、プロジェクタ・マイク) ： 04. 床・壁・天井 ： 05. 清掃 ： 06. 実験器具 ： 07. 空調 ： 08. 時計 ： 09. その他()
33. 実験・実習の時に危険を感じたことがありますか(複数回答可)。	： 01. なかった ： 02. 薬品で ： 03. 動物で ： 04. 機械操作で ： 05. 野外実習・実習で ： 06. その他()
34. 図書館の利用頻度は、どのくらいですか。	： 01. 毎日 ： 02. 週に2～3回 ： 03. 週に1回 ： 04. 2週間以上 ： 05. 月に1回 ： 06. ほとんど利用しない
35. 図書館の主な用途は何ですか(複数回答可)。	： 01. 学修や研究に必要な文献(専門書、資料、学術雑誌等、紙媒体のもの)の閲覧・借用 ： 02. 学修や研究に必要な文献(電子ジャーナル等、電子媒体のもの)の閲覧 ： 03. 「01」02以外、個人的な興味で、(新聞や一般雑誌などを含む)自習室として使用 ： 04. 情報検索を利用して文献検索 ： 05. 「04」以外の目的でパソコンを利用 ： 06. 自習室として使用 ： 07. 打ち合わせ等、グループ学習室として利用 ： 08. プリントコピー ： 09. その他()
36. 図書館にどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足 ： 03. やや不満 ： 04. 不満

37. 36で「やや不満」または「不満」と回答した方は、どのような点が不満ですか(複数選択可)。	： 01. 蔵書数(紙媒体) ： 02. 閲覧できる電子ジャーナルの数 ： 03. 座席数 ： 04. 騒音 ： 05. 無線LAN環境 ： 06. レファレンスサービス ： 07. 利用者のマナー ： 08. 開館時間 ： 09. その他()
38. 在学中に海外で活動したことがありますか(留学を含む)。	： 01. ある ： 02. ない
39. 38で「ある」と答えた方に伺います。その目的・内容は何か(複数回答可)。	： 01. 語学研修・語学留学 ： 02. 交換留学 ： 03. 研究活動 ： 04. 学会参加 ： 05. ホームステイ ： 06. 語学以外の講座受講 ： 07. ワーキングホリデー ： 08. 青年海外協力隊等の国際ボランティア ： 09. 海外インターンシップ ： 10. その他()
40. 38で「ない」と答えた方に伺います。在学中に海外で活動する希望がありますか(留学を含む)。	： 01. ある ： 02. ない
41. 40で「希望がある」と答えた方に伺います。どのような海外研修を希望しますか(複数回答可)。	： 01. 語学研修・語学留学 ： 02. 交換留学 ： 03. 研究活動 ： 04. 学会参加 ： 05. ホームステイ ： 06. 語学以外の講座受講 ： 07. ワーキングホリデー ： 08. 青年海外協力隊等の国際ボランティア ： 09. 海外インターンシップ ： 10. その他()
42. 学生が海外での活動をためらう理由は、何だと思いますか(複数回答可)。	： 01. 経済的理由 ： 02. 日本での生活が中断される ： 03. 海外生活に不安がある ： 04. 単位が認定されない ： 05. 留年する可能性が高くなる ： 06. 就職活動が遅れる ： 07. 専門の勉強の方が大事 ： 08. 語学力が不安 ： 09. その他()

●「学業・学修環境」に関して意見・要望等、何かありましたら自由に入力してください。(自由記述)* SRRUISに関しては別のアンケートでご意見をいただく予定です。本調査では対象外としてご回答願います。

Ⅵ 課 外 活 動

質 問 事 項	選 択 肢 欄
43. 課外活動団体(サークル)に加入していますか。	： 01. 加入している ： 02. 以前は加入していた ： 03. 加入したことがない
44. 43で「加入している」と答えた方に伺います。加入している課外活動は、どれですか(複数回答可)。	： 01. 文化系サークル ： 02. 音楽系サークル ： 03. 体育系サークル ： 04. 農学系サークル ： 05. 工学系サークル ： 06. 自主ゼミ ： 07. その他の学生団体
45. 43で「加入している」と答えた方に伺います。1週間の平均活動時間は、どれくらいですか。	： 01. 1時間未満 ： 02. 1時間～5時間未満 ： 03. 5時間～10時間未満 ： 04. 10時間以上
46. 43で「加入している」と答えた方に伺います。課外活動にどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足 ： 03. やや不満 ： 04. 不満
47. 46で「やや不満」または「不満」と答えた方に伺います。課外活動にどのような点がありますか(複数回答可)。	： 01. 人間関係 ： 02. 学業との両立 ： 03. 大学側の対応 ： 04. サークル活動の内容 ： 05. アルバイトができない ： 06. 指導者 ： 07. 経済的負担 ： 08. 運営方針 ： 09. 活動時間の制限 ： 10. その他()
48. 43で「加入している」と答えた方に伺います。課外活動にどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足 ： 03. やや不満 ： 04. 不満
49. 48で「やや不満」または「不満」と答えた方に伺います。具体的にどのような点に不満がありますか(複数回答可)。	： 01. 施設が狭い ： 02. 施設・設備が古い ： 03. 施設・設備が汚れている ： 04. 施設・設備が不足している ： 05. 冷暖房が完備されていない ： 06. ナイター設備がない ： 07. 利用時間の制限が厳しい ： 08. その他()
●「課外活動」に関して意見・要望等、何かありましたら自由に入力してください。(自由記述)	

Ⅶ ボランティア活動

Ⅶ ボランティア活動		選 択 肢 欄	
質問事項			
50. 本学に入学後、ボランティア活動の経験はありますか。	： 01. ある	： 02. ない	
51. 50で「はい」と答えた方に伺います。内 容は何ですか(複数回答可)。	： 01. 公共施設での活動(公民館・博物館での読書活動等)	： 06. 国際交流(協力)に関する活動(通訳・通訳補助・ボランティア活動・留学生援助等)	： 11. 募金活動、チャリティー・サー
	： 02. 青少年健全育成に関する活動(ボレー・イ・ガイ・カールズ・フット活動・子供支援等)	： 07. 社会福祉に関する活動(老人や障害者等に対する介護、身のまわりの世話、給食、食育等)	： 12. 震災等の被災地ボランティア
	： 03. 体育・スポーツ・文化に関する活動(スポーツ・文化に関する活動(ボレー・フット・バレー・バドミントン等のクラブ活動における指導等)	： 08. 保健・医療・衛生に関する活動(病状ボランティア等)	： 13. 動物の保護や福祉に関するボランティア
	： 04. 人々の学習活動に関する指導活動(小・中・高生に対する自然・環境・健康に関する活動(自然・環境・健康に関する活動(環境美化、自然観察、リサイクル活動等)	： 09. 交通安全に関する活動(子供の登下校時の安全監視等)	： 14. その他()
	： 05. 自主防災活動や災害援助活動	： 10. 自主防災活動や災害援助活動	
52. 50で「はい」と答えた方に伺います。従事している頻度は、どれくらいですか。	： 01. ほとんど毎日	： 03. 月に数日程度	： 05. 1回のみ
	： 02. 週に数日程度	： 04. 年に数回	
53. 50で「はい」と答えた方に伺います。大 学からボランティア活動への向らかの交換を希望しますか。	： 01. はい	： 02. いいえ	
54. 53で「はい」と答えた方に伺います。具 体的にどのような交換を希望しますか(複数回答可)。	： 01. 交通費補助	： 03. 単位認定	： 05. その他()
	： 02. 情報やプログラムの紹介	： 04. 公休扱い	
55. 50で「はい」と答えた方に伺います。ボ ランティア活動をしてみたいですか。	： 01. はい	： 02. いいえ	
56. 55で「はい」と答えた方は、その理由を 選んで下さい(複数回答可)。	： 01. 時間がない	： 03. 人に評価されない	： 05. 知り合いがいらない
	： 02. 興味のある活動がない	： 04. 特技がない	： 06. その他()

●ボランティア活動1)に関して意見・要望等、何かありましたら自由に入力してください。(自由記述)

Ⅷ 学生生活

質問事項	選 択 肢 欄	
57. 次の各項目に関して選んでいますか、選んでいないかを記入して下さい(複数回答可)。	： 01. 学業・研究	： 05. 経済状況
	： 02. 学内の課外活動(サークル等)	： 06. 対人関係(友人、家族、教員等)
	： 03. 学外の活動(アルバイト等)	： 07. 身体健康(体調不良、不眠等)
	： 04. 通学・通勤	： 08. 精神健康(不安、憂うつ等)
58. 57で「対人関係」と答えた方に伺います。その相手は誰ですか(複数回答可)。	： 01. 友人	： 03. 教職員
	： 02. 交換相手	： 04. 家族
59. 病気や障害のある家族の介護・世話をしたり、病気の家族に代わって日常的に家事をすることがありますか	： 01. ほぼ毎日	： 03. 週に1～2日
	： 02. 週に3～5日	： 04. 1ヶ月に数回
60. 59で「ほぼ毎日」に週に3～5日、週に1～2日、1ヶ月に数回と回答した人に、かつ、病気の家族に代わって日常的に家事をすることがあるかどうかを教えてください(複数回答可)	： 01. 学修・研究	： 05. 経済面
	： 02. 学内の課外活動(サークル等)	： 06. 交友関係
	： 03. 学外の課外活動(アルバイト)	： 07. 身体面
	： 04. 通学選択や就職活動	： 08. 精神面
61. 大学生活の中で困ったことがありますか。	： 01. ある	： 02. ない
62. 59で「ある」と答えた方に伺います。どこに、または誰に相談しましたか(複数回答可)。	： 01. 教務係・学生生活係等	： 05. グローバル教育院
	： 02. 学生相談室	： 06. 学科・専攻教員
	： 03. 保健管理センター	： 07. チューター(留學生の場合)
	： 04. 特別修学支援室	： 08. 先輩・友人等
63. 授業以外で教員と話し合いますか。(オンラインでの対話を含む)	： 01. 積極的に話をしている	： 03. たまに話すこともある
	： 02. とまどき話す	： 04. ほとんど話すことはない
64. 授業以外で学生同士との交流はありますか。(オンラインでの交流を含む)	： 01. 積極的に交流している	： 03. たまにある
	： 02. とまどきある	： 04. ほとんど交流することはない
65. 各キャンパスに教員が学業・進路・就職などの相談に応じる「学生相談室」が開設されているのを知っていますか。	： 01. 知っている	： 02. 知らない
66. 各キャンパスの保健管理センターでかつかい・相談室・チューター・先輩・友人等の相談に応じているのを知っていますか。	： 01. 知っている	： 02. 知らない
67. 飲み会・コンパなどで次のような経験はありますか(複数回答可)。	： 01. 飲酒を強要された	： 04. セクハラを受けた
	： 02. 一気飲みをさせられた	： 05. 酔っ払いをした
	： 03. からまれたり、悪言や暴力を受けた	： 06. 事故を起こした
68. 毎週1回、各キャンパスのハラスメント相談室で、ハラスメント相談員がハラスメントについての相談や相談を承けてくれるのを知っていますか。	： 01. 知っている	： 02. 知らない
69. セクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。	： 01. ある	： 02. ない
70. 69で「ある」と回答した方に伺います。誰から受けましたか(複数回答可)。	： 01. 教職員	： 04. 学科・研究室等の後輩
	： 02. 学科・研究室等の先輩	： 05. 部活・サークルの先輩
	： 03. 学科・研究室等の同級生	： 06. 部活・サークルの同級生
71. セクシュアル・ハラスメント以外のハラスメントを受けたことがありますか。	： 01. ある	： 02. ない
72. 71で「ある」と回答した方に伺います。誰から受けましたか(複数回答可)。	： 01. 教職員	： 04. 学科・研究室等の後輩
	： 02. 学科・研究室等の先輩	： 05. 部活・サークルの先輩
	： 03. 学科・研究室等の同級生	： 06. 部活・サークルの同級生
73. タバコを吸いますか。	： 01. 吸う	： 02. かつて吸っていた
	： 02. 吸わない	： 03. 吸わない
74. キャンパス内のマナー(自転車駐輪、タバコなど)についてどの程度満足していますか。	： 01. 満足	： 03. やや不満
	： 02. やや満足	： 04. 不満

75.	アルバイトや派遣員などは不慣れな回答した方へ伺います。不満に思う点どのような点ですか(複数回答可)。	： 01. ゴミの捨て方、処理 ： 02. 大学内の汚れ ： 03. 自転車の止め方	： 04. 駐輪場不足 ： 05. 自転車や車の盗難 ： 06. タバコの吸い方や喫煙場所	： 07. タバコの吸殻の処理 ： 08. 自転車や車の盗難 ： 09. その他()
76.	生協食料室でどれくらい頻度で利用していますか。(主に活動しているキャンパスの施設について教えてください。)	： 01. よく利用する	： 02. ときどき利用する	： 03. 全く利用しない
77.	140周年記念会館エリプス(小金井)をどれくらい頻度で利用していますか。	： 01. よく利用する	： 02. ときどき利用する	： 03. 全く利用しない
78.	76歳以上の高齢者が利用できる「ときどき新着」の回答は、満足していますか。会費・エリプスにどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足 ： 03. 不満	： 03. やや不満 ： 04. 不満	
79.	78で「やや不満」または「不満」と回答した方へ伺います。「主に活動しているキャンパス」にどの程度満足していますか。	： 01. コストパフォーマンス ： 02. 座席数や環境 ： 03. 営業時間	： 04. 味 ： 05. メニュー内容や数 ： 06. 清潔さ	： 07. 店員の接客態度 ： 08. キャンパス前の施設の差が大きい ： 09. その他()
80.	生協購買部(売店)をどれくらい頻度で利用していますか。(主に活動しているキャンパスの施設について教えてください。)	： 01. よく利用する	： 02. ときどき利用する	： 03. 全く利用しない
81.	80でよく利用する「ときどき利用する」と回答した方へ伺います。生協購買部(C売店)にどの程度満足していますか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足	： 03. やや不満 ： 04. 不満	
82.	81で「やや不満」または「不満」と回答した方へ伺います。不満に思う点どのような点ですか(複数回答可)。	： 01. コストパフォーマンス ： 02. 環境 ： 03. 営業時間	： 04. 広さ ： 05. 品揃え ： 06. 清潔さ	： 07. 店員の接客態度 ： 08. キャンパス前の施設の差が大きい ： 09. その他()
83.	キャンパスの施設・設備環境(清潔さ・乗降車を除く)で改善を希望するところはどこですか(複数回答可)。	： 01. トイレ ： 02. 駐車場 ： 03. 駐輪場 ： 04. リフレッシュ空間 ： 05. 無線LAN(WiFi環境)	： 06. コンセント ： 07. 自動販売機 ： 08. ロッカー ： 09. サークル用の設備(部室他) ： 10. 体育施設	： 11. 校舎の清潔状況 ： 12. キャンパス内移動 ： 13. 夜間照明 ： 14. その他()
84.	本年11月に行われる慶学園・府中キャンパスの大学祭に参加しますか。	： 01. 積極的に参加する予定 ： 02. 参加する予定	： 03. 参加しない予定	
85.	工学部・小金井キャンパスの大学祭(車月祭)に参加しましたか。	： 01. 積極的に参加した	： 02. 参加した	： 03. 参加しなかった
86.	大学祭で改善を望むことは何ですか(複数回答可)。	： 01. 開催時間を早くしてほしい ： 02. 開催時間を遅くしてほしい ： 03. プログラム内容	： 04. 出店数を増やしてほしい ： 05. 出店数を減らしてほしい ： 06. 会場設備	： 07. 前後の休講措置 ： 08. その他()
87.	＜外国人留学生の方へお問い合わせ＞ 留学生に必要の情報はどこから得ていますか(複数回答可)。	： 01. 外国人留学生・研究者のためのガイダンス ： 02. グローバル教育院の教職員 ： 03. 担任教員や指導教員 ： 04. 他の留学生	： 05. チューター ： 06. チューター以外の日本人学生 ： 07. Google Classroom: International Bulletin ： 08. TUAT Community グループメール	： 09. インターネット ： 10. 情報が得られない ： 11. その他()

●「学生生活」に関して意見・要望等、何かありましたら自由に入力して下さい。(自由記述)*SRUISに関しては別のアンケートでご意見をいただく予定です。本調査では対象外としてご回答願います。

区 進路(就職・進学)	
質問事項	選択肢欄
88. 将来の希望進路を教えてください。	： 01. 就職 ： 02. 日本国内で進学 ： 03. 未定 ： 04. 海外(留学等) ： 05. 起業 ： 06. 社会人のため該当なし
89. 進路を考える上での情報入手手段は、何ですか(複数回答可)。	： 01. 指導教員 ： 02. 就職担当教員 ： 03. 先輩・知人 ： 04. 新聞・マスコミ・就職情報誌 ： 05. インターネット ： 06. 親・祖父母等 ： 07. 大学内資料 ： 08. 会社説明会 ： 09. 書籍・雑誌等 ： 10. 人材派遣会社等 ： 11. その他()
90. 将来の希望職種は何ですか(複数回答可)。	： 01. 研究(大学・研究所など) ： 02. 研究・開発(民間企業など) ： 03. 技術(公務員・療法・財団など) ： 04. 行政(公務員・法務など) ： 05. 事務・サービス(民間企業など) ： 06. 教育(中学校・高校) ： 07. 動物病院(動物臨床) ： 08. NPO・NGO職員 ： 09. 国際機関職員 ： 10. 自営業(農業・起業・弁護士等) ： 11. 自由業 ： 12. 未定 ： 13. その他()
91. どのような就職支援を希望しますか(複数回答可)。	： 01. 会社説明会の充実 ： 02. 就職ガイドブックの充実 ： 03. 就職情報コーナーの充実 ： 04. インターネットの充実 ： 05. 就職相談窓口の充実 ： 06. OB・OGの紹介 ： 07. 大学推薦 ： 08. エントリーシート添削・模範面接など ： 09. その他()
92. インターネットの経験はありますか	： 01. ある ： 02. ない
93. 92で「ある」と答えた方へ伺います。どのような点でインターネットに行きやすいと感じていますか(複数回答可)。	： 01. 就職したい企業(団体) ： 02. OB・OGの勤務先 ： 03. 共同研究先 ： 04. 自身の地元企業(団体) ： 05. 期間や条件が合った企業(団体) ： 06. プログラムや内容が魅力的な企業(団体) ： 07. 海外 ： 08. その他()
94. 93で「就職したい企業(団体)」と回答した方へ伺います。インターネットに満足しましたか。	： 01. 満足 ： 02. やや満足 ： 03. やや不満 ： 04. 不満

●「進路(就職・進学)」に関して意見・要望等、何かありましたら自由に入力して下さい。(自由記述)

自由記述

その他、学生生活全般で何かありましたら入力して下さい。*SRUISに関しては別のアンケートでご意見をいただく予定です。本調査では対象外としてご回答願います。

ご協力ありがとうございました。